

荒砥下押切Ⅱ遺跡 荒砥中屋敷Ⅱ遺跡

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

— 古墳時代中期～平安時代 —

1999

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料	財群馬県埋蔵文化財 調査事業団保管	01-253
		699
No. ⁹⁹⁻ 1803	平成 11年 7月 1 日	(5)

荒砥下押切Ⅱ遺跡 荒砥中屋敷Ⅱ遺跡

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

— 古墳時代中期～平安時代 —

1 9 9 9

群 馬 県 教 育 委 員 会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



序

宮城県の旧愛宕村地区では、昭和56年度より一般国道50号線の北の地域を対象とした県営愛宕北部圏域整備事業が始まり、平成3年度まで行われました。圏域整備の対象となった地域は、県内でも有史の縄文文化財が分布しており、このために多くの縄文文化財が発掘調査の対象となりました。

当事業団では昭和56、57、58、59年度に対象となった事業地域の縄文文化財の発掘調査を行いました。踏査の事情により調査報告書の刊行が遅れていましたが、関係者の努力により平成5年度から連続の報告書刊行のための整備作業が始まり、平成10年度は愛宕下押切II遺跡・愛宕中屋敷II遺跡の整備作業が実施されました。両遺跡は古墳時代から平安時代にかけての集落跡、浅原山日輪河に埋没した水田跡等の遺跡が発掘されています。

この度、一年の年月をかけて整備作業が完了しましたので、ここに「愛宕下押切II遺跡・愛宕中屋敷II遺跡」の調査報告書を上梓することになりました。

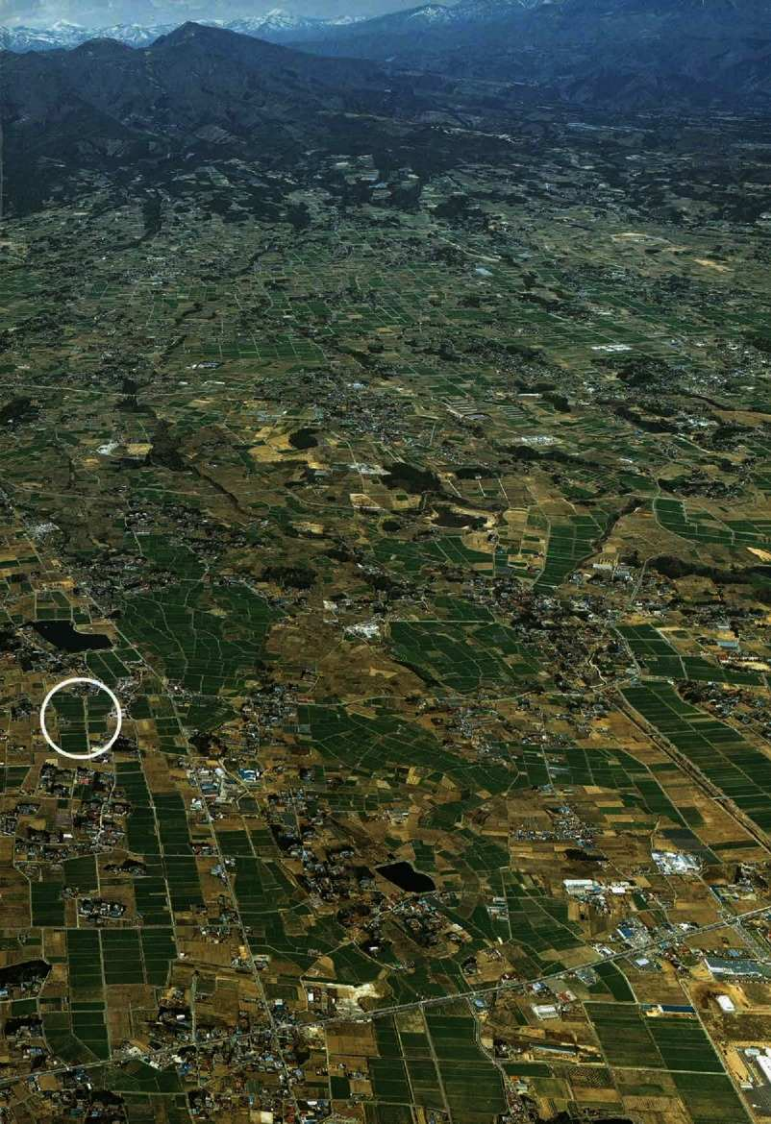
発掘調査から調査報告書刊行まで、群馬県農林牧土地改良課、宮城土地改良事務所、群馬県教育委員会、宮城府教育委員会、地元関係者にはご協力を賜りました。これら関係者の皆様には衷心より感謝の意を表し、併せて本報告書が群馬県の歴史の闡明のために活用されることを願い序とします。

平成11年3月

財団法人 群馬県縄文文化財調査事業団

理事長 菅野 清







例 言

1. 本書は1982(昭和57)年度の県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡の発掘調査報告書である。
2. 遺跡は群馬県前橋市荒子町962,963,964,1020,1021,1048,1049,1052,1103他に所在する。遺跡名は、遺跡の所在する地域の旧村名である「荒砥(あらと)」に、発掘区内で最も広い小字である「下押切(しもおしきり)」「中屋敷(なかやしき)」を付した。ただし、県教育委員会文化財保護課でも同地域で調査を併行して実施しており、それと区別するために「II」をそれぞれに付した。
3. 発掘調査は、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が群馬県農政部および群馬県教育委員会と委託契約を締結し実施した。
4. 発掘調査は1982(昭和57)年12月20日に開始し、翌年2月18日で終了した。
5. 調査時の事業団組織は次のとおりである。

管理・指導 小林起久治 白石保三郎 松本浩一 近藤平志 細野雅男

事務担当 國定 均 笠原秀樹 山本朋子 吉田有光 柳阿良宏 野島ふ江 吉田恵子 吉田美子 並木綾子 今井もと子

調査担当 台地部 相京建史(調査研究員) 中沢 悟(調査研究員) 菊池 実(調査研究員) 低地部 鹿田雄三(調査研究員) 小島敏子(調査研究員) 斎藤利昭(調査研究員)
6. 本書作成のための整理作業は、群馬県埋蔵文化財調査事業団が群馬県教育委員会より委託され、1998(平成10)年4月1日から1999(平成11)年3月31日まで実施した。
7. 本書作成時の事業団組織および担当者は以下の

とおりである。

管理・指導 菅野 清 赤山容造 渡辺 健 神保佑史 佐藤明人

事務担当 坂本敏夫 笠原秀樹 須田朋子 宮崎忠司 小山建夫 吉田有光 柳阿良宏 岡嶋伸昌 大澤友治 吉田恵子 内山佳子 若田誠 佐藤美佐子 北原かおり 本地友美 狩野真子

編 集 菊池 実(主幹兼専門員)

本文執筆 目次に記した。台地部の遺構・遺物を菊池が、荒砥下押切II遺跡低地部の遺構を斎藤利昭(専門員)が執筆した。また、まとめを中沢 悟(主幹兼専門員)、石塚久則(主幹兼専門員)が分担した。

遺物整理 戸神晴美 宮沢房子 高橋優子 渡辺八千代 飯塚京子 小林町子 鈴木春美

図版作成 //

器械実測班 佐藤美代子 光安文子 富沢スミ江 千代谷和子 小管優子

遺構写真 調査担当者

遺物写真 佐藤彦彦(係長代理)

8. 出土遺物は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターおよび(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が保管している。
9. 調査にあたっては、地元の方々には作業に従事していただくとともに多くの便宜をはかっていただいた。
10. 本書の作成にあたっては、下記の諸氏よりご助言、ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。(敬称略)
深澤敦仁 井野修二 石塚久則 松村和男 小宮俊久 三宅敦氣 角田真也 小田澤佳之 田口 修 前橋市教育委員会

凡 例

- 調査においては、圃場整備事業の工事中用基準杭を使用して調査範囲内に5×5mのグリッドを設定した。東西軸をアルファベット、南北軸をアラビア数字で呼称した。各グリッドの名称は荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡ともその北西隅をあてた。また全体図の中に国家座標上の位置を記載した。
- 挿図中に使用した方位は磁北で真北よりN-13°-Wである。
- 本書における遺構番号は、荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡とも調査時に付したものをそのまま使用している。下押切II遺跡の12号住居跡は欠番である。
- 本書の遺構・遺物挿図の指示は次のとおりである。
 - 挿図縮尺
 竪穴住居跡……1/60
 竪 ……1/40, 1/60
 - 古 墳……1/40, 1/80
 - 土 坑……1/60
 - 井 戸……1/60
 - 溝 ……1/80
 - 水 田……1/100
 - 土器実測図……1/3, 1/4
 - 石器実測図……1/2, 1/3, 1/4
- (2) レベルは標高を示す。
- (3) 遺物番号は本文、挿図、表と一致する。
- (4) 挿図中のスクリーントーンの指示は次のとおりである。
- 竪穴住居跡の面積は竪を含めた床面積であり、計測にはプランメーターを用いて3回計測しその平均値を面積とした。
- 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の20万分の1（「宇都宮」）地勢図、前橋市現形図2千5百分の1、前橋市全図1万分の1を使用した。



目 次

序

口絵

例言・凡例

第1章 調査の経過 (菊池 実)

- [1] 調査に至る経過 3
- [2] 調査の経過 4
- [3] 調査の方法 6

第2章 遺跡の立地と環境 (菊池 実)

- [1] 地理的環境 8
- [2] 歴史的環境 9
- [3] 基本土層 13

第3章 荒砥下押切Ⅱ遺跡(菊池 実・斎藤利昭)

- [1] 竪穴住居跡 16~109
 - 1号住居跡 16
 - 2号住居跡 19
 - 3号住居跡 26
 - 4号住居跡 37
 - 5号住居跡 41
 - 6号住居跡 55
 - 7号住居跡 62
 - 8号住居跡 65
 - 9号住居跡 84
 - 10号住居跡 87
 - 11号住居跡 100
 - 13号住居跡 103
 - 14号住居跡 107
- [2] 古墳 109
- [3] 水田・溝 114

- [4] 井戸・遺構外 124

第4章 荒砥中屋敷Ⅱ遺跡 (菊池 実)

- [1] 竪穴住居跡 128~144
 - 1号住居跡 128
 - 2号住居跡 129
 - 3号住居跡 131
 - 4号住居跡 136
 - 5号住居跡 136
 - 6号住居跡 138
 - 7号住居跡 139
 - 8号住居跡 141
- [2] 小鍛冶 145
- [3] 土坑 149
- [4] 溝 149

荒砥下押切Ⅱ遺跡 8号住居跡出土の石製紡錘車について
中沢 悟 154
同・8号住居跡出土の籠目土器について
石塚久則 158

報告書抄録 160

写真図版 遺構 PL.1~43
遺物 PL.44~71

別添資料

付図1 荒砥下押切Ⅱ遺跡・荒砥中屋敷Ⅱ遺跡全体図 (圃場整備前)

付図2 荒砥下押切Ⅱ遺跡・荒砥中屋敷Ⅱ遺跡全体図 (圃場整備後)

付図3 幹排 3-2号発掘区

挿図目次

第1図	遺跡位置	3
第2図	昭和57年度の埋蔵文化財発掘調査区	5
第3図	群馬県中央部の地形と荒砥下押切Ⅱ・ 荒砥中屋敷Ⅱ遺跡	8
第4図	周辺遺跡の分布	10
第5図	遺跡の基本土層	13

荒砥下押切Ⅱ遺跡・挿図目次

第6図	荒砥下押切Ⅱ遺跡全体図	14
第7図	1号住居跡(1)	16
第8図	1号住居跡(2)	17
第9図	1号住居跡出土遺物(1)	18
第10図	1号住居跡出土遺物(2)	19
第11図	2号住居跡遺物分布	20
第12図	2号住居跡	21
第13図	2号住居跡出土遺物(1)	22
第14図	2号住居跡出土遺物(2)	23
第15図	2号住居跡出土遺物(3)	24
第16図	3号住居跡(1)	26
第17図	3号住居跡(2)	27
第18図	3号住居跡(3)	28
第19図	3号住居跡遺物分布	29
第20図	3号住居跡出土遺物(1)	30
第21図	3号住居跡出土遺物(2)	31
第22図	3号住居跡出土遺物(3)	32
第23図	3号住居跡出土遺物(4)	33
第24図	3号住居跡出土遺物(5)	34
第25図	3号住居跡出土遺物(6)	35
第26図	4号住居跡	38
第27図	4号住居跡出土遺物(1)	39
第28図	4号住居跡出土遺物(2)	40
第29図	5号住居跡(1)	42
第30図	5号住居跡(2)	43
第31図	5号住居跡遺物分布	44
第32図	5号住居跡出土遺物(1)	45
第33図	5号住居跡出土遺物(2)	46
第34図	5号住居跡出土遺物(3)	47
第35図	5号住居跡出土遺物(4)	48
第36図	5号住居跡出土遺物(5)	49
第37図	5号住居跡出土遺物(6)	50
第38図	5号住居跡出土遺物(7)	51
第39図	6号住居跡遺物分布	55
第40図	6号住居跡	56
第41図	6号住居跡出土遺物(1)	57
第42図	6号住居跡出土遺物(2)	58
第43図	6号住居跡出土遺物(3)	59
第44図	6号住居跡出土遺物(4)	60
第45図	7号住居跡	62
第46図	7号住居跡出土遺物(1)	63

第47図	7号住居跡出土遺物(2)	64
第48図	8号住居跡(1)	65
第49図	8号住居跡(2)	66
第50図	8号住居跡(3)	67
第51図	8号住居跡遺物分布	68
第52図	8号住居跡出土遺物(1)	70
第53図	8号住居跡出土遺物(2)	71
第54図	8号住居跡出土遺物(3)	72
第55図	8号住居跡出土遺物(4)	73
第56図	8号住居跡出土遺物(5)	74
第57図	8号住居跡出土遺物(6)	75
第58図	8号住居跡出土遺物(7)	76
第59図	8号住居跡出土遺物(8)	77
第60図	8号住居跡出土遺物(9)	78
第61図	8号住居跡出土遺物(10)	79
第62図	8号住居跡出土遺物(11)	80
第63図	9号住居跡	85
第64図	9号住居跡出土遺物	86
第65図	10号住居跡(1)	87
第66図	10号住居跡(2)	88
第67図	10号住居跡(3)	89
第68図	10号住居跡遺物分布	90
第69図	10号住居跡出土遺物(1)	91
第70図	10号住居跡出土遺物(2)	92
第71図	10号住居跡出土遺物(3)	93
第72図	10号住居跡出土遺物(4)	94
第73図	10号住居跡出土遺物(5)	95
第74図	10号住居跡出土遺物(6)	96
第75図	10号住居跡出土遺物(7)	97
第76図	11号住居跡	100
第77図	11号住居跡出土遺物(1)	101
第78図	11号住居跡出土遺物(2)	102
第79図	13号住居跡	104
第80図	13号住居跡出土遺物(1)	105
第81図	13号住居跡出土遺物(2)	106
第82図	14号住居跡	108
第83図	14号住居跡出土遺物	109
第84図	1号古墳	110
第85図	1号古墳石室(1)	112
第86図	1号古墳石室(2)	113
第87図	As-1B下水田	115
第88図	As-1B下水田	117
第89図	1号・2号溝	119
第90図	3号・4号・5号溝	120
第91図	6号溝	121
第92図	7号溝	121
第93図	8号溝	122
第94図	9号・10号溝	123
第95図	井戸	124

第96図	遺構外出土遺物(1)	124
第97図	遺構外出土遺物(2)	125
第98図	遺構外出土遺物(3)	126

荒砥中屋敷Ⅱ遺跡・挿図目次

第99図	荒砥中屋敷Ⅱ遺跡全体図	127
第100図	1号住居跡・出土遺物	128
第101図	2号住居跡	129
第102図	2号住居跡出土遺物	130
第103図	3号住居跡・遺物分布	131
第104図	3号住居跡出土遺物(1)	132
第105図	3号住居跡出土遺物(2)	133
第106図	3号住居跡出土遺物(3)	134
第107図	4号・5号住居跡(1)	136
第108図	4号・5号住居跡(2)	137

第109図	6号住居跡	138
第110図	6号住居跡出土遺物	139
第111図	7号住居跡	140
第112図	7号住居跡出土遺物	141
第113図	8号住居跡	142
第114図	8号住居跡出土遺物(1)	143
第115図	8号住居跡出土遺物(2)	144
第116図	小鍛冶	145
第117図	小鍛冶出土遺物(1)	146
第118図	小鍛冶出土遺物(2)	147
第119図	小鍛冶出土遺物(3)	148
第120図	1号・2号土坑	149
第121図	支排29号発掘区	150
第122図	支排29号発掘区検出の溝	152

写真図版目次

P.L. 1	航空写真
P.L. 2	航空写真
P.L. 3	荒砥下押切Ⅱ遺跡全景
P.L. 4-1	荒砥下押切Ⅱ遺跡・1号住居跡全景(北東から)
2	1号住居跡電(北東から)
3	1号住居跡遺物出土状況(北東から)
P.L. 5-1	2号住居跡全景(西から)
2	2号住居跡遺物出土状況(西から)
P.L. 6-1	2号住居跡遺物出土状況(北から)
2	2号住居跡電(西から)
3	2号住居跡貯蔵穴(北から)
P.L. 7-1	3号住居跡全景(南から)
2	3号住居跡全景(西から)
P.L. 8-1	3号住居跡遺物出土状況(西から)
2	3号住居跡電(南から)
P.L. 9-1	4号住居跡全景(北東から)
2	4号住居跡遺物出土状況(南西から)
3	4号住居跡遺物出土状況(北西から)
P.L. 10-1	5号住居跡全景(西から)
2	5号住居跡遺物出土状況(西から)
P.L. 11-1	5号住居跡遺物出土状況(西から)
2	5号住居跡電(西から)
3	5号住居跡貯蔵穴(南から)
P.L. 12-1	6号住居跡全景(西から)
2	6号住居跡遺物出土状況(西から)
3	6号住居跡貯蔵穴(北西から)
P.L. 13-1	7号住居跡全景(南から)
2	7号住居跡電(南から)
P.L. 14-1	8号住居跡全景(西から)
2	8号住居跡遺物出土状況(西から)
P.L. 15-1	8号住居跡電(西から)
2	8号住居跡遺物出土状況(西から)
3	8号住居跡遺物出土状況(北西から)

P.L. 16-1	8号住居跡遺物出土状況(西から)
2	8号住居跡貯蔵穴出土状況(東から)
3	8号住居跡貯蔵穴(南から)
P.L. 17-1	9号住居跡全景(南から)
2	10号住居跡全景(南から)
P.L. 18-1	10号住居跡全景遺物出土状況(西から)
2	10号住居跡電(南から)
3	10号住居跡電周辺遺物出土状況(南東から)
4	10号住居跡遺物出土状況(北東から)
P.L. 19	11号住居跡遺物出土状況(西から)
P.L. 20-1	11号住居跡全景(南東から)
2	11号住居跡遺物出土状況(南西から)
3	11号住居跡遺物出土状況(北東から)
P.L. 21-1	13号住居跡全景(西から)
2	13号住居跡遺物出土状況(南から)
P.L. 22-1	14号住居跡全景(南西から)
2	14号住居跡電(南西から)
P.L. 23-1	1号古墳全景(南から)
2	前庭部と石室(南から)
P.L. 24-1	石室(北西から)
2	玄門と義道部(北から)
P.L. 25-1	義道部右壁(南西から)
2	閉塞状況(南から)
3	閉塞状況(北から)
P.L. 26-1	支道71号・75号発掘区・As-B下面(北から)
2	支道75号発掘区・As-B下面(北から)
P.L. 27-1	支道73号発掘区・As-B下面(東から)
P.L. 28	幹排3-3号発掘区・As-B下水田(南東から)
P.L. 29	支道73号発掘区・As-B下水田(北から)
P.L. 30-1	支道73号発掘区・As-B下面(東から)
2	幹排3-3号発掘区・As-B下面(西か

- ら)
- P L. 31 幹排 5-2号発掘区・As-B下面(北から)
- P L. 32-1 3号・5号溝(北から)
2 6号溝(北東から)
- P L. 33-1 8号溝(北東から)
2 井戸(南から)
- P L. 34-1 遺跡見学会
2 荒砥中屋敷II遺跡・1号住居跡全景(北西から)
- P L. 35-1 2号住居跡全景(西から)
2 2号住居跡竈(西から)
3 2号住居跡貯蔵穴内遺物出土状況(北から)
- P L. 36-1 3号住居跡全景(西から)
2 4号・5号住居跡全景(西から)
- P L. 37-1 5号住居跡竈(北西から)
2 6号住居跡全景(北から)
3 7号住居跡全景(西から)
- P L. 38-1 7号住居跡遺物出土状況(西から)
2 7号住居跡竈(西から)
- P L. 39-1 8号住居跡遺物出土状況(西から)
2 8号住居跡竈(西から)
- P L. 40-1 小鍛冶(東から)
2 小鍛冶遺物出土状況(北から)
- P L. 41-1 1号土坑(南から)
2 2号土坑(西から)
3 支排29号発掘区・溝断面(東から)
- P L. 42-1 支排29号発掘区・As-B層を含む溝(西から)
2 支排29号発掘区(北から)
- P L. 43-1 支排29号発掘区・As-C層を含む溝(西から)
2 発掘を終了して

荒砥下押切II遺跡出土遺物

- P L. 44 1号住居跡・2号住居跡
- P L. 45 2号住居跡
- P L. 46 2号住居跡・3号住居跡
- P L. 47 3号住居跡
- P L. 48 3号住居跡
- P L. 49 3号住居跡・4号住居跡
- P L. 50 4号住居跡・5号住居跡
- P L. 51 5号住居跡
- P L. 52 5号住居跡
- P L. 53 5号住居跡・6号住居跡
- P L. 54 6号住居跡
- P L. 55 6号住居跡・7号住居跡
- P L. 56 8号住居跡
- P L. 57 8号住居跡
- P L. 58 8号住居跡
- P L. 59 8号住居跡
- P L. 60 8号住居跡
- P L. 61 8号住居跡・9号住居跡
- P L. 62 9号住居跡・10号住居跡
- P L. 63 10号住居跡
- P L. 64 10号住居跡
- P L. 65 10号住居跡・11号住居跡
- P L. 66 11号住居跡・13号住居跡
- P L. 67 13号住居跡・14号住居跡・古墳・遺構外
- P L. 68 遺構外
- #### 荒砥中屋敷II遺跡出土遺物
- P L. 68 1号住居跡・2号住居跡・3号住居跡
- P L. 69 3号住居跡
- P L. 70 3号住居跡・6号住居跡・7号住居跡・8号住居跡
- P L. 71 8号住居跡・小鍛冶

第1章

調査の経過



前橋市の東南部にあたる荒砥地区は、赤城山の西南麓に立地しており、肥沃な台地が展開している。群馬県では1975（昭和50）年度に群馬県新総合計画が策定された。この結果農用地総合整備事業の一環として、1974（昭和49）年度より1981（昭和56）年度の8年間にわたり、国道50号線の南側にあたる二之宮町・飯土井町を対象として荒砥南部地区県営圃場整備事業が実施された。

この地区一帯の中には、国指定史跡である荒砥三古墳（前二子山・中二子山・後二子山古墳）をはじめ女堀・今井神社古墳などの埋蔵文化財が豊富である状況を踏まえ、県農政部と県教育委員会文化財保護課において、埋蔵文化財の扱いについて協議が行われた。その結果、なるべく遺跡地については除外地区にすること。やむを得ず工事によって破壊される地域については、事前の発掘調査を実施することで了承した。以後8年間にわたり「荒砥南部県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」が、県教育委員会文化財保護課及び埋蔵文化財調査事業団の手によって行われ、多大な成果をあげ無事に終了した。

荒砥南部地区の圃場整備事業が進展する中、国道50号線北側の荒子町・大屋町・泉沢町などが所属する北部地区においても、引き続き圃場整備事業を実施する計画が浮上した。このため、県教育委員会文化財保護課では、再度県農政部及び埋蔵文化財調査事業団とその扱いについて協議を行った。この結果、南部地区同様工事予定地に対する事前調査を実施することで合意し、その調査を当事業団が受託することとした。

荒砥北部地区の圃場整備事業の対象地は30haにわたる広大なものであるため、遺跡地の認定にあたっては事前に分布調査を実施した。分布調査は県教育委員会文化財保護課によって実施され、71遺跡の存在が確認された。このため圃場整備事業の速やかな進捗を図るためには、荒砥南部地区と同様、埋蔵文

化財の存在する地区についてなるべく工事除外地区に指定することとし、発掘調査の対象地は水路や道路などによって破壊される地区を基本に、切り土・盛り土を行う工事場所に限定するなど、最小限にとどめることとした。

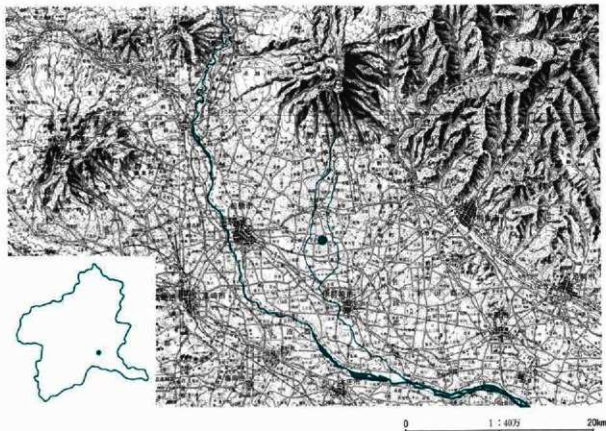
南部地区の発掘調査が終了した1981（昭和56）年度に、北部地区の最初の発掘調査として実施されたのが荒砥大日塚遺跡である。翌年の1982（昭和57）年度には、引き続き荒砥上ノ坊遺跡、そして本報告書所収の荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡の調査が行われている。しかし、圃場整備事業に対する工事変更が出され、調査面積が大幅に増加すること、堅穴住居跡などの遺構数が、当初の見込みより多くなること、翌年の農作業に支障のないようにするためには期間内の完了が必要であること、などから調査予定地の年度内完了が危ぶまれる状況となった。そこで工事と発掘調査の工程について調整が行われた結果、両遺跡の一部について文化財保護課が直轄で調査を行うこととなった。更に、1984（昭和59）年度からは、遺跡調査会を結成し、三組織で調査を実施することとなった。

北部地区で本事業団が実施した発掘調査は、1984（昭和59）年度で終了となった。このため同年度からは、従来から続けられてきていた南部地区に伴う整理事業に専念することとなった。

南部地区の整理事業は、群馬県から「公共開発関連出土品等整理事業」として、1980（昭和55）年度から委託を受け実施してきたが、1992（平成4）年度ですべての遺跡の整理事業が終了することとなった。南部地区の整理事業が終了するにあたり、引き続き北部地区の整理事業をどのように進めるかについて、県教育委員会及び県農政部と協議を重ねた。その結果、改めて「県営圃場整備事業荒砥北部地区関連調査出土品等整理事業」として、県と委託契約を締結することとなった。

本遺跡の整理事業は、以上の状況の中で、荒砥北部地区の整理事業の第6年次として1998（平成10）

年度に実施することになったものである。



第1図 遺跡位置

2

調査の経過

1982（昭和57）年 12月20日（月曜日/晴）
調査担当者には相京・中沢・菊池の3名である。荒砥下押切II遺跡の遺構確認調査を開始。
12月21日（火曜日/晴）
遺構確認のための調査を継続。
12月22日（水曜日/曇のち雨）

本日、細野俊男（調査研究第3課長）現場応援。
午前中、遺構確認調査。古墳時代住居跡の発掘を開始。午後、雨のため遺物洗い、器材点検を行う。
12月23日（木曜日/晴）
3号住居跡セクションの写真撮影。ベルト除去。床面の調査。各住居跡を掘り始める。

第1章 調査の経過

12月24日 (金曜日/晴)

3号住居跡遺物出土状況図の作成開始。遺物取り上げ。全体図(1/200)作成。他の住居跡を調査。

12月25日 (土曜日/晴)

正月休みに備え現場の片付け。遺物取り上げ作業。

1983 (昭和58)年 1月5日 (水曜日/曇)

3号住居跡のエレベーション、レベリング、全景写真とカマド写真撮影を終了。2・4号住居跡調査。5号住居跡から紡錘車出土。6号住居跡セクション図作成。8号住居跡から紡錘車、石製模造品が出土した。

1月6日 (木曜日/曇)

2・4・5号住居跡のセクション図作成、ベルト除去。6号住居跡のベルト除去。7号住居跡調査。8号住居跡から勾玉出土。

1月7日 (金曜日/曇)

2・4・6号住居跡の遺物出土状況の写真撮影。2・4・5号住居跡の遺物出土状況図作成。8号住居跡のセクション図作成。7号住居跡セクションベルト除去。9~11・13号住居跡の調査開始。

1月8日 (土曜日/曇のち晴)

12号住居跡の調査開始。2・4号住居跡の遺物取り上げ。他調査を続行。

1月10日 (月曜日/曇)

4号住居跡のPIH掘り。5号住居跡の遺物出土状況の写真撮影と遺物取り上げ。6号住居跡の遺物取り上げ。7号住居跡の遺物出土状況の写真と図面作成。8・11号住居跡ベルト除去。9・10号住居跡のセクション図作成。1号住居跡調査。12号住居跡は調査の結果、住居跡にならなかった。

1月11日 (火曜日/晴のち雨強し)

1号住居跡のセクション図作成、ベルト除去、柱穴の調査。2号住居跡のカマドセクション図作成。4号住居跡の平面図、カマドセクション図作成。5号住居跡カマド、柱穴調査。7号住居跡のカマドの調査。9号住居跡セクション図作成とベルト除去。10号住居跡のベルト除去作業。11号住居跡調査。13号住居跡のセクション図作成。

1月12日 (水曜日/晴)

4~6号住居跡の全景写真撮影。8号住居跡の遺物出土状況写真と遺物部分写真の実施。9・10号住居跡の遺物出土状況写真。11号住居跡の遺物出土状況写真撮影と遺物取り上げ。全景写真撮影。13号住居跡の遺物出土状況写真。1号住居跡の遺物出土状況図・写真、レベリング、カマド遺物写真撮影の実施。

1月13日 (木曜日/晴)

1号住居跡全景写真、カマド写真撮影終了。2号住居跡の平面図作成とレベリング作業。3号住居跡全景写真、カマド写真撮影の終了。平面図作成の継続。5号住居跡の平面図作成とカマド写真撮影。8号住居跡の遺物出土状況写真、カマド写真撮影、遺物取り上げ、柱穴の調査。10号住居跡の遺物出土状況図作成。遺物の写真撮影。13号住居跡の遺物出土状況図作成。井戸調査。

1月14日 (金曜日/晴)

2号住居跡の全景と貯蔵穴の写真撮影。5号住居跡のカマド遺物取り上げ。8号住居跡の柱穴掘り。9号住居跡の遺物出土状況図作成と遺物取り上げ作業。10号住居跡の遺物取り上げと部分写真撮影の実施。13号住居跡の遺物取り上げと柱穴調査。1号住居跡のカマド切断作業。

1月17日 (月曜日/曇)

7号住居跡のカマド写真撮影。8号住居跡のカマド写真撮影とレベリング。10号住居跡のカマド実測と写真撮影。荒砥中屋敷II遺跡・15区低地部分の調査、溝を検出。16区から住居跡2軒を検出し調査開始。

1月18日 (火曜日/雪)

雪のため室内作業。土器洗い、図面整理、作業進行表作成。

1月19日 (水曜日/曇)

残雪のため低地部分の調査を実施。As-B上面までジョレンにて除去作業。

1月20日 (木曜日/晴)

1号住居跡の調査終了。2号住居跡のカマド写真撮影終了。3号住居跡のレベリング、カマドセクション図終了。5号住居跡のレベリング、貯蔵穴の写真撮影終了。7号住居跡のレベリング、カマド写真、平面図終了。8号住居跡のレベリング、全景・貯蔵穴の写真撮影終了。9号住居跡のカマドセクション図終了。10号住居跡のレベリング終了。As-B下面田から溝2条検出。

1月21日 (金曜日/晴)

南側カット部分ブルドーザーにて盛土除去。広い台地のカット部分の調査。8・10・13号住居跡のカマド実測作業。レベリング終了。As-Bの溝2条の調査。

1月22日 (土曜日/曇)

荒砥下押切II遺跡の住居跡群の調査を終了。全体図作成。

1月24日 (月曜日/曇)

荒砥上ノ坊遺跡調査班の応援を得て低地部分の精査。As-Bの下にAs-C堆積を確認。南側低地部分の調査。As-Bに埋もれた溝2条と新たにAs-Cの入った溝を確認。荒砥中屋敷II遺跡1・2号住居跡調査。

1月25日 (火曜日/晴)

荒砥上ノ坊遺跡調査班全員で応援に来る。低地部分北側よりトレンチ調査に入る。中屋敷II遺跡1・2号住居跡の調査を終了。南側トレンチ部分As-B直下溝の実測に入る。中屋敷II遺跡3号住居跡の調査、床面までバックホーで撤去されている。土盛より土器片を収集。鉄釘遺構(小堀治)の調査。羽口が多数出土。

1月26日 (水曜日/晴)

中屋敷II遺跡3号住居跡遺物出土写真撮影と図面作成終了。小堀治セクションベルト除去、土層のサンプリング。幹排3-2号発掘区、As-B部分コンター実測終了。写真撮影終了。

1月27日 (木曜日)

3号住居跡の全景写真撮影終了。小堀治遺構の遺物出土写真撮影終了。古墳を確認。幹排3-2号発掘区にトレンチを入れ、土層図の作成を始める。

1月28日 (金曜日/晴)

土層図作成を継続。古墳調査継続。前庭、後道、玄室の調査。古墳東側に住居跡(下押切II遺跡14号住居跡)を検出。遺物は少ない。荒子神社南側にトレンチ調査。小堀治調査を継続。

1月31日 (月曜日/晴風強し)

古墳調査、現場確認。荒砥下押切II遺跡14号住居跡のセクション図作成。平面図・エレベーション図・レベリング終了。ベルト除去。水田部分の溝をバックホーにてプラン確認まで土を除去。神社南側部分の遺構確認。精査。住居跡を5軒検出(荒砥中屋敷II遺跡4~8号住居跡)。

2月1日 (火曜日/曇)

As-Cの混入した溝の全掘。写真撮影実施。神社南側部分の住居跡2軒を掘り始める。古墳閉塞部分のエレベーション図作成。重機で盛土をはぎ始める。閉塞部分の写真撮影。

2月2日 (水曜日/雨)

バックホーにて古墳構面及び周縁の埋土除去。雨にて1日中土器洗い及び注記。写真の整理。

2月3日 (木曜日/晴風強し)

神社南側の住居跡調査。As-C溝の実測終了。古墳セクション図作成。古墳後道正面から閉塞部の写真撮影。

2月4日 (金曜日/晴)

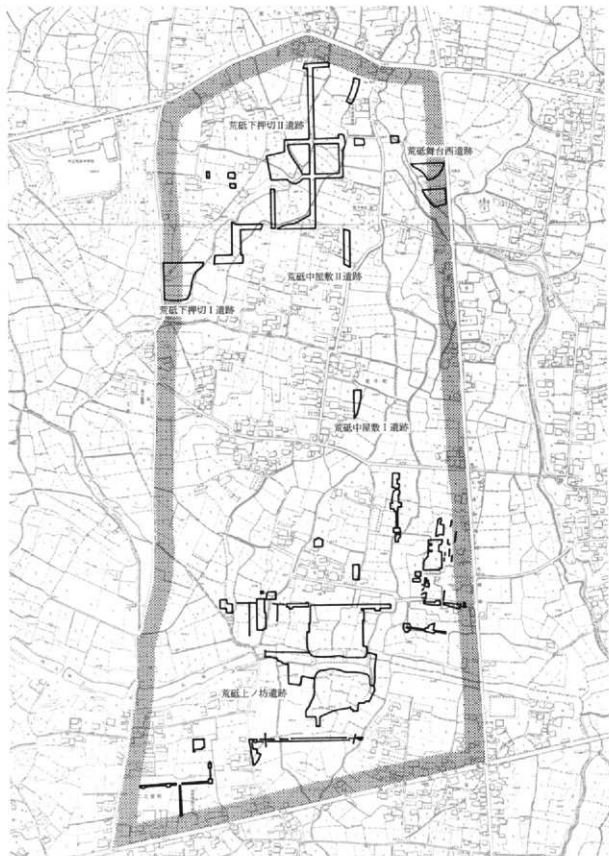
古墳の全景写真撮影。マウンドと周部のコンター実測終了。神社南の住居跡5軒調査。

2月5日 (土曜日/晴)

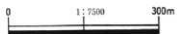
古墳の墳丘・周縁・前庭のコンター実測終了。神社南側の住居跡5軒調査。水田部分調査を終了。

2月7日 (月曜日/晴)

神社南の発掘区調査。4号住居跡と5号住居跡直視。5号住居跡が新しい。6号住居跡のセクション図作成、ベルト除去、平面図作成、写真撮影。7号住居跡のセクション図作成、ベルト除去、平面図作成、写真撮影。8号住居跡のセクション図作成、ベルト除去、写真



第2図 昭和57年度の埋蔵文化財発掘調査区



第1章 調査の経過

撮影、1号土坑セクション図作成、平面図作成、写真撮影。2号土坑セクション図作成、平面図作成。3時すぎ土器洗い。

2月8日（水曜日/晴）

神社南住居跡の写真撮影と実測作業。午前中、筑後保育所園児156名見学。午後、荒子小学校児童145名見学。

2月9日（木曜日/晴）

古墳石室の平面実測。渡邊部の側壁実測。4・5号住居跡の遺物出土状況の写真撮影と図面終了。7号住居跡のカマドセクション図作成とカマド写真撮影。カマド平面図作成。8号住居跡のカマド調査。

全体図作成。荒子小4年生80名、大室小児童140名、桐女OG10名、一般6名の計236名見学。

2月10日（木曜日/晴）

古墳石室の平面図と側壁図面作成終了。エレベーション図はほぼ終了。断ち割りに入る。4・5号住居跡の全景写真とカマド写真撮影。

カマドセクション図作成。6号住居跡の全景写真撮影。7号住居跡の全景写真撮影とカマドの遺物取り上げ。8号住居跡の全景写真とカマド写真撮影。遺物取り上げ。神社南の住居跡調査終了。

2月14日（月曜日/晴）

古墳エレベーション図作成を終了。掘り方平面図終了後、撤収準備に入る。器材をまとめる。土器洗いと注記作業。

2月15日（水曜日/晴のち曇）

土器洗い、器材運搬。

2月16日（木曜日/曇）

土器分類、素材運搬、現場のお別れ会。

2月17日（木曜日/曇）

撤収作業。

2月18日（金曜日）

土地改良区にあきつ。

3

調査の方法

①遺跡名の選定

発掘調査対象地区は前橋市荒子町字上押切・下押切・中屋敷にまたがる広範囲である。遺跡名は発掘区内で最も広い小字である下押切・中屋敷を使用した。

調査地区は広範囲にわたるために台地部の調査を1班、低地部1班の2班体制で調査を行った。また同時併行して、県教育委員会文化財保護課による同地区内の調査が進められており、便宜的に遺跡名称にIIを付して区別することになった。県教育委員会文化財保護課による調査は昭和57年12月6日～12月23日まで、荒砥下押切I・中屋敷I・舞台西遺跡の発掘調査が実施されている。

②調査区（グリッド）の設定

調査の実施にあたっては5×5mの方眼を調査対象地域全域にわたって設定した。グリッドの基準は、圃場整備の工事用の杭を利用した。グリッドは東西軸にアルファベットを付し西からA、B、C……Tとし、南北軸にアラビア数字を北から0、1、2、3……19と付した。そして杭の呼称を100m四方の大グリッド（数字）—小グリッド（アルファベット—数字）で表している。各区画の呼称は5m方眼の北西

隅をもってそのグリッドの名称とした。方位は概北で真北よりN—13°—Wである。

③調査手順

下押切II遺跡の切り土部分の調査から着手、1号住居跡～13号住居跡を発掘した。その後、低地部の調査に1班が投入され、支道71号・75号発掘区、支道73号発掘区、幹排3-3号発掘区、幹排3-2号発掘区の調査に入り、水田・溝の発掘を行う。下押切II遺跡の調査がほぼ終了後、中屋敷II遺跡の住居跡調査に着手した。

④遺構の調査

重機による表土剥ぎの後、遺構確認調査に入った。各遺構の調査にあたっては土層観察用のベルトを残して実施したが、調査期間が限定されていたために掘り下げにあたっては覆土中層までをスコップにたよらざるを得なかった。中層から床面までを移植ゴテによる掘り下げを実施した。実測はグリッド軸にそった平板測量で行った。

⑤写真撮影

遺構写真は35mm白黒フィルムとリバーサルフィルム及び6×9cm白黒フィルムを用いて地上撮影を実施した。

第2章

遺跡の立地と環境

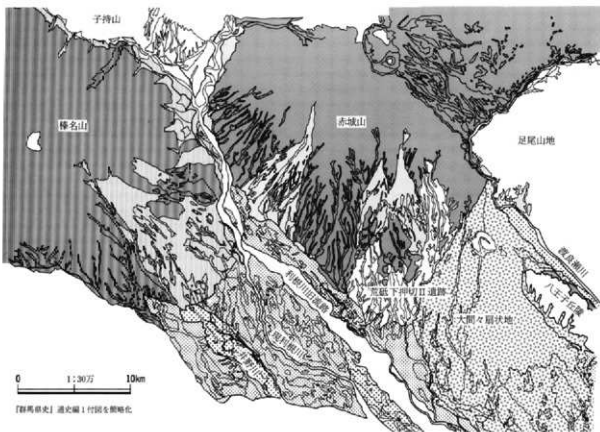


本道跡は前橋市の市街地から国道50号線を東へ約10km、二之宮十字路の北北西約1.2kmの地点に所在する。

道跡(第3図)は、複合成層火山である赤城山(1,828m)の南に広く延びる裾野の末端部に位置している。山麓端部は河川の侵食が著しく、山体の北側や西側には河岸段丘が形成され、山体の南西麓や南東麓は直線的な崖線地形が発達している。また、山体自体も河川や湧水に侵食され、北麓や西麓では大規模なV字状の深い谷と広大な裾野地形が発達する。

一方、南麓では標高500m地帯で山地帯から丘陵性台地への地形変換点が見られ、200mより下位の地域は低台地化している。大小の河川や湧水が豊富で、南北に長い沖積地と丘陵性の台地が交互に入り組む、複雑な地形を呈している。また、その末端は旧利根川の侵食による崖線が形成され、利根川の氾濫源によって南側の前橋台地と隔絶されている。

本道跡は荒砥川左岸の丘陵性台地に立地している。標高は105m～111mである。



第3図 群馬県中央部の地形と荒砥下押切II・中屋敷II道跡

荒砥北部遺跡群は赤城南麓の標高150m～95mの間に存在する(口絵航空写真参照)。この地域はほとんどが洪積台地上である。その間を中小の河川が南流し、台地を分断している。西の荒砥川、東の神沢川はその代表的河川であり、比較的流量も豊富で流域の水田面積も広い。

荒砥北部遺跡群は主としてこの両河川に東と西を画された範囲で、南を国道50号線、北を大胡町に接する部分にまで及ぶ広い地域である。この地域は県内でも遺跡が濃密に分布している。

荒砥川左岸の今井沼周辺では旧石器時代の遺物が検出されている荒砥北三木堂遺跡(57)、その他、旧石器時代の遺跡には川箆替戸遺跡(22)、柳久保遺跡(78～81)が知られている。

縄文時代の遺跡では荒砥宮田遺跡(73)、荒砥上ノ坊遺跡(33)、荒砥北原遺跡(63)で前期の住居跡が検出されている。中期の住居跡は北原遺跡で、横俵遺跡では後期の配石遺構が調査されている。

弥生時代の遺跡は荒口前原遺跡(66)で中期末の住居跡が検出されている。

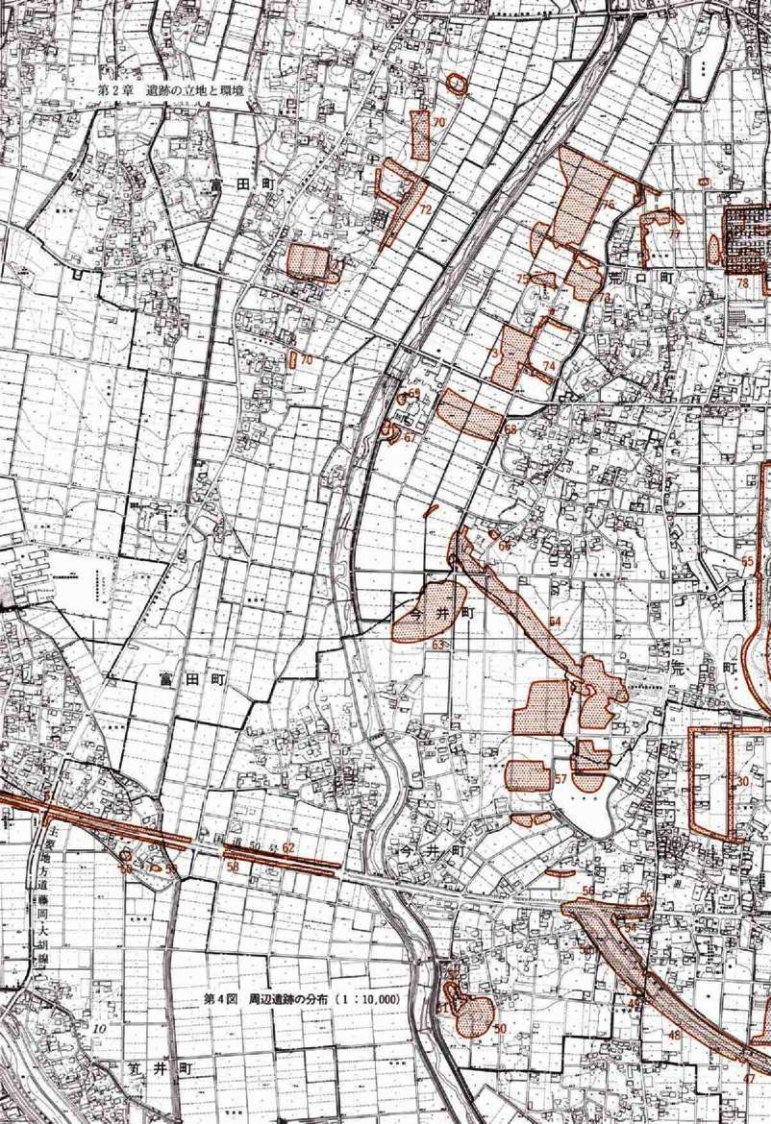
古墳時代になると遺跡数、遺構数も増加している。

北原遺跡、諏訪西遺跡(76)、荒砥中屋敷1遺跡(3)、下境1遺跡(16)等で前期、中期の住居跡が多数発見されている。いずれも低地にのぞむ台地縁辺部に立地する。また、この時期の遺構として特に注目されるのが、環濠と柵列によって囲われた豪族の居宅跡である。荒砥荒子遺跡(5)、梅木遺跡、丸山遺跡(10)で発見されている。

古墳では国史跡となっている前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳をはじめとして、今井神社古墳(51)、伊勢山古墳、家形地輪群を出土した赤堀町の茶臼山古墳が知られている。伊勢山遺跡、下境1遺跡、天神遺跡(9)、舞台・舞台西遺跡(11・12)では10～30基の古墳からなる群集墳がある。さらに方形周溝墓も多数調査されており、堤東遺跡(21)、阿久山遺跡(19)などでは前方後方形周溝墓が確認された。

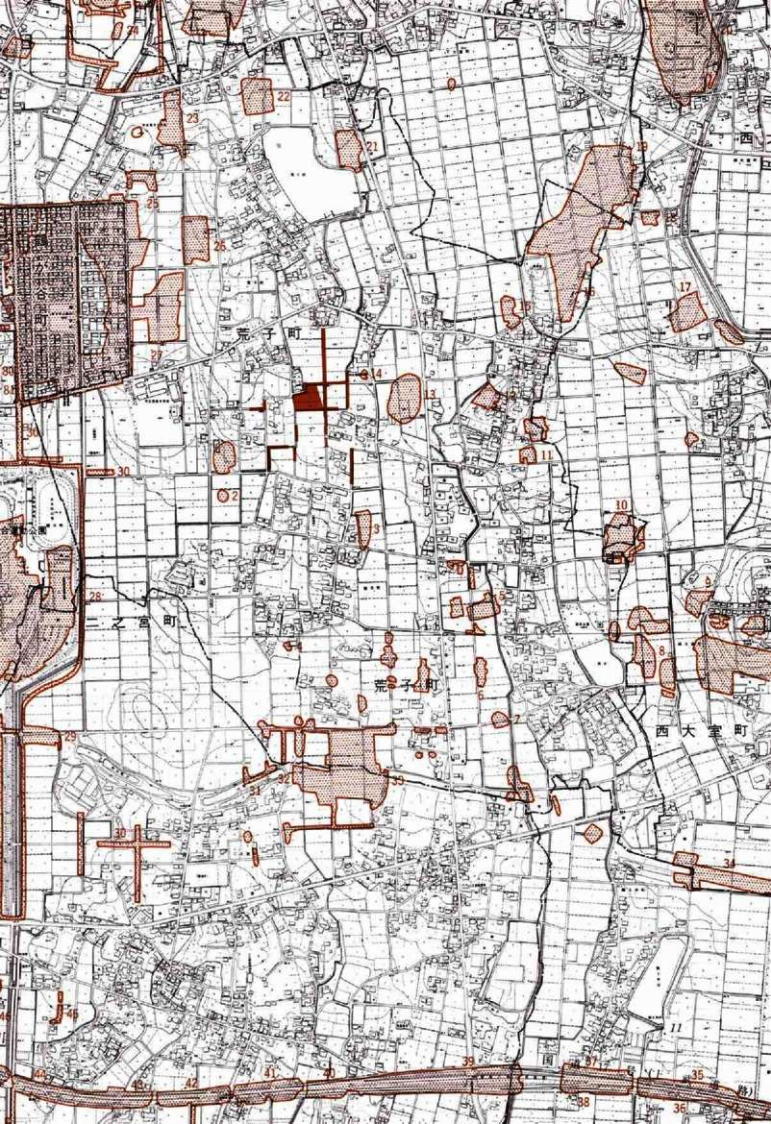
奈良・平安時代の遺跡も数多く調査されている。荒子小学校敷地内(23)からは銅印が出土している。

平安時代末から中世初頭の遺構としては、用水堀遺構の女堀(29・32・34・64・67)が西から東に向かって細長く延びている。



第4図 周辺遺跡の分布 (1:10,000)

宜井町

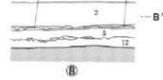
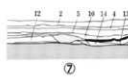
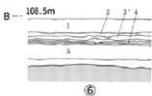
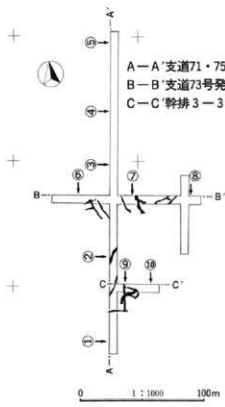


3

基本土層

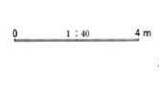
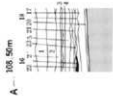
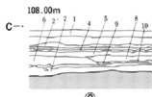
支道71・75号発掘区

- 1 黄土
- 2 暗褐色砂土層 軽石粒と地山粒を多く含む。Ae-Bを含む。下部は暗褐色粘土。
- 3 Ae-Bの残層
- 4 黒色粘質土層 軽石粒を多く含む。
- 5 暗褐色粘質土層 軽石粒、小石を含む。
- 6 暗褐色粘質砂層 1~2cm次の小石が多い。下部に黒色土の塊状が部分的にある。
- 7 暗褐色土層 黒粘質。
- 8 暗褐色粘質砂層 1~2cm次の小石が多い。
- 9 暗褐色粘質土層
- 10 暗褐色粘質砂土層 褐色粘質砂層。軽石粒を多量に含む。
- 11 黒色土層 軽石粒、地山粒を含む。
- 12 暗褐色粘質土層
- 13 黒色土層 13層に類する。
- 14 暗褐色砂層
- 15 黒色粘質土層 軽石粒、地山粒を含む。
- 16 暗褐色粘質土層 (17)。
- 17 黒色粘質土層 軽石粒、地山粒をほとんど含まない。極めて暗黒。
- 18 暗褐色粘質土層 軽石粒を多く含む。
- 19 暗褐色粘質砂層 3mm~1cm次の小石を含む。
- 20 暗褐色粘質砂層 3mm~2cm次の小石を含む。
- 21 黒色粘質土層 軽石粒をほとんど含まない。
- 22 黒色粘質土層
- 23 黒色粘質土層 23層に類する。
- 24 暗褐色粘質砂層
- 25 暗褐色粘質土層 白色の軽石を多く含む。やや粘質。
- 26 黒色土層 やや粘質。
- 27 暗褐色粘質土層 軽石粒を多く含む。
- 28 暗褐色粘質土層 軽石粒を多量に含む。やや粘質。
- 29 黒色土層 軽石粒を多量に含む。やや粘質。
- 30 Ae-Cの残層
- 31 黒色粘質土層 軽石粒を少量含む。
- 32 黒色粘質土層 23層に類する。
- 33 FAのプロック
- 34 暗褐色砂層
- 35 黒色土層 23層に類する。
- 36 暗褐色粘質土層 3・4・5層の残層。
- 37 黒色粘質土層 23層に類する。Ae-Bが強い。
- 38 黒色粘質土層 Ae-B、砂、褐色土の混り。
- 39 暗褐色粘質土層 褐色土とプロック(1cm次)、黒粘質プロックを含む。
- 40 黒色粘質土層 軽石粒を多く含む。暗粘質をプロック状に含む。
- 41 暗褐色粘質砂層
- 42 暗褐色粘質土層 ほとんど軽石を含まない。
- 43 暗褐色粘質土層 白色の軽石を多量に含む。
- 44 暗褐色粘質砂土層 軽石粒をほとんど含まない。
- 45 暗褐色粘質砂土層 粘質、小石を含む。
- 46 暗褐色粘質土層 粘質土、土上のプロックを含む。
- 47 灰色砂層



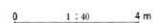
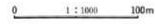
幹排3-3号発掘区

- 1~4は支道71・75号に同じ。
- 5 暗褐色粘質土層 軽石粒、砂を多量に含む。
- 6 暗褐色粘質土層 軽石粒、地山粒を含む。
- 7 暗褐色粘質砂層 軽石粒を多く含む。
- 8 暗褐色粘質土層 軽石粒を多く含む。極めて固い。
- 9 暗褐色粘質砂層
- 10 6層に類する。
- 11 黒色粘質土層 軽石粒を含まない。
- 12 8層に類する。
- 13 暗褐色粘質砂土層 軽石粒を含まない。
- 14 暗褐色粘質土層 軽石粒を多く含む。極めて固い。
- 15 13層に類するが、小石、地山粒、砂を多く含む。
- 16 12層に類する。
- 17 暗褐色粘質砂層
- 18 暗褐色粘質砂層 白色の軽石粒を多く含む。1cm次の石を含む。
- 19 暗褐色粘質土層 粘質、軽石を含む。
- 20 暗褐色粘質土層 粘質、砂を含む。
- 21 暗褐色粘質砂層 1cm次の石を含む。
- 22 暗褐色粘質砂層 2mm~1cm次の石を含む。
- 23 22層と地山の混り。
- 24 暗褐色粘質砂土層 2mm~1cm次の石を含む。
- 25 24層に類するがやや硬い。
- 26 24層に類するがさらに硬い。
- 27 暗褐色粘質土層 白色の軽石粒を多く含む。
- 28 暗褐色粘質土層
- 29 黒色土層 中や粘質。軽石粒を多量に含む。
- 30 黒色土層 中や粘質。軽石粒、小石を少量含む。
- 31 暗褐色粘質土層 中や粘質。軽石粒、小石を少量含む。
- 32 暗褐色粘質砂層 小石、軽石を含む。
- 33 FAのプロック
- 34 黒色粘質土層 3・4・5層の混り。Ae-Bが強い。
- 35 黒色粘質土層 小石、軽石を含む。

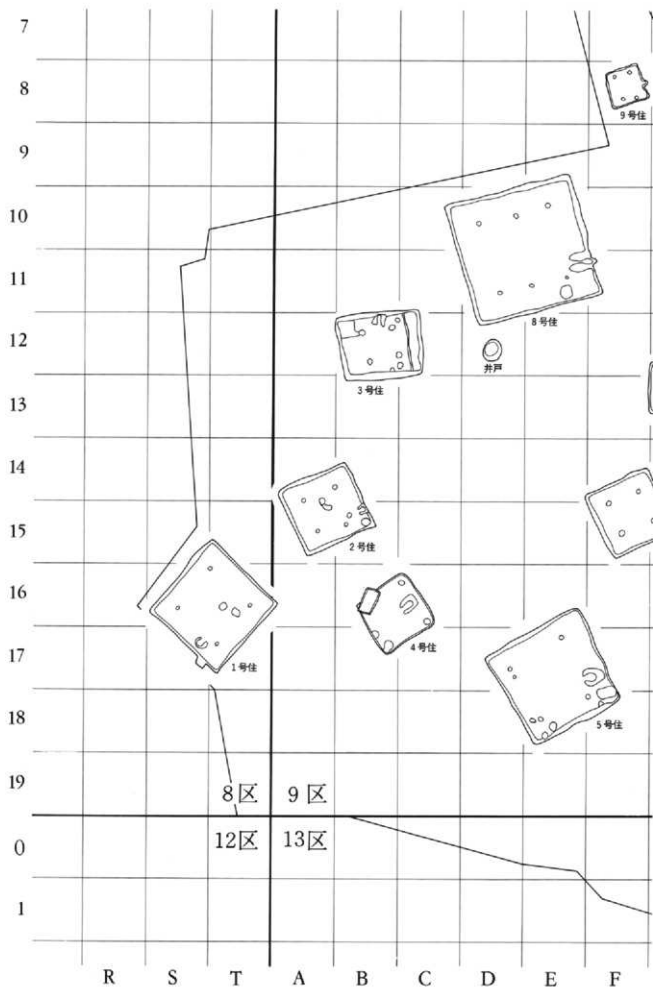


支道73号発掘区

- 1~5は支道71・75号に同じ。
- 6 黒色粘質土層 軽石粒をほとんど含まない。
- 7 5層に類する。
- 8 7層と基礎層の混り。
- 9 暗褐色砂層
- 10 黒色粘質土層 白色の軽石を含む。
- 11 黒色粘質土層 軽石粒、地山粒をほとんど含まない。
- 12 暗褐色粘質砂土層 軽石粒、地山粒をほとんど含まない。
- 13 黒色粘質土層
- 14 暗褐色粘質砂層
- 15 13層に類する。
- 16 17層と基礎層の混り。
- 17 5層と18層の混り。
- 18 18層に類する。
- 19 暗褐色粘質土層
- 20 暗褐色粘質土層 小石を含む。



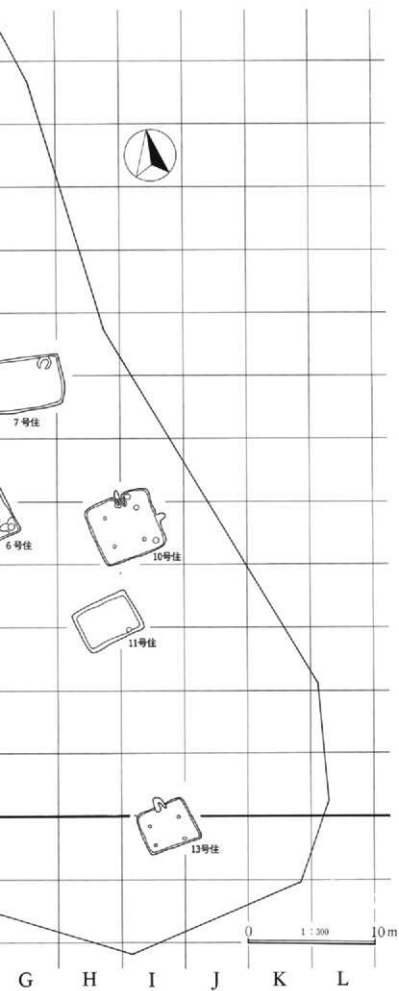
第5図 遺跡の基本土層



第6図 荒砥下押切II遺跡全体図

第3章

荒砥下押切II遺跡



1号住居跡(第7~10図 PL4・44)

位置 8 S-15~17、8 T-15~17、9 A-16グリッドにかけて検出された。4号住居跡の西約6mの所に位置している。

形状 長辺7.3m、短辺7.16mのほぼ正方形を呈している。

方位 N-128°-W

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約32~54cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約47.4㎡。

周溝 全周している。幅4~12cm、深さ2~12cmを測る。北壁下の周溝が深い。

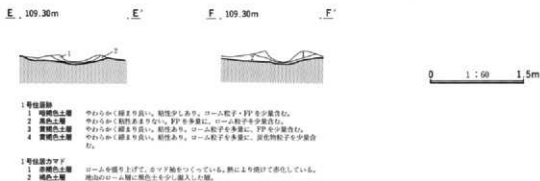
竈 床面南隅に構築されている。ロームを盛り上げて袖を構築している。長さ約110cm、幅約130cm、焚き口幅約10cmである。竈内から甕が出土している。

柱穴 6個のピットが検出された。このうちP1~P4が主柱穴になる。P1は深さ55cm、P2深さ63cm、P3深さ59cm、P4深さ62cmである。P5は長径68cm、短径53cm、深さ5~8cm、P6は長径59cm、短径54cm、深さ4~7cmで、いずれも跡の痕跡と思われる。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からの出土は少なかった。竈内と竈周辺の床直上から坏・高坏・甕が出土している。また、第9図9の胴下半分欠損の甕が床に据えられた状態で出土している。

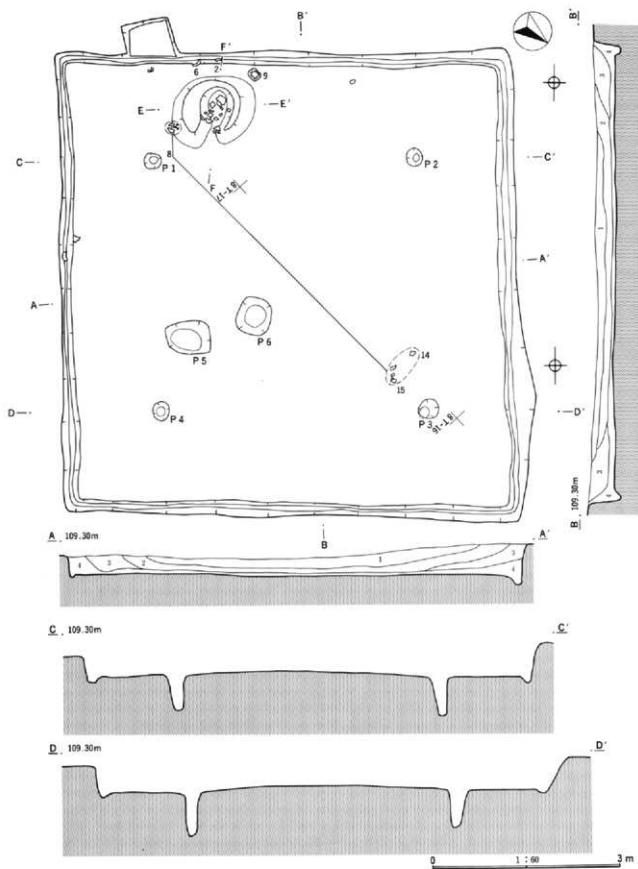
時期 古墳時代中期(5世紀後半)。



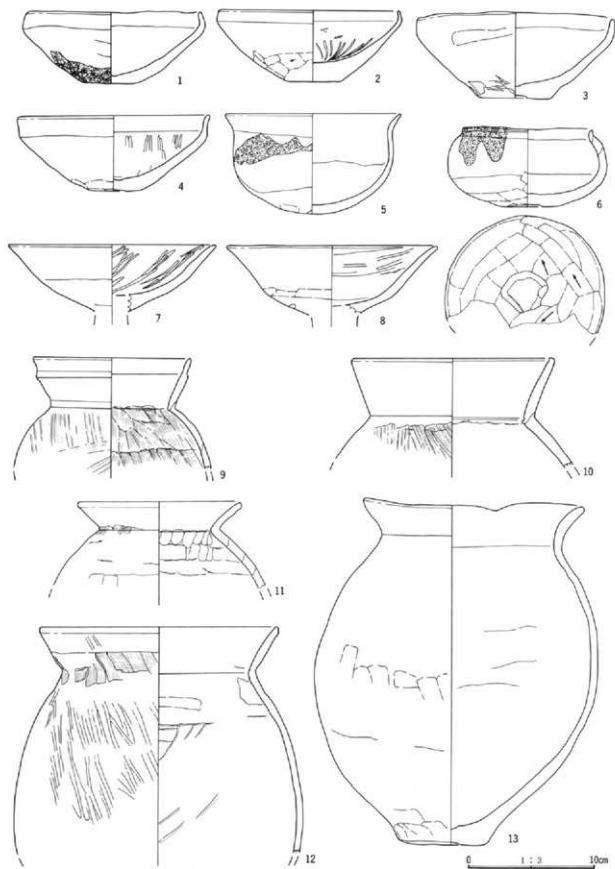
第7図 1号住居跡(1)

荒砥下押切II・1号住居跡

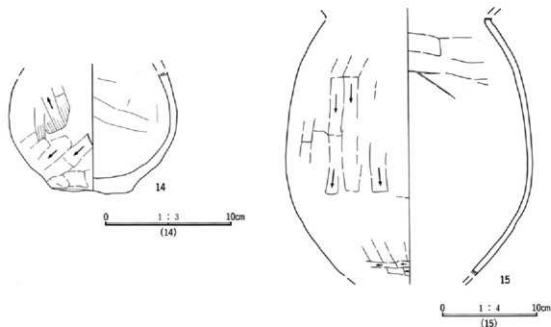
図番 P L	土器種別 器 種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③径長	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
9-1 44	土 師 器 杯	① 13.7 ② 5.5 ③ 4.0	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	底部外面置り。体部外面横方向置り。口縁部横なで。内面なで。	覆土	ほぼ完形
9-2 44	土 師 器 杯	① 14.3 ② 5.6 ③ 4.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	底部外面置り。体部外面横方向置り。上半斜方向置り。内面放射状の磨き。	カマド 周辺	3/4
9-3 44	土 師 器 杯	①(15.5)② 6.8 ③ 5.5	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ④明赤褐色	底部外面置り。体部外面斜方向置り。内面丁寧な磨きなで。	覆土	2/3
9-4 44	土 師 器 杯	① 15.1 ② 5.9 ③ (4.0)	①細砂 褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	底部外面置り。体部外面横方向置り後、上半斜方向置り。内面放射状の磨き。	覆土	2/3
9-5 44	土 師 器 杯	① 14.0 ② 7.9	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面置り後、磨き。口縁部横なで。内面磨き。荒れている。	カマド	2/3



第6图 1号住居跡(2)



第9図 1号住居跡出土遺物(1)



第10図 1号住居跡出土遺物(2)

9-6 44	土師器 環	① 10.3 ② 6.1	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体外外面磨削り。なで。内面磨なで。 底面に凹み。	カマド 周辺	1/2
9-7 44	土師器 高環	①(16.3) ②(5.5)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	環部外面磨なで。口縁部横なで。内面 放射状の磨削り。	カマド	1/2
9-8 44	土師器 高環	① 16.7 ②(5.8)	①細砂 褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	環部外面磨なで後、一部磨き。内面斜 方向の磨削り。	カマド 周辺	環部2/3
9-9 44	土師器 壺	① 12.4 ②(8.7)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	口縁部に段を有する。内外面横なで。 内面に刷毛目状の整形。	カマド 周辺	口縁-胴 部片
9-10 44	土師器 壺	① 16.0 ②(8.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	口縁部内外面横なで。肩部本端状工具 による刷毛目状の整形。内面なで。	覆土	口縁-胴 部片
9-11 44	土師器 壺	①(13.0) ②(6.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	口縁部内外面横なで。胴部磨削り後、 なで。内面頸部指なで。	カマド	口縁-胴 部1/2
9-12 44	土師器 壺	① 18.8 ②(17.8)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	口縁部内外面横なで。頸部外面縦方向 の磨削り。胴部外面磨なで。内面磨なで。	覆土	口縁-胴 部1/2
9-13 44	土師器 壺	① 17.9 ②26.6 ③ 6.8	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴上半なで。下 半磨削り後、なで。内面なで。輪轆み 痕あり。	覆土	2/3
10-14 44	土師器 小型壺	②(9.6) ③ 6.3	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	底部外面磨削り。胴部外面磨削り後、 なで。内面磨なで後、磨き。	住居北 部	1/3
10-15 44	土師器 壺	②(27.0)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面磨削り後、なで。内面なで。	住居北 部	1/2

2号住居跡(第11~15図 PL.5・6・44~46)

位置 9 A-14・15、9 B-14・15グリッドにかけて
検出された。1号住居跡の北東約5mの所に位置し
ている。

形状 長辺5.9m、短辺5.7mのほぼ正方形を呈して
いる。

方位 N-71°E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、
そこに堆積した覆土は11層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約62~76cmで床面に達す
る。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約27.4㎡。

周溝 全周している。幅5~16cm、深さ3~10cmを
測る。南壁下の周溝が深い。

竈 東壁南寄り、壁を掘り込まずに構築されてる。
長さ約70cm、幅約70cm、焚き口幅約25cmである。

柱穴 6個のピットが検出された。P1~P4が主柱穴
になる。P1は深さ46cm、P2深さ51cm、P3深さ15cm、

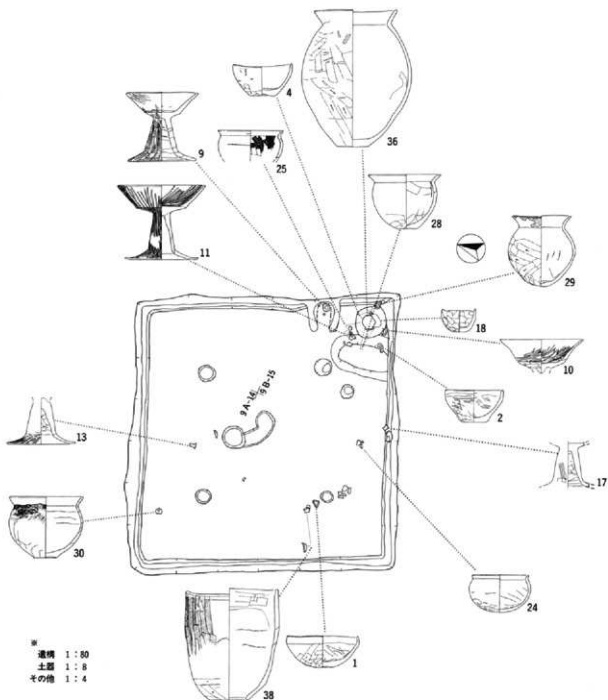
第3章 荒砥下押切II遺跡

P4深さ46cmである。P5は深さ14cm、P6は深さ11cmである。

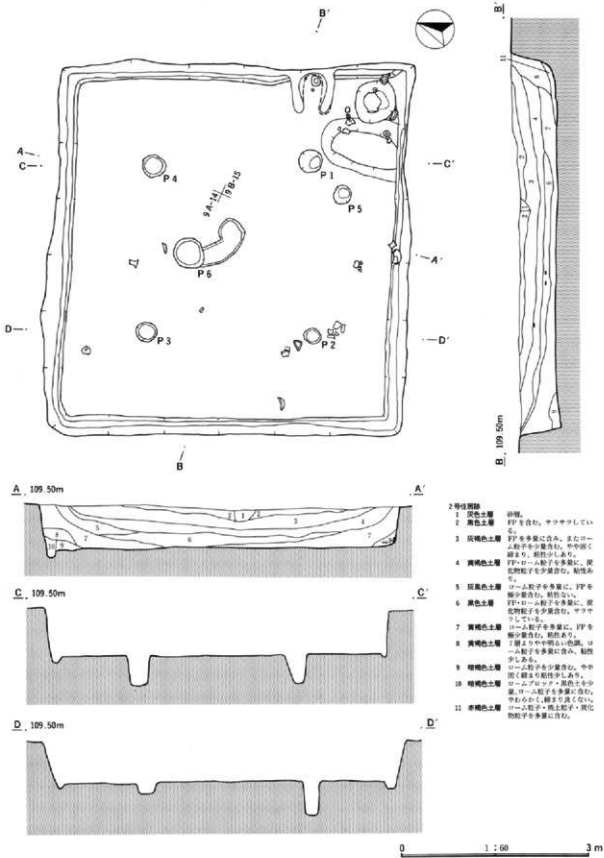
貯蔵穴 床面南東隅から検出された。規模は長径70cm、短径65cm、深さ60cmである。貯蔵穴に接して西側に床面より約5cm程のロームの高まりが認められた。

遺物 覆土からの出土は少なかった。竈内と貯蔵穴周辺から出土している。第15図36の壺は貯蔵穴上に横倒し状態で出土し、第14図29の小型壺は壁に接して出土している。

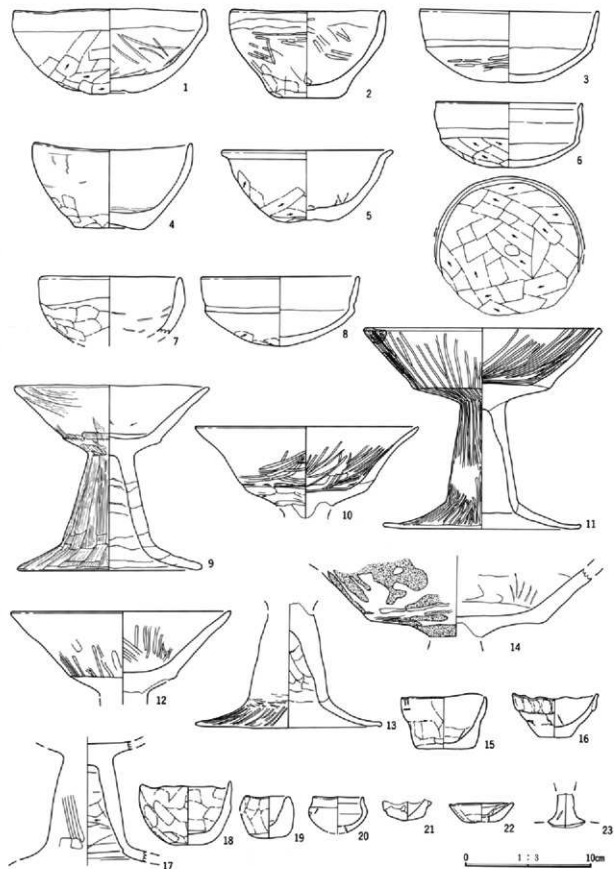
時期 古墳時代中期（5世紀後半～6世紀）。



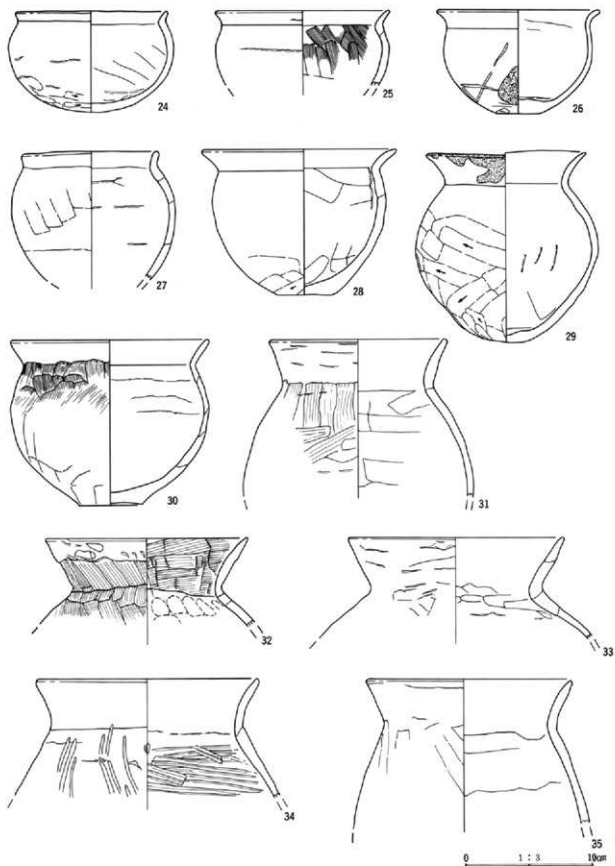
第11図 2号住居跡遺物分布



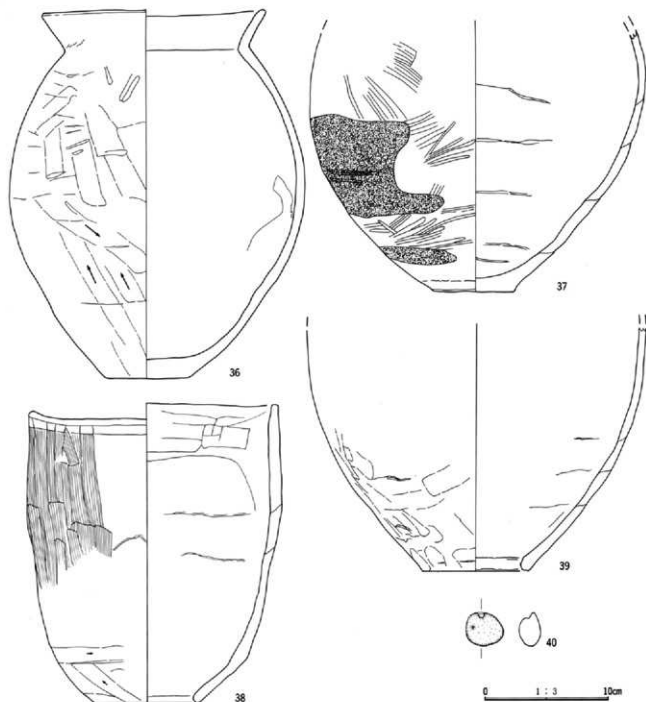
第12図 2号住居跡



第13圖 2号住居跡出土遺物(1)



第14図 2号住居跡出土遺物(2)



第15図 2号住居跡出土遺物(3)

荒砥下押切II・2号住居跡

図 番 P L	土器種別 器 種	寸 法 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調			成・整形技法の特徴	出 土 状 況	残存状況
			①胎土	②焼成	③色調			
13-1 44	土 師 器 杯	①(16.3) ② 6.6	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化剤 ③赤褐色	①12.3 ② 6.8 ③ 5.0	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化剤 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面斜方向の磨削き。	床西部	2/3
13-2 44	土 師 器 杯	① 12.3 ② 6.8 ③ 5.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化剤 ③明赤褐色	① 14.2 ② 5.7	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化剤 ③赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面磨削き。	貯蔵穴 周辺	1/2
13-3 44	土 師 器 杯	① 14.2 ② 5.7	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化剤 ③赤褐色	① 12.5 ② 6.1 ③ 5.8	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化剤 ③灰褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面荒れていて。	覆土	2/3
13-4 44	土 師 器 杯	① 12.5 ② 6.1 ③ 5.8	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化剤 ③灰褐色			外面底部から体部にかけて磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面などで。	貯蔵穴 周辺	2/3

【1】 整六住居跡

13-5 44	土器 壺	① 13.5 ② 5.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	体部外面磨削り後、上部まで。内面丁寧な磨きで、裏面部の痕残る。	覆土	ほぼ完形
13-6 44	土器 壺	① 11.6 ② 5.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明黄褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面まで。	覆土	3/4
13-7 44	土器 壺	① 10.3 ② (5.4)	①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい黄褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面まで。	覆土	1/2
13-8 44	土器 壺	① 12.6 ② 5.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面充てられている。	覆土	1/2
13-9 45	土器 高 壺	① 15.4 ②14.7 ③ 14.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	胴部外面磨きで、口縁部内外面横なで。内面まで。胴部外面刷毛目。内面輪積み痕。	カマド	完形
13-10 45	土器 高 壺	①(17.2) ② (7.2)	①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい黄褐色	胴部外面で後、斜方向の磨き。口縁部内外面横なで。内面斜方向の磨き。	貯蔵穴 周辺	胴部1/2
13-11 45	土器 高 壺	①(18.0)②15.8 ③(15.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	胴部外面で後、縦方向の磨き。内面斜方向の磨き。胴部外面縦方向の磨き。	貯蔵穴 周辺	1/2
13-12 45	土器 高 壺	①(17.3) ② (6.7)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	胴部外面で後、縦方向の磨き。口縁部内外面横なで。内面縦斜方向の磨き。	覆土	胴部1/3
13-13 45	土器 高 壺	② (9.8) ③(14.8)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	胴部外面丁寧なで、胴部外面磨き。内面横・縦方向の磨き。	床北部	胴部1/2
13-14 45	土器 高 壺	② (6.3)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	胴部外面丁寧なで。内面磨きで。裏面部の痕残る。炭化物付着。	覆土	胴部1/5
13-15 45	土器 手 裡	① 6.7 ② 4.0 ③ 4.7	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③灰白色	体部外面指まで。内面まで。	覆土	3/4
13-16 45	土器 手 裡	① 6.7 ② 3.0 ③ (2.1)	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤色	体部外面指まで。内面まで。底部調整。	覆土	1/2
13-17 45	土器 高 壺	②(10.0)	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	胴部外面丁寧なで後、磨き。内面横方向の磨削り。	覆土	胴部
13-18 45	土器 手 裡	① 7.2 ② 4.6 ③ 2.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	体部外面指まで。内面まで。	貯蔵穴 周辺	ほぼ完形
13-19 45	土器 手 裡	① (3.5) ② 3.3 ③ (3.0)	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	体部外面指まで。内面まで。	覆土	1/2
13-20 45	土器 手 裡	① 4.0 ② 2.8	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい赤褐色	体部外面指まで。内面まで。	覆土	1/3
13-21 45	土器 手 裡	① 3.8 ②(1.6) ③ 2.6	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい褐色	体部外面指まで。内面まで。底部調整。	覆土	1/2
13-22 45	土器 手 裡	① 5.0 ② 1.5	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③黒褐色	体部外面磨きで。内面まで。	覆土	1/2
13-23 45	土器 手 裡	② (2.7)	①細砂 褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外面磨きで。	覆土	1/2
14-24 45	土器 鉢	①(12.0) ② 7.9	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面斜方向の磨きで。	床南部	1/2
14-25 45	土器 鉢	①(13.8) ② (6.0)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	胴部外面充てられている。口縁部内外面横なで。内面刷毛目状の整形。	貯蔵穴 周辺	1/3
14-26 45	土器 鉢	① 12.8 ② 8.1 ③ 3.6	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面まで。底面平底状。	覆土	口縁～底 部1/3
14-27 45	土器 鉢	① 10.8 ②(10.3)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	胴部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面まで。	覆土	1/2
14-28 45	土器 鉢	①(15.4)②11.5 ③ 4.2	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面まで。底面平底。	貯蔵穴 周辺	2/3
14-29 45	土器 小 原 壺	① 12.6 ②14.9	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面まで。	貯蔵穴 周辺	完形
14-30 45	土器 小 原 壺	① 15.6 ②13.1 ③ 5.0	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	胴部外面刷毛目状の整形。磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面輪積み痕。	床北部	1/2
14-31 45	土器 壺	①(14.0) ②(12.4)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	胴部外面刷毛目状の整形。口縁部内外面横なで。内面磨きで。	覆土	1/5
14-32 45	土器 壺	①(16.0) ② (7.2)	①中・細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	口縁～胴部外面刷毛目状の整形。口縁内面も同様。以下指頭圧痕。輪積み痕残る。	覆土	口縁～胴 部片
14-33 45	土器 壺	①(17.0) ② (8.1)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい黄色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨きで。内面磨きで。輪積み痕残る。	覆土	口縁～胴 部片

第3章 荒砥下押切口遺跡

14-34 45	土師器 壺	①(17.6) ②(9.2)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄色	口縁部外面寛なで後、縦方向の磨き。 口縁部内外面横なで、内面刷毛目状の 整形。	覆土	口縁~胴 部片
14-35 46	土師器 壺	① 16.2 ②(12.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	胴部外面横なで、口縁部内外面横なで、 内面横なで。	覆土	口縁~胴 部1/2
15-36 46	土師器 壺	① 17.6 ②28.8 ③ 6.4	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③にょい棕色	胴部外面横なで後、なで。口縁部内外 面横なで、内面横なで。	貯蔵穴	ほぼ完形
15-37 46	土師器 壺	②(20.6) ③ 6.3	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③にょい赤褐色	胴部外面横なで後、磨き、底面磨削り。 内面荒れている。	覆土	胴~底部
15-38 46	土師器 瓶	① 19.7 ②23.7 ③ 8.0	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	胴部外面上半刷毛目状の整形。下半部 削り。口縁部内外面横なで。内面輪積 み痕。	床西部	2/3
15-39 46	土師器 瓶	②(19.3) ③ 8.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	胴部外面横なで。内面横なで。一部輪 積み痕が残る。	覆土	胴下半部

図 番 L	器 種	遺存状況	石 材	計測値 (cm・g)				特 徴	出土状況
P				全長	幅	厚	重量		
15-40 46	石製品	突起	砂岩	2.7	3.0	1.7	10	穿孔が認められる。	覆土

3号住居跡 (第16~25図 PL7・8・46~49)

位置 9B-12・13、9C-12グリッドにかけて検出された。2号住居跡の北北東約6mの所に位置している。

形状 長辺6.5m、短辺5.3mの長方形を呈している。

方位 N-3°E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は11層(1~8、11~13層)に分かれた。10・11層は溝状遺構の覆土である。第3層はAs-Bの純層である。

壁高 住居跡確認面より約60~110cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦であるが、東壁下から約60~100cmの幅にわたり床面に若干の高まりが認められる。面積は約21.8㎡。

周溝 全周している。幅6~20cm、深さ2~11cmを測る。

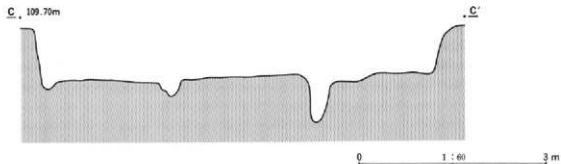
竈 北壁中央、壁を掘り込まずに構築されている。長さ約100cm、幅約130cm、焚き口幅約30cmである。

柱穴 7個のピットが検出された。P1~P4が主柱穴になる。P1は深さ25cm、P2深さ72cm、P3深さ25cm、P4深さ47cmである。P5は深さ57cm、P6深さ54cm、P7深さ55cmである。

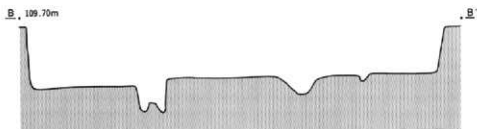
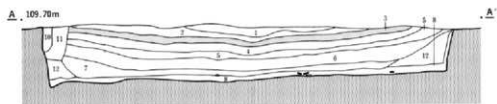
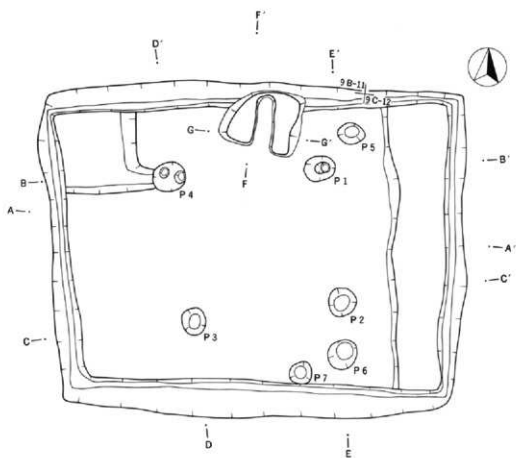
貯蔵穴 竈右側のP5が位置的には該当するかも知れないが規模が小さく判断しない。

遺物 床面直上より多量の遺物が出土している。とりわけ竈左側の北壁下と床面東部にまとまって出土している。

時期 古墳時代後期(6世紀前半)。

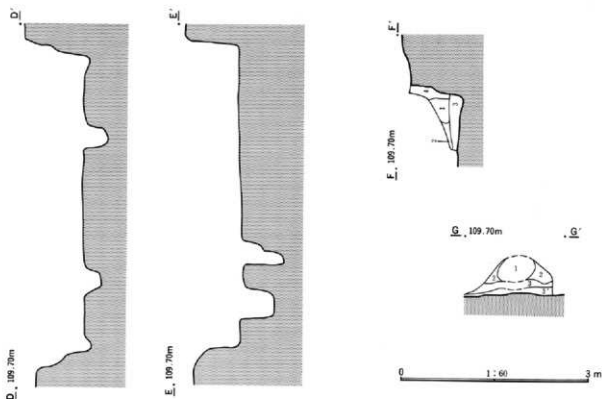


第16図 3号住居跡(1)



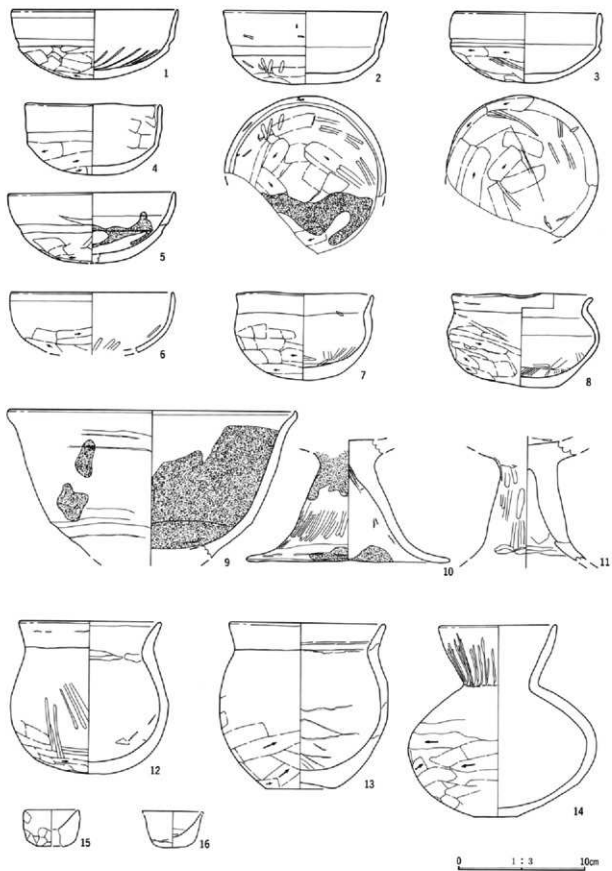
0 1:60 3m

第17图 3号住居跡(2)

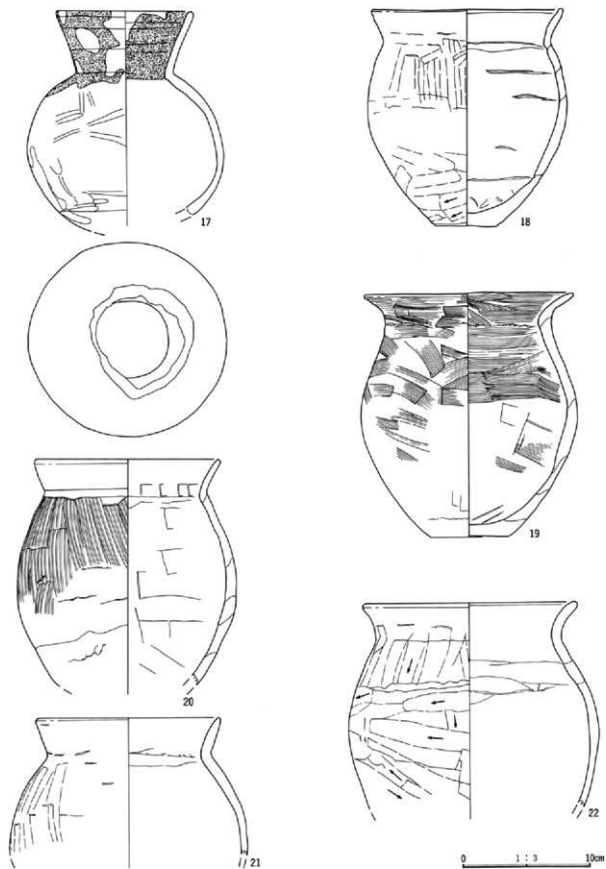


- 3号住居跡
- 1 砂質土層 褐色土を細かに含む。
 - 2 砂質土層 中粒なかみ。
 - 3 A層-1土層 上部はA層。
 - 4 黒色土層 上部はA層-1を含む。
 - 5 黒褐色土層
 - 6 暗黄褐色土層
 - 7 黄褐色土層
 - 8 黄褐色土層 ローム多量層を含む。
 - 9 濃灰褐色内装土 ロームブロックを含む。
 - 10 濃灰褐色内装土 ロームブロックを含む。
 - 11 褐色土層 灰入土、細砂子。
 - 12 黄褐色土層 ローム灰入土。
 - 13 褐色土層 焼上まじりのカマド崩れ土。
- 3号住居カマド
- 1 焼土層 厚い焼土を大量に含む。
 - 2 黒褐色土層 ローム及び褐色土の灰入土。アーク状に灰土が入っている。カマド構築材。
 - 3 黒褐色土層 褐色土と多量のローム粒子を含む。焼土はほとんど含まない。
 - 4 灰褐色土層 砂質ローム層が焼土を受けている。少量の焼土を含む。

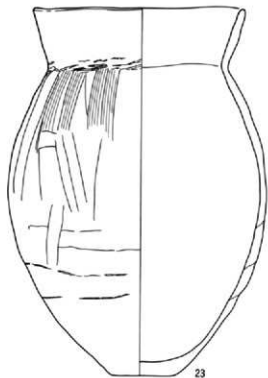
第18図 3号住居跡(3)



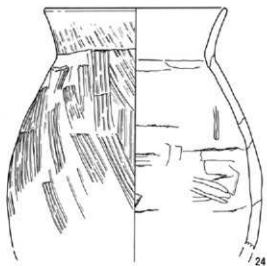
第20図 3号住居跡出土遺物(1)



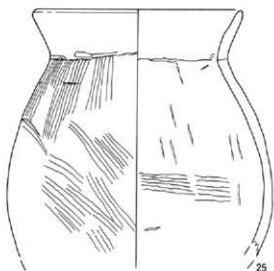
第21图 3号住居跡出土遺物(2)



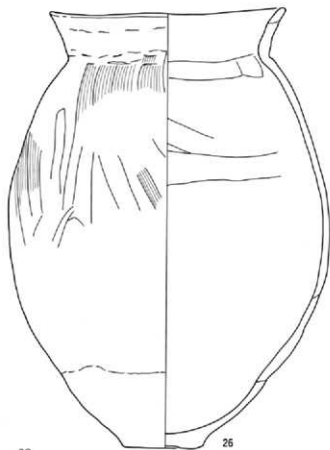
23



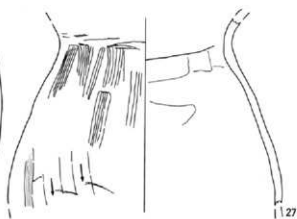
24



25

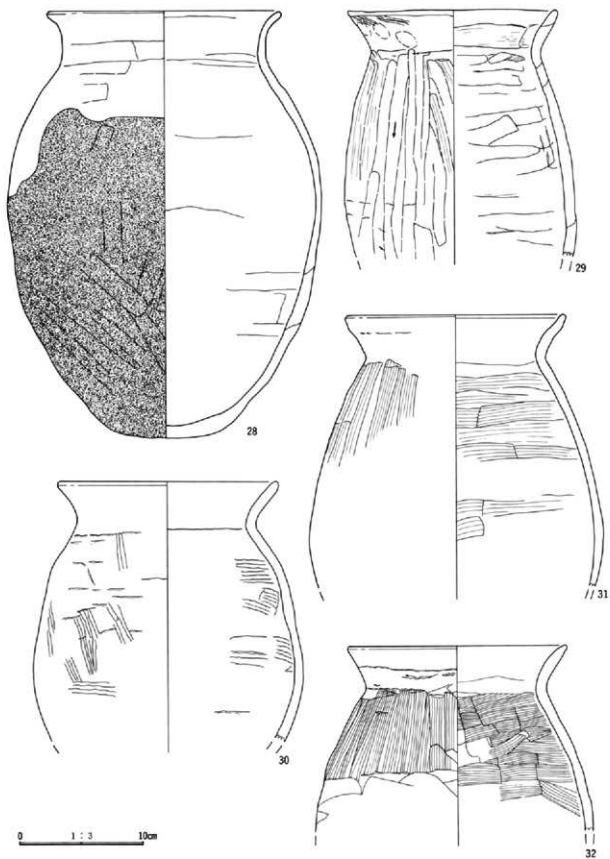


26

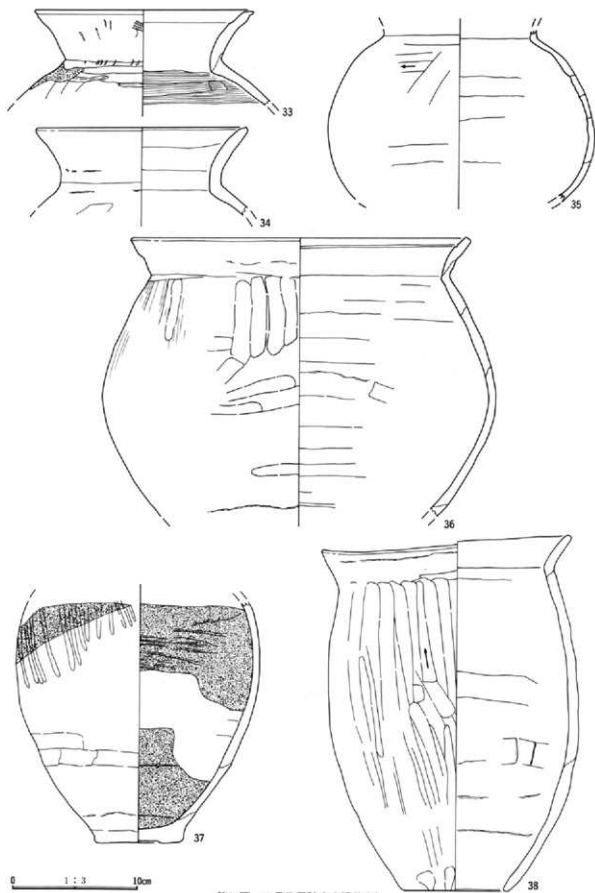


27

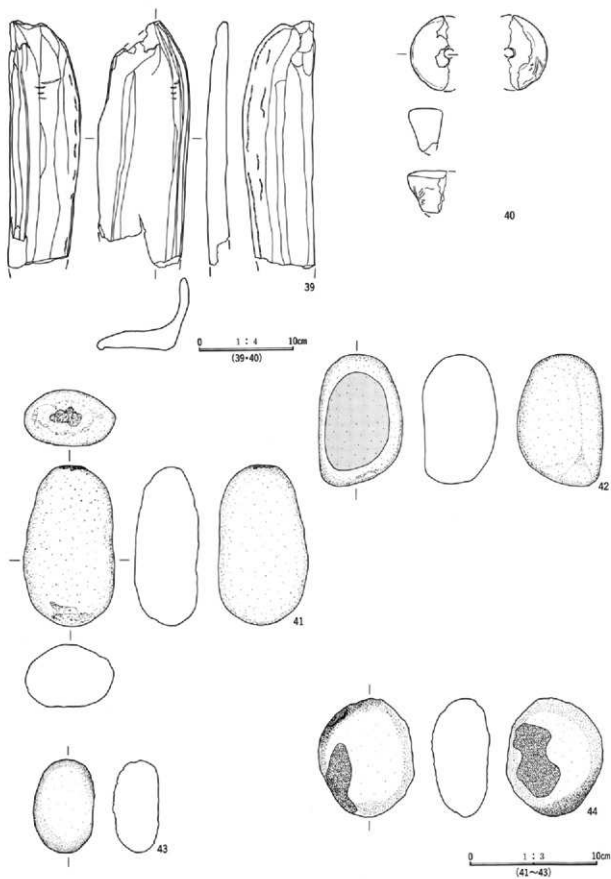
0 1 : 3 10cm



第23图 3号住居跡出土遺物(4)



第24図 3号住居跡出土遺物(5)



第25図 3号住居跡出土遺物(6)

第3章 荒砥下押切II遺跡

荒砥下押切II・3号住居跡

図番 P.L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③器径	①胎土 ②装成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
20-1 46	土師器 環	① 13.2 ② 5.3	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	カマド 東	ほぼ完形
20-2 46	土師器 環	① 12.8 ② 5.7	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面横なで。	床北部	1/2
20-3 46	土師器 環	① 11.7 ② 5.5	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面横なで。	北壁下	2/3
20-4 46	土師器 環	① 10.8 ② 5.6	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面磨削り。	北壁下	1/3
20-5 46	土師器 環	① 13.1 ② 5.6	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面横なで。	覆土	1/2
20-6 46	土師器 環	①(12.8) ②(5.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨削り。	北壁下	1/4
20-7 46	土師器 鉢	① 10.6 ② 6.6	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面磨削り。	北壁下	完形
20-8 46	土師器 鉢	① 11.1 ② 7.3	①粗・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面磨削り。	北西隅	完形
20-9 47	土師器 高環	① 22.8 ②(12.2)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	坏部外面横なで。内面横なで。炭化物が付着している。	カマド 西	坏部
20-10 47	土師器 高環	②(9.7) ③(6.0)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	脚部外面横なで、磨削り。脚部底面横なで。内面横なで。	北壁下	脚部
20-11 47	土師器 高環	②(10.0)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	脚部外面横なで。内面横なで。	床東部	脚部
20-12 47	土師器 小型壺	① 11.3 ②12.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい・棕色	胴部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面横なで。	床東部	2/3
20-13 47	土師器 小型壺	① 12.2 ②13.1 ③ 5.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	胴部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面横なで。	床南部	完形
20-14 47	土師器 甗	① 9.4 ②15.1 ③ 3.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	口縁上端内外面横なで。外面縦方向磨削り。胴部外面上半部横なで、下半部磨削り。内面横なで。	床西部	ほぼ完形
20-15 46	土師器 手捏	①(4.2) ② 2.8 ③ 1.1	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい・黄棕色	体部内外面横なで。	覆土	一部欠損
20-16 46	土師器 手捏	②(2.7) ③ 2.0	①細砂 白色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	体部内外面横なで。	床南部	口縁部欠損
21-17 47	土師器 甗	① 10.8 ②17.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り。内面横なで。	床東部	底部意図的欠損
21-18 47	土師器 甗	① 15.0 ②17.1 ③ 4.8	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り。内面横なで。輪積み痕残る。	カマド 周辺	3/4
21-19 47	土師器 甗	① 16.4 ②19.2 ③ 6.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	口縁部から胴上半内外面刷毛目状の整形。胴部下半横なで。	床東部	2/3
21-20 47	土師器 甗	① 14.6 ②(18.0)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面刷毛目状の整形。内面横なで。輪積み痕残る。	覆土	口縁部・胴部2/3
21-21 47	土師器 甗	① 14.4 ②(10.2)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面横なで。	覆土	1/4
21-22 47	土師器 甗	① 16.9 ②(16.3)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り。内面横なで。輪積み痕残る。	床東部	3/4
22-23 47	土師器 甗	① 16.7 ②28.8 ③ 5.0	①粗・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	口縁部内外面横なで。胴上半刷毛目状の整形。下半丸れ。内面横なで。底面木彫り。	北壁下	ほぼ完形
22-24 47	土師器 甗	① 14.2 ②(19.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい・黄棕色	口縁部内外面横なで。胴部外面刷毛目状の整形。内面横なで。輪積み痕残る。	覆土	口縁部・胴部1/2
22-25 48	土師器 甗	① 16.5 ②(19.7)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り。内面横なで。	床東部	1/2
22-26 48	土師器 甗	① 18.7 ②34.2 ③ 6.3	①粗・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	口縁部内外面横なで。胴部外面上半刷毛目状の整形。内面横なで。	カマド 周辺	ほぼ完形
22-27 47	土師器 甗	②(14.7)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい・棕色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面横なで。	床中央部	1/3
22-28 48	土師器 甗	① 18.4 ②23.5 ③ 7.2	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③棕色	口縁部内外面横なで。胴部外面上半横なで。下半磨削り。内面横なで。輪積み痕残る。	床中央部	4/5

(1) 竪穴住居跡

23-29 48	土 器 器 壺	① 16.5 ②(19.0)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面篋削り、 内面篋なで。	床東部	1/2
23-30 48	土 器 器 壺	① 17.5 ②(20.7)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面篋削り 後、なで。一部磨き。内面篋なで。	床東部	1/3
23-31 48	土 器 器 壺	① 17.3 ②(22.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面刷毛目 状の整形。内面篋方向の刷毛目状整形。	床東部	1/2
23-32 48	土 器 器 壺	① 17.2 ②(14.6)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで、胴部上半刷毛目 状の整形。下半篋削り。内面刷毛目状 の整形。	床東部	1/3
24-33 48	土 器 器 壺	① 17.2 ② (7.5)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面篋削り 後、磨き。内面刷毛目状の整形。	床北東部	口縁～胴 部片
24-34 48	土 器 器 壺	① 16.7 ② (7.4)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面荒れて いる。内面篋なで。	床北東部	口縁～胴 部片
24-35 48	土 器 器 壺	②(13.3)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	胴部外面篋削り後、磨き。内面刷毛 輪積も復残る。	床東部	胴部1/2
24-36 48	土 器 器 壺	①(26.7) ②(22.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明黄褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面篋なで、 内面篋なで。	床北東部	1/2
24-37 49	土 器 器 壺	②(19.0) ③ 6.8	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	胴部外面篋削り後、なで。内面篋なで。 保付着。	覆土	胴下半部
24-38 49	土 器 器 壺	① 19.7 ②(27.4) ③ 8.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面篋削り 後、磨き。内面篋なで。	床東部	ほぼ完形
25-39 49	土 製 品 ?	長 25.9 幅 9.5 厚0.7~2.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	内面篋なで。外面篋なで、刷毛目状の 整形。用途不明。	覆土	一部欠損
25-40 49	土 製 品 紡 絲 車	長 5.8 幅 3.0 孔 0.7 厚 3.3	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	広面・側面丁寧な調整。	覆土	1/2

図 番 P	器 種	遺 存 状 況	石 材	計 測 値 (cm・g)			特 徴	出土状況
				全長	幅	厚 重量		
25-41 49	炭 石	完形	安山岩	12.6	7.0	4.9 505	先端に敲打痕が認められる。	覆土
25-42 49	磨 石	完形	花崗岩	10.2	6.6	5.7 639	磨耗痕が認められる。	覆土
25-43 49		完形	輝石	7.3	4.7	3.6 53		覆土
25-44 49	磨 石	完形	安山岩	9.2	7.5	4.7 336	赤色付着物が認められる。	覆土

4号住居跡 (第26~28図 PL.9・49・50)

位置 9B-16・17、9C-16・17グリッドにかけて検出された。2号住居跡の南東約5mの所に位置している。

形状 長辺4.9m、短辺4.7mのほぼ正方形を呈している。

方位 N-54°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約8~20cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。床面中央西寄りに約1mの範囲に焼土の堆積が認められた。面積は約21.4㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁から約40cm離れた床面上に構築されている。長さ約135cm、幅約110cm、焚き口幅約25cmである。

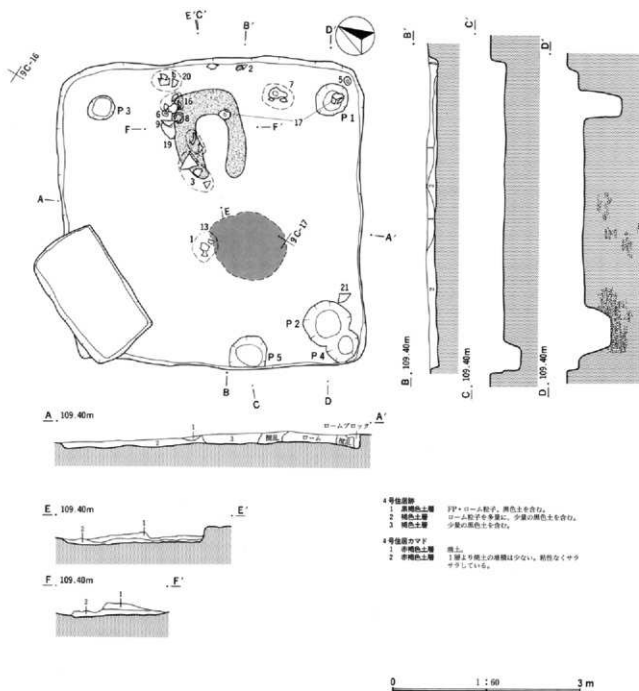
柱穴 5個のビットが検出された。P1~P3が主柱穴になる。P1は深さ58cm、P2深さ49cm、P3深さ63cmである。もう一つの柱穴は北西隅の新しい土坑によって壊されてしまったものであろう。P4深さ31cm、P5は深さ40cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

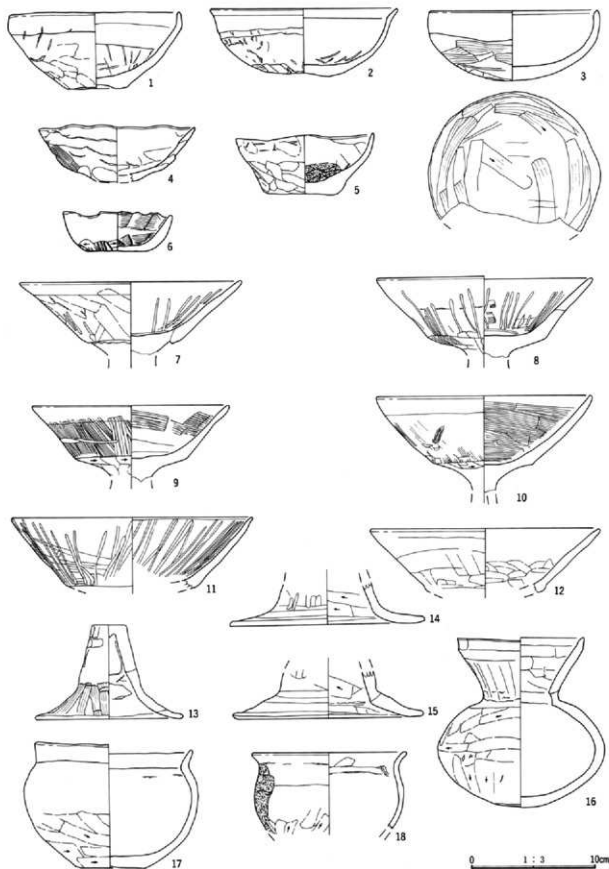
遺物 竈周辺から第28図19の壺や第27図16の埴が出土している。

時期 古墳時代中期(5世紀後半)。

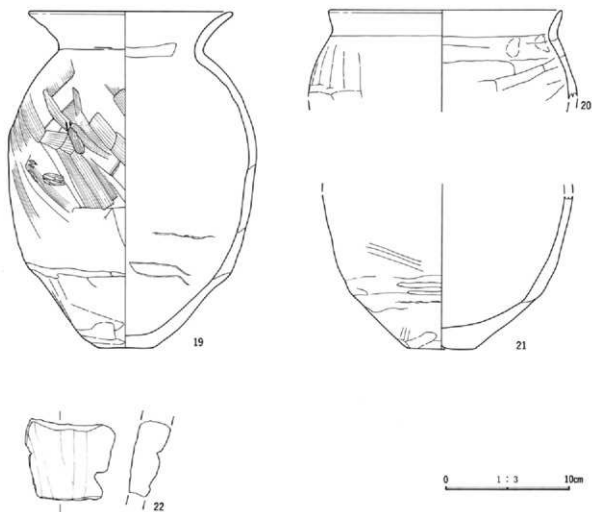
備考 1号住居・5号住居と同様に竈は壁から離れた床面上に構築されている。



第26図 4号住居跡



第27图 4号住居跡出土遺物(1)



第28図 4号住居跡出土遺物(2)

荒砥下押切II・4号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)			①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高	③底径				
27-1 49	土器 器 環	①(13.7)	② 5.1	③ 5.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面寛なで、口縁部内外面横なで、内面磨き。底部上げ底。	床中央部	2/3
27-2 49	土器 器 環	① 15.0	② 5.1	③ 5.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③棕色	体部外面寛なで、口縁部内外面横なで、内面寛なで。底部上げ底。	東壁下	ほぼ完形
27-3 49	土器 器 環	① 13.3	② 5.5		①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部横なで、内面寛なで。	カマド 周辺	2/3
27-4 49	土器 器 環	① 12.4	② (4.6)		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄色	体部外面刷毛目状の整形。輪張り痕顕著。内面寛なで。	厩土	1/5
27-5 49	土器 器 手型	① 10.9	② 4.6	③ 5.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③灰褐色	体部外面寛なで、指なで、内面寛なで、赤色の痕跡。	北東隅	ほぼ完形
27-6 49	土器 器 環	① 8.6	② 3.0	③ 4.8	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部に一部刷毛目。内面刷毛目状の整形。	カマド 周辺	ほぼ完形
27-7 49	土器 器 高環	① 17.6	② 4.8	③ (5.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③棕色	坏部外面寛なで、口縁部内外面横なで、内面放射状の磨き。	床東部	坏部
27-8 49	土器 器 高環	① 17.1	② (7.0)		①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	坏部外面磨削り後、縦方向の磨き。口縁部内外面横なで、内面放射状の磨き。	カマド 周辺	坏部1/2
27-9 49	土器 器 高環	① 15.5	② (6.2)		①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗赤褐色	坏部外面刷毛目状の整形。口縁部内外面横なで、内面刷毛目状の整形。	カマド 周辺	坏部1/2

27-10 49	土 師 器 高 坏	① 17.0 ② (7.5)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面磨削後、などで、口縁部内外 面横などで。内面刷毛目状の整形。	覆土	坏部
27-11 49	土 師 器 高 坏	① 19.0 ② (5.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面縦方向の磨き。口縁部内外面 横などで。内面放射状の磨き。	覆土	坏部1/4
27-12 49	土 師 器 高 坏	① 18.2 ② (5.2)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	坏部外面磨削後、などで、口縁部内外 面横などで。内面磨などで。	覆土	坏部1/3
27-13 49	土 師 器 高 坏	② (7.4) ③ (5.8)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	脚部部刷毛目状の整形。などで。内面磨 などで。	床中央 部	脚部1/2
27-14 49	土 師 器 高 坏	② (3.2) ③ 15.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	脚部部磨などで。内面磨削り。	覆土	脚部1/2
27-15 49	土 師 器 高 坏	② (3.8) ③(15.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	脚部部磨などで。内面磨削り。	覆土	脚部片
27-16 50	土 師 器 用	① 10.6 ②13.1	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横などで。外面磨などで。胴 部外面磨削り。内面磨などで。	カマド 周辺	ほぼ完形
27-17 50	土 師 器 鉢	① 12.4 ② 9.7 ③ 5.4	①粗・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい赤褐色	体部下半磨削り、上半磨などで。口縁部 内外面横などで。内面磨などで。	覆土	4/5
27-18 50	土 師 器 鉢	① 12.3 ② (6.1)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	体部外面上半磨などで。下半磨削り。口 縁部内外面横などで。内面磨などで。	覆土	口縁～体 部1/3
28-19 50	土 師 器 壺	① 16.2 ②26.3 ③ 4.3	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗褐色	胴部上半刷毛目状の整形。下半磨削り 後、などで。口縁部内外面横などで。内面 磨などで。	カマド 周辺	ほぼ完形
28-20 50	土 師 器 壺	① 18.5 ② (7.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外面磨削り後、などで、口縁部内外 面磨などで。内面磨などで。指頭汗痕、輪 積み痕。	東壁下 部	口縁～胴 部片
28-21 50	土 師 器 壺	②(12.0) ③ 5.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	胴部外面磨などで後、磨き。内面磨などで。	床南部	胴下半部
28-22 50	土 師 器 壺		①粗粒 褐・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	内外面磨などで。荒れている。	カマド	不明

5号住居跡 (第29～38図 PL.10・11・50～53)

位置 9D-17、9E-16～18、9F-17・18グリッドにか
けて検出された。4号住居跡の東南約5mの所に位
置している。

形状 長辺8.0m、短辺7.7mの方形を呈している。

方位 N-89°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、
そこに堆積した覆土は5層に分かれた。6～8層は
擾乱土層である。

壁高 住居跡確認面より約20～47cmで床面に達す
る。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。床面の所々に焼土の分布が
認められた。面積は約54.3㎡。

周溝 東壁下を除いて巡っている。幅3～20cm、深
さ1～6cmである。

竈 東壁南寄りの床面上に構築されている。長さ

約170cm、幅約145cm、焚き口幅約40cmである。

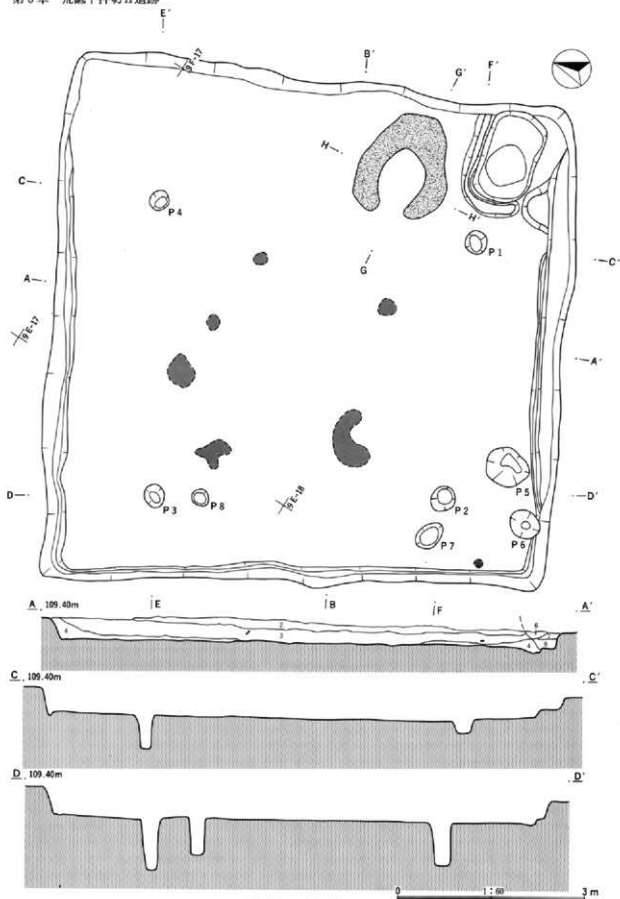
柱穴 8個のピットが検出された。P1～P4が主柱穴
になる。P1は深さ20cm、P2深さ67cm、P3深さ83cm、
P4深さ52cmである。P5は深さ26cm、P6深さ22cm、P7
深さ21cm、P8深さ60cmである。

貯蔵穴 床面東南隅から検出された。規模は長径150
cm、短径90cm、深さ65cmである。貯蔵穴を囲うよう
に床面より約7cm程のロームの高まりが認められ
た。

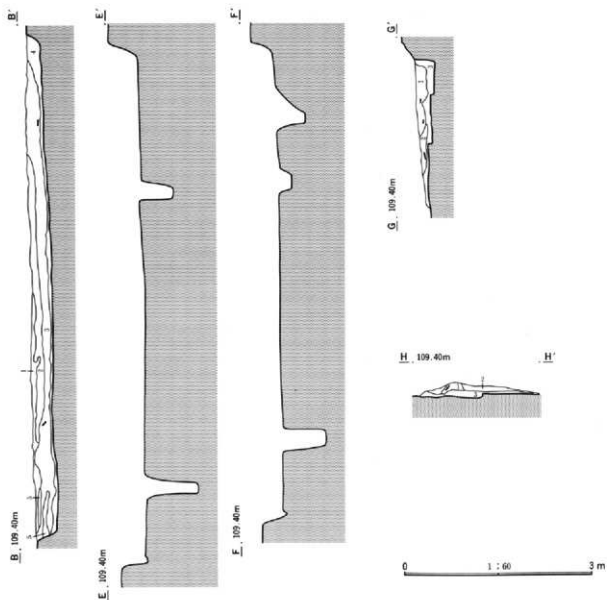
遺物 竈と貯蔵穴周辺、床面北西隅から集中して出
土している。詳細は第31図の遺物分布を参照のこと。
第37図75の紡錘車はP2・P5の中間地点から出土し
ている。

時期 古墳時代中期（5世紀後半）。

備考 1・4・5号住居は竈が壁から離れた床面上
に構築されている。



第29図 5号住居跡(1)



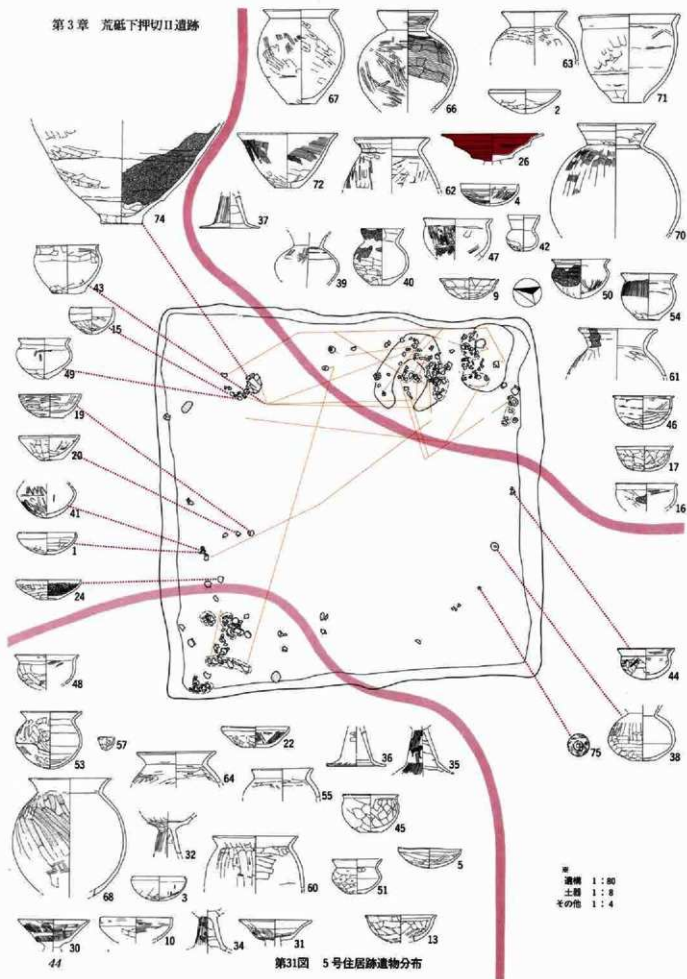
5号住居跡

- | | | |
|---|-------|----------------------|
| 1 | 灰白土層 | 砂質。 |
| 2 | 黒色土層 | PPや骨・炭灰土を少量含む。 |
| 3 | 灰褐色土層 | PPや骨・炭灰土を少量含む。 |
| 4 | 灰褐色土層 | ローム粒子と少量の黒色土を含む。 |
| 5 | 褐色土層 | ロームがブロック状に多数に混入している。 |
| 6 | 灰白土層 | PPを含む。砂質。 |
| 7 | 灰褐色土層 | ローム粒子と砂を少量含む。 |
| 8 | 褐色土層 | ロームブロックと黒色土の混入。 |

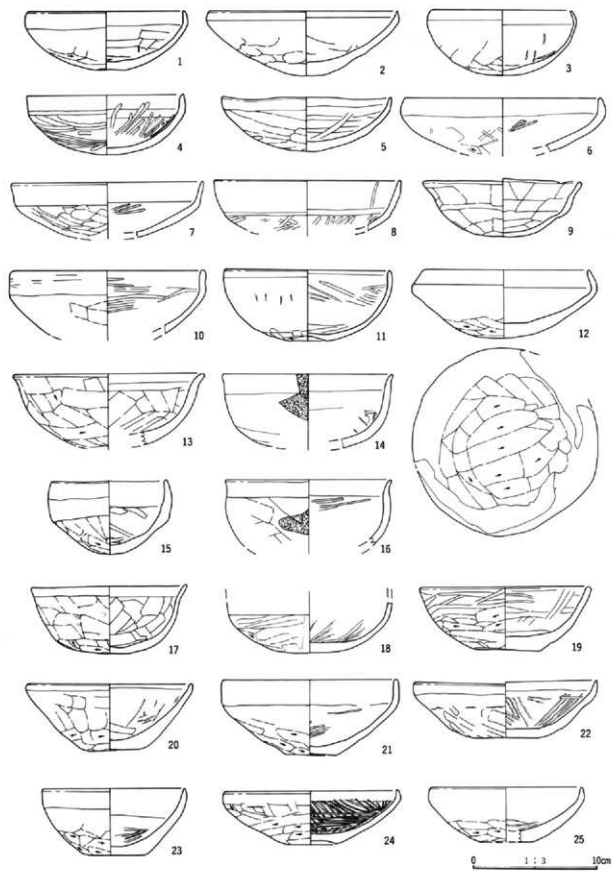
5号住居のマド

- | | | |
|---|-------|-------------|
| 1 | 赤褐色土層 | 塊土ブロック。 |
| 2 | 黒土層 | 塊土がブロックを含む。 |
| 3 | 黄褐色土層 | 砂質。 |

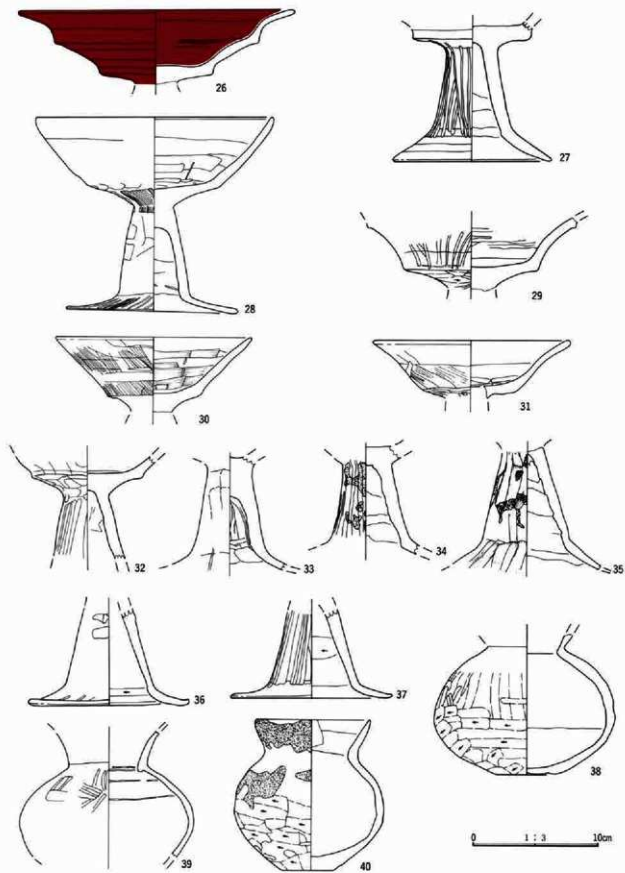
第30図 5号住居跡(2)



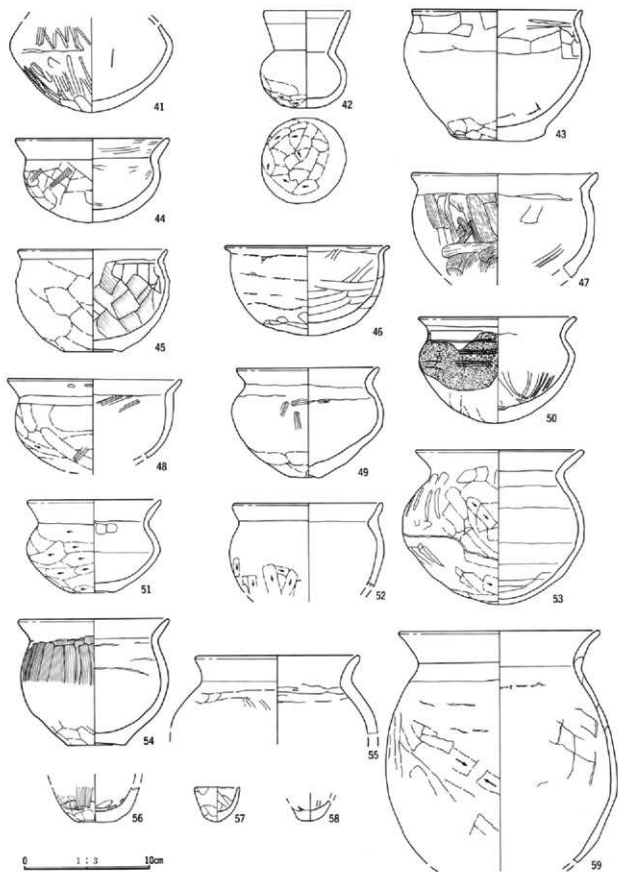
第31図 5号住居跡遺物分布



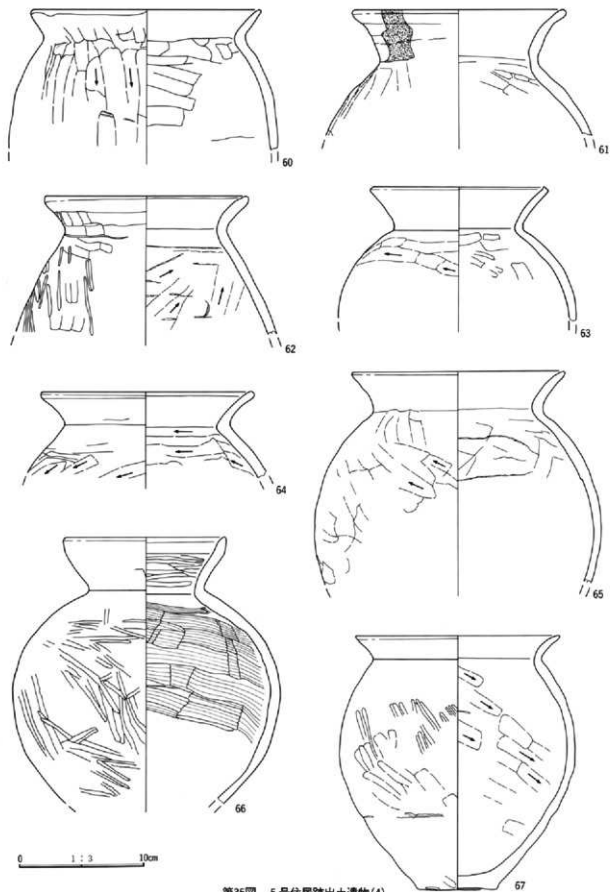
第32図 5号住居跡出土遺物(1)



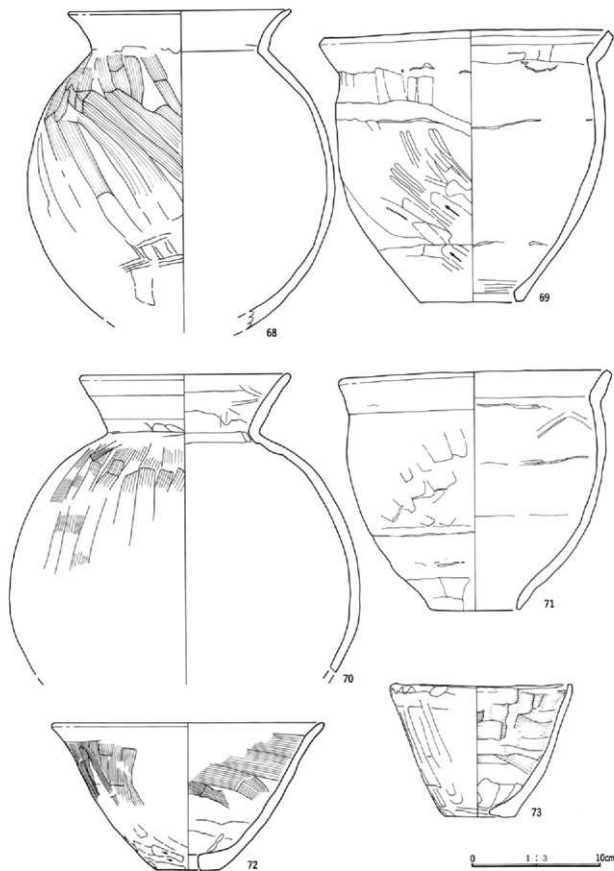
第33図 5号住居跡出土遺物(2)



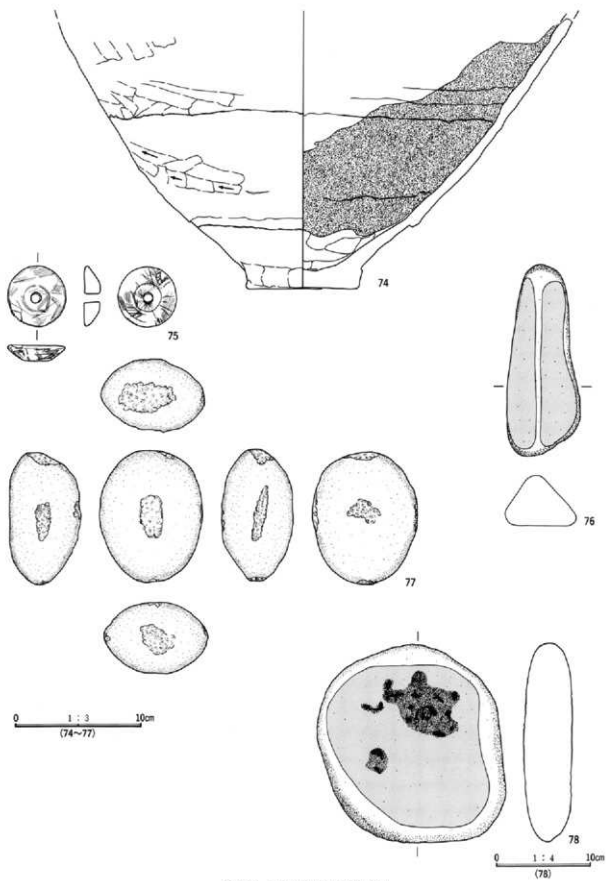
第34图 5号住居跡出土遺物(3)



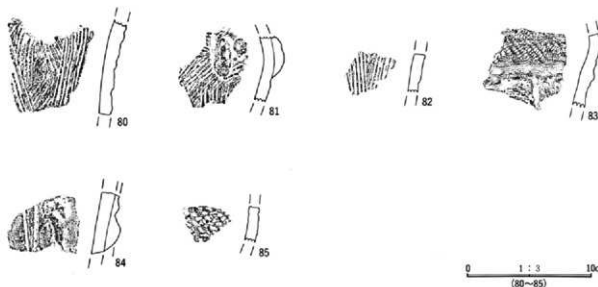
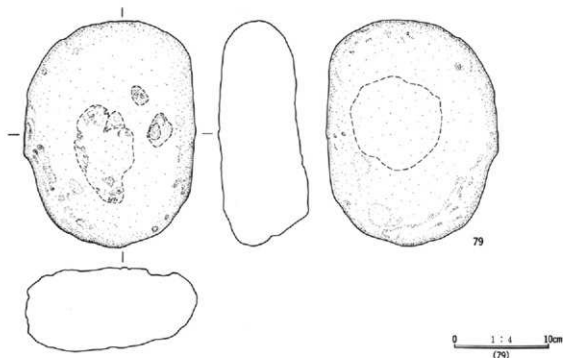
第35図 5号住居跡出土遺物(4)



第36図 5号住居跡出土遺物(5)



第37図 5号住居跡出土遺物(6)



第38図 5号住居跡出土遺物(7)

荒砥下押切II・5号住居跡

図番 P L	土器類別 種	法量 (cm)		①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高				
32-1 50	土器 環	① 12.4	② 4.6	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面なで。	床北部	1/2
32-2 50	土器 環	①(15.1)	② 5.1	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面横なで。鹿蹄部残る。	カマド 周辺	3/4
32-3 50	土器 環	①(11.0)	② 5.3	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③によい赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面横なで。	北西隅	3/4
32-4 50	土器 環	① 12.3	② 4.7 ③ 1.2	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨き。	貯蔵穴 周辺	定形
32-5 50	土器 環	① 13.5	② 4.2	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面横なで。	北西隅	1/3

第3章 荒砥下押切II遺跡

32-6 50	土師器 環	①(15.4) ②(4.2)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	覆土	1/4
32-7 50	土師器 環	①(15.0) ②(4.5)	①細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	覆土	1/4
32-8 50	土師器 環	①(14.8) ②(4.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	覆土	1/5
32-9 50	土師器 環	① 7.8 ② 4.6	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	体部外面磨削り後、なで。内面磨削り。	カマド 周辺	ほぼ完形
32-10 50	土師器 環	①(15.0) ②(5.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	北西隅	1/4
32-11 50	土師器 環	①(13.2)② 5.6 ③ 3.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③暗赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	覆土	1/3
32-12 50	土師器 環	① 12.8 ② 5.4	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで、内面荒れている。	覆土	ほぼ完形
32-13 50	土師器 環	① 15.0 ②(5.6)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	体部外面磨削り後、なで。内面磨削り。	北西隅	1/3
32-14 50	土師器 環	① 13.4 ②(6.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで、内面磨削り。底部の破残。	覆土	1/3
32-15 50	土師器 環	① 9.0 ② 5.8	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	P4 周辺	2/3
32-16 50	土師器 環	①(13.0) ②(5.3)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	南壁	1/5
32-17 50	土師器 環	① 12.1 ② 5.2 ③ 2.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで、内面磨削り。底面磨削り。	南壁	完形
32-18 50	土師器 環	②(4.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	体部外面磨削り後、磨き。内面放射状の磨削り。	覆土	口縁部欠損
32-19 50	土師器 環	① 13.5 ② 4.9 ③ 5.3	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。内面磨削り後、磨き。底面磨削り。	床北部	ほぼ完形
32-20 50	土師器 環	① 13.1 ② 5.2 ③ 4.0	①細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで、内面磨削り。底面磨削り。	床北部	3/4
32-21 50	土師器 環	① 13.8 ② 6.0 ③ 4.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで、内面磨削り。底面磨削り。	覆土	2/3
32-22 50	土師器 環	① 14.5 ② 5.6 ③ 4.6	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	北西隅	ほぼ完形
32-23 50	土師器 環	① 11.3 ② 5.2 ③ 5.0	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横なで、内面磨削り。底面磨削り。	覆土	3/4
32-24 50	土師器 環	① 13.8 ② 4.2 ③ 4.0	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで、内面磨削り。底面磨削り。	床北部	2/3
32-25 50	土師器 環	①(12.0)② 4.3 ③(4.0)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	覆土	1/4
32-26 51	土師器 高 環	① 21.6 ②(5.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	環部外面中に段を有する。内外面磨削り。赤色塗彩。	貯蔵穴 周辺	環部1/2
32-27 51	土師器 高 環	②(10.7) ③(12.5)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	環部外面縦方向の磨き。裾部磨削り。内面なで。輪積み直残る。	覆土	環部2/3
32-28 51	土師器 高 環	① 18.6 ②15.3 ③ 13.4	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	環部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。裾部磨削り。裾部内面なで。	覆土	4/5
32-29 50	土師器 高 環	②(5.6)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	環部外面磨削り。磨き。内面横方向の磨削り。	覆土	環部
32-30 50	土師器 高 環	① 15.4 ②(5.8)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	環部外面刷毛目状の整形。口縁部内外面横なで。内面刷毛目状の整形。	覆土	環部ほぼ 完形
32-31 50	土師器 高 環	① 15.4 ②(4.6)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	環部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで、内面磨削り。	北西隅	環部ほぼ 完形
32-32 51	土師器 高 環	②(8.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	環部外面磨削り。内面磨削り。内面放射状目状。	北西隅	環部～脚 部1/4
32-33 51	土師器 高 環	②(7.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	環部外面磨削り。内面放射目状あり。	北西隅	脚部1/4
32-34 51	土師器 高 環	②(8.6)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	環部外面磨削り。内面輪積み痕が残る。	覆土	脚部1/4
32-35 51	土師器 高 環	②(9.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	脚部・裾部外面刷毛目状の整形。内面輪積み直残る。	北西隅	脚部1/2

33-36 51	土師器 高 環	㊦ (7.7) ㊧ (12.6)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦にぶい赤褐色	胴部外面磨き。内面磨削り。	北西隅	胴部1/2
33-37 51	土師器 高 環	㊦ (7.0) ㊧ 12.3	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦にぶい橙褐色	胴部外面磨削り後、磨き。裾部磨き。内面磨削り。	床東部	胴部4/5
33-38 51	土師器 壇	㊦(11.0) ㊧ 4.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明褐色	胴部外面下半磨削り。上半磨き。内面磨削り。輪痕み痕残る。	床南部	口縁欠損
33-39 51	土師器 壇	㊦ (9.9)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦赤褐色	胴部外面磨きで後、磨き。内面磨削り。輪痕み痕残る。	カマド 周辺	2/3
33-40 51	土師器 小型 壺	㊦ 9.0 ㊧11.9 ㊨ 3.9	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明褐色	胴部外面下半磨削り。口縁部内外面磨削り。内面磨削り。	カマド 周辺	完形
34-41 51	土師器 壇	㊦ (6.9)	①中・細砂 黒・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦橙褐色	胴部外面磨削り。内面磨削り。裏端部残る。	床北部	胴部基部 1/2
34-42 51	土師器 壇	㊦ 6.8 ㊧ 7.7 ㊨ 1.8	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦橙褐色	胴部外面磨削り。内面磨削り。底面磨削り。	カマド	完形
34-43 51	土師器 鉢	㊦ 13.3 ㊧10.3 ㊨ 5.0	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦赤褐色	口縁部・体部外面磨削り。内面磨削り。底面磨削り。	床東部	1/3
34-44 51	土師器 鉢	㊦(12.0) ㊨ 6.6	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面磨削り。内面磨削り。	南壁下	1/2
34-45 51	土師器 鉢	㊦(11.6) ㊧ 8.0 ㊨ 4.6	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦赤褐色	体部外面磨削り。荒れている。口縁部内外面磨削り。内面磨削り。口縁部内面磨削り。輪痕み痕残る。口縁部内外面磨削り。内面磨削り。	北西隅	3/4
34-46 51	土師器 鉢	㊦(13.0) ㊧ 7.0	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明黄褐色	口縁部内外面磨削り。内面磨削り。	貯蔵穴 周辺	3/4
34-47 51	土師器 鉢	㊦ 14.3 ㊧ (8.3)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明赤褐色	口縁部内外面磨削り。体部外面磨削り。内面磨削り。	カマド 周辺	2/3
34-48 51	土師器 鉢	㊦ 13.6 ㊧ (7.5)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦橙褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面磨削り。内面磨削り。	北西隅	1/2
34-49 51	土師器 鉢	㊦ 11.4 ㊧ 8.6 ㊨ 2.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦赤褐色	口縁部内外面磨削り。体部外面磨削り後、磨き。内面磨削り。裏端部残る。	床東部	ほぼ完形
34-50 51	土師器 鉢	㊦ 12.1 ㊧ 8.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明赤褐色	口縁部内外面磨削り。体部外面磨削り後、磨き。内面磨削り。	貯蔵穴 周辺	ほぼ完形
34-51 51	土師器 鉢	㊦ 10.6 ㊧ 7.3 ㊨ 3.0	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦にぶい黄褐色	口縁部内外面磨削り。体部外面磨削り。内面磨削り。	北西隅	ほぼ完形
34-52 51	土師器 鉢	㊦(11.7) ㊨ (6.7)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦にぶい赤褐色	口縁部内外面磨削り。体部外面磨削り後、磨き。内面磨削り。	覆土	2/3
34-53 51	土師器 小型 壺	㊦ 13.0 ㊧12.2 ㊨ 1.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦にぶい黄褐色	口縁部内外面磨削り。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨削り。輪痕み痕残る。	北西隅	完形
34-54 51	土師器 鉢	㊦ 11.8 ㊧10.0 ㊨ 4.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明褐色	口縁部内外面磨削り。体部外面磨削り。内面磨削り。	貯蔵穴 周辺	2/3
34-55 51	土師器 壺	㊦ 13.0 ㊨ (6.3)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦橙褐色	口縁部内外面磨削り。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨削り。	北西隅	口縁部 基部
34-56 51	土師器 手 裡	㊦ (2.7) ㊨ 3.0	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明赤褐色	体部外面磨削り目状の整形。内面磨削り。底面磨削り。	覆土	底部片
34-57 51	土師器 手 裡	㊦ 3.6 ㊧ 2.7	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明褐色	体部内外面磨削り。内面磨削り。	北西隅	完形
34-58 51	土師器 手 裡	㊦ (1.7) ㊨ 0.9	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明赤褐色	体部内外面磨削り。	覆土	体部下半
34-59 51	土師器 壺	㊦(15.6) ㊨(18.3)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦明赤褐色	口縁部内外面磨削り。胴部外面磨削り。輪痕み痕残る。内面磨削り。	覆土	2/3
35-60 52	土師器 壺	㊦(18.0) ㊨(11.0)	①細砂 白・白色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦橙褐色	口縁部内外面磨削り。胴部外面磨削り。内面磨削り。輪痕み痕残る。	北西隅	1/4
35-61 52	土師器 壺	㊦(16.5) ㊨(9.9)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦外黒褐 内いぶい橙褐色	口縁部内外面磨削り。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨削り。	カマド	口縁部 基部
35-62 52	土師器 壺	㊦(16.0) ㊨(10.7)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦橙褐色	口縁部内外面磨削り。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨削り。輪痕み痕残る。	カマド	口縁部 基部
35-63 51	土師器 壺	㊦(13.4) ㊨(10.5)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦にぶい橙褐色	口縁部内外面磨削り。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨削り。	カマド	口縁部 基部
35-64 52	土師器 壺	㊦ 16.5 ㊨ (7.5)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ㊦にぶい黄褐色	口縁部内外面磨削り。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨削り。	北西隅	口縁部 基部

第3章 荒砥下押切II遺跡

35-65 52	土師器 壺	① 16.9 ②(15.2)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横なで、胴部外面磨削り 後、磨き。内面磨なで。輪積み痕残る。	覆土	口縁・胴 部片
35-66 52	土師器 甕	① 12.4 ②(21.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	口縁部外面横なで。胴部外面磨削り。 口縁部内面磨削り。胴部内面刷毛目状 の整形。	カマド	3/4
35-67 52	土師器 壺	①(16.0)②20.0 ③(6.0)	①粗・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③灰褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面磨削り 後、磨き。内面磨削り。	カマド 周辺	1/3
36-68 52	土師器 壺	① 17.5 ②(25.1)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横なで、胴部外面上半刷 毛目状の整形、下半磨き。内面磨なで。	北西隅 周辺	2/3
36-69 53	土師器 甕	① 22.5 ②21.3 ③ 8.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面磨削り 後、磨き。内面磨なで。輪積み痕残る。	覆土	3/4
36-70 52	土師器 甕	①(16.2) ②(23.5)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部外面横なで、胴部外面刷毛目状 の整形。内面磨なで。輪積み痕残る。	カマド 周辺	1/4
36-71 52	土師器 甕	①(20.8)②18.8 ③(7.0)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横なで、胴部外面磨削り。 輪積み痕残る。内面磨なで。輪積み痕。	カマド	3/4
36-72 52	土師器 甕	①(21.2)②11.6 ③ 4.9	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面上半刷 毛目状の整形。内面刷毛目状の整形。	床東部	1/3
36-73 52	土師器 甕	① 14.3 ②10.3 ③ 5.6	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部指面横なで、胴部外面磨削り。内 面刷毛目状の整形。	覆土	ほぼ完形
37-74 52	土師器 甕	①(21.1) ② 8.5	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	胴部外面磨削り。輪積み痕残る。内面 荒れている。	床北東 部	胴下半部

図 番 P L	器 種	遺 存 状 況	石 材	計 測 値 (cm・g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
37-75 53	石製品 紡錘車	完形	蛇紋岩	4.7	4.7	1.2	39	器面に糸線状の整形痕が残る。	床直上
37-76 53	磨 石	完形	花崗岩	15.2	5.8	4.3	480	全面に磨耗痕が認められる。	覆土
37-77 53	敲 石	完形	硬砂石	10.3	8.2	5.6	700	6箇所敲打痕が認められる。	覆土
37-78 53	台 石	完形	花崗岩	20.9	19.3	5.1	3,445		西壁下
38-79 53	台 石	完形	溶岩	24.0	18.0	8.5	4,005	凹み穴が認められる。	北壁寄り

図 番 P L	部 位	①胎土 ②焼成(遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文 様 (そ の 他)	出土状況
38-80 53	胴部片	①中・細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚1cm。内面は 粗い調整。外面の色調は橙色。	縦文L $\left\{ \begin{array}{l} \text{I} \\ \text{I} \end{array} \right.$ 施文後、平截竹管による集合 沈線。前期清磯式	覆土
38-81 53	口縁部片	①細砂、褐色細粒物 を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9mm。内面 は粗い調整。外面の色調はにぶい黄褐色。	平截竹管による集合沈線。耳状・円形貼 付文。前期清磯式	覆土
38-82 53	胴部片	①細砂、褐色細粒物 を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は 粗い調整。外面の色調は橙色。	平截竹管による集合沈線。前期清磯式	覆土
38-83 53	口縁部片	①細砂、白・褐色細 粒物を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9mm。内面 は横方向の磨き。外面の色調は褐色。	隆帯と縦文施文。原体はR $\left\{ \begin{array}{l} \text{L} \\ \text{L} \\ \text{L} \end{array} \right.$ 中期加曾利E式	覆土
38-84 53	胴部片	①中砂、褐・黒色細 粒物を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚1cm。内面は やや丁寧な調整。外面の色調は明黄褐色。	隆帯と沈線を垂下。中期前半	覆土
38-85 53	胴部片	①細砂、褐色細粒物 を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は 縦方向磨き。外面の色調は明褐色。	縦文施文。原体はL $\left\{ \begin{array}{l} \text{L} \\ \text{L} \\ \text{L} \end{array} \right.$ 中期後半	覆土

6号住居跡 (第39~44回 PL.12・53~55)

位置 9F-14・15、9G-14・15グリッドにかけて検出された。5号住居跡の北東約5mの所に位置している。

形状 長辺5.7m、短辺5.5mのほぼ正方形を呈している。

方位 N-69°-E

覆土 灰褐色の砂層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約35~74cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約24.6㎡。

周溝 ほぼ全周している。幅3~10cm、深さ1~6cmである。

竈 床面から竈の痕跡を検出することはできなかった。

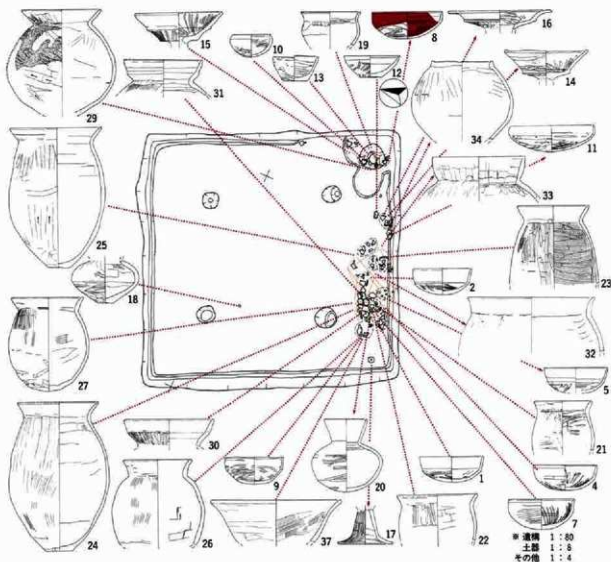
柱穴 4個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1は深さ40cm、P2深さ44cm、P3深さ51cm、P4深さ38cmである。P1・P2は住居内側に傾いている。

貯蔵穴 床面東南隅から検出された。規模は長径60cm、短径50cm、深さ25cmである。

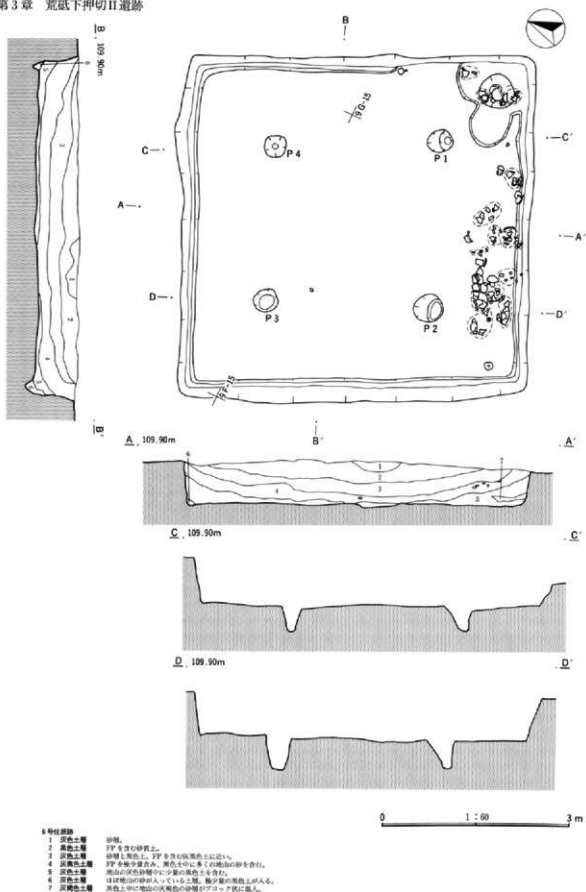
遺物 貯蔵穴周辺と南壁寄り覆土上層から集中して出土している。詳細は第39回の遺物分布を参照のこと。第43回29の壺は貯蔵穴から出土している。

時期 古墳時代後期（6世紀前半）。

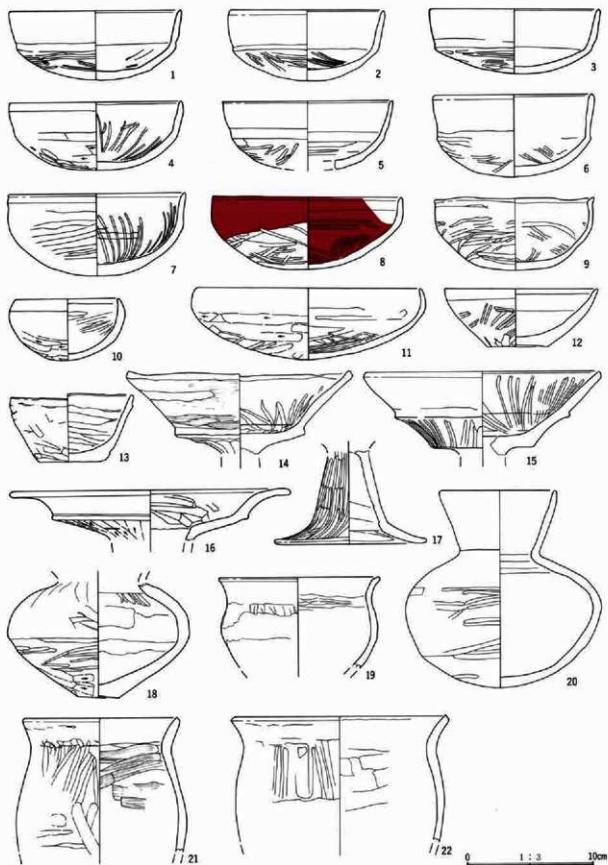
備考 住居跡の残存状況は良好なことから、当住居には竈は構築されていなかったものと判断される。



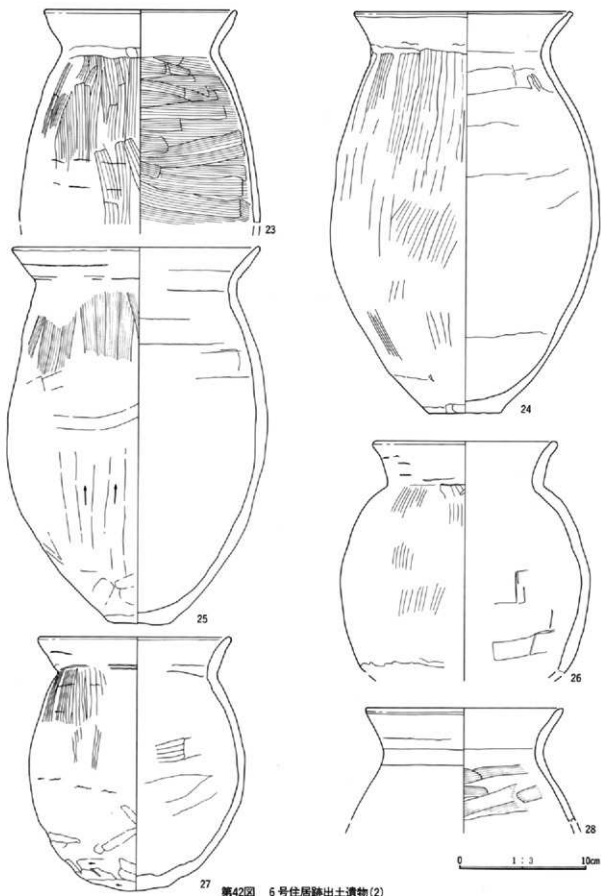
第39回 6号住居跡遺物分布



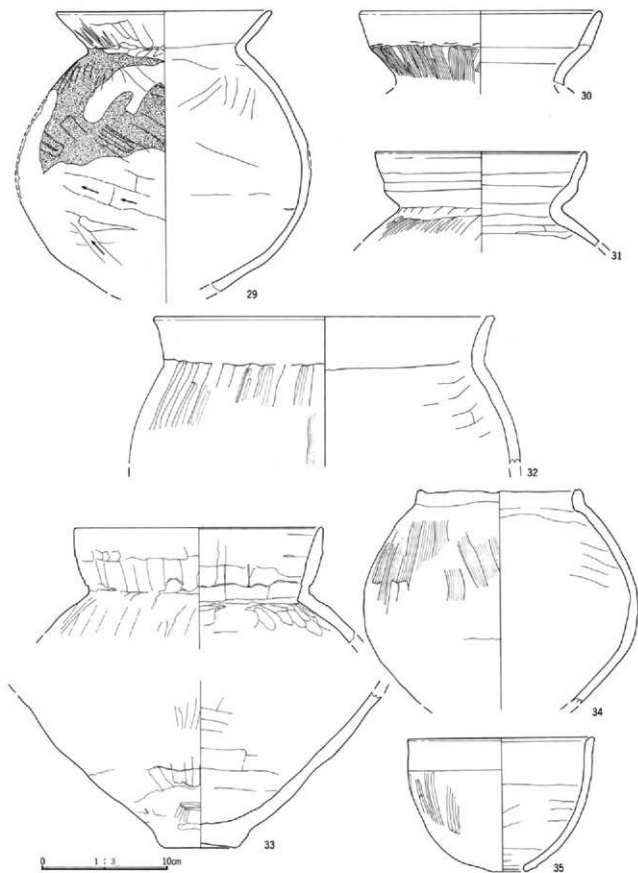
第40図 6号住居跡



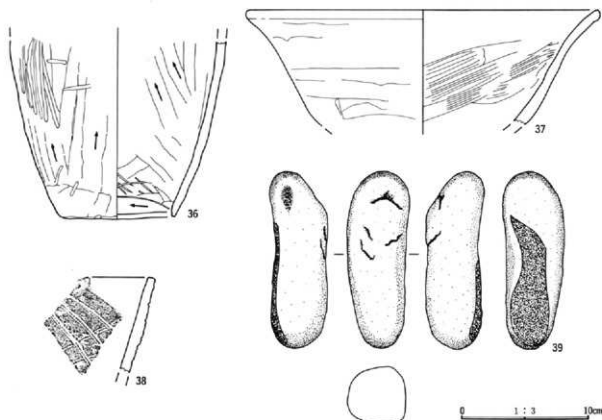
第41图 6号住居跡出土遺物(1)



第42図 6号住居跡出土遺物(2)



第43図 6号住居跡出土遺物(3)



第44図 6号住居跡出土遺物(4)

荒砥下押切II・6号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径	①胎土 ②構成 ③色調			成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
			①胎土	②構成	③色調			
41-1 53	土器器 環	① 13.5 ② 5.4	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面荒なで。	南壁寄り	ほぼ完形
41-2 53	土器器 環	① 12.2 ② 5.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面荒削り。	南壁寄り	3/4
41-3 53	土器器 環	① 13.2 ② 5.1	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り。口縁部内外面横なで。内面荒なで。	覆土	2/5
41-4 53	土器器 環	①(13.4)② 5.3	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	南壁寄り	1/2
41-5 53	土器器 環	①(13.5) ② (5.4)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り。口縁部内外面横なで。内面荒削り。	南壁寄り	1/4
41-6 53	土器器 環	①(12.8) ② (6.4)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③青色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③青色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面荒削り。	覆土	1/3
41-7 53	土器器 環	① 13.9 ② 6.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	南壁寄り	3/4
41-8 53	土器器 環	①(15.0) ② (5.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面荒削り。赤色塗彩。	貯蔵穴 周辺	2/3
41-9 53	土器器 環	① 12.7 ② 5.6	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄褐色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り。口縁部内外面横なで。内面荒削り。	南壁寄り	ほぼ完形
41-10 53	土器器 環	① 8.0 ② 4.9	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面荒削り。	貯蔵穴 周辺	2/3
41-11 53	土器器 環	①(17.8) ② (4.8)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り。口縁部内外面横なで。内面荒なで・磨き。	南壁寄り	3/4
41-12 53	土器器 環	① 12.0 ② 4.5 ③ 4.5	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③外明赤褐 内明黄褐色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③外明赤褐 内明黄褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り。口縁部内外面横なで。内面荒削り。底面荒削り。	南壁寄り	ほぼ完形
41-13 53	土器器 鉢	① 9.6 ② 5.1 ③ 5.3	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒なで。輪横み板張り。内面荒なで。	貯蔵穴	完形

〔1〕 竪穴住居跡

41-14 53	土師器 高 杯	①(18.0) ②(6.2)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙褐色	坯部外面刷毛目状の整形。内面縦方向の磨き。	南壁寄り	坯部2/3
41-15 53	土師器 高 杯	②(18.9)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	坯部外面中に段を有する。縦方向の磨き。口縁部内外面横なで、内面磨き。	貯蔵穴	坯部1/3
41-16 53	土師器 高 杯	①(22.3) ②(4.6)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③外橙褐色 ④内明黄褐色	坯部外面中に段を有する。以下蓋削り。口縁部内外面横なで、内面磨なで。	南壁寄り	坯部
41-17 53	土師器 高 杯	②(7.4) ③(12.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外部面磨き、内面輪轆目直残る。	南西隅	脚部
41-18 53	土師器 埴 壇	②(9.0) ③(3.2)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面下半部削り後、磨き。上半部磨なで、内面磨なで。輪轆目直残る。	P 3 周辺	2/3
41-19 53	土師器 鉢	①(12.9) ②(7.2)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面荒れている。口縁部内外面横なで、内面磨なで。	貯蔵穴	2/3
41-20 54	土師器 埴 壇	①(9.0)②15.5 ③(1.2)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	体部外面削り後、磨き。口縁部内外面横なで、内面磨なで。	南壁寄り	1/2
41-21 54	土師器 埴 壇	①(15.5) ②(10.4)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面削り後、磨き。内面刷毛目状の整形。	南壁寄り	口縁～胴部上半
41-22 54	土師器 埴 壇	①(17.3) ②(9.7)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面削り後、磨き。内面磨なで。	南壁寄り	口縁～胴部上半
42-23 54	土師器 埴 壇	①(14.9) ②(16.8)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面刷毛目状の整形。内面刷毛目状の整形。	南壁寄り	口縁～胴部上半
42-24 54	土師器 埴 壇	①(17.0)②5.8 ③(31.9)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面削り後、磨き。内面磨なで。	南壁寄り	ほぼ完成形
42-25 54	土師器 埴 壇	①(19.2)②29.8 ③(5.0)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面下半部削り。上半部刷毛目状の整形。内面荒れている。	南壁寄り	3/4
42-26 54	土師器 埴 壇	①(14.2) ②(18.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面削り後、磨き。内面磨なで。	南壁寄り	1/2
42-27 54	土師器 埴 壇	①(14.9) ②(19.9)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい橙褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面上半部磨き。下半部削り。内面磨なで、底面削り。	南壁寄り	3/5
42-28 54	土師器 埴 壇	①(15.5) ②(9.0)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面削り後、磨き。内面刷毛目状の整形。	覆土	口縁～胴部上半
43-29 54	土師器 埴 壇	①(17.0) ②(22.2)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙褐色	口縁部外面縦方向の磨き。胴部外面削り後、磨き。内面磨なで。	貯蔵穴	3/4
43-30 54	土師器 埴 壇	①(18.8) ②(5.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部中に段を有する。上半部磨なで下半部刷毛目状の整形。内面荒れている。	南壁寄り	口縁部片
43-31 54	土師器 埴 壇	①(16.4) ②(7.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部中に段を有する。胴部外面磨き。内面磨なで。	南壁寄り	口縁～胴部上半
43-32 54	土師器 埴 壇	①(27.2) ②(11.3)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面削り後、磨き。内面磨なで。	南壁寄り	口縁～胴部上半
43-33 55	土師器 埴 壇	①(19.5) ②(21.2)③5.9	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい赤褐色	口縁部内外面上半部磨なで、下半部磨なで、胴部外面磨なで後、磨き。内面指頭圧痕。	南壁寄り	胴部下半部
43-34 54	土師器 埴 壇	①(12.7) ②(16.6)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	胴部外面刷毛目状の整形。内面磨なで。	南壁寄り	口縁～胴部
43-35 55	土師器 瓶	①(14.5)②10.5 ③(2.6)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい橙褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面削り後、磨き。内面磨なで。	覆土	3/4
44-36 55	土師器 瓶	①(14.3) ③(9.0)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	胴部外面削り。内面削り。	覆土	胴部下半部
44-37 55	土師器 鉢	①(28.0) ②(8.9)	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	口縁部内外面横なで、体部外面磨なで。	南壁寄り	口縁～体部

図番 P	部位	①胎土 ②焼成(遺存状況)	成形・器型調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
44-38 55	口縁部片	①中砂、白・褐色細粒物を含む ②貝	深鉢形土器の口縁部片。器厚 6～9mm。内面は横方向の丁寧な調整。外面の色調は橙褐色。	半杖竹管による沈線文。	覆土

図番 L	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm・g)			特徴	出土状況	
				全長	幅	厚			
44-39 55	磨石	宛形	安山岩	13.8	4.1	4.4	420	磨化。傷が付着している。	覆土

第3章 荒砥下押切II遺跡

7号住居跡 (第45~47図 PL.7・55)

位置 9G-12・13、9H-12・13グリッドにかけて検出された。6号住居跡の北北東約4mの所に位置している。

形状 長辺5.7m、短辺4.2mの長方形を呈している。

方位 N-11°-W

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20~40cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。床面2箇所に高さ5cm程のロームの高まりが認められた。面積は約19.5㎡。

周溝 全周している。幅3~11cm、深さ1~11cmである東壁・北壁下が深い。

竈 北壁東寄りに構築されている。壁を掘り込んでいない。長さ約120cm、幅約130cm、焚き口幅約20cmである。

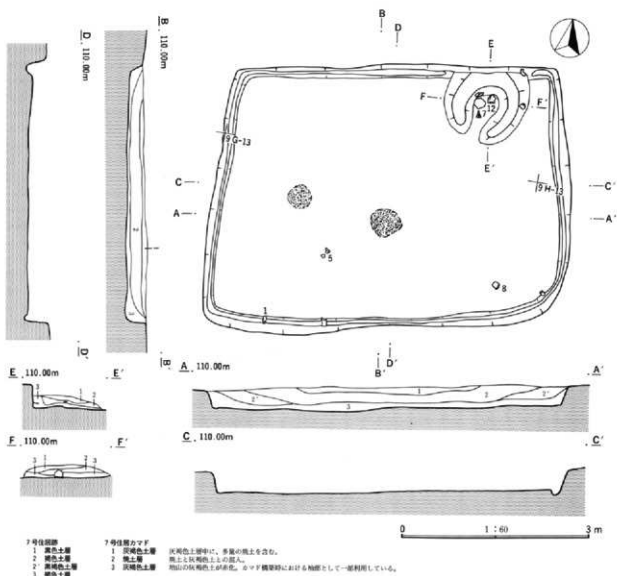
柱穴 床面から柱穴は検出できなかった。

貯蔵穴 床面から貯蔵穴は検出できなかった。

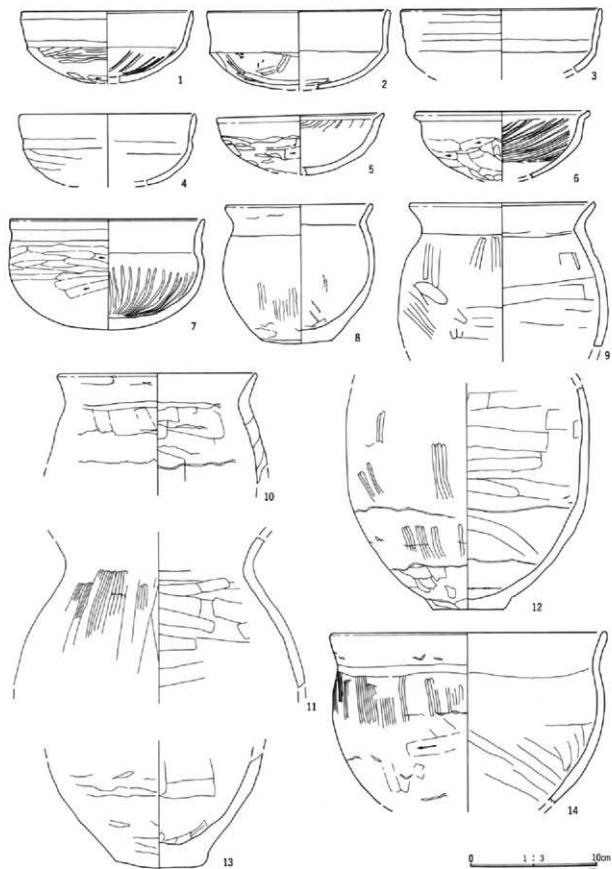
遺物 覆土からの遺物の出土は少なかった。竈内から第46図7の坏と12の甕が出土している。

時期 古墳時代後期（6世紀前半）。

備考 2・3・7号住居の竈は壁に作りつけている。

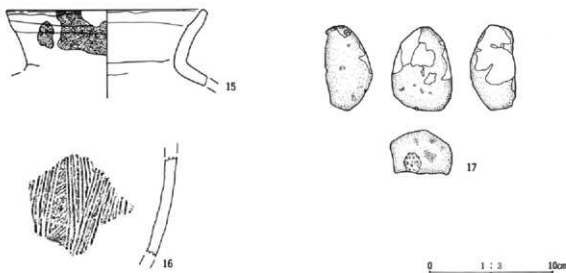


第45図 7号住居跡



第46图 7号住居跡出土遺物(1)

第3章 荒砥下押切II遺跡



第47図 7号住居跡出土遺物(2)

荒砥下押切II・7号住居跡

図番 P L	土器種別	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
46-1 55	土器 器 環	①(13.3) ②5.4	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	両壁寄り	1/4
46-2 55	土器 器 環	①(14.2) ②6.2	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面磨き。	覆土	1/3
46-3 55	土器 器 環	①(15.6) ②(5.0)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面荒削り。	覆土	口縁~体部片
46-4 55	土器 器 環	①(13.8) ②(5.7)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面磨き。	覆土	口縁~体部片
46-5 55	土器 器 環	①13.4 ②4.7	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面磨き。	床南西部	3/4
46-6 55	土器 器 環	①(13.8) ②(5.3)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面荒削り。内面放射状の磨き。	覆土	1/3
46-7 55	土器 器 環	①15.2 ②8.8 ③3.4	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面荒削り後、磨き。口縁部内外面横などで。内面放射状の磨き。	カマド	ほぼ完形
46-8 55	土器 器 小型壺	①11.4 ②11.0 ③5.8	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面磨き。内面磨き。	床南東部	2/3
46-9 55	土器 器 壺	①(14.5) ②(11.4)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面磨き。内面磨き。	覆土	1/4
46-10 55	土器 器 壺	②(8.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③灰白色	口縁部内外面横などで。胴部外面磨き。内面磨き。輪横み痕残り。	覆土	口縁~胴部片
46-11 55	土器 器 壺	②(11.2)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面刷毛目状の整形。内面磨き。	覆土	口縁~胴部片
46-12 55	土器 器 壺	②(17.7) ③5.5	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面荒削り。内面磨き。輪横み痕残り。底面荒削り。	カマド	胴下部
46-13 55	土器 器 壺	②(8.7) ③7.0	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③淡黄色	胴部外面磨き。輪横み痕残り。内面磨き。	覆土	底部
46-14 55	土器 器 壺	①(21.5) ②(13.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面荒削り後、磨き。内面磨き。	覆土	口縁~胴部
47-15 55	土器 器 壺	①16.0 ②(6.0)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面横などで。	覆土	口縁部片

図番 P L	部位	①胎土 ②焼成(遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
47-16 55	胴部片	①中砂、白・褐色細粒物を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は粗い調整。外面の色調は橙色。	縄文L { F 地文後、半截竹管による集 合沈殿。 前期踏礎式	覆土

図番 P L	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm・g) 全長 幅 厚 重量	特徴	出土状況
47-17 55	敲石	一部欠損	粗粒輝石安山岩	6.5 4.2 3.5 196	敲打痕・赤色付着物が認められる。	覆土

(1) 竪穴住居跡

8号住居跡 (第48～62回 PL.14～16・56～61)

位置 9C-10、9D-10～12、9E-9～11、9F-11グリッドにかけて検出された。3号住居跡の北東約4mの所に位置している。

形状 長辺10m、短辺9.8mのほぼ正方形を呈している。

方位 N-88°-E

覆土 砂層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は10層に分かれた。9層は炭化物層である。

壁高 住居跡確認面より約38～75cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

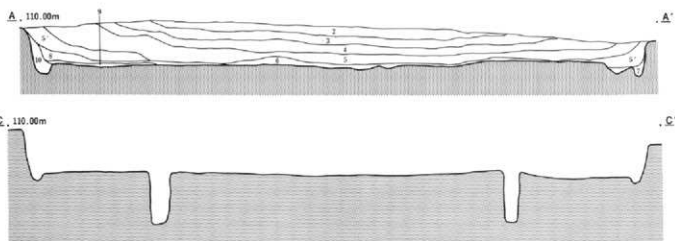
床面 ほぼ平坦であるが、貯蔵穴周辺に床面の高まりが認められた。面積は約88.6㎡。

周溝 全周している。幅3～20cm、深さ8～18cmを測る。東壁の周溝は幅広であるが比較的浅く、北・南・西壁下の周溝は幅狭く、深い。

竈 東壁の南寄りに、壁を一部掘り込み構築されている。長さ約220cm、幅約150cm、焚き口幅約40cmである。

柱穴 6個のピットが検出された。P1～P6が主柱穴になる。P1は深さ86cm、P2深さ80cm、P3深さ91cm、P4深さ104cm、P5深さ81cm、P6深さ84cmである。いずれの柱穴も、P1のように長径23cm、短径20cmと規模は小さいものの、深い。

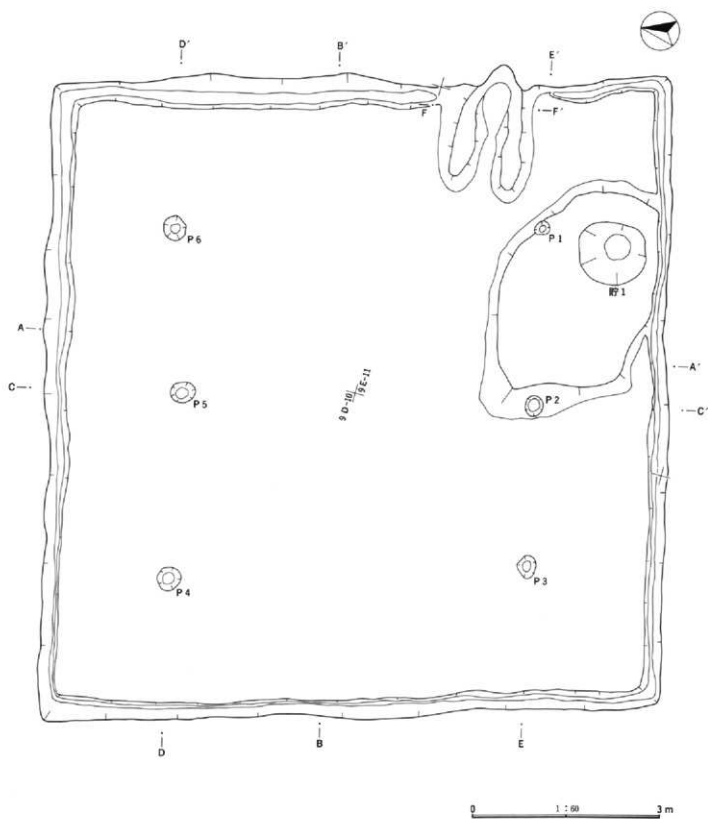
貯蔵穴 南壁寄りから検出された。長径110cm、短径100cm、深さ75cmである。貯蔵穴の周辺は長径420cm、短径260cmの楕円形状の床面の高まりがある。高さは2cm～14cmである。



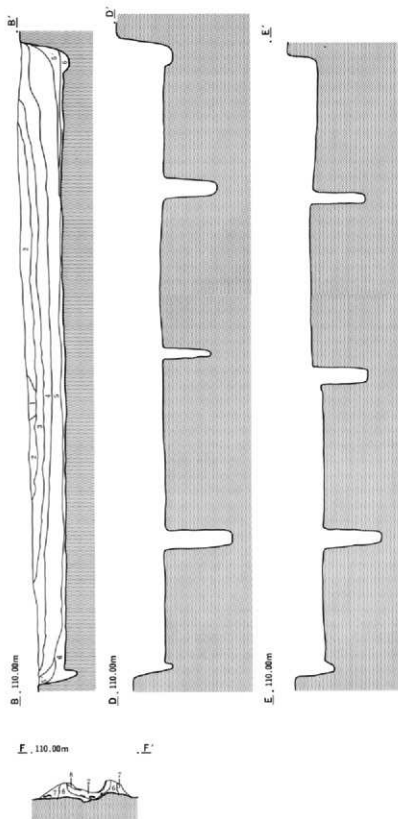
- 8号住居跡
- | | |
|----------|---------------------------|
| 1 灰褐色砂層 | 砂層。 |
| 2 灰褐色土層 | 褐色土中に、少量の灰色砂が混入。 |
| 3 灰色土層 | 灰色砂層中に、少量の褐色土が混入。IPを多少含む。 |
| 4 褐色土層 | 灰色砂層中に、褐色土を含む。IPを多少含む。 |
| 5 灰色土層 | 上層より少量の褐色土を含む。 |
| 6 灰色土層 | 灰色砂層中に、少量の褐色土と炭化物を含む。 |
| 7 灰褐色土層 | 褐色土と灰色砂及び灰のブロックを含む。 |
| 8 灰色砂層 | 褐色土の軽微の混れ込み。 |
| 9 炭化物層 | |
| 10 灰褐色土層 | 褐色土の砂中に、褐色土が少量含む。 |

0 1:60 3 m

第48図 8号住居跡(1)

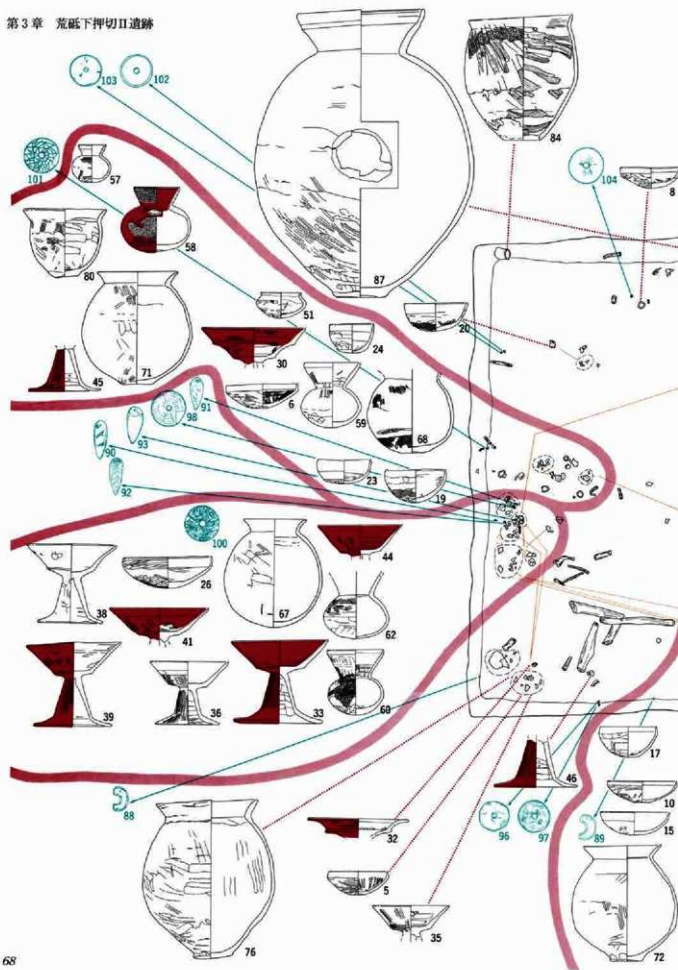


第49図 8号住居跡(2)

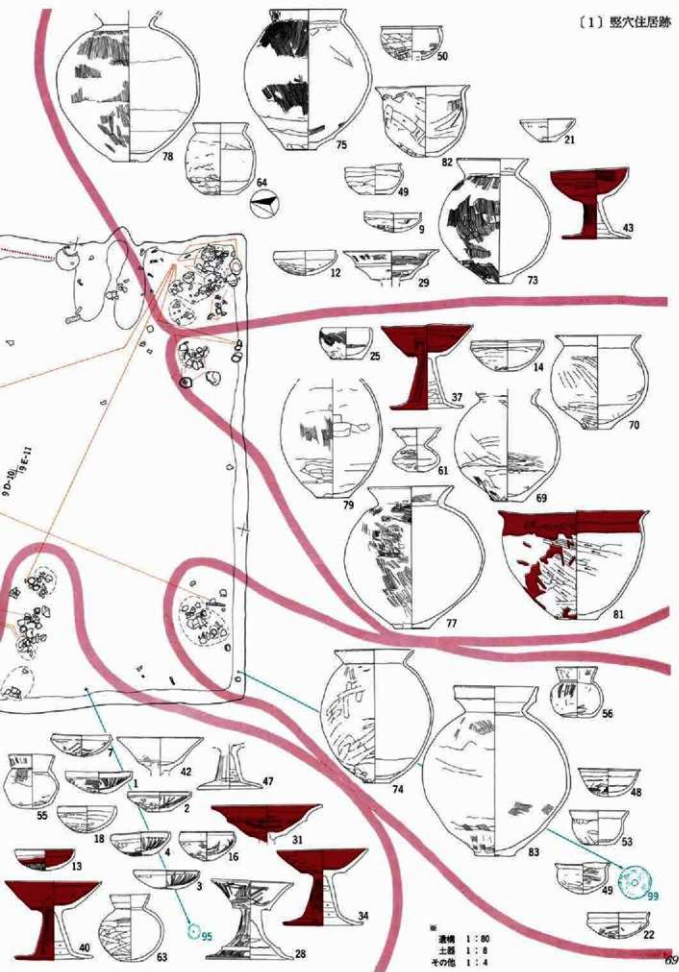


- 8号住居カマド
- 1 赤褐色土層 カマド構築材のロームが崩により崩れ、強く火を受けているため、ブロック状の暗い焼土層となっている。
 - 2 焼土層 灰、少量の焼土、ローム粒子、黒色土の混入土。
 - 3 黒褐色土層 1層より下にあり、セキトコ構築材の一部が崩れ落ちたものと思われる。
 - 4 赤褐色土層 地中のローム層中に少量の焼土粒子を含む。少し熱を受けていると思われる。カマド構築材の一部か？
 - 5 褐色ローム層 5層とほとんど同じ層。カマド構築材の外側になると思われる。炭層火を受けていないため、焼土粒子をほとんど含まない。
 - 6 褐色ローム層 この層は、カマド中で最も強く熱を受けているため、細の外側までロームが少し焼土化しており、少量の焼土粒子を含むようになった部分である。
 - 7 黄褐色土層 ブロック状の焼土、ローム粒子、黒色土の混入土層。この土層は土層の崩壊を多く含む。この部分はカマドの外側になる部分と考えられる。住居の層との一部とあまり区別が認められない。
 - 8 黒色土層 灰の粒子を多量に含む。ブロック状の焼土を混入している。

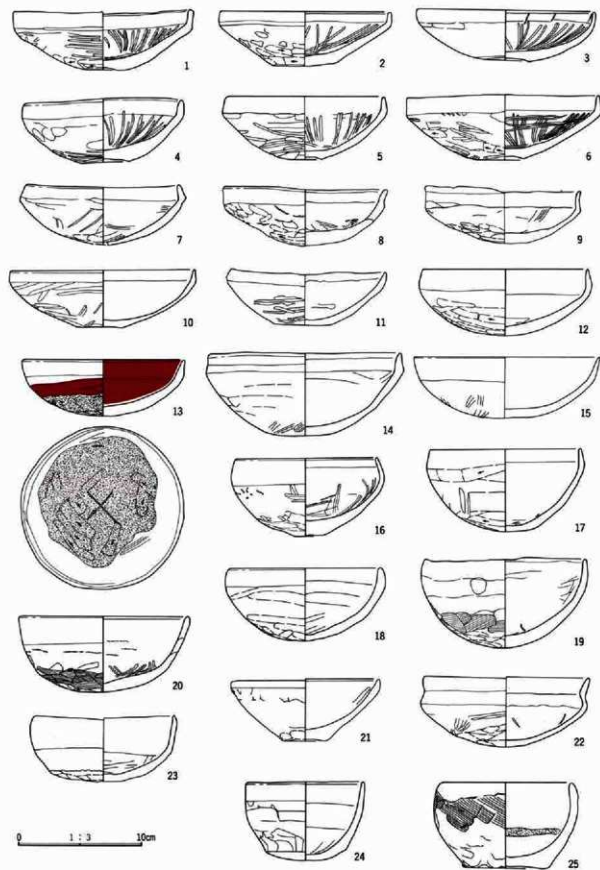
第50図 8号住居跡(3)



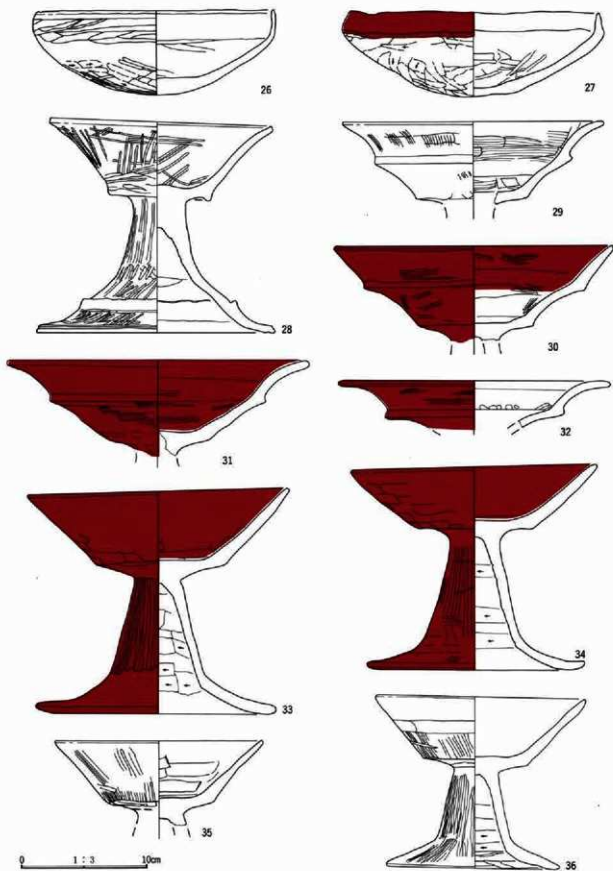
第51圖 8号住居跡遺物分布



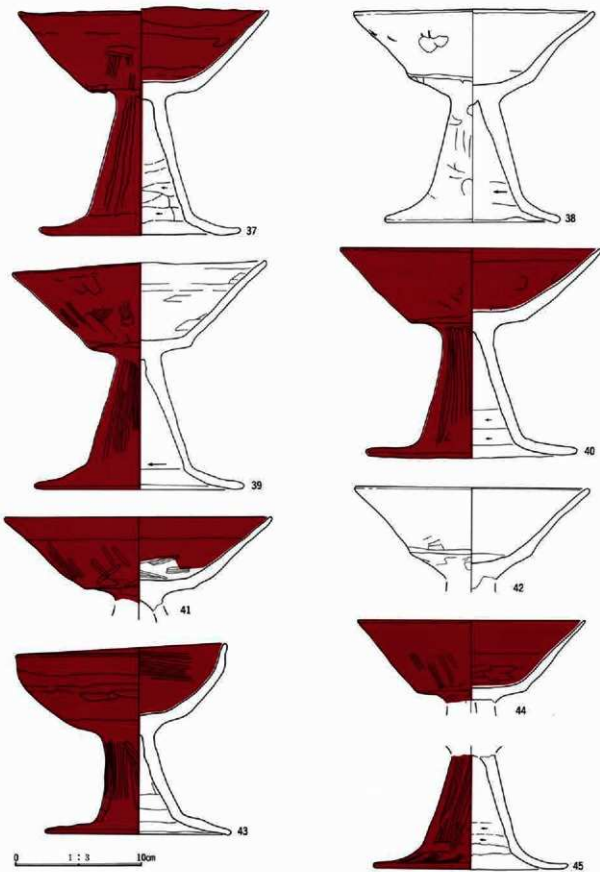
第3章 荒砥下押切口遺跡



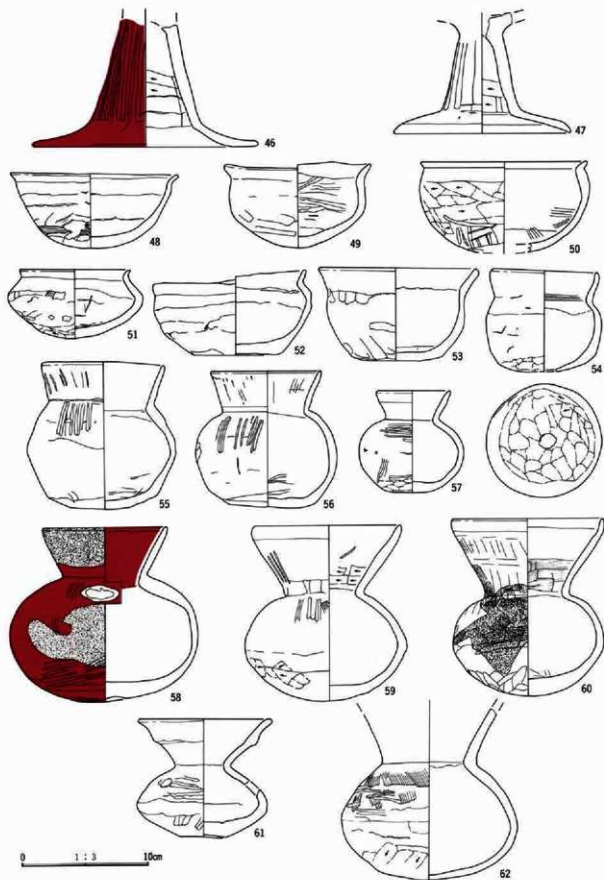
第52図 8号住居跡出土遺物(1)



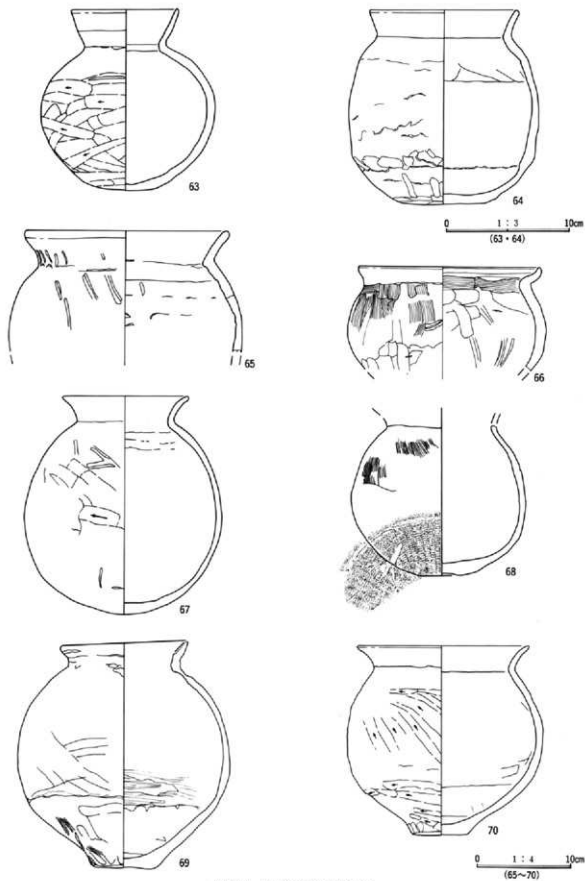
第53図 8号住居跡出土遺物(2)



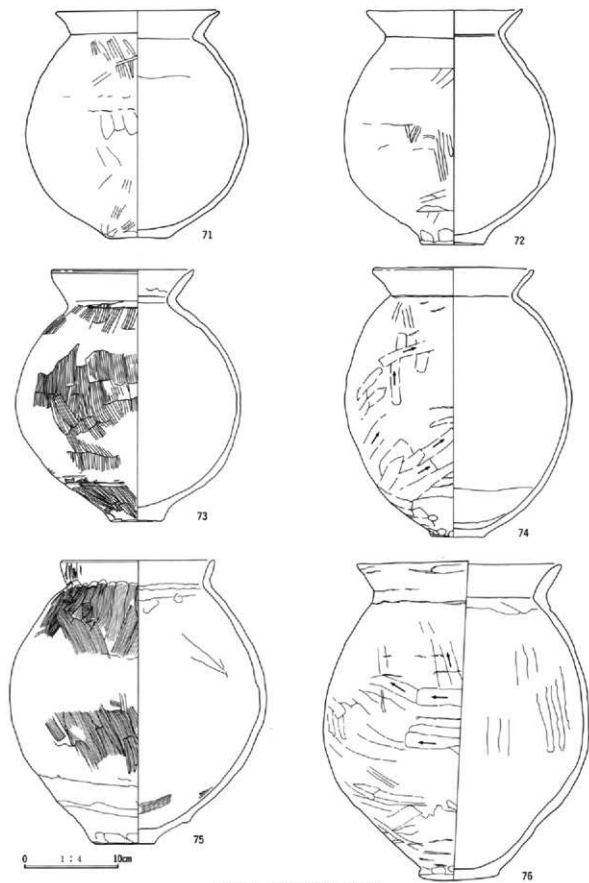
第54図 8号住居跡出土遺物(3)



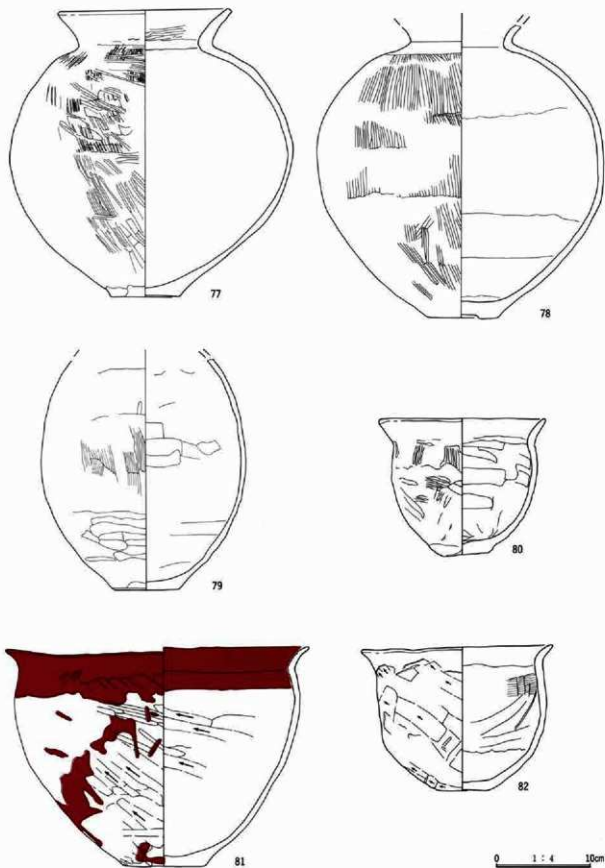
第55図 8号住居跡出土遺物(4)



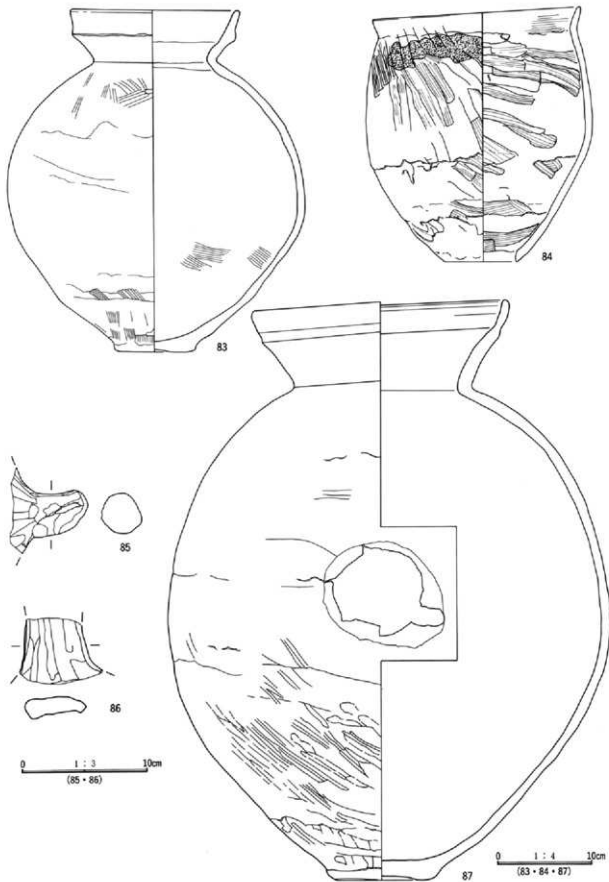
第56図 8号住居跡出土遺物(5)



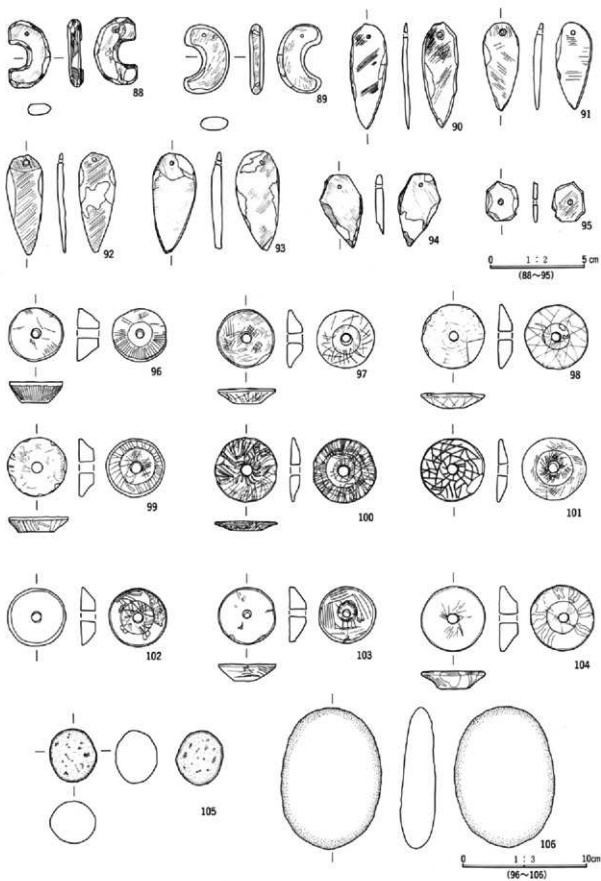
第57図 8号住居跡出土遺物(6)



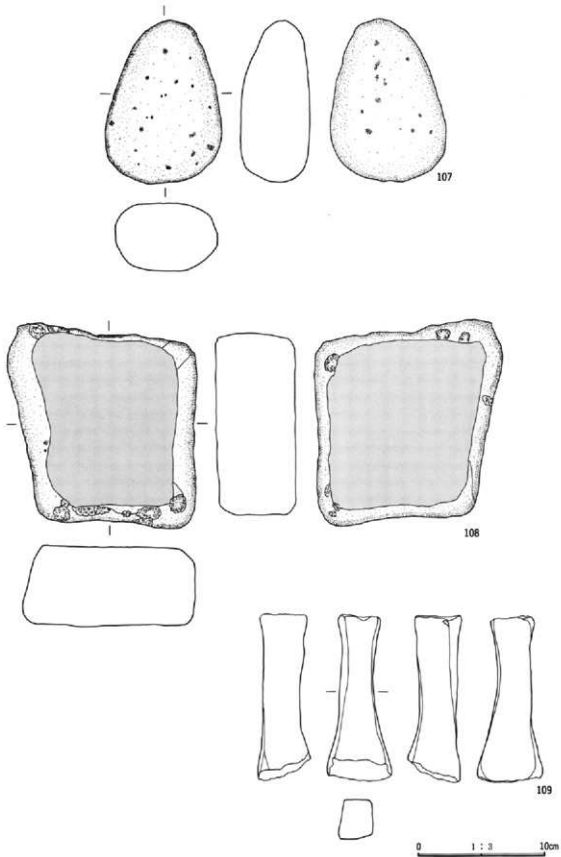
第58図 8号住居跡出土遺物(7)



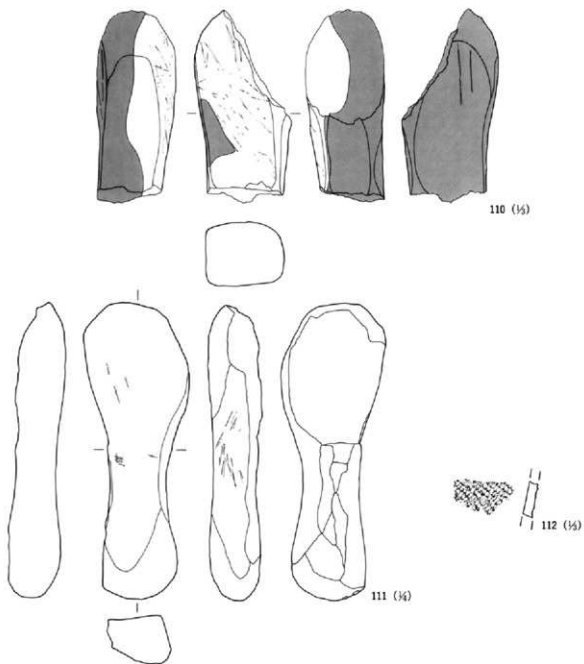
第59図 8号住居跡出土遺物(8)



第60図 8号住居跡出土遺物(9)



第61図 8号住居跡出土遺物(10)



第62図 8号住居跡出土遺物(11)

遺物 床面直上より多量の遺物が出土している。とりわけ東南（右）側、貯蔵穴、床西部・北部・南西部に集中している(第51図)。とりわけ床西部からは環や高環が、北部からは高環がまとめて出土し、石製模造品は北壁寄りからの出土である。また、床

北西部を中心に炭化材が検出された。

時期 古墳時代中期（5世紀後半）。

備考 当住居跡からは多量の土器とともに、勾玉2点、石製模造品6点、紡錘車9点が出土している。

瓦葺下押切Ⅱ・8号住居跡

図番 P	土器種別 器	法量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
52-1 56	土器器 杯	① 14.3 ② 4.8 ③ 3.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面放射状の磨き。	床西部	ほぼ完形
52-2 56	土器器 杯	① 13.3 ② 4.2 ③ 4.8	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面下半磨削り、上半で、口縁部内外面横などで、内面放射状の磨き。	床西部	ほぼ完形
52-3 56	土器器 杯	① 14.0 ② 3.9 ③ 3.4	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面放射状の磨き。	床西部	ほぼ完形
52-4 56	土器器 杯	① 12.8 ② 5.0 ③ 4.1	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横などで、内面放射状の磨き。	床西部	ほぼ完形
52-5 56	土器器 杯	①(12.4) ② 4.9	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横などで、内面放射状の磨削り。	北西隅	1/3
52-6 56	土器器 杯	① 15.1 ② 4.9 ③ 4.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	床北部	ほぼ完形
52-7 56	土器器 杯	① 12.3 ② 4.9	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。磨き、漆の痕跡？	床西部	ほぼ完形
52-8 56	土器器 杯	① 12.8 ② 4.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③ぶい黄褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	床東部	完形
52-9 56	土器器 杯	① 12.2 ② 4.6	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③ぶい褐色	体部外面磨削り、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	貯蔵穴 周辺	ほぼ完形
52-10 56	土器器 杯	① 14.5 ② 4.3 ③ 3.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	床西部	完形
52-11 56	土器器 杯	① 12.3 ② 4.4 ③ 4.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	覆土	3/4
52-12 56	土器器 杯	① 13.0 ② 5.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	貯蔵穴 周辺	ほぼ完形
52-13 56	土器器 杯	① 12.6 ② 4.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。底面に黄褐色。	床西部	完形
52-14 56	土器器 杯	① 15.0 ② 6.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	南壁下	4/5
52-15 56	土器器 杯	① 14.7 ② 4.8	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	床西部	4/5
52-16 56	土器器 杯	① 11.0 ② 6.2 ③ 2.0	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③ぶい褐色	体部外面下半磨削り。上半磨削り。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	床西部	完形
52-17 56	土器器 杯	① 11.8 ② 6.5	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	床西部	4/5
52-18 56	土器器 杯	① 12.0 ② 5.7	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	床西部	ほぼ完形
52-19 56	土器器 杯	① 12.7 ② 7.1	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤色	体部外面磨削り。刷毛目状整形。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	床北部	完形
52-20 56	土器器 杯	①(13.2) ② 6.9	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り。刷毛目状整形。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	P 6 周 辺	1/3
52-21 56	土器器 杯	① 11.6 ② 4.9 ③ 3.2	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横などで、内面磨削り後、縦方向の磨き。	南東隅	ほぼ完形
52-22 56	土器器 杯	① 13.0 ② 5.5	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	南西隅	完形
52-23 56	土器器 杯	① 11.0 ② 5.2	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③ぶい黄褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横などで、内面磨削り。	P 5 周 辺	4/5
52-24 56	土器器 杯	① 9.1 ② 6.2 ③ 6.3	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横などで、内面磨削り後、寛端部残る。	P 5 周 辺	完形
52-25 56	土器器 鉢	①(10.3) ② 6.7 ③ (6.8)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	体部外面磨削り。刷毛目状の整形。内面磨削り。底面横などで、平底。	貯蔵穴	ほぼ完形
53-26 56	土器器 杯	① 18.6 ② 6.6 ③ 2.3	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面磨削り。口縁部磨削り後、磨き。内面磨削り。	北壁等 り	ほぼ完形
53-27 56	土器器 杯	① 19.8 ② 6.8	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り。口縁部赤色塗彩。内面磨削り後、磨き。赤色塗彩の痕跡。	覆土	4/5
53-28 56	土器器 高杯	① 17.5 ② 16.6 ③ 19.2	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	杯部内外面磨削り。脚部外面磨削り。基部に段を有する。内面輪痕み残る。	床西部	完形
53-29 56	土器器 高杯	① 20.4 ② (6.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③外褐色 内赤褐色	杯部外面磨削り。磨き。中に段を有する。口縁部内外面横などで、内面刷毛目状の整形。	南東隅 杯部	

第3章 荒砥下押切口遺跡

53-30 56	土師器 高 坏	① 22.1 ② (7.4)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③淡黄褐色	坏部外面磨き、中に段を有する。 口縁部内外面横なで、内面磨き。赤色塗彩。	P 5 周 辺	坏部4/5
53-31 56	土師器 高 坏	①(23.9) ② (7.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化層 ③明赤褐色	坏部外面下半磨き。中に段。口縁部内外面横なで、内面磨き。赤色塗彩。		坏部1/3
53-32 56	土師器 高 坏	① 21.4 ② (3.6)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化層 ③明赤褐色	坏部外面磨き、段を有す。口縁部内面横なで、内面磨き。赤色塗彩。		坏部
53-33 56	土師器 高 坏	① 20.3 ②17.5 ③ 19.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③外褐色 内におい橙色	坏部内外面磨なで。脚部外面磨き。断面なで、内面磨り。内外面赤色塗彩。		ほぼ完形
53-34 56	土師器 高 坏	① 19.3 ②16.0 ③ 17.2	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③褐色	坏部外面磨なで、口縁部内外面横なで、内面磨なで。脚部外面磨き。内面磨り。		ほぼ完形
53-35 57	土師器 高 坏	① 16.2 ② (6.6)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化層 ③におい黄褐色	坏部外面磨き。口縁部内外面横なで、内面磨なで。	北西隅	坏部3/4
53-36 56	土師器 高 坏	① 16.6 ②13.6 ③ 13.6	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③におい黄褐色	坏部外面磨き。口縁部内外面横なで、内面磨なで。脚部外面磨り目状の整形。	北壁寄り	ほぼ完形
54-37 57	土師器 高 坏	① 19.8 ②18.0 ③ 15.9	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化層 ③黄褐色	坏部外面磨なで。口縁部内外面横なで、内面磨なで。脚部外面磨き。内面磨り。赤色塗彩。	貯蔵穴	ほぼ完形
54-38 57	土師器 高 坏	① 18.8 ②16.8 ③ 13.5	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③褐色	坏部外面磨なで。口縁部内外面横なで、内面磨なで。脚部外面磨なで、内面磨り。	北壁寄り	ほぼ完形
54-39 57	土師器 高 坏	① 20.0 ②17.8 ③ 16.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化層 ③明褐色	坏部外面磨なで、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。脚部外面磨き。内面磨り。赤色塗彩。	北壁寄り	2/3
54-40 57	土師器 高 坏	① 20.6 ②16.6 ③ (16.6)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③褐色	坏部内外面磨なで。脚部磨き。内面磨り。赤色塗彩。	坏部一部欠損	
54-41 57	土師器 高 坏	①(21.0) ② (6.7)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③外赤褐色 内黄褐色	坏部外面磨き。口縁部内外面横なで、内面磨き。赤色塗彩。	北壁寄り	坏部1/3
54-42 57	土師器 高 坏	①(18.3) ② (8.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③褐色	坏部外面磨なで。口縁部内外面横なで、内面磨なで。	坏部1/2	
54-43 57	土師器 高 坏	① 16.3 ②14.7 ③ 14.4	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③赤褐色	坏部外面磨なで。口縁部外面横なで、内面磨き。脚部外面磨き。内面輪積み痕。赤色塗彩。	東南隅	4/5
54-44 57	土師器 高 坏	①(17.8) ② (6.5)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③明赤褐色	坏部外面下半磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。赤色塗彩。	北壁寄り	坏部1/2
54-45 57	土師器 高 坏	② (9.9) ③ 15.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③外明赤褐色 内黒色	脚部外面磨き。内面磨り。断面み残れる。赤色塗彩。	北壁寄り	脚部のみ
55-46 57	土師器 高 坏	② (9.5) ③ (17.5)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③明赤褐色	脚部外面磨き。内面磨り。輪積み痕残る。赤色塗彩。	坏部2/3	
55-47 57	土師器 高 坏	② (9.5) ③ 13.8	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化層 ③明赤褐色	脚部外面磨き。断面磨なで、内面磨り。	坏部2/3	
55-48 57	土師器 坏	① 13.3 ② 6.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化層 ③明黄褐色	坏部外面磨り後、前も目状整形。口縁部内外面横なで、内面磨なで。輪積み痕残る。	南西隅	2/3
55-49 57	土師器 坏	① 11.6 ② 6.7	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化層 ③褐色	坏部外面磨なで。口縁部内外面横なで、内面磨なで。	南西隅	ほぼ完形
55-50 57	土師器 鉢	①(13.0) ② (7.1)	①中・細砂 白・白色細粒物を含む ②酸化層 ③におい黄褐色	坏部外面磨り。口縁部内外面横なで、内面磨き。輪積み痕残る。	東南隅	2/3
55-51 57	土師器 鉢	① 8.6 ② 5.4	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化層 ③におい橙色	坏部外面磨り後、なで。口縁部内外面横なで、内面磨なで。	P 5 周 辺	ほぼ完形
55-52 57	土師器 鉢	① 11.9 ② 6.2 ③ 6.7	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③におい橙色	坏部外面磨なで。口縁部内外面横なで、内面磨なで。平底。	東南隅	2/3
55-53 57	土師器 鉢	① 12.2 ② 7.4 ③ 7.2	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化層 ③におい黄褐色	坏部外面磨なで。口縁部内外面横なで、内面磨なで。底面磨り。	南西隅	ほぼ完形
55-54 57	土師器 鉢	① 8.2 ② 8.0 ③ 3.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化層 ③外明赤褐色 内黒色	脚部外面磨なで。口縁部内外面横なで、内面磨なで。底面磨り。他成後穿孔。	覆土	ほぼ完形
55-55 57	土師器 埴	① 9.6 ②11.7 ③ 4.8	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化層 ③におい黄褐色	脚部外面磨なで、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。底面磨り。	坏部2/3	4/5
55-56 57	土師器 埴	① 8.5 ②10.7 ③ 6.0	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化層 ③黄褐色	脚部外面磨り後、磨き。口縁部内面磨なで。内面磨なで。底面磨り。	南西隅	完形
55-57 57	土師器 埴	① (5.6) ② 8.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③淡黄褐色	脚部外面磨き。口縁部内外面横なで、内面磨なで。底面磨り。	北壁下	ほぼ完形
55-58 57	土師器 埴	① 9.6 ②13.7	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化層 ③褐色	脚部外面磨き。口縁部内外面横なで、内面磨なで。赤色塗彩。	北壁寄り	ほぼ完形

55-59 57	土師器 埴	①(11.6) ②(14.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	胴部外面磨削り後、縦方向の磨き。口縁部内外面横なで。内面なで。	P 5 周 辺	ほぼ完形
55-60 57	土師器 埴	①(11.7) ②(14.0)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外面磨なで。口縁部内外面刷毛目状の整形、横なで。内面磨なで。	床北西部	ほぼ完形
55-61 57	土師器 埴	① 10.5 ② 9.3 ③ 3.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	口縁部・胴部外面磨削り。内面なで。	床南部	2/3
55-62 58	土師器 埴	②(13.5)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄褐色	胴部下外面磨削り。上半刷毛目状の整形。口縁部磨なで。内面磨なで。	北壁寄り	口縁部欠損
56-63 58	土師器 小型壺	① 8.4 ②14.2 ③ 3.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	胴部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。底面磨削り。	床西部	完形
56-64 58	土師器 壺	① 11.4 ② 5.3 ③ 6.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	胴部外面磨なで。輪積み痕。口縁部内外面横なで。内面磨なで。	東南隅	4/5
56-65 58	土師器 壺	①(15.8) ②(9.4)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい黄褐色	胴部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面磨なで。輪積み痕。	覆土	口縁部胴部上半
56-66 58	土師器 小型壺	① 14.1 ②(8.1)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄褐色	胴部外面磨なで。刷毛目状の整形。口縁部内外面横なで。内面磨なで。	カマド 右袖	1/2
56-67 58	土師器 壺	① 13.4 ②23.2	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄褐色	胴部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面磨なで。輪積み痕。	北壁寄り	1/2
56-68 58	土師器 壺	②(15.9) ③ 4.2	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明黄褐色	胴部外面上半刷毛目状の整形。下半磨削り。内面磨なで。	P 5 周 辺	口縁部欠損
56-69 58	土師器 壺	②(23.8) ③ 7.0	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明黄褐色	胴部外面上半磨なで。下半磨削り後、磨き。内面磨なで。底面磨削り。	貯蔵穴	4/5
56-70 58	土師器 壺	①(18.0)②19.9 ③ 5.8	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外面磨削り、なで。口縁部内外面横なで。内面磨なで。	貯蔵穴	ほぼ完形
57-71 59	土師器 壺	②(24.0) ③ 6.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	北壁寄り	1/3
57-72 59	土師器 壺	① 16.0 ②24.7 ③ 7.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	西壁寄り	4/5
57-73 59	土師器 壺	①(15.0)②26.4 ③ 5.6	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外面刷毛目状の整形。口縁部内外面横なで。内面なで。	東南隅	2/3
57-74 59	土師器 壺	①(16.8)②28.4 ③ 5.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	胴部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面磨なで。	南西隅	2/3
57-75 58	土師器 壺	① 16.0 ②29.8 ③ 6.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい黄褐色	胴部上半刷毛目状の整形、下半磨なで。輪積み痕。口縁部横なで。内面磨なで。	東南隅	ほぼ完形
57-76 58	土師器 壺	① 21.4 ②33.6 ③ 8.3	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③外褐色 内黒褐色	胴部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。輪積み痕。内面上半縦方向の磨き。	北西隅	ほぼ完形
58-77 59	土師器 壺	①(18.4)②30.2 ③ 7.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③橙色	口縁部内外面横なで。胴部外面上半刷毛目状整形後、磨き、下半磨削り。内面磨なで。	貯蔵穴	4/5
58-78 59	土師器 壺	①(11.8)②30.8 ③ 7.6	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	胴部外面上半刷毛目状の整形、下半磨削り。内面磨なで。底面中央凹み。	東南隅	口縁部欠損
58-79 59	土師器 壺	②(24.4) ③ 6.8	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄褐色	胴部外面刷毛目状の整形、磨なで。内面磨なで。	貯蔵穴	胴部底面
58-80 59	土師器 壺	① 17.9 ②14.6 ③ 4.7	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③浅黄褐色	胴部外面磨削り後、なで、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。	北壁寄り	完形
58-81 60	土師器 壺	①(32.0)②23.0 ③ 8.6	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③外褐色 内明赤褐色	胴部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨削り後、なで。赤色磨削り。	貯蔵穴	3/4
58-82 59	土師器 壺	①(20.0) ②(15.2)③ 5.2	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい黄褐色	胴部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面刷毛目状の整形。なで。	カマド 周辺	2/3
59-83 60	土師器 壺	①(17.6)②36.0 ③ 8.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい黄色	口縁部中位に段を有する。内外面横なで。胴部外面磨削り、下半・内面刷毛目状整形。	南西隅	ほぼ完形
59-84 60	土師器 壺	① 22.1 ②26.9 ③ 7.5	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明黄褐色	口縁部外面横なで。胴部外面上半刷毛目状の整形、下半磨なで。内面刷毛目状整形。	北東隅	ほぼ完形
59-85 60	土師器 瓶(把手)		①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	外面磨・指なで。内面磨なで。	覆土	破片
59-86 60	土師器 瓶(把手)		①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	外面磨なで。内面指なで。	覆土	破片
59-87 60	土師器 壺	① 26.6 ②60.6 ③ 9.4	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③ぶい黄褐色	胴部外面磨なで、磨き。胴中位に焼成後の穿孔。口縁部に段を有する。	カマド 脇	ほぼ完形

第3章 荒砥下押切II遺跡

図番 P L	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm・g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
60-88 61	勾玉	完形	滑石	3.5	1.2	0.6	7		北西隅
60-89 61	勾玉	完形	滑石	3.7	1.4	0.7	10		西壁下
60-90 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	5.1 孔径0.3	1.9	0.3	6		北壁寄り
60-91 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	4.7 孔径0.3	1.9	0.4	6		北壁寄り
60-92 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	5.3 孔径0.2	1.9	0.3	6		北壁寄り
60-93 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	5.2 孔径0.2	2.3	0.5	8		北壁寄り
60-94 61	石製模造品 剣形	完形	滑石	4.0 孔径0.2	2.2	0.4	5		覆土
60-95 61	石製模造品 有孔門板	完形	滑石	2.1 孔径0.3	1.7	0.2	2		西壁下
60-96 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.2 孔径9.8	4.2	1.6	41	広面・狭面・側面とも磨かれて光沢を持つ。	西壁下
60-97 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.6 孔径9.8	4.6	1.2	31	広面・狭面とも磨かれて光沢を持つ。側面は縦方向の磨痕。	西壁下
60-98 61	紡錘車	完形	滑石	5.0 孔径9.7	5.0	1.1	34	広面・側面に磨痕。	北壁寄り
60-99 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.6 孔径1.0	4.6	1.1	36	広面縁状。狭面磨かれて光沢。側面は縦方向の磨り。	南西隅
60-100 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	5.0 孔径9.8	5.0	0.7	26	広面・狭面に磨痕。狭面に光沢。側面は縦方向の磨痕。	北壁寄り
60-101 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	5.0 孔径9.8	5.0	0.7	28	広面に磨痕。狭面磨かれて光沢。	北壁下
60-102 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.6 孔径9.8	4.6	1.1	38	狭面に磨痕。	北壁寄り
60-103 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	4.5 孔径9.7	4.4	1.3	31	広面・側面磨かれて光沢。狭面に細い磨痕。	北壁寄り
60-104 61	紡錘車	完形	蛇紋岩	5.1 孔径9.8	5.0	1.4	45	広面・狭面とも磨かれて光沢を持つ。側面は縦方向の磨り。	東壁寄り
60-105 61	丸石	完形	粗粒輝石安山岩	4.2	3.7	3.2	67		覆土
60-106 61	磨石	完形	安山岩	11.1	7.8	2.7	305	全面磨耗している。	東南部
61-107 61	磨石	完形	花崗岩	12.7	9.2	5.4	1,000	全面磨耗している。	P5周辺
61-108 61	台石	完形	埴岩	15.2	7.0	6.3	3,223	周面に磨耗痕。赤化している。	P5周辺
61-109 61	砥石	一部欠損	凝灰岩	13.0	5.1	3.5	297	4面使用。	北壁寄り
62-110 61	砥石	1/2欠損	凝灰岩	15.1	7.5	6.2	878	全面使用。赤化している。	北東隅
62-111 61	砥石	一部欠損	凝灰岩	27.4	10.6	5.4	2,284	全面使用。赤化している。	カマド周辺

図番 P L	部位	①出土 ②焼成(遺存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様(その他)	出土状況
62-112 60	胴部片	①細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7mm。内面は丁寧な調整。外面の色調はよい黄褐色。	縄文施文。原形はR $\left(\frac{L}{L} \right)$	覆土 中期

9号住居跡(第63・64図 PL.17・61・62)

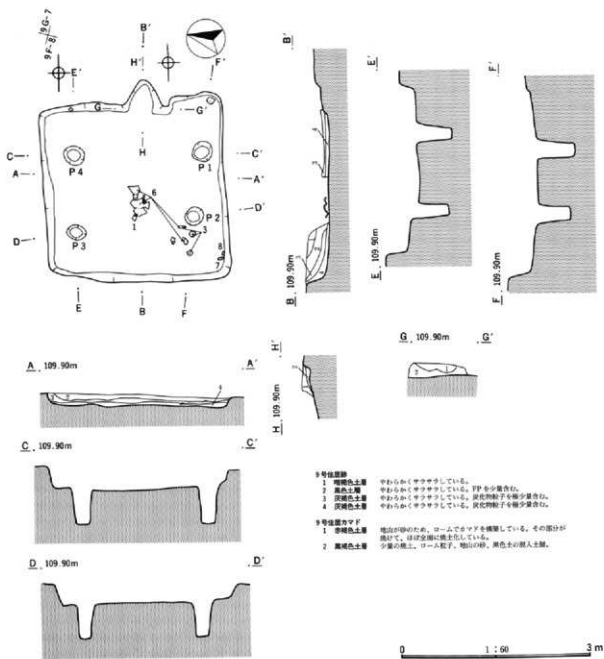
位置 9F-8グリッドにおいて検出された。8号住居跡の北東約6mの所に位置している。

形状 長辺3m、短辺2.9mのほぼ正方形を呈してい

る。

方位 N-78°-E

覆土 砂層を掘り込んで整穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。



第63図 9号住居跡

壁高 住居跡確認面より約6~39cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約7.2㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁のほぼ中央に、壁を掘り込み構築されている。現状での長さ約50cm、幅約60cm、焚き口幅約50cmである。住居内にも延びていたものと考えられる。

9号住居跡
 1 増成色土層 中わらわくセラセラしている。
 2 黒色土層 中わらわくセラセラしている。PやPを少量含む。
 3 深褐色土層 中わらわくセラセラしている。炭化物粒子を少量含む。
 4 灰褐色土層 中わらわくセラセラしている。炭化物粒子を少量含む。

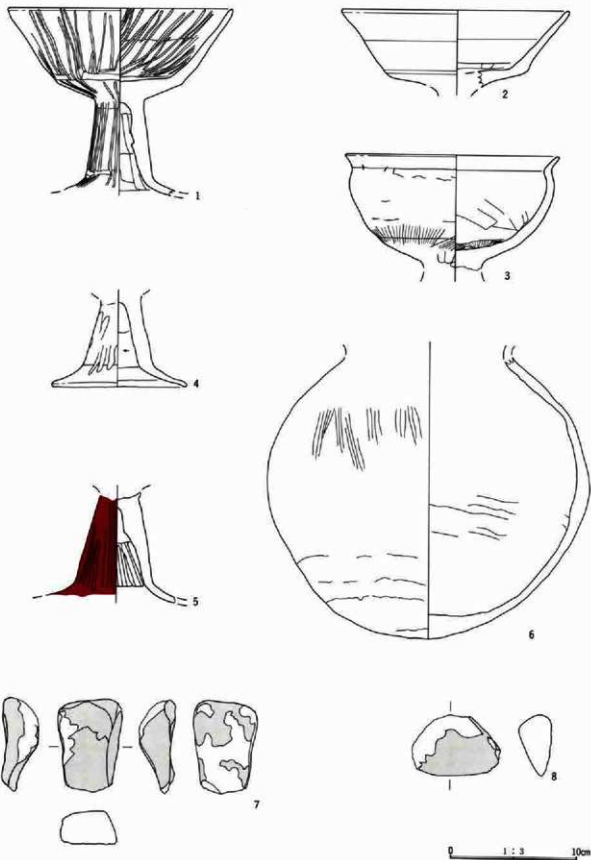
9号住居マウンド
 1 赤褐色土層 地層が厚いため、ロームでコアを構築している。その部分が崩れて、ほぼ空層に堆積している。
 2 黒褐色土層 少量の粗土、ローム粒子、地石の粉、黒色土の混入土層。

柱穴 4個のピットが検出された。P1~P4が主柱穴になる。P1は深さ60cm、P2深さ55cm、P3深さ54cm、P4深さ56cmである。小規模な住居ながら柱穴は比較的深い。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 床面中央部から少量の遺物が出土しているだけである。

時期 古墳時代後期（6世紀前半）。



第64図 9号住居跡出土遺物

瓦葺下押切II・9号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
64-1 61	土器器 高 坏	①(18.0) ②(14.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	坏部外面直線で、縦方向の磨き。内 面放射状の磨き。脚部外面磨き。内 面紋目目。	床中央 部	1/3
64-2 61	土器器 高 坏	① 18.0 ② (6.0)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	坏部外面直線で、口縁部内外面横なで。 内面直なで。	覆土	脚部欠損
64-3 61	土器器 高 坏	①(16.6) ② (8.9)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	坏部外面直線で、刷毛目状の整形。輪 積み痕残る。内面直なで。	床南西 部	脚部欠損
64-4 61	土器器 高 坏	①(11.0) ② (7.2)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	脚部外面直なで、磨き。内面直なで。	覆土	脚部3/4
64-5 61	土器器 高 坏	② (8.7)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	脚部外面磨き。内面紋目目。	覆土	脚部1/2
64-6 61	土器器 壺	②(22.0) ③ 6.5	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	胴部外面直なで、磨き。内面直なで。	床中央 部	口縁部欠 損

図番 P L	器種	遺存状況	石 材	計測値 (cm・g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
64-7 62	砥石	1/2欠損	凝灰岩	7.3	5.0	2.8	115	4面使用。	南西隅床 直
64-8 62	砥石	部分	凝灰岩	4.7	7.0	2.6	78		南西隅床 直

10号住居跡 (第65~75回 PL.17・18・62~65)

位置 9H-14・15、9I-14・15グリッドにかけて検出された。11号住居跡の北約2mの所に位置している。

形状 長辺5.2m、短辺5.0mの方形を呈している。

方位 N-18°-W

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約55~80cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約24.9㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 2箇所検出された。北壁のほぼ中央に構築されている竈の規模は、長さ約150cm、幅約80cm、焚き口幅約15cmである。東壁のほぼ中央に構築されてい

た竈は古い竈であり、現状で長さ85cm、幅70cmである。貯蔵穴2と対になるものである。

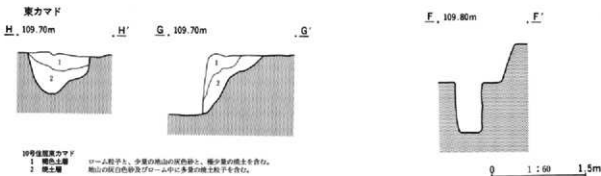
柱穴 4個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1は深さ85cm、P2深さ66cm、P3深さ69cm、P4深さ56cmである。

貯蔵穴 2個検出された。貯蔵穴1の規模は長径50cm、短径45cm、深さ25cmである。貯蔵穴2は長径46cm、短径44cm、深さ78cmで、古い竈に伴うものである。

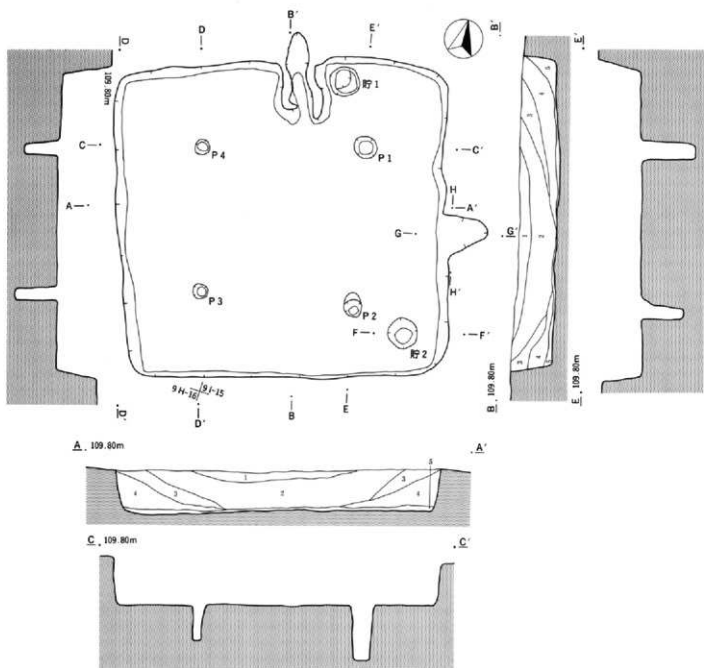
遺物 竈内から壺や坏、電車(右)脇から胴下半分欠損の壺2個体が据えられた状態で出土している。

また、南壁下からは坏がまとまって出土している。

時期 古墳時代後期(6世紀前半)。



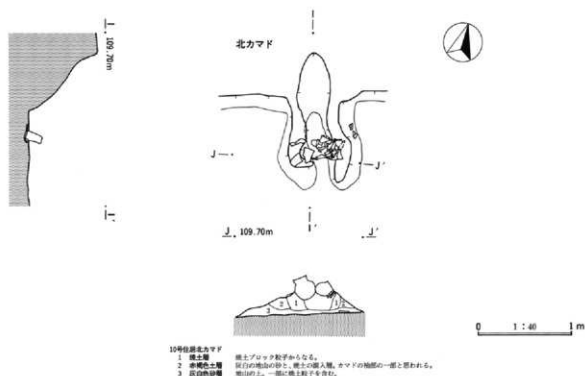
第65図 10号住居跡(1)



- 10号住居跡
- | | |
|---------|--------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | 中から多く粘性土がない。ローム粒子、FPを少量含む。 |
| 2 黒色土層 | 中から多く粘性土がない。FPを多量に、ローム粒子を少量含む。 |
| 3 暗褐色土層 | 粘性なくサラサラしている。FP、ローム粒子を少量含む。 |
| 4 暗褐色土層 | 粘性なくサラサラしている。FP、ローム粒子を少量含む。 |
| 5 暗褐色土層 | 粘性なくサラサラしている。炭化物粒子を少量含む。 |

0 1:60 3m

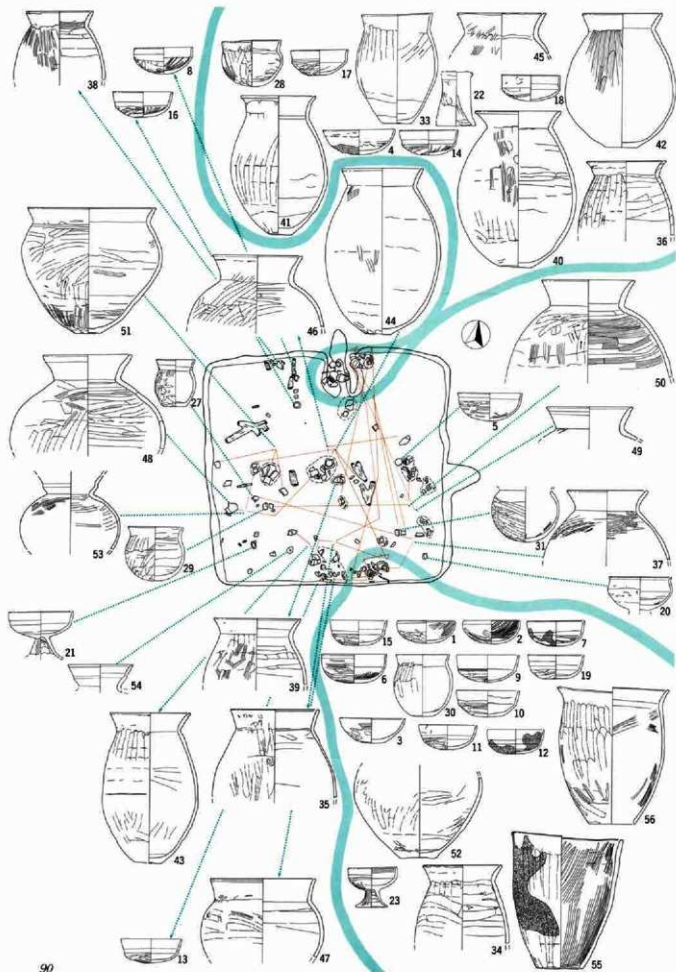
第66図 10号住居跡(2)

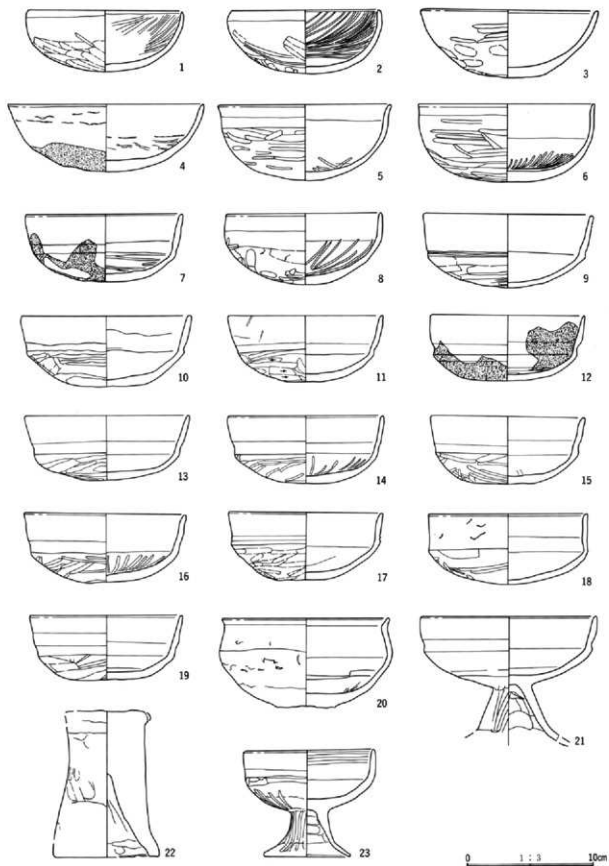


第67図 10号住居跡(3)

表67下押切II・10号住居跡

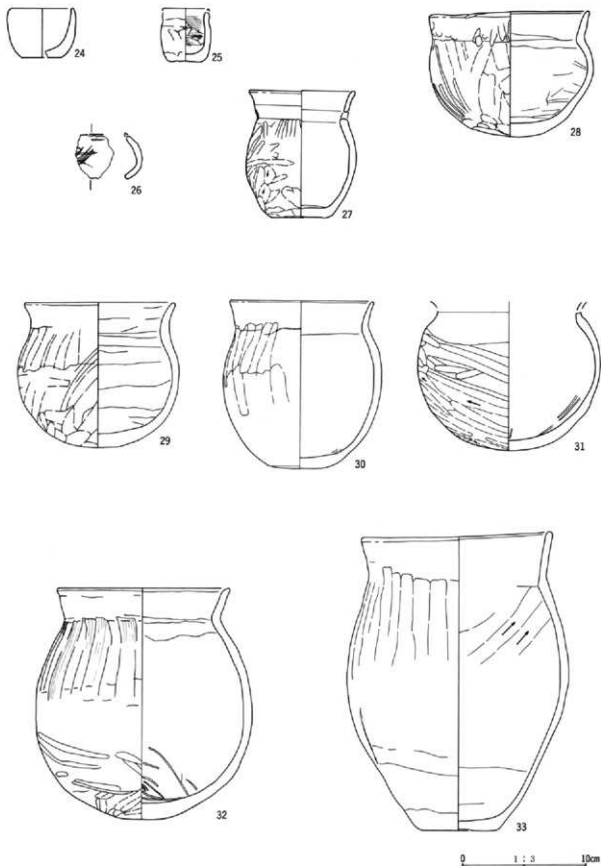
図 番 P L	土器種別 器 種	法 量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調			成・整形技法の特徴	出土 状 況	残存状況
			①胎土	②焼成	③色調			
69-1 62	土 師 器 環	① 12.0 ② 4.9	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰	③褐色	体部外面磨り、磨き。内面放射状の磨き。	南壁下	完形	
69-2 62	土 師 器 環	① 11.7 ② 5.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰	③明赤褐色	体部外面磨り後、磨き。口縁部外面横なで。内面放射状の磨き。	南壁下	完形	
69-3 62	土 師 器 環	① 13.8 ② 5.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰	③明赤褐色	体部外面磨りなで。口縁部外面横なで。内面磨りなで。	南壁下	2/3	
69-4 62	土 師 器 環	① 15.5 ② 5.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰	③明赤褐色	体部外面磨りなで。口縁部内外面横なで。内面磨りなで。	カマド	ほぼ完形	
69-5 62	土 師 器 環	① 13.7 ② 6.0	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰	③褐色	体部外面磨り、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨りなで。	床東部	4/5	
69-6 62	土 師 器 環	① 13.7 ② 6.1	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰	③明赤褐色	体部外面磨り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	南壁下	1/3	
69-7 62	土 師 器 環	① 12.3 ② 5.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰	③明赤褐色	体部外面磨りなで。口縁部内外面横なで。内面横方向の磨き。	南壁下	完形	
69-8 62	土 師 器 環	① 12.2 ② 5.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰	③明褐色	体部外面磨り、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	カマド 西	4/5	
69-9 62	土 師 器 環	① 13.3 ② 5.8	①細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰	③褐色	体部外面磨り、磨き。口縁部外面横なで。内面磨りなで。	南壁下	完形	
69-10 62	土 師 器 環	① 15.5 ② 5.6	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰	③明黄褐色	体部外面磨り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面荒れている。	南壁下	完形	
69-11 62	土 師 器 環	① 12.3 ② 5.2	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰	③褐色	体部外面磨り、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨りなで。	南壁下	完形	
69-12 62	土 師 器 環	① 12.1 ② 5.2	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰	③赤褐色	体部外面磨り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨りなで。	南壁下	完形	
69-13 62	土 師 器 環	① 12.8 ② 5.1	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰	③明赤褐色	体部外面磨り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨りなで。	南壁下	ほぼ完形	



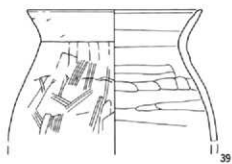
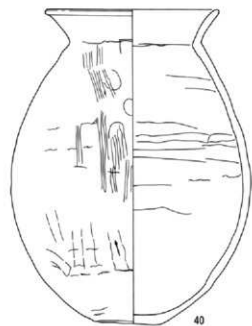
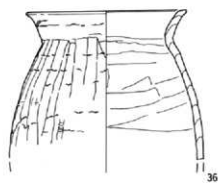
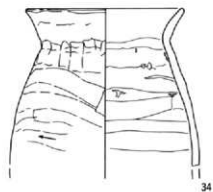


第69図 10号住居跡出土遺物(1)

第3章 荒砥下押切口遺跡

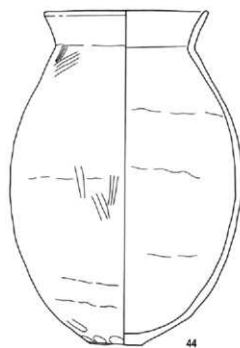
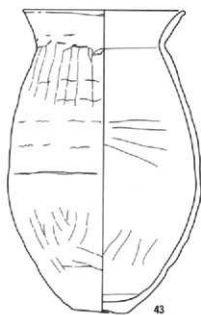
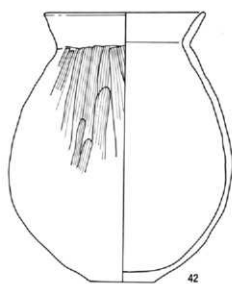
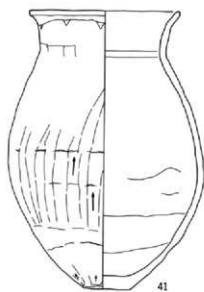


第70図 10号住居跡出土遺物(2)



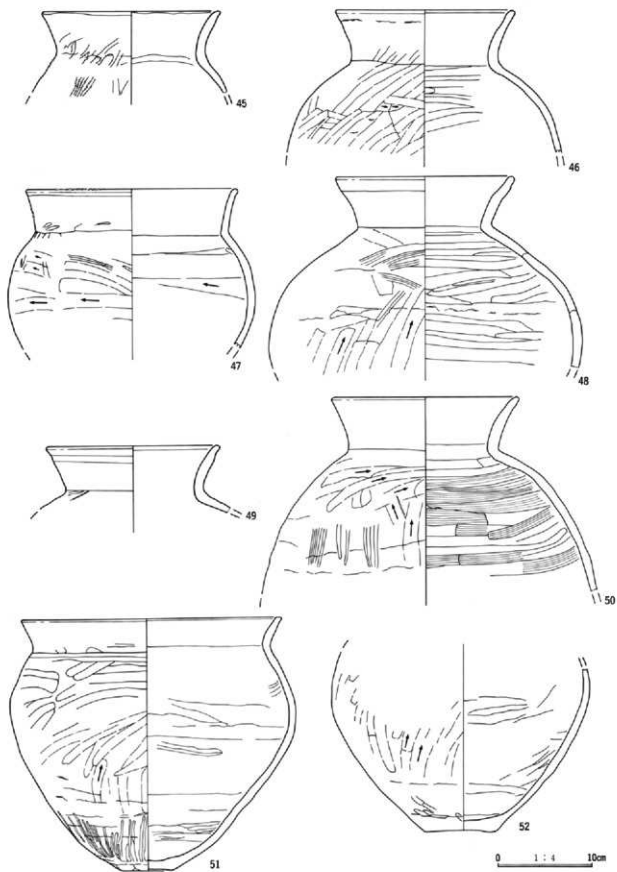
0 1 : 4 10cm

第71図 10号住居跡出土遺物(3)



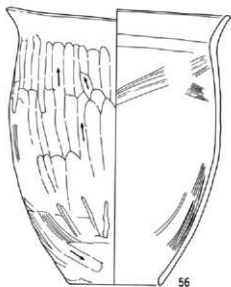
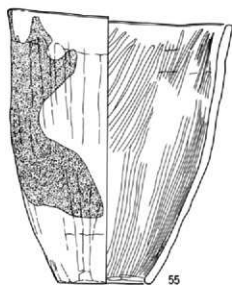
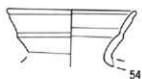
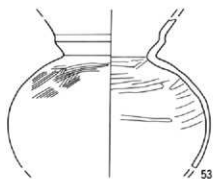
0 1 : 4 10cm

第72図 10号住居跡出土遺物(4)

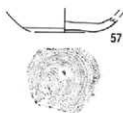


第73図 10号住居跡出土物(5)

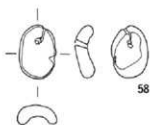
第3章 荒砥下押切II遺跡



0 1 : 4 10cm
(53~56)

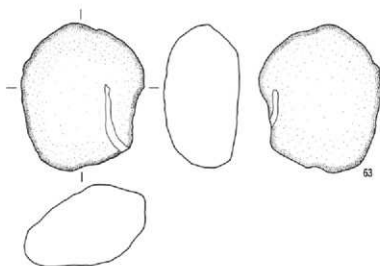
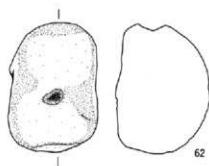
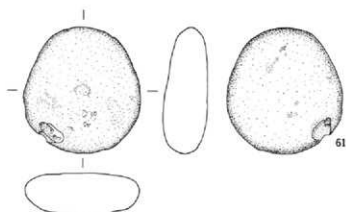
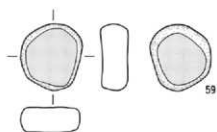


0 1 : 3 10cm
(57)



0 1 : 2 5cm
(58)

第74図 10号住居跡出土遺物(6)



0 1 : 3 10cm

第75図 10号住居跡出土遺物(7)

第3章 荒砥下押切目遺跡

69-14 62	土 器 環	① 12.3 ② 5.3	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。縁の付着。	カマド	ほぼ完形
69-15 62	土 器 環	①(12.0) ② 5.3	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。内面磨なで。	南壁下	口縁一部欠損
69-16 62	土 器 環	① 12.6 ② 5.4	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。縁の付着。	カマド 西	2/3
69-17 62	土 器 環	① 12.1 ② 5.2	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。裏端部残る。	カマド	口縁一部欠損
69-18 62	土 器 環	① 12.4 ② 5.5	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。	カマド 東	口縁一部欠損
69-19 62	土 器 環	① 12.0 ② 5.1	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。	南壁下	完形
69-20 62	土 器 環	① 13.0 ② (7.0)	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。体部外面磨なで。輪積み痕残る。内面磨なで。	貯蔵穴 2周辺	1/2
69-21 62	土 器 高 環	① 13.7 ② (9.7)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	坏部外面磨なで。口縁部内外面横なで。内面磨なで。脚部外面磨き。内面磨なで。	床南西 部	頸部欠損
69-22 62	土 器 支 脚	② 11.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③赤褐色	脚部外面磨なで。内面磨削り。	カマド 内	ほぼ完形
69-23 62	土 器 高 環	① 10.2 ② 8.4 ③ 6.9	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	坏部内外面磨削り後、磨き。内面輪積み痕残る。頸部内外面磨削り。	南壁下	ほぼ完形
70-24 62	土 器 手 裡	① (4.7) ② 3.9 ③ 1.6	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③暗赤褐色	体部内外面磨なで。	覆土	1/3
70-25 62	土 器 手 裡	② (3.9) ③ 2.5	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	体部外面磨削り後、内面刷毛目状の整形。	覆土	1/4
70-26 62	土 器 手 裡	② (3.5)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	体部内外面磨なで。	覆土	1/4
70-27 62	土 器 小 型 壺	① 8.2 ② 9.9 ③ 4.2	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。内孔2個。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	床西部	完形
70-28 62	土 器 鉢	① 12.4 ② 9.9 ③ 4.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	カマド	完形
70-29 62	土 器 小 型 壺	① 11.8 ② 10.5	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	胴部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨なで。	床西部	3/4
70-30 62	土 器 小 型 壺	① 11.3 ② 13.2 ③ 4.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	南壁下	ほぼ完形
70-31 62	土 器 壺	②(11.0)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③明褐色	胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	床東部	1/2
70-32 62	土 器 壺	① 13.7 ② 18.2	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	カマド 内	完形
70-33 62	土 器 壺	① 14.7 ② 23.7 ③ 6.0	①粗・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面上半磨削り。	カマド 東	4/5
71-34 63	土 器 壺	① 16.7 ②(16.6)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	南壁下	胴部下半欠損
71-35 63	土 器 壺	① 19.8 ②(18.8)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	床南部	胴部上半
71-36 63	土 器 壺	① 17.0 ②(15.8)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	カマド 東	胴部下半欠損
71-37 63	土 器 壺	① 17.0 ②(14.4)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面刷毛目状の整形。	貯蔵穴 2周辺	口縁一部上半
71-38 62	土 器 壺	① 14.2 ②(14.7)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	北壁下	1/3
71-39 63	土 器 壺	① 18.2 ②(13.9)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	床中央部	胴部下半欠損
71-40 64	土 器 壺	① 18.4 ② 33.2 ③ 7.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	カマド 東	2/3
72-41 64	土 器 壺	① 15.8 ② 29.3 ③ 4.9	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで。輪積み痕残る。胴部外面下半磨削り。上半なで。内面磨なで。	カマド	完形
72-42 64	土 器 壺	① 17.0 ② 28.4 ③ 6.9	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焙 ③褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面上半刷毛目状の整形。下半磨削り。内面磨なで。	カマド 東	4/5
72-43 64	土 器 壺	① 16.8 ② 31.8 ③ 5.8	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焙 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部内外面磨削り後、磨き。内面磨なで。	床南部	ほぼ完形

72-44 64	土 器 壺	① 17.0 ②35.0 ③ 5.5	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛なで、 輪杢み板残る。内面寛なで。	床中央 部	3/4
73-45 63	土 器 壺	①(18.9) ②(8,7)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛削り 後、なで、内面寛なで。	カマド 東	口縁～胴 部上半
73-46 63	土 器 壺	① 18.5 ②(15.5)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛削り、 なで、内面寛なで。	床中央 部	口縁～胴 部上半
73-47 63	土 器 壺	①(21.9) ②(16.7)	①粗・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛削り、 なで、内面寛削り、なで。	南壁下 部	口縁～胴 部上半
73-48 63	土 器 壺	① 18.8 ②(20.1)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③淡黄色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛削り、 磨き。内面寛なで。	西壁寄 り	口縁～胴 部上半
73-49 63	土 器 壺	① 17.8 ②(7.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛なで、 内面寛なで。	床東部 部	口縁～胴 部上半
73-50 63	土 器 壺	① 19.2 ②(20.6)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛削り、 なで、輪杢み板、内面刷毛目状の整形。	床東部 部	口縁～胴 部上半
73-51 64	土 器 壺	① 27.0 ②26.6 ③ 5.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛削り、 なで、下半縦方向の磨き。内面寛なで。	床西部	3/4
73-52 64	土 器 壺	②(17.0) ③ 7.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面寛削り後、磨き。内面寛なで。	南壁下 部	胴部下半
74-53 64	土 器 壺	②(15.6)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで、中位に段を有す る。胴部外面寛磨き。内面寛なで。	床西部 部	口縁～胴 部
74-54 63	土 器 壺	① 13.3 ②(6.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	口縁部中位に段を有する。内外面横 なで。	床南部 部	口縁部
74-55 65	土 器 瓶	① 23.6 ②28.0 ③ 9.5	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③灰白色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛削り、 内面縦方向の磨き。	南壁下 部	口縁～胴 部欠損
74-56 65	土 器 瓶	① 23.5 ②29.0 ③ 9.8	①粗・細砂 白・褐色細粒物を含む ②還元焰 ③褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面寛削り 後、磨き。内面寛なで。	南壁下 部	ほぼ完形
74-57 65	須 恵 器 坏	③ 5.8	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②還元焰 ③外にぶい黄 内暗灰黄	底面回転糸切り。	覆土	底部片
74-58 65	土 製 品	① 2.8 ② 1.9 ③ 0.6	①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	内外面指なで。穿孔。	床直上 部	完形

図 番 P L	器 種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm・g)			特 徴	出土状況
				全長	幅	厚 重量		
75-59 65	磨 石	完形	軽石	5.3	4.8	2.0 29	四面に磨耗痕が認められる。	覆土
75-60 65	砥 石	一部欠損	軽石	5.4	5.2	2.9 42	細かい条線が認められる。	覆土
75-61 65	砥 石	完形	安山岩	9.9	9.2	3.4 387	砥石板。全面赤化している。	カマド西
75-62 65	凹 石	完形	硬砂岩	10.2	7.0	7.3 558	1個の凹み穴が認められる。	覆土
75-63 65		完形	粗粒輝石安 山岩	11.5	9.6	5.9 737	一部赤化。赤色付着物が認められる。	カマド西

第3章 荒砥下押切II遺跡

11号住居跡 (第76~78図 PL.19・20・65・66)

位置 9H-16・17、9I-16・17グリッドにかけて検出された。10号住居跡の南約2mの所に位置している。

形状 長辺4.8m、短辺3.5mの長方形を呈している。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約28~40cmで床面に達する。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約12.1m²。

周溝 全周している。幅4~15cm、深さ4~23cmで

ある。北壁下の周溝が幅広く深い。

竈 検出できなかった。

柱穴 1個のピットが検出された。P1は深さ23cmである。柱穴になるかは不明である。

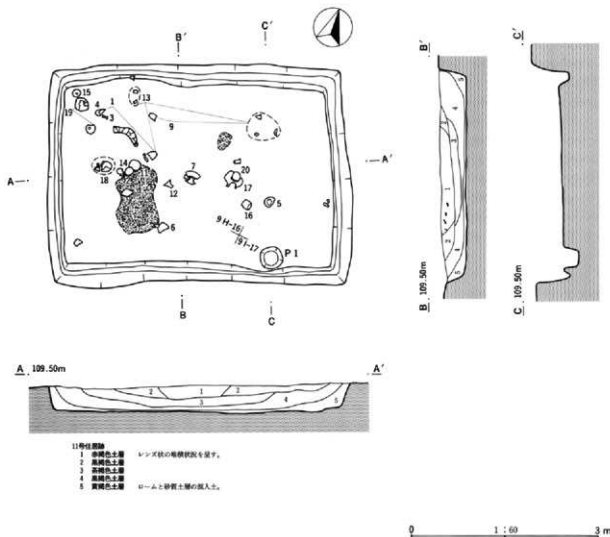
貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 床直上から覆土上層にかけて遺物が出土している。

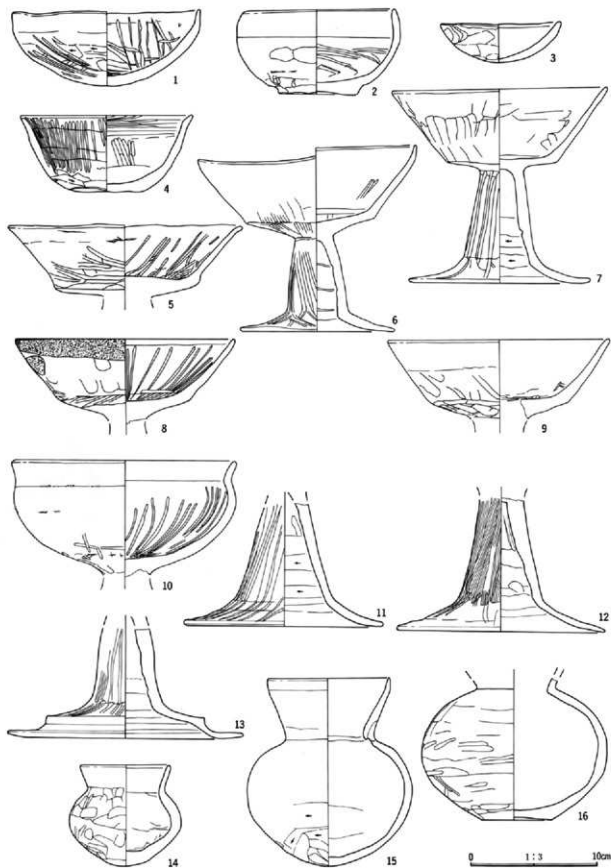
時期 古墳時代中期 (5世紀後半)。

備考 遺物は出土しているものの、竈や柱穴が存在せず一般的な住居になるのかどうかは不明である。

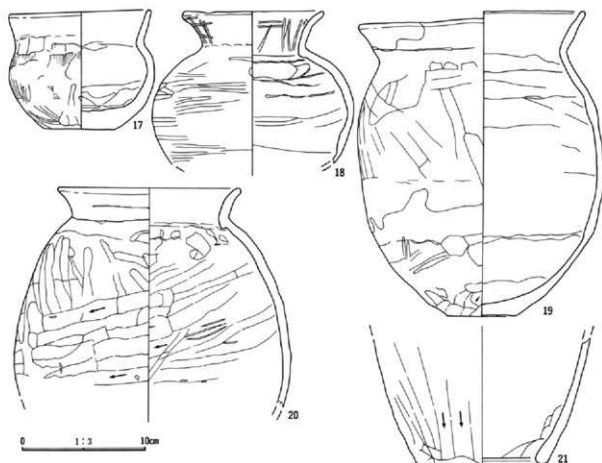
竈がないのは6号住居跡にも見られた。



第76図 11号住居跡



第77图 11号住居跡出土遺物(1)



第78図 11号住居跡出土遺物(2)

荒砥下押切II・11号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm)		①胎土 ②構成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
		①口径	②器高				
77-1 65	土器器 杯	① 14.9	② 6.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面磨削り。	床西部	3/4
77-2 65	土器器 杯	① 12.2	② 6.8	①白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面磨削り。底面磨削り。	床直上	完形
77-3 65	土器器 杯	① (9.3)	② 3.1	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面磨削り後、なで。内面磨削り。	床西部	1/2
77-4 65	土器器 杯	① 13.5	② 6.0	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面縦方向の磨き。内面磨削り。磨き。底面磨削り。	床直上	1/3
77-5 65	土器器 高杯	① 18.6	② (5.6)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	杯部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	床東部	脚部欠損
77-6 65	土器器 高杯	① 17.4	② 14.4	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	杯部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面磨削り。脚部磨削り。内面輪積み痕残る。	床直上	ほぼ完形
77-7 65	土器器 高杯	① 16.8	② 15.5	①中・細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	杯部内外面磨削り。脚部磨削り。縦方向の磨き。内面磨削り。	床直上	ほぼ完形
77-8 65	土器器 高杯	① 17.4	② (6.6)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	杯部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	覆土	脚部欠損
77-9 65	土器器 高杯	① (17.2)	② (6.2)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	杯部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面磨削り。	床北部	脚部欠損
77-10 65	土器器 高杯	① 17.8	② (9.1)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	杯部外面磨削り。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	覆土	脚部欠損

77-11 65	土 師 器 高 杯	㊦ (9.6) ㊧ 15.8	①細砂 黒・白色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧赤褐色	胴部外面磨んで後、磨き。内面磨削り。	床直上	胴部
77-12 65	土 師 器 高 杯	㊦(10.5) ㊧(16.1)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧赤褐色	胴部外面刷毛目状の整形。内面輪積み痕が残る。	床直上	胴部
77-13 65	土 師 器 高 杯	㊦ (8.6) ㊧(18.8)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧赤褐色	胴部外面磨き。胴部に段を有する。内面磨んで。輪積み痕残る。	床北部	胴部1/2
77-14 66	土 師 器 小型壺	① 7.0 ㊦ 8.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面磨んで。内面磨んで。輪積み痕残る。	床直上	ほぼ完形
77-15 66	土 師 器 小 壺 甕	① (9.8) ㊦14.8	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面磨削り後、磨き。内面などで。	覆土	口縁一部欠損
77-16 66	土 師 器 甕	㊦(10.4) ㊧ 5.5	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧明褐色	胴部外面磨き、内面などで。輪積み痕残る。底面磨んで。	床直上	口縁部欠損
78-17 66	土 師 器 鉢	① 11.4 ㊦ 9.5 ㊧ 5.5	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧浅黄褐色	口縁部内外面横などで。体部磨んで。胴部刷毛目状の整形。内面磨んで。	床直上	ほぼ完形
78-18 66	土 師 器 小 壺 甕	①(11.0) ㊦(12.0)	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧褐色	口縁部内外面横などで後、磨き。胴部外面磨き。内面磨んで。輪積み痕残る。	床直上	胴部下半欠損
78-19 66	土 師 器 壺	① 17.7 ㊦23.9 ㊧ 5.5	①細砂 白・黒色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧にょい褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面磨削りなどで。内面磨んで。輪積み痕残る。	覆土	口縁一部欠損
78-20 66	土 師 器 壺	① 14.5 ㊦(17.3)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧浅黄褐色	口縁部内外面横などで。胴部外面上半磨んで。下半磨削り。内面指頭圧痕、磨削り。	床直上	1/3
78-21 66	土 師 器 甕	㊦ (9.9) ㊧ 10.0	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ㊦酸化層 ㊧明赤褐色	胴部外面磨削り。内面磨んで。	覆土	胴部下半

13号住居跡 (第79~81回 PL.21・66・67)

位置 9I・9J-19、13I・13J-0 グリッドにかけて検出された。11号住居跡の南南東約13mの所に位置している。

形状 長辺4.3m、短辺3.3mの方形を呈している。

方位 N-20°-W

覆土 砂層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約6~33cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約12.7㎡。

溝溝 検出できなかった。

竪 北壁のほぼ中央、床面から壁の外に向かって

構築されている。竪の規模は、長さ約110cm、幅約90cm、焚き口幅約25cmである。

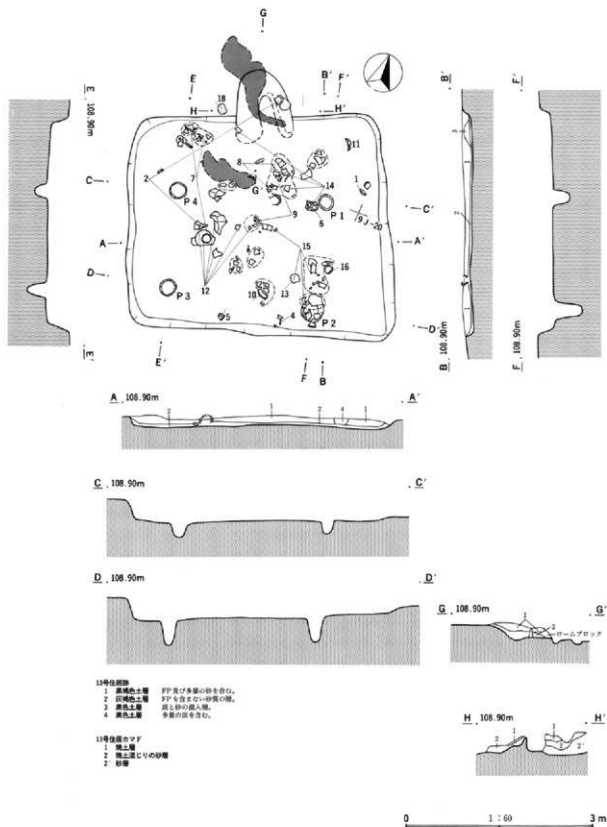
柱穴 4個のピットが検出された。P1~P4が主柱穴になる。P1は深さ24cm、P2深さ42cm、P3深さ30cm、P4深さ22cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

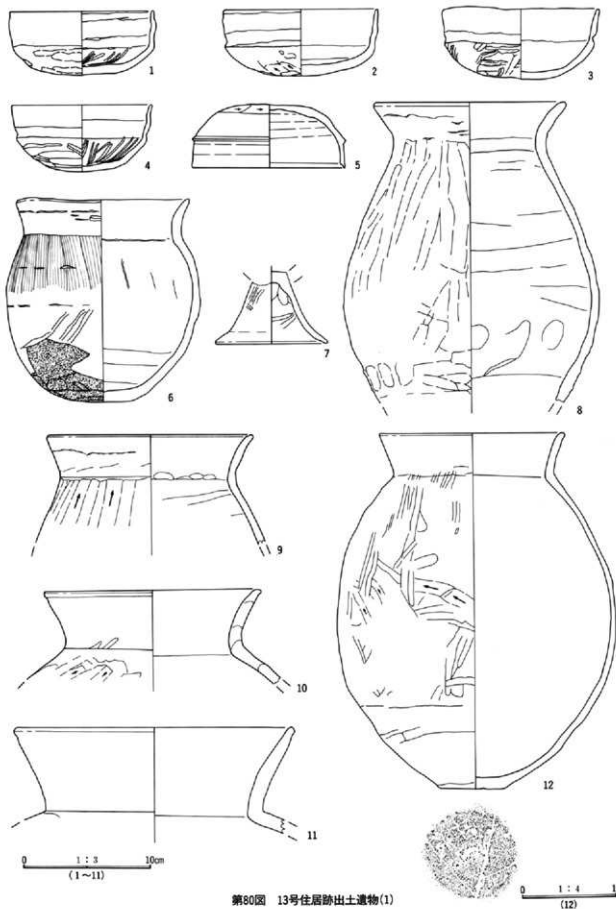
遺物 覆土と竪南側から出土している。

時期 古墳時代後期（6世紀前半）。

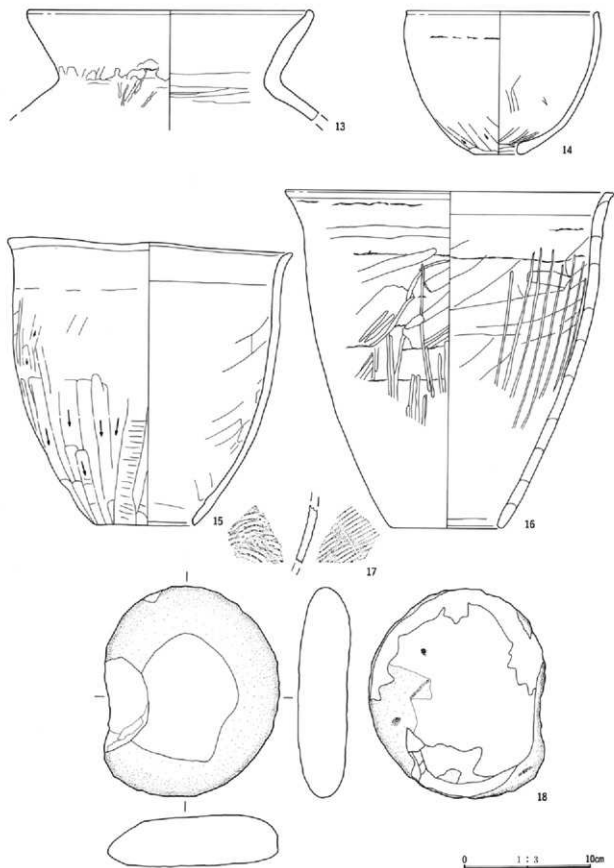
備考 当住居は砂層を掘り込んで構築されていた。住居を構築する場所としたら壁が崩れやすく非常に条件の悪い場所である。同じ条件の住居として9号住居があげられる。いずれも小さな住居で、竪の半分以上が壁の外へ構築されている。



第79図 13号住居跡



第60图 13号住居跡出土遺物(1)



第81圖 13号住居跡出土遺物(2)

竪穴下切川・13号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径	①胎土 ②集成 ③色調			成・整形技法の特徴	出土状況	残存状況
			①胎土	②集成	③色調			
80-1 66	土師器 罎	① 11.3 ② 5.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色			体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	覆土	ほぼ完形
80-2 66	土師器 罎	①(12.2)② 5.3	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色			体部外面磨削り後、なで。口縁部内外面横なで。内面横なで。	カマド	3/4
80-3 66	土師器 罎	① 12.4 ② 5.7	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色			体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面横なで。	覆土	1/2
80-4 66	土師器 罎	① 10.9 ② 5.3	①中・細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③におい黄褐色			体部外面磨削り後、磨き。口縁部内外面横なで。内面放射状の磨き。	覆土	1/2
80-5 66	須恵器 蓋	① 12.1 ② 5.0	②還元焰 ③灰色			回転ロクロ整形。天井部回転磨削り。	覆土	ほぼ完形
80-6 66	土師器 小型罎	① 13.4 ②16.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③外明黄褐色 内黒褐色			口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り目状の整形。内面横なで。輪痕み痕残る。	覆土	4/5
80-7 66	土師器 高罎	② (5.7) ③ (8.7)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色			胴部外面横なで、磨き。内面なで。	覆土	胴部2/3
80-8 66	土師器 罎	①(14.9) ②(23.5)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③におい赤褐色			口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り、なで。内面横なで。	カマド南	1/3
80-9 66	土師器 罎	① 16.0 ② (8.6)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明褐色			口縁部内外面横なで。輪痕み痕。胴部上半部磨削り。内面横なで。	カマド南	口縁-胴部上半
80-10 67	土師器 罎	① 17.2 ② 7.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色			口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り、なで。内面なで。	床西部	口縁-胴部上半
80-11 67	土師器 罎	①(21.4) ② (8.3)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色			口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り、なで。内面なで。	覆土	口縁部片
80-12 66	土師器 罎	① 19.6 ②37.4 ③ 7.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色			口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、なで。内面なで。底面木葉痕。	床中央部	ほぼ完形
81-13 67	土師器 罎	①(22.7) ② (8.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄褐色			口縁部内外面横なで。	覆土	口縁部片
81-14 66	土師器 罎	①(15.0)②11.3 ③ 3.2	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色			胴部外面磨削り後、磨き。内面横なで、磨き。	覆土	1/2
81-15 67	土師器 罎	① 22.4 ②22.3 ③ 8.0	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③におい褐色			口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り、内面なで。	覆土	ほぼ完形
81-16 67	土師器 罎	① 26.0 ②26.5 ③ (8.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色			口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り方向の磨き、内面縦方向の磨き。	覆土	2/3
81-17 67	須恵器 罎		①細 ②還元焰 ③灰色				覆土	胴部片

図番 P L	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm・g)				特徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
81-18 67	台石	完形	花崗岩	16.5	13.5	3.9	1,441	片面赤化。煤が付着している。	カマド西

14号住居跡 (第82・83図 PL.22・67)

位置 8D-17グリッドにおいて検出された。1号住居跡の西約75mの所に位置している。

形状 長辺3.7m、短辺3.0mの方形を呈している。

方位 N-72°E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。1・2層はAs-Bの純層である。

壁高 住居跡確認面より約40～56cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約8㎡。

周溝 溝壁下を除いて巡っている。幅3～10cm、深さ1～6cmである。

竈 東壁の南寄り、床面から壁の外に向かって構築されている。竈の規模は、長さ約80cm、幅約55cm、焚き口幅約55cmである。煙道の長さ70cm、煙だしの

第3章 荒砥下押切II遺跡

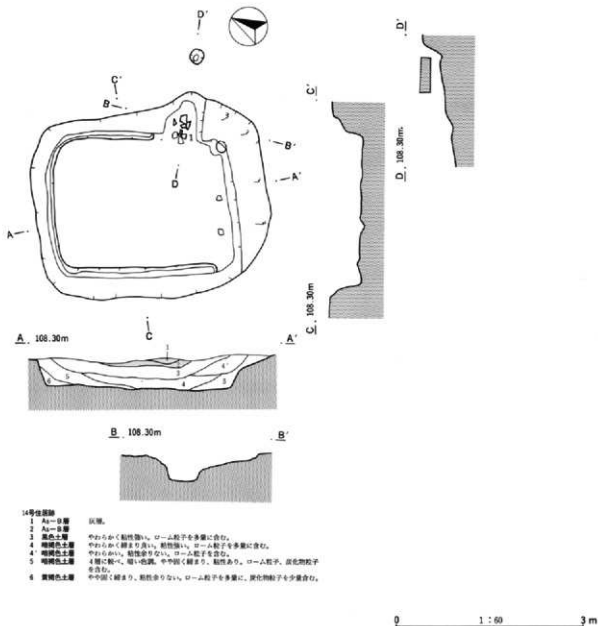
ピットの大きさは長径22cm、短径20cmである。

柱穴 検出できなかった。

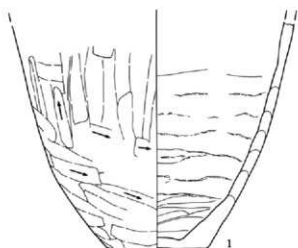
貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈内から第83図1の甕の胴下半分が出土している。

時期 平安時代。



第82図 14号住居跡



第83図 14号住居跡出土遺物

寛永下押切II・14号住居跡

図番 P.L.	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
83-1 67	土器 鉢	①(17.8) ③ 7.8	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③よい橙色	側部外面寛削り。内面輪積み痕が残る。 平底。	カマド	厨下半部

2

古墳

1号古墳 (第84~86図 PL23~25・67)

位置 7N・7O・7P-15~18、7Q-16・17グリッドにかけて検出された。14号住居跡の西約40mの所に位置している。

周堀 上幅1.4~3.8m、下幅0.8~2.2m、深さ0.4mである。周堀上端の外径は17m、内径は11.6mである。覆土は細分すると6層に分かれた。このうち8・9層がAs-Bの純層である。底面から30~40cmのところに堆積し、層厚は6~24cmである。

墳丘 墳丘の盛土は、当時の地表面上（第3層）に直接行われている（第2層）。しかし、そのほとんどは削平されている。

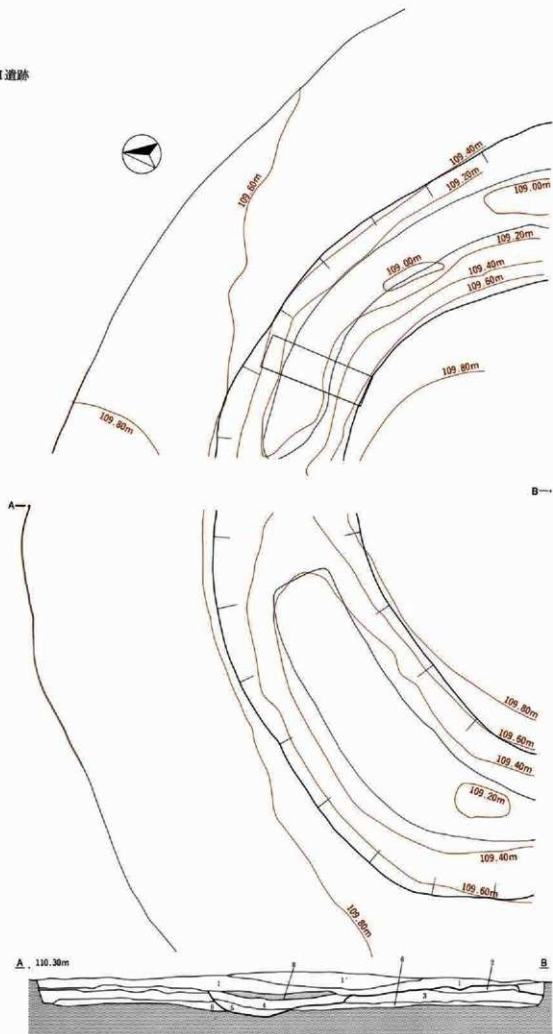
主体部 南に開口する自然石乱積の横穴式両袖型石室である。石室全長4.5m、玄室長2.2m、羨道長2.3m、玄室前幅1.8m、玄室最大幅2mである。

石室の閉塞は、ほぼ羨道部全体にわたって、中小の礫を詰めている。天井石はすべて抜き取られている。入口部には同形同大の石を配し、門石としている。羨道最奥部の袖石にあたる石材は、縦位に据え玄門石としての機能を有するものである。羨道部の壁体は、床面より高さ約50cmまで残っていた。玄室部の床面は羨道部と同様に扁平な小礫を雑然と敷き詰めたもので、ほぼ羨道部と同じである。

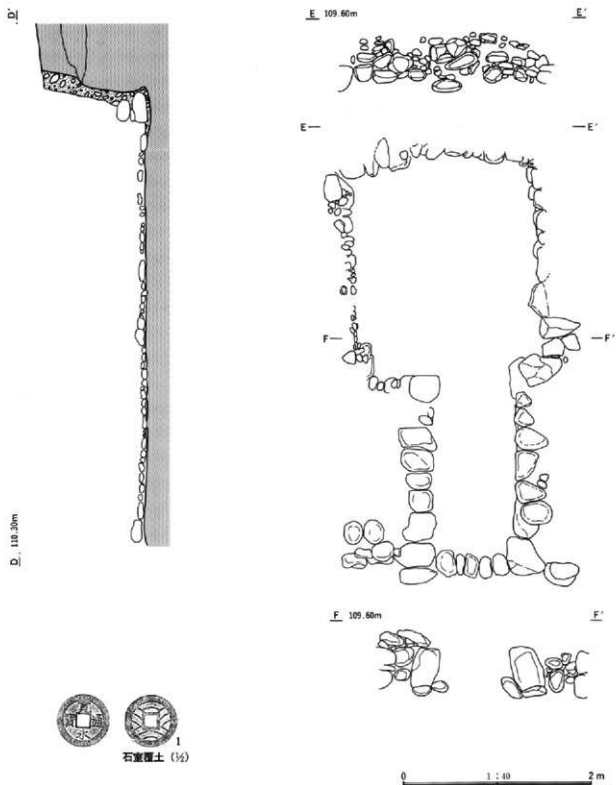
石室内遺物 副葬品は出土していないが、寛永通宝1点が出土した。

時期 当古墳は6世紀後半の築造と考えられる。

備考 上毛古墳総覧旧勢多郡荒砥村の項目には、当古墳に該当する古墳の記載はない。



第84図 1号古墳



第86図 1号古墳石室(2)

荒砥下押切Ⅱ・古墳

図 番 P L	種 別	重 量 (g)	銅径 ①タテ ②ヨコ ③銅厚	出土 状 況	残存状 況
86-1 67	古 銭	4.66	① 2.8cm ② 2.8cm ③ 1.5mm	石室内 覆土	完 形

下押切II遺跡と中屋敷II遺跡の間には、南北に谷地形が入り込む。谷幅はおよそ60～120mあり、ややすり鉢状を呈する。台地との比高差は現状で2mをはかる。また、谷上流部（支道71号の北端）の標高は110.1m、下流部（幹排3-2南端）での標高は105.1mあり、5mの差がある。

谷内の発掘調査は、道路・水路部分をトレンチ状に行い、水田畦畔が確認できた部分について面調査を行った。谷の堆積土層中には、As-B・FA・As-C等の火山灰が確認できたが、As-B以外は水田畦畔や面的な広がりは不明瞭であった。

水田遺構

遺構は、支道73号・75号の交差部分（第1地点）と支道75号と幹排3-3の交差部分（第2地点）の2ヶ所でAs-B下より水田畦畔を確認した。

第1地点の水田遺構

畦畔の検出状況から6面の水田が想定できるが、畦畔が数cmほどの高まりであり、調査区の範囲や田面の状態などから畦畔を追うことができず、各水田とも完結できなかった。水田規模は、2号・5号水田の短辺で約4.5mと計測できたが、長辺については計測できなかった。

畦畔の方向は、谷の傾斜が意識されているようであり、傾斜方向及び直交方向に畦畔が見られる。また、2号・3号水田境の畦畔中央に水口が設けられ、開いた状態で検出した。

第2地点の水田遺構

第1地点同様、畦畔の検出状況は悪く、5面の水田が想定できるが、各水田とも完結できなかった。水田規模は、2号水田の短辺が約4.5mと計測できたのみであった。

畦畔方向は、4号・5号の水田畦畔は、東西・南北方向に直交し、大区画が想定できる方向にあり、1号・2号・3号水田の畦畔は傾斜方向にわずかに

傾く。水口は3ヶ所で確認でき、1号→2号、2号→3号、4号→3号方向に開いた状態で検出した。

溝

谷内調査では溝を10条検出した。埋没土中にAs-B、FA、As-C混土を含むものなど、時期差が見られた。

1号溝

支道73号線内にて検出した。N-60°-E方向に傾く。規模は、確認全長8m、幅0.48m、深さ0.22mの規模を持つ。傾斜は緩い。

2号溝

支道73号線内にて検出した。1号溝に近接し、東北東隅でY字条に分岐する。

N-70°-E方向に傾く。規模は、確認全長12m、幅0.7m、深さ0.3mの規模を持つ。北東方向より南西方向に流下し、20cmの高低差が見られた。

3号溝

支道73号線内で検出した。4号溝の上層にて検出し、FA層と思われる橙色層が見られた。確認状況が不明瞭であったため、遺構形状が乱れたものとなった。規模は、確認全長16m、幅2m、深さ0.5m規模を持つ。傾斜は緩い。

4号溝

支道73号線内で検出した。3号溝下層にありAs-Cを多量に含む黒色土により埋没している。北隅で分岐していたが、3号溝により分岐部が壊されていた。規模は、確認全長12m、幅0.8～1.4m、深さ0.2～0.5m。傾斜は緩い。

5号溝

支道73号線内で検出した。N-20°-W方向に傾く。規模は、確認全長16m、幅0.8m、深さ0.2m。傾斜は緩い。溝底面には、掘削痕と思われる小ピットが見られた。

6号溝

支道75号線内で検出した。N-40°-E方向に傾

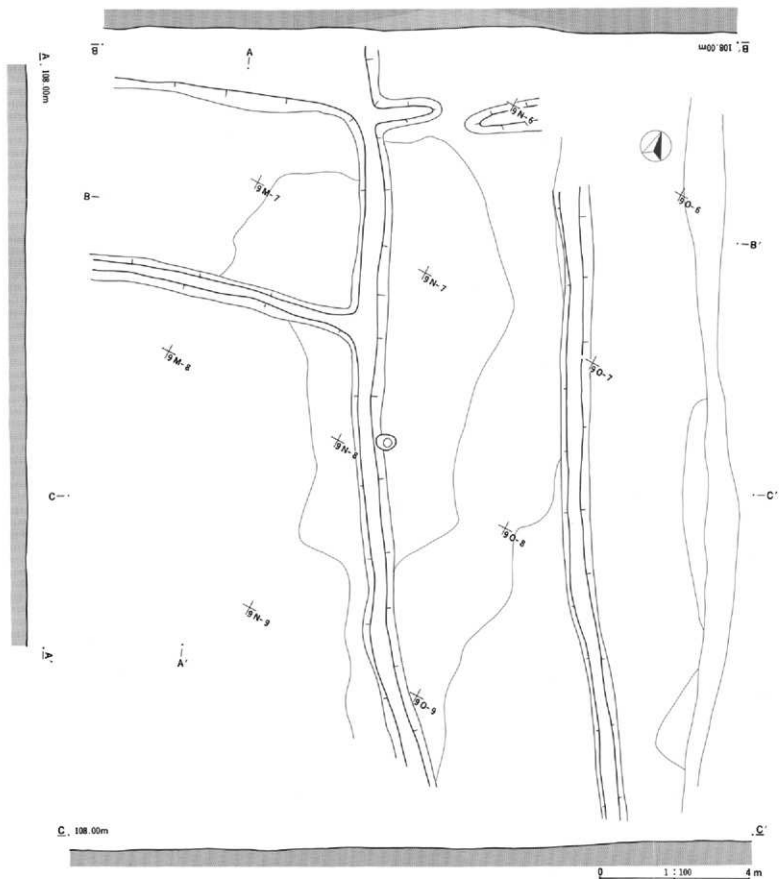
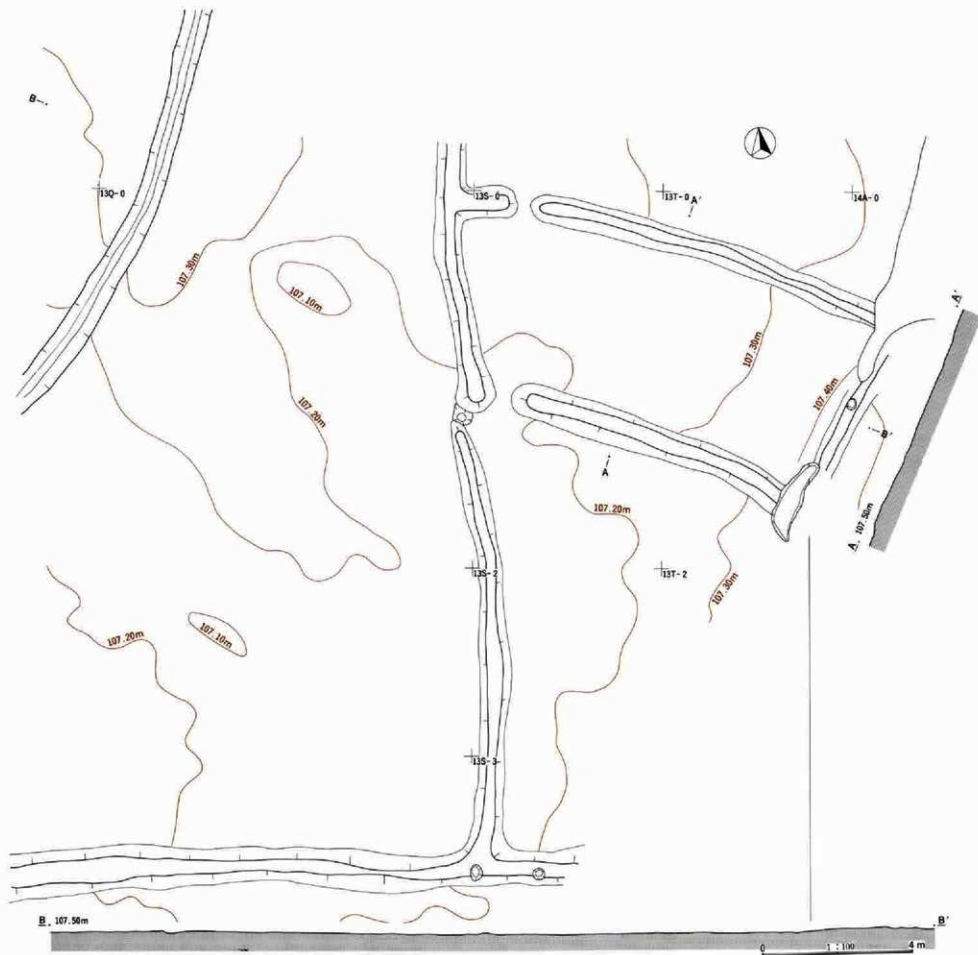


圖87圖 As-B下水田



第88図 As-B下水田

〔3〕水田・溝

く。規模は、確認全長12m、幅1.3m、深さ0.5m。傾斜は緩い。

7号溝

支道75号線内で検出した。N-36°-E方向に傾く。規模は、確認全長16.4m、幅0.56m、深さ0.04m。傾斜は緩い。

8号溝

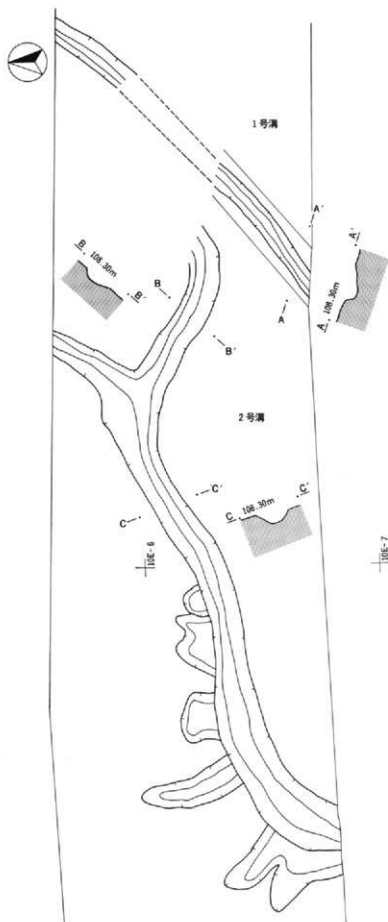
支道75号線と幹排3-3の交差付近で検出した。溝は複数見られ、周辺部はAs-C混じりの黒色土が堆積し、溝の埋没土下層にFA層を確認した。溝は、蛇行し、N-52°-E方向に傾く。規模は、確認全長16m、幅4m、深さ0.5m。傾斜は緩い。

9号溝

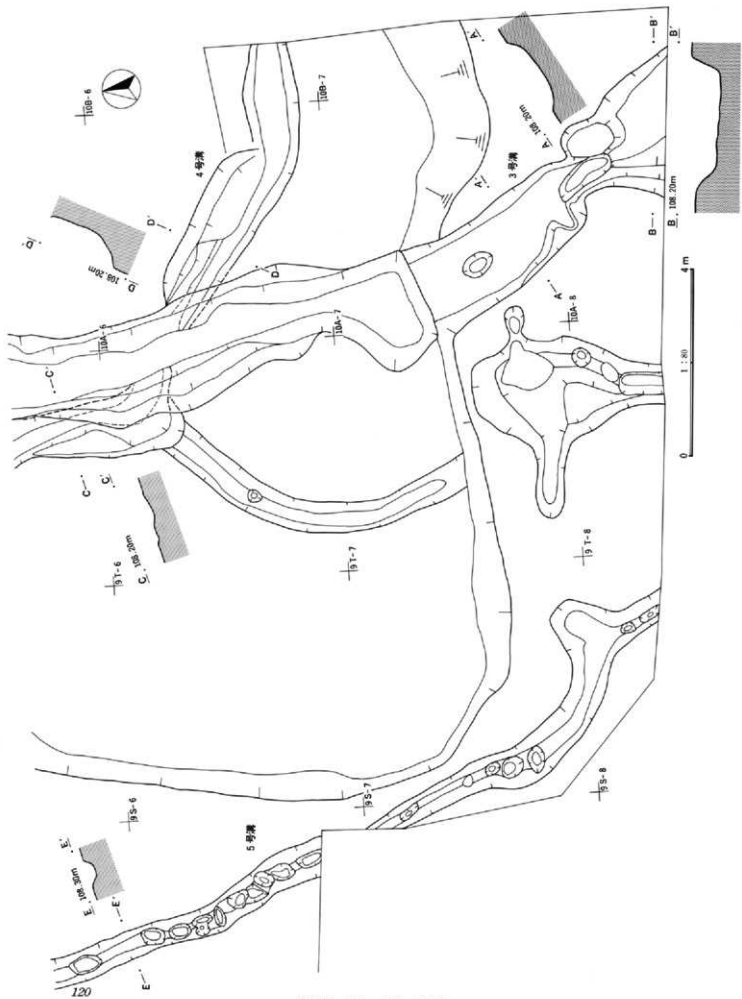
幹排3-2内で検出した。N-75°-E方向に傾く。規模は、確認全長6.4m、幅1.2m、深さ0.16m。傾斜は緩い。

10号溝

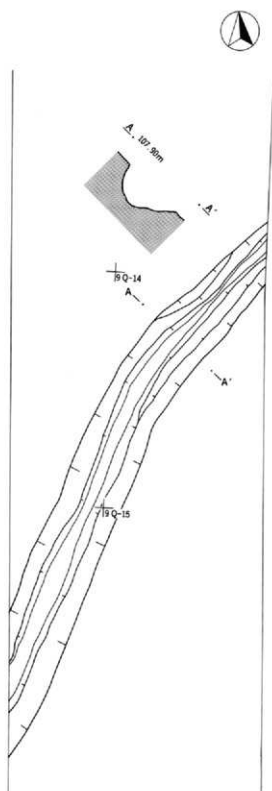
幹排3-2内で検出した。N-57°-E方向に傾く。規模は、確認全長8.8m、幅0.48m、深さ0.06m。傾斜は緩い。



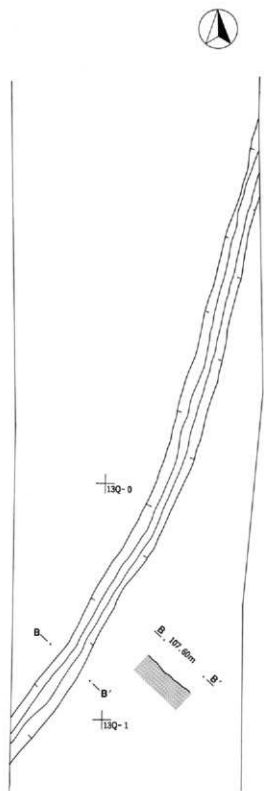
第89図 1号・2号溝



第90图 3号·4号·5号潭



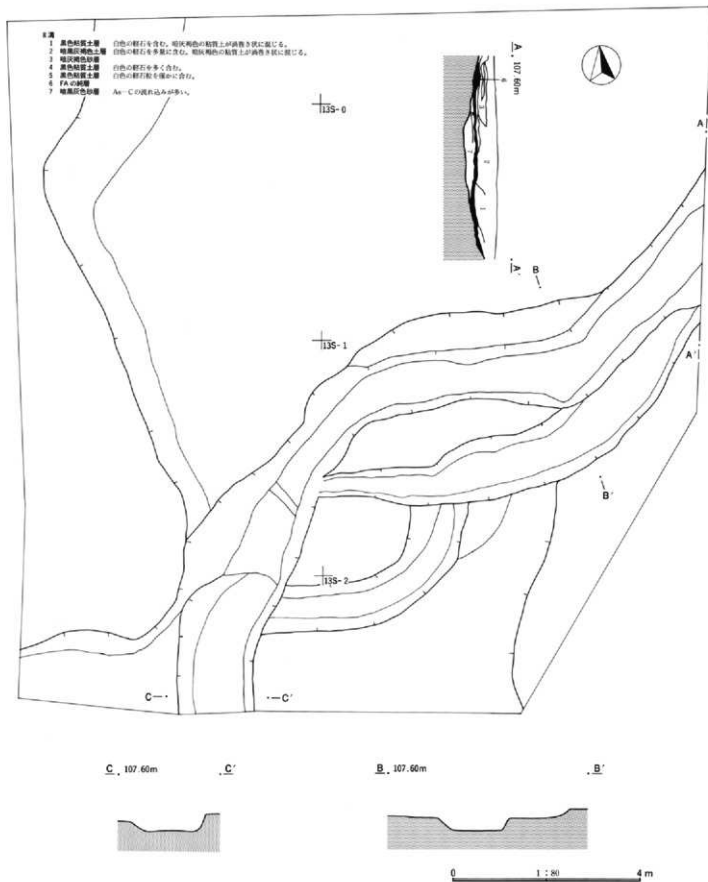
第91図 6号溝



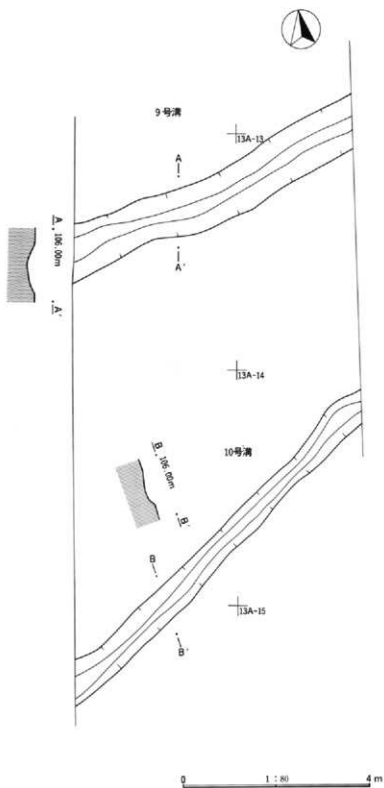
第92図 7号溝

0 1 : 80 4 m

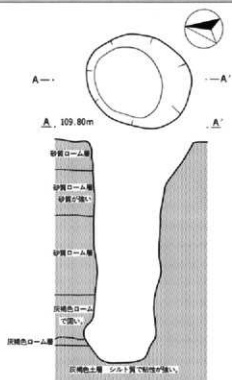
第3章 荒砥下押切口遺跡



第93図 8号溝



第94図 9号・10号溝



第95図 井戸

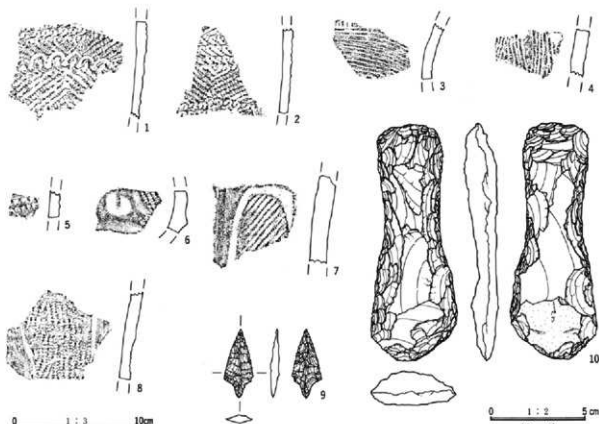
0 1 : 60 1.5m

井戸 (第95図 PL.33)

位置 9D-12グリッドから検出された。8号住居跡の南約1mの所に位置している。

形状 長径1.7m、短径1.45m、深さ3.5mの楕円形を呈している。

時期 不明。

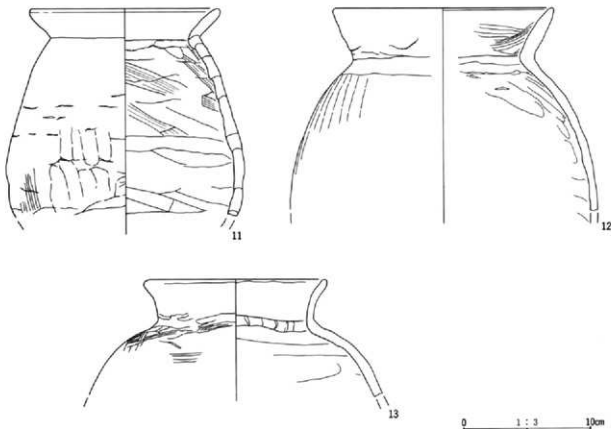


第96図 遺構外出土遺物(1)

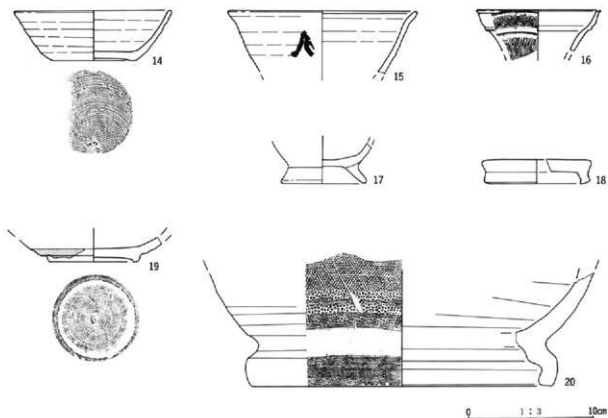
甕底下押切II・遺構外

図番 P L	部位	①粘土 ②構成 (遺 存状況)	成形・器面調整の特徴と色調	文様 (その他)	出土状況
96-1 67	胴部片	①繊維、細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚7~9mm。内面は縦方向の磨き。内外面の色調は明赤褐色。	原体はR $\left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} \right.$ (附付末端)とL $\left\{ \begin{array}{l} R \\ R \end{array} \right.$ を多段施文。コンパス文。	表採 前期間山式
96-2 67	胴部片	①繊維、細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は丁寧な調整。外面の色調は明赤褐色。	原体はR $\left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} \right.$ (附付末端)とL $\left\{ \begin{array}{l} R \\ R \end{array} \right.$ (附付末端)を多段施文。	表採 前期間山式
96-3 67	胴部片	①細砂、褐・白色細 粒物含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面は粗い調整。内外面の色調は褐色。	平載竹管による縦位・横位の集合沈線。	表採 前期諸磯式
96-4 67	胴部片	①中砂、褐・黒色細 粒物含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚1.1cm。内面は粗い調整。外面の色調は褐色。	平載竹管による集合沈線。	表採 前期諸磯式
96-5 67	胴部片	①細砂を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚8mm。内面はやや丁寧な調整。外面の色調は明赤褐色。	竹管による刺突。	表採 中期前半
96-6 67	口縁部片	①細砂を含む ②良	深鉢形土器の口縁部片。器厚9mm。内面は横方向の磨き。外面の色調はぶい黄褐色。	陰帯と縄文施文。原体はL $\left\{ \begin{array}{l} R \\ R \end{array} \right.$	表採 中期加曾利E式
96-7 67	胴部片	①細砂、褐色細粒物 を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚1.4cm。内面は縦方向の磨き。外面の色調は明黄褐色、灰黄色。	縄文施文。原体はR $\left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} \right.$ 沈線。	表採 中期加曾利E式
96-8 67	胴部片	①細砂、白・褐色細 粒物を含む ②良	深鉢形土器の胴部片。器厚9mm。内面は縦方向の磨き。内外面の色調は灰黄褐色。	縄文施文。原体はL $\left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} \right.$ 沈線兼下。	表採 中期加曾利E式

図番 P L	器種	遺存状況	石材	計測値 (cm・g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
96-9 67	有古尖頭 盤	ほぼ完形	チャート	3.6	1.5	0.4	1.4		10L-10 グリッド
96-10 67	打製石斧	完形	黒色頁岩	12.5	4.5	1.8	94	横型。	9C-17 グリッド



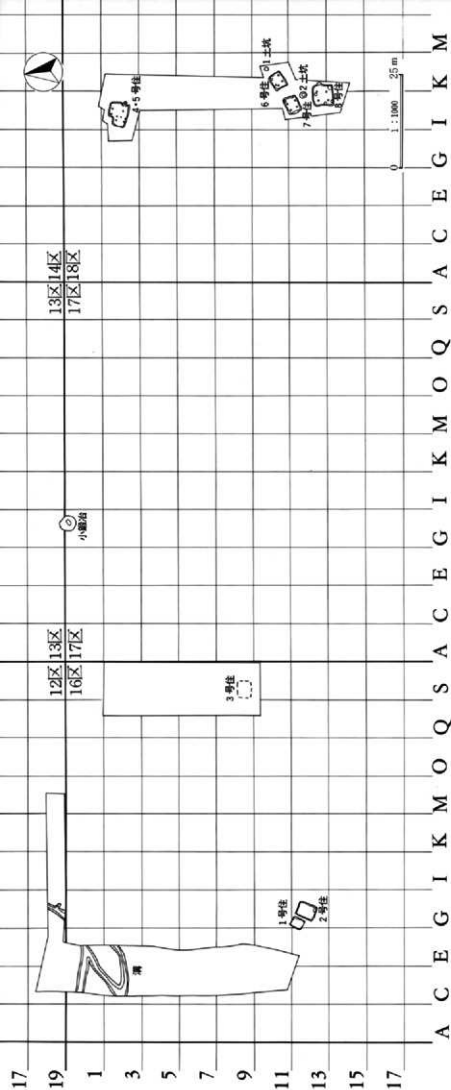
第97図 遺構外出土遺物(2)



第98図 遺構外出土遺物(3)

荒砥下押切II・遺構外

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調			成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
			①胎土	②焼成	③色調			
97-11 67	土師器 甕	①(14.7) ②(16.2)	①中・細砂 ②酸化焙	①黒・褐色細粒物を含む ③明赤褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面掘削り などで。輪模み痕。内面寛なで。輪模み 痕残る。		口縁～胴 部上半	
97-12 67	土師器 甕	①(17.2) ②(15.8)	①細・細砂 ②酸化焙	①黒・褐色細粒物を含む ③明褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面掘削り。 内面寛なで。		口縁～胴 部上半	
97-13 67	土師器 甕	①(7.0) ②(8.9)	①細砂 ②酸化焙	①黒・褐色細粒物を含む ③にぶい黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面掘削り。 内面輪模み痕面著に残る。		口縁～胴 部上半	
98-14 68	須恵器 坏	① 12.5 ② 3.9 ③ 6.6	①細 ②還元焙	①黒色細粒物を含む ③灰色	右回転クロコ整形。底面回転糸切り。	9Q-14	1/2	
98-15 68	須恵器 坏	① 14.0 ②(4.7)	①細 ②還元焙	①黒色細粒物を含む ③灰色	右回転クロコ整形。墨書。		口縁部片	
98-16 68	須恵器 坏	① 9.8 ②(3.2)	①細 ②還元焙	①黒色細粒物を含む ③灰色	口縁部に縞縞状文。	9B-12	口縁部片	
98-17 68	土師器 埴	②(3.2) ③(6.5)	①中・細砂 ②酸化焙	①白・黒色細粒物を含む ③にぶい黄色	高台貼付。	2Q-15	底部片	
98-18 68	須恵器 転用甕	②(1.9) ③ 8.5	①細 ②還元焙	①黒色細粒物を含む ③灰色			底部1/2	
98-19 68	緑 埴	②(1.9) ③(7.0)	①細 ②還元焙	①黒色細粒物を含む ③灰色			底部片	
98-20 68	軟質陶器 火鉢	②(9.0) ③(23.5)	①細 ②還元焙	①黒・灰色細粒物を含む ③褐色	高台外側に漆を施す。近世。		底部	



第4章
荒砥中屋敷Ⅱ遺跡

第95図 荒砥中屋敷Ⅱ遺跡全体図

1

竪穴住居跡

1号住居跡 (第100図 PL34・68)

位置 16F-12、16G-11・12グリッドにかけて検出された。2号住居跡の西約85cmの所に位置している。
形状 長辺3.4m、短辺2.8mの長方形を呈している。
方位 不明。

覆土 黒色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約7~15cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約7.5㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

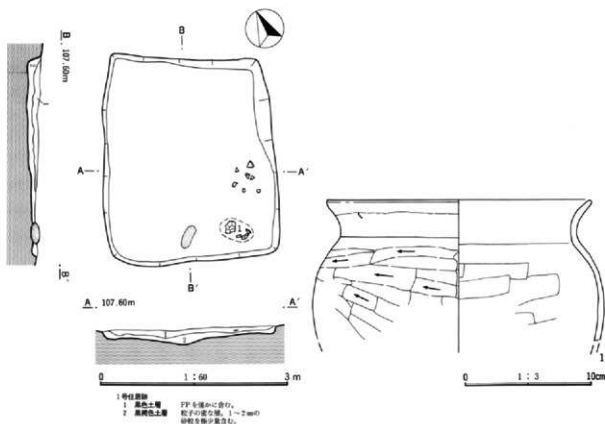
柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から少量の遺物が出土している。

時期 平安時代。

備考 遺物は出土しているものの、竈や柱穴が存在せず一般的な住居になるのかどうかは不明である。



第100図 1号住居跡・出土遺物

荒砥中屋敷II・1号住居跡

図番 P.L.	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②縁高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
100-1 68	土師器 壺	①20.8 ②(11.1)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③黄褐色	口縁部内外面積などで、胴部外面磨削り。 内面蓋などで。	覆土	口縁~胴 部上半

(1) 竪穴住居跡

2号住居跡 (第101・102図 PL.35・58)

位置 16G-12・13、16H-12・13グリッドにかけて検出された。1号住居跡の東約85cmの所に位置している。

形状 長辺5.0m、短辺4.0mの方形を呈している。

方位 N-108°-E

覆土 黒色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約21~45cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約16.6㎡。

周溝 検出できなかった。

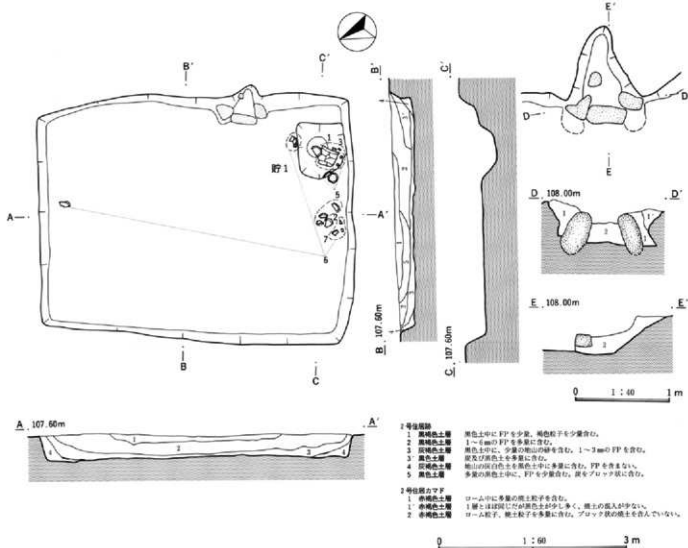
竈 東壁の中央やや南寄り、床面から壁の外に向かって構築されている。竈の規模は、長さ約110cm、幅約90cm、焚き口幅約40cmである。袖石が残っている。

柱穴 検出できなかった。

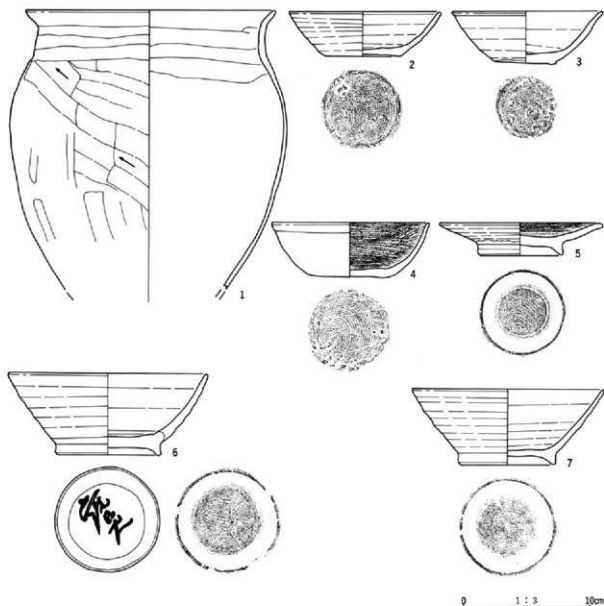
貯蔵穴 竈の右、南東隅付近に存在している。長径86cm、短径76cm、深さ27cmである。

遺物 貯蔵穴を中心に出土している。

時期 平安時代。



第101図 2号住居跡



第102図 2号住居跡出土遺物

荒砥中屋敷II・2号住居跡

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
102-1 68	土器 壺	① 19.6 ② (21.9)	①胎土 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	口縁部内外面積など、胴部外面磨削り。 内面直線で。	貯蔵穴	胴下中部 欠損
102-2 68	須恵器 坏	① 11.3 ② 3.0 ③ 5.9	①中 黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③灰色	回転ロクロ整形。底面回転糸切り。内 面黒色。磨き。	床直上	2/3
102-3 68	須恵器 坏	① 12.0 ② 4.2 ③ 4.7	①細 白色細粒物を含む ②還元焰 ③黄灰色	右回転ロクロ整形。底面回転糸切り。	貯蔵穴	完形
102-4 68	須恵器 坏	① (12.3) ② 4.2 ③ 6.5	①中・細 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③外に黄褐色 内黒色	右回転ロクロ整形。底面回転糸切り。	貯蔵穴	2/3
102-5 68	須恵器 皿	① 13.0 ② 2.6 ③ 6.6	①細 白・黒色細粒物を含む ②還元焰 ③外に黄褐色 内黒色	右回転ロクロ整形。高台貼付。内面黒 色。磨き。	貯蔵穴	完形
102-6 68	須恵器 埴	① 15.8 ② 6.4 ③ 8.4	①中 白色細粒物を含む ②酸化焰 ③に黄褐色	右回転ロクロ整形。高台貼付。墨書。	覆土	ほぼ完形
102-7 68	須恵器 埴	① (15.0) ② 6.0 ③ 7.5	①中 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③褐色	右回転ロクロ整形。高台貼付。周辺な で。	床直上	1/2

3号住居跡 (第103~106図 PL.36・68~70)

位置 16S-9グリッドにおいて検出された。2号住居跡の東北約55mの所に位置している。

形状 長辺・短辺ともに不明である。

方位 不明であるが、ピットの配置状況からN-89°-Eの可能性もある。

覆土 床面上まで掘削されてしまい、堆積状況を確認することはできなかった。

壁高 確認できなかった。

床面 ほぼ平坦である。面積は不明。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかったが、ピットの配置状況から

判断すればP5の北側に存在した可能性が考えられる。

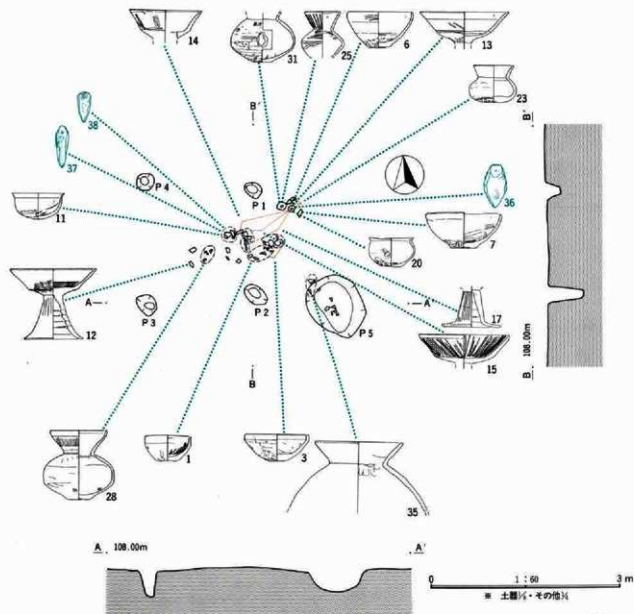
柱穴 5個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1の深さは23cm、P2深さ57cm、P3深さ41cm、P4深さ51cmである。

貯蔵穴 P5が該当する可能性がある。長径100cm、短径85cm、深さ31cmである。

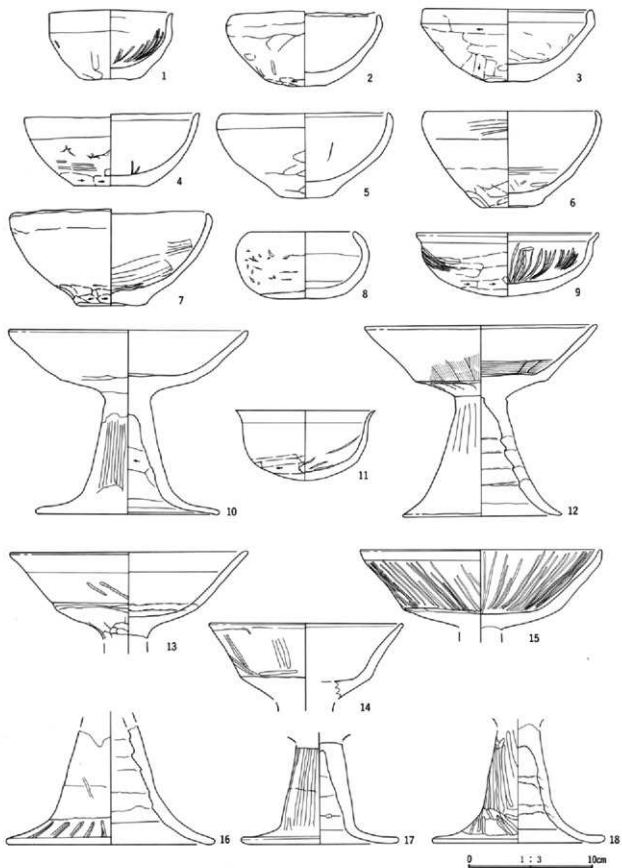
遺物 P1・P2の中間、P5の周辺を中心に出土している。

時期 古墳時代中期 (5世紀後半)。

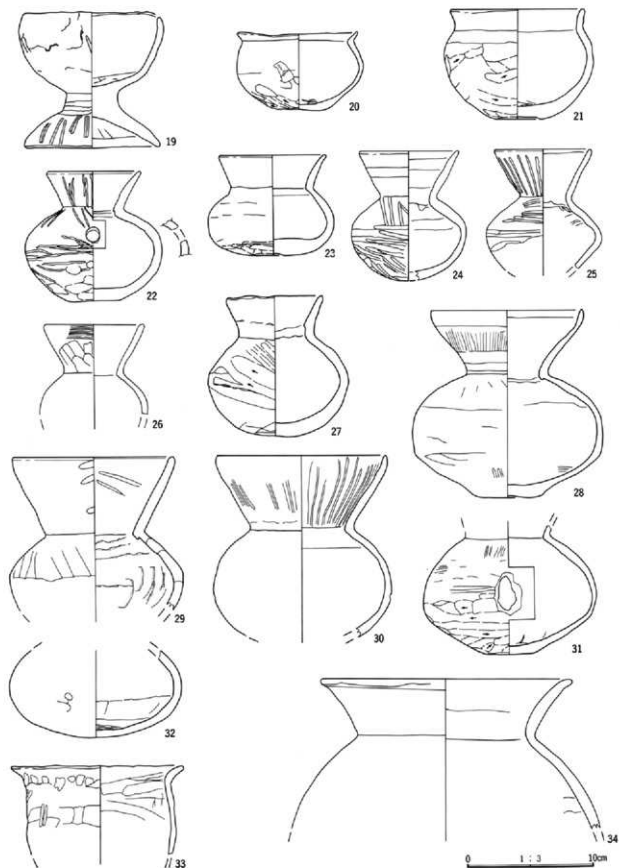
備考 重機によって床面上まで掘削されてしまったために全容を確認することはできなかった。



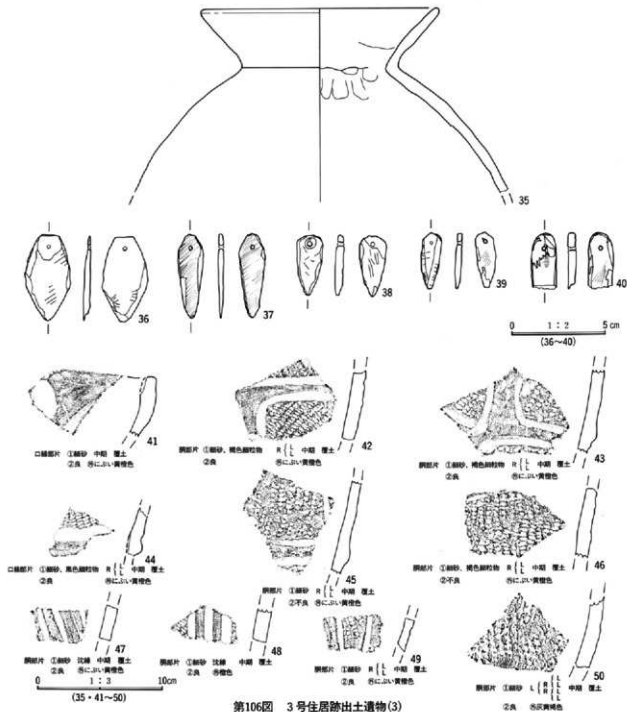
第103図 3号住居跡・遺物分布



第104図 3号住居跡出土遺物(1)



第105图 3号住居跡出土遺物(2)



第106図 3号住居跡出土遺物(3)

荒砥中屋敷II・3号住居跡

図 番 P L	土器種別 器種	注量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調			成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
			①胎土	②焼成	③色調			
104-1 68	土器 器	① (9.6) ② 5.5 ③ 4.5	①細砂 黒・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面直で、口縁部内外面横などで、内面放射状の磨き。底面直で。	覆土	1/3	
104-2 68	土器 器	① 11.7 ② 5.6	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③淡黄色	体部外面直で。内面直で。底面直で。	覆土	2/3	
104-3 68	土器 器	① (13.1) ② 5.7 ③ 3.1	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③淡黄色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面直で、などで、口縁部内外面横などで。内面直で。	床直上	1/2	
104-4 68	土器 器	① 13.8 ② 5.8 ③ 5.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部外面直で、磨き。輪郭直で。口縁部内外面横などで。内面直で。	覆土	4/5	
104-5 68	土器 器	① (13.3) ② 6.7 ③ (4.0)	①細砂 白・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	①細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	体部外面直で、口縁部内外面横などで。内面直で。	覆土	1/3	

図番	P	L	器種	遺存状況	石材	全長	幅	厚	重量	孔径 (cm・g)	出土状況
106-36	69		石製模造品 剣形	完形	滑石	4.5	2.4	0.4	8	0.2	覆土
106-37	69		石製模造品 剣形	完形	滑石	4.4	1.3	0.3	2	0.2	覆土
106-38	69		石製模造品 剣形	完形	滑石	3.2	1.4	0.4	2	0.2	覆土
106-39	69		石製模造品 剣形	完形	滑石	4.5	1.1	0.3	1	0.2	覆土
106-40	69		石製模造品 剣形	先端部欠損	滑石	2.9	1.3	0.4	3	0.2	覆土

4号住居跡 (第107・108図 PL36)

位置 18I-2・3グリッドにおいて検出された。6号住居跡の北約38mの所に位置している。

形状 5号住居跡によって壊されており、全容は不明であるが、一辺3.6mを測る。

方位 不明であるが、ピットの配置状況からN-108°-Eの可能性もある。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約46~59cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約6.3m²。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。5号住居に壊されてしまったものであろう。ピットの配置状況から判断すれば5号住居P2の東側に存在した可能性が考えられる。

柱穴 4個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1の深さは33cm、P2深さ40cm、P3深さ38cm、P4深さ42cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどなかった。

時期 不明。

備考 5号住居によって壊されている。

5号住居跡 (第107・108図 PL36・37)

位置 18I-2・3、18J-2・3グリッドにかけて検出された。6号住居跡の北約38mの所に位置している。

形状 4号住居跡を壊している。長辺約5.2m、短辺約3.9mである。

方位 N-108°-E。

覆土 ローム層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約21~63cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約17.8m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄り、壁を掘り込んで構築されている。竈の規模は、長さ120cm、幅110cm、焚き口幅45cmである。

柱穴 4個のピットが検出された。P1~P4が支柱穴になる。P1の深さは30cm、P2深さ38cm、P3深さ33cm、P4深さ31cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からごく少量の遺物が出土している。

時期 古墳時代。

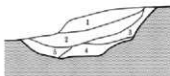
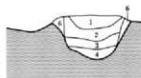
備考 4号住居を壊している。

H, 109.60m

, H'

L, 109.60m

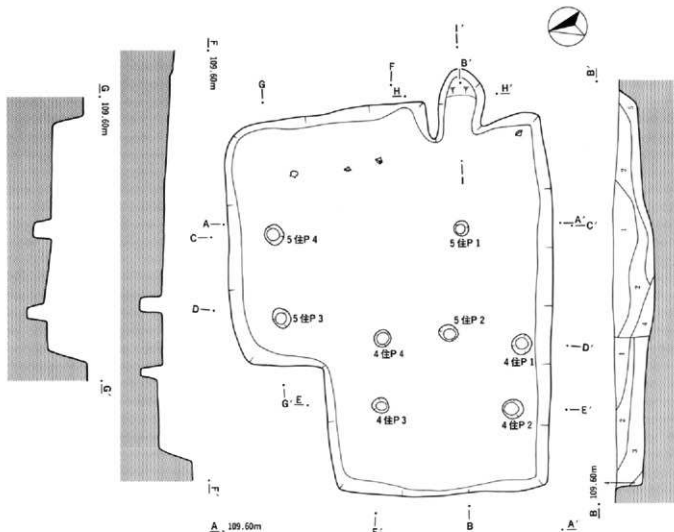
, L'



5号住居カマド

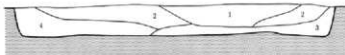
- 1 暗褐色土層 中深く細まり粒状少しあり、PP、焼土粒子を含む。
- 2 深褐色土層 固く細り粒状少しあり、焼土ブロッコ少量、焼土粒子、PPを含む。
- 3 赤褐色土層 やわらかく細り良い、粘性あり、焼土粒子を多量に、炭化物粒子を少量含む。
- 4 赤褐色土層 固く細り粘性あり、焼土ブロッコ、焼土粒子を多量に含む。また炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 やわらかく細り良い、粘性余りない、焼土ブロッコ、焼土粒子を少量、炭化物粒子を多量、灰を含む。
- 6 赤褐色土層 焼土粒子、焼土ブロッコを多量に含む、細り良く、粒状少しあり。

第107図 4号・5号住居跡(1)



4号住居跡

- 1 暗褐色土層 やわらかく粘性ほとんどない。FPを少量含む。
 2 赤色土層 やわらかくマサラしている。FPを少量含む。
 3 暗褐色土層 やわらかく粘り強性少しある。FPを少量含む。また、ローム粘土、焼土粒子、炭化植物子を含む。
 4 灰褐色土層 粘りなくマサラしている。



C, 109.60m

C'

5号住居跡

- 1 赤褐色土層 やわらかく粘り強い。粘性少しあり。FP、焼土粒子を少量含む。
 2 赤褐色土層 1層よりやや粘り強い。やわらかく粘り強い。粘り少しあり。FPを含む。
 3 暗褐色土層 固く粘り強性あり。FP、炭化植物子、焼土粒子を少量含む。
 4 暗褐色土層 固く粘り強くない。FPを少量含む。
 5 赤褐色土層 やわらかく粘り強性少しあり。FPを少量含む。焼土粒子を少量含む。炭化植物子を少量含む。



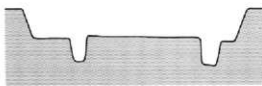
D, 109.60m

D'



E, 109.60m

E'



0 1 : 60 3m

第4章 荒砥中屋敷II遺跡

6号住居跡 (第109・110図 PL.37・70)

位置 18K-11、18L-11グリッドにかけて検出された。

7号住居跡の北東約2.5mの所に位置している。

形状 長辺約4.3m、短辺約3.5mである。

方位 不明。

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約33~44cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約13.2㎡。

周溝 検出できなかった。

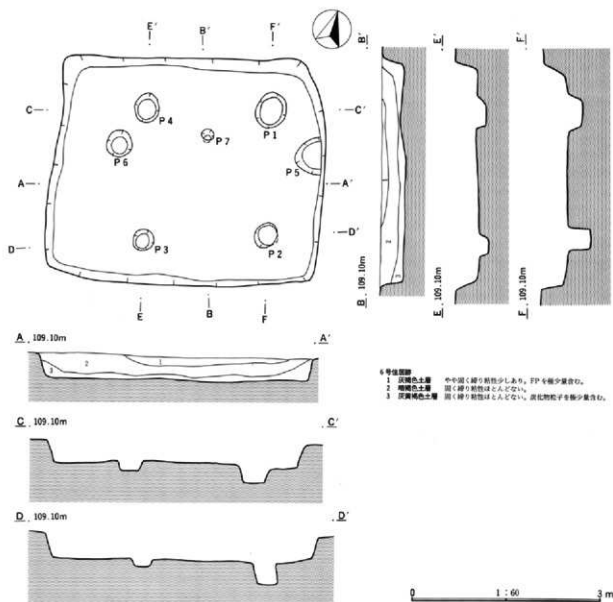
竈 検出できなかった。

柱穴 7個のピットが検出された。P1~P4が主柱穴になるものと考えられる。P1の深さは24cm、P2深さ43cm、P3深さ13cm、P4深さ16cmである。いずれのピットも規模はやや大きいものの比較的浅い。P5は深さ24cm、P6深さ27cm、P7深さ20cmである。

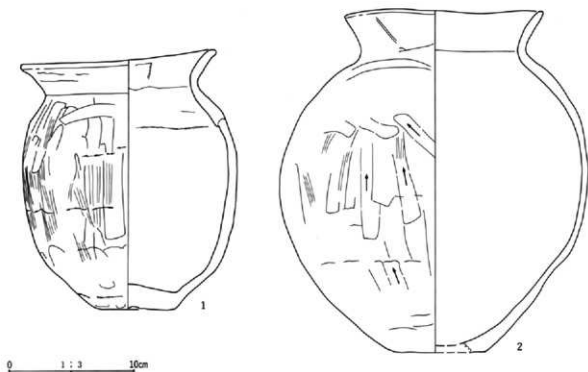
貯蔵穴 P5が該当するかもしれないが、明瞭ではない。

遺物 覆土から少量の遺物が出土している。

時期 古墳時代。



第109図 6号住居跡



第110図 6号住居跡出土遺物

高塚中層敷II・6号住居跡

図 番 P L	土器種別 器 種	法 量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調			成・整形技法の特徴	出 土 状 況	残存状況
			①粗・細砂	②酸化焰	③黒褐色			
110-1 70	土 師 器 罎	①(15.3)②20.4 ③ (6.6)	①粗・細砂	②酸化焰	③黒褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面横なで、磨き。内面横なで。	覆土	3/4
110-2 70	土 師 器 罎	①(15.6)②27.0 ③ (7.2)	①粗・細砂	②酸化焰	③黒褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面横削り、輪積み瓶。内面横なで。	覆土	2/3

7号住居跡 (第111・112図 PL37・38・70)

位置 18I-12、18J-11-12グリッドにかけて検出された。6号住居跡の南西約2.5mの所に位置している。

形状 長辺4.7m、短辺3.6mの長方形を呈している。

方位 N-85°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約39~61cmで床面に達する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は約12.7㎡。

周溝 検出できなかった。

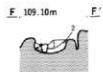
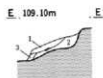
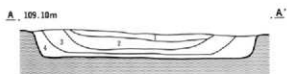
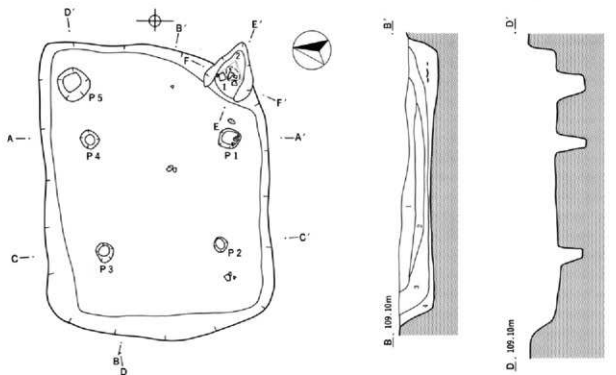
竈 南東隅から壁の外に向かって構築されている。竈の規模は、長さ約95cm、幅約80cm、焚き口幅約40cmである。

柱穴 5個のピットが検出された。P1~P4が主柱穴になる。P1の深さは25cm、P2深さ37cm、P3深さ37cm、P4深さ46cm、P5は貯蔵穴になる。

貯蔵穴 P5が該当する。長径50cm、短径48cm、深さ46cmである。

遺物 竈内から出土している。

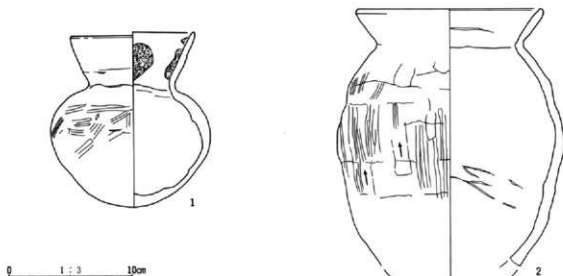
時期 古墳時代。



- 7号住居跡
- 1 赤褐色土層 やわらかくサラサラしている。FPを少量含む。
 - 2 黒土層 やわらかくサラサラしている。FPを少量含む。
 - 3 暗褐色土層 やわらかくサラサラしている。FPを少量含む。
 - 4 灰黒褐色土層 炭化物粒子を極少量含む。
- 7号住居カマド
- 1 赤褐色土層 やや固く粘りあり。焼土ブツ、焼土粒子を少量含む。
 - 2 赤褐色土層 やや固く粘り粘り性少しあり。焼土粒子を少量含む。1層より暗い色調。
 - 3 黒褐色土層 やや固く粘り粘り性少しあり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。



第111図 7号住居跡



第112図 7号住居跡出土遺物

京延中屋敷Ⅱ・7号住居跡

図 番 し P	土器種別 器 種	法 量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調			成・整形技法の特徴	出 土 状 況	残存状況
			①胎土	②焼成	③色調			
112-1 70	土 師 器 罎	① 9.9 ②13.7	①細砂 黒・白色細粒物を含む	②酸化焰	③浅黄褐色	口縁部内外面横なで、胴部外面横なで、磨き。内面なで。	カマド 内	完形
112-2 70	土 師 器 壺	①(14.2) ②(20.2)	①粗・細砂 褐・白色細粒物を含む	②酸化焰	③灰黄褐色	口縁部内外面横なで。胴部外面磨削り後、磨き。輪積み痕。内面横なで。	カマド 内	1/2

8号住居跡(第113~115図 PL.39・70・71)

位置 18J-13-14、18K-13-14グリッドにかけて検出された。7号住居跡の南約4mの所に位置している。

形状 長辺5.6m、短辺5.3mの方形を呈している。

方位 N-93°-E

覆土 ローム層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約35~72cmで床面に達する。床面からほぼ垂直に立ち上がる。

床面 やや凹凸が認められる。面積は約26.2㎡。

周溝 検出できなかった。

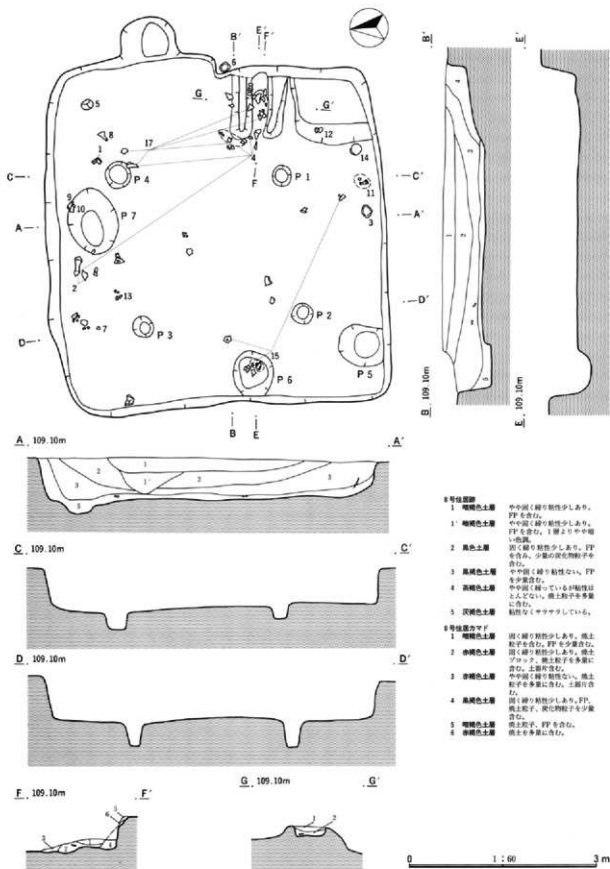
竈 東壁のやや南寄り、壁の内側に構築されている。竈の規模は、長さ約105cm、幅約80cm、焚き口幅約20cmである。

柱穴 7個のピットが検出された。P1~P4が主柱穴になる。P1の深さは37cm、P2深さ41cm、P3深さ35cm、P4深さ26cmである。P5深さ31cm、P6深さ17cm、P7深さ29cmである。

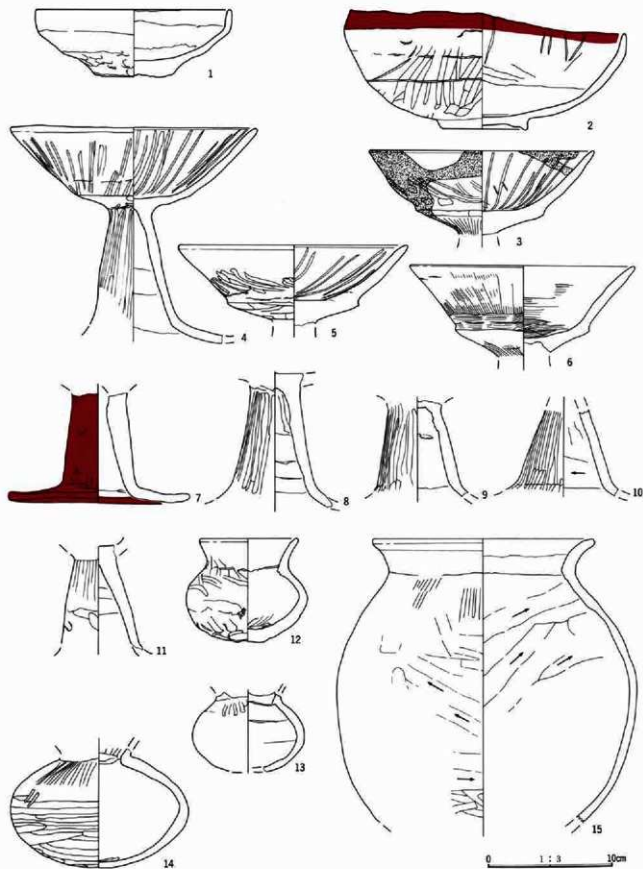
貯蔵穴 竈の右、南東隅に存在する。長径105cm、短径100cm、深さ34cmである。

遺物 竈内や床直上から少量出土している。

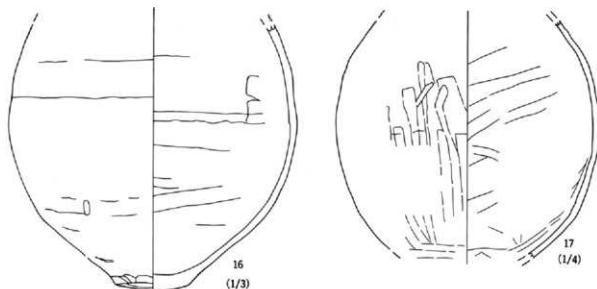
時期 古墳時代中期(5世紀後半)。



第113図 8号住居跡



第114图 8号住居跡出土遺物(1)



第115図 8号住居跡出土遺物(2)

荒砥中屋敷II・8号住居跡

図 番 P L	土器種 類	法 量 (cm) ①口径 ②高さ ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出 土 状 況	残存状況
114-1 70	土 器 鉢	①(15.6)② 5.3 ③ (6.0)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面磨んで、口縁部内外面横などで、 内面荒れている。底面磨んで。	覆土	1/2
114-2 70	土 器 鉢	①(19.7)② 9.3 ③ 6.6	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	体部外面磨削り後、などで、輪積み痕。 口縁部内外面横などで、内面磨んで、底 面磨削り。赤色塗彩。	床直上	2/3
114-3 70	土 器 高 鉢	① 17.5 ② (6.5)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面磨き。口縁部内外面横などで、 内面放射状の磨き。	覆土	脚部欠損
114-4 70	土 器 高 鉢	① 19.6 ②(16.7)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	坏部外面縦方向の磨き。内面放射状の 磨き。脚部外面磨き。内面磨削り。 絞り目。	カマド	3/4
114-5 70	土 器 高 鉢	① 18.4 ② (6.1)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	坏部外面磨削り後、磨き。口縁部内外 面放射状の磨き。	床直上	脚部欠損
114-6 70	土 器 高 鉢	① 17.5 ② (7.1)	①中・細砂 黒・褐色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	坏部外面刷毛目状の整形。口縁部内外 面横などで、内面刷毛目状の整形。	カマド	坏部3/4
114-7 70	土 器 高 鉢	① (8.6) ② 14.4	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③浅黄褐色	脚部外面磨んで、内面磨削り後、などで、 部部内外面など。赤色塗彩。	床直上	脚部4/5
114-8 70	土 器 高 鉢	②(10.4)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	脚部外面磨き。内面輪積み痕、絞り 目が残る。	床直上	脚部
114-9 70	土 器 高 鉢	② (7.0)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい褐色	脚部外面縦方向の磨き。内面磨削り、 などで。	床直上	脚部1/2
114-10 70	土 器 高 鉢	② (6.8)	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③赤褐色	脚部外面縦方向の磨き。内面磨削り、 絞り目。	床直上	脚部1/2
114-11 70	土 器 高 鉢	② (8.1)	①細砂 褐・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	脚部外面磨んで、磨き。内面磨削り。	覆土	脚部1/3
114-12 71	土 器 甕	① 7.8 ② 8.2	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明黄褐色	口縁部内外面横などで、胴部外面磨んで、 輪積み痕。内面磨んで。	貯蔵穴	ほぼ完形
114-13 71	土 器 甕	② (6.1)	①細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	胴部外面磨んで、内面輪積み痕が残る。	床直上	1/4
114-14 71	土 器 甕	② (9.3) ③ 2.0	①細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面磨削り後、上半縦方向、下半 横方向の磨き。内面磨んで。	覆土	口縁部欠 損
114-15 71	土 器 甕	① 17.0 ②(22.4)	①細砂 褐・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③橙色	口縁部内外面磨んで、胴部外面磨削り、 磨き。内面磨削り。	覆土	1/4
115-16 71	土 器 甕	②(20.7) ③ 5.4	①中・細砂 白・黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴部外面磨んで、輪積み痕が残る。内面 磨んで。輪積みが残る。	覆土	胴～底部 まで
115-17 71	土 器 甕	②(24.2)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	胴部外面磨削り。内面磨んで。	床直上 カマド	胴部1/4

小鍛冶 (第116~119回 PL.40・71)

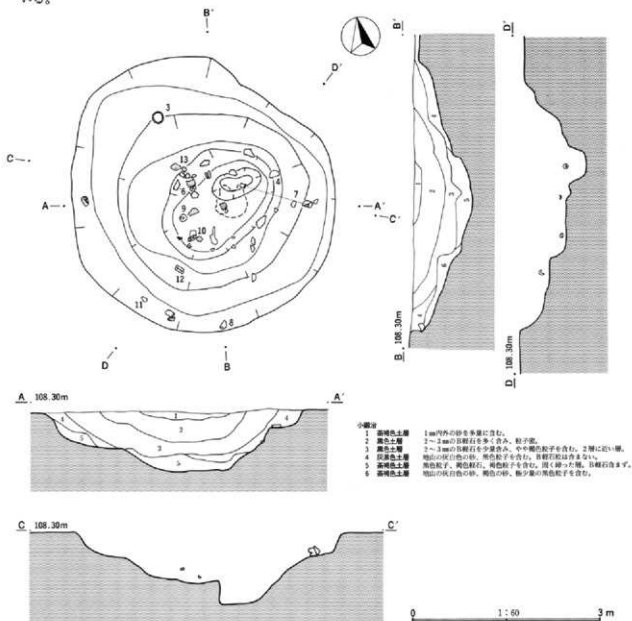
位置 13G-19、13K-19、17G-0、17K-0グリッドにかけて検出された。3号住居跡の北東約60mのところ

に位置している。
形状 長径4.5m、短径4.2m、深さ約1mの楕円形を呈している。2段に掘り込まれている。

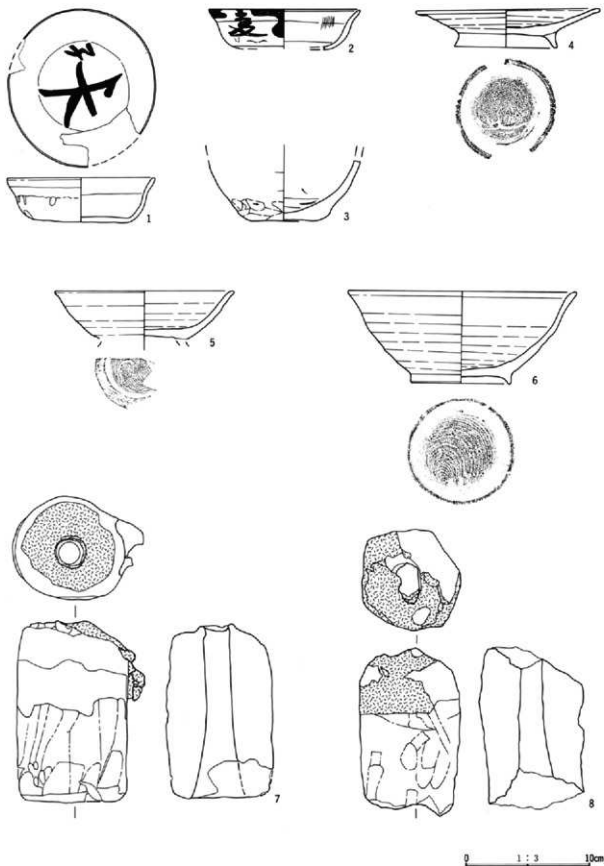
覆土 6層に分かれた。2・3層にAs-Bが混入している。

遺物 5・6層を中心に鉄碎とともに出土している。

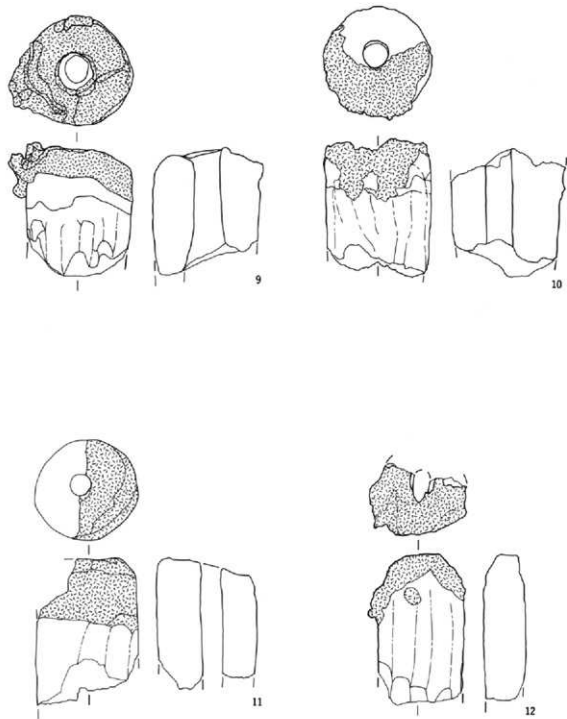
時期 平安時代。



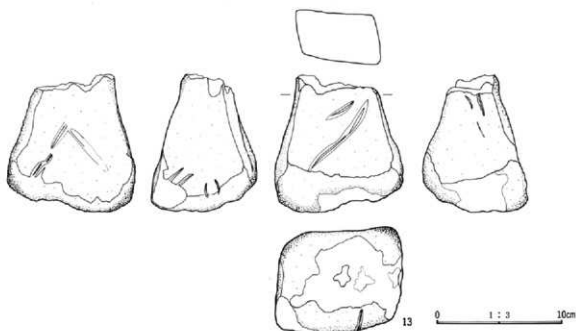
第116回 小鍛冶



第117図 小鍛冶出土遺物(1)



第118図 小鍛冶出土遺物(2)



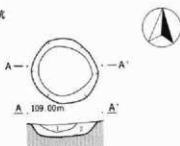
第119図 小鍛冶出土遺物(3)

荒砥中屋敷II・小鍛冶遺構

図番 P L	土器種別 器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法の特徴	出土 状況	残存状況
117-1 71	土師器 坏	① 11.6 ② 3.5 ③ 7.9	①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③にぶい橙色	体部など。口縁部内外面横などで。内面 などで。底面削り。磨面。		4/5
117-2 71	土師器 坏	①(12.0) ②(3.1)	①細砂 黒色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	体部など。口縁部内外面横などで。底部 削り。磨面。		1/4
117-3 71	土師器 甕	②(4.8) ③(5.2)	①中・細砂 黒・白色細粒物を含む ②酸化焰 ③明赤褐色	胴下半部など。内面横などで。底面削 り。		胴下半部
117-4 71	須恵器 皿	① 14.7 ② 3.0 ③ 8.0	①中・細砂 褐・黒色細粒物を含む ②還元焰 ③灰オリーブ色	右回転クロコ整形。高台貼付。		ほぼ完形
117-5 71	須恵器 埴	① 14.3 ②(4.0) ③ 6.5	①細 褐・黒色細粒物を含む ②還元焰 ③灰白色	右回転クロコ整形。高台貼付。		1/4
117-6 71	須恵器 埴	① 18.0 ② 7.2 ③ 7.8	①細 白・黒色細粒物を含む ②還元焰 ③灰白色	右回転クロコ整形。高台貼付。		2/3
117-7 71	羽 口	長 14.1 幅 8.7 厚 8.4	①白色粒子・灰物粒を含む ②硬 ③褐色	先端に硬化発泡し、鉄分の滓物付着。	覆土下 層	ほぼ完形
117-8 71	羽 口	長(12.3) 幅 7.9 厚 7.9	①白色粒子・灰物粒を含む ②硬 ③褐色	先端に硬化物付着。	壁寄り	ほぼ完形
118-9 71	羽 口	長(10.0) 幅 8.5 厚 8.5	①白色粒子・灰物粒を含む ②硬 ③にぶい黄褐色	先端に硬化発泡し、鉄分の滓物付着。	覆土下 層	2/3
118-10 71	羽 口	長(9.0) 幅 8.4 厚 8.9	①白色粒子・灰物粒を含む ②硬 ③浅黄褐色	先端に硬化物付着。	覆土中 層	3/4
118-11 71	羽 口	長(10.4) 幅 8.0 厚 7.9	①白色粒子・灰物粒を含む ②硬 ③褐色	先端に硬化物付着。	覆土上 層	2/3
118-12 71	羽 口	長(11.5) 幅(7.8)厚(3.4)	①白色粒子・灰物粒を含む ②硬 ③にぶい黄褐色	先端に硬化発泡し、鉄分の滓物付着。	壁寄り	1/2

図番 P L	器種	遺存状況	石 材	計 測 値 (cm・g)				特 徴	出土状況
				全長	幅	厚	重量		
119-13 71	砥石	部分	磐岩	10.8	10.0	8.3	670	4面使用。	壁土

1号土坑



1号土坑

- 1 暗褐色土層 中や細く粒まわり粘性はほとんどない。PPを少量含む。
2 暗褐色土層 粗らかく粒まわり良い。粘性少しあり。

1号土坑 (第120図 PL41)

位置 18L-10グリッドにおいて検出された。6号住居跡の北東約1.5mの所に位置している。

形状 長径約105cm、短径約98cm、深さ約18cmのほぼ円形を呈している。

覆土 2層に分かれた。

遺物 出土していない。

時期 不明。

2号土坑



2号土坑

- 1 暗褐色土層 中や細く粒まわり粘性はほとんどない。PPを少量含む。
2 暗褐色土層 粗く粒まわり良好ない。PPを少量含む。
3 暗褐色土層 中や細く粒まわり粘性はほとんどない。PPを少量含む。

0 1:60 3m

2号土坑 (第120図 PL41)

位置 18J-12グリッドにおいて検出された。7号住居跡の南約1.3mの所に位置している。

形状 長径約180cm、短径約150cm、深さ約55cmの楕円形を呈している。

覆土 3層に分かれた。

遺物 出土していない。

時期 不明。

第120図 1号・2号土坑

支溝29号発掘区検出の溝 (第121・122図 PL41~43)

覆土 にAs-C層を含む溝

位置 16C-0~16F-0グリッドにかけて検出された。覆土にAs-B層を含む溝によって壊されている。1号住居跡の北北西約55mのところに位置している。

形状 幅160~220cm、深さ40~80cm、長さ約28m、調査区域外に延びている。

覆土 上層にAs-C層が堆積している。

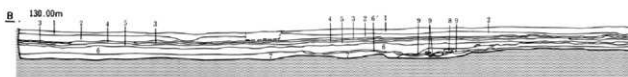
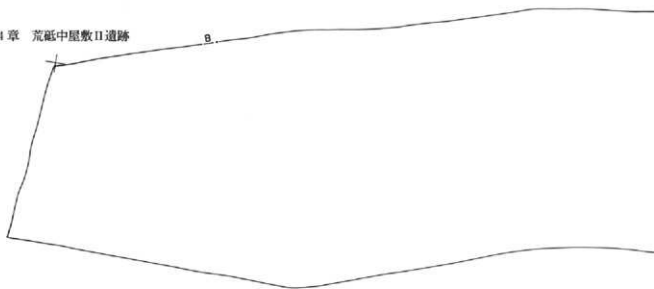
遺物 出土していない。

時期 As-Cを含むことから4世紀代にはすでに埋没していた溝である。

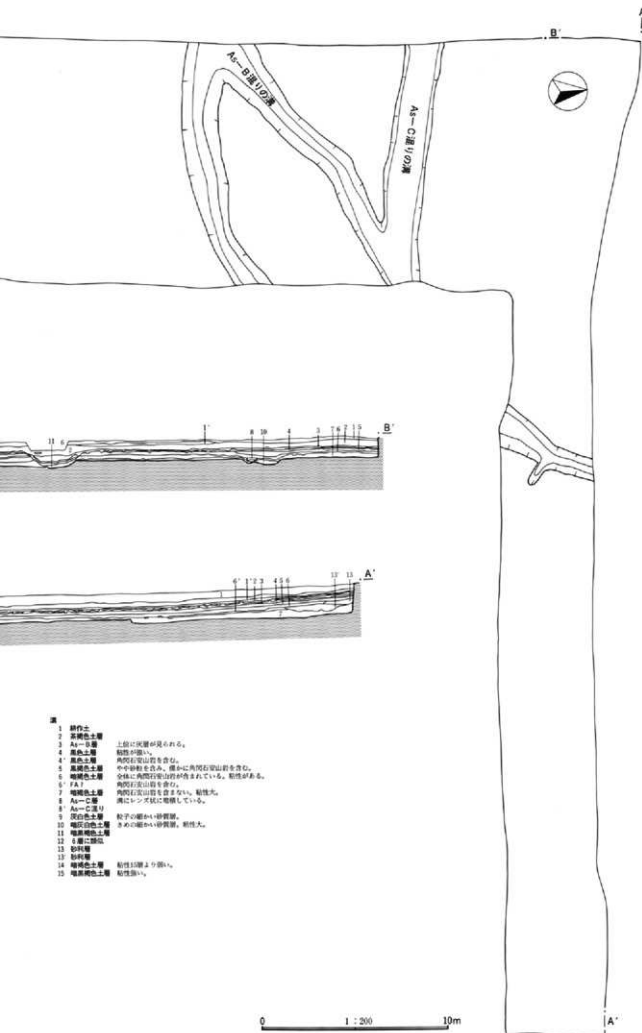
覆土 にAs-B層を含む溝

位置 16C-2・3、16D-1~3、16E-1~3、16D-1・2グリッドにかけて検出された。覆土にAs-C層を含む溝を壊している。1号住居跡の北北西約45mのところに位置している。

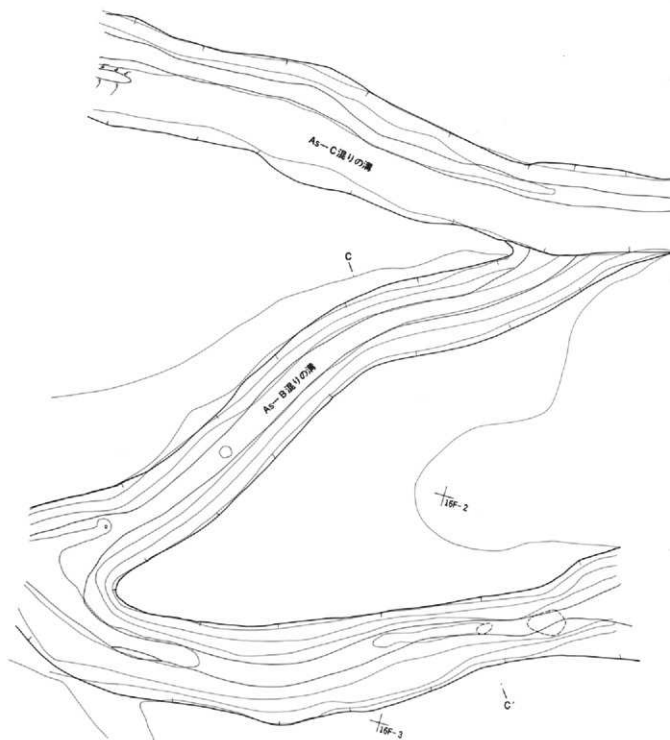
形状 発掘区で分岐している。北側は幅152~180cm、深さ100cm、長さ約16m、調査区域外に延びている。南側も北側と同様に幅152~220cm、深さ100cm、長さ

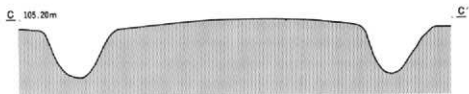
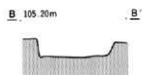
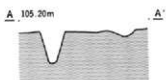
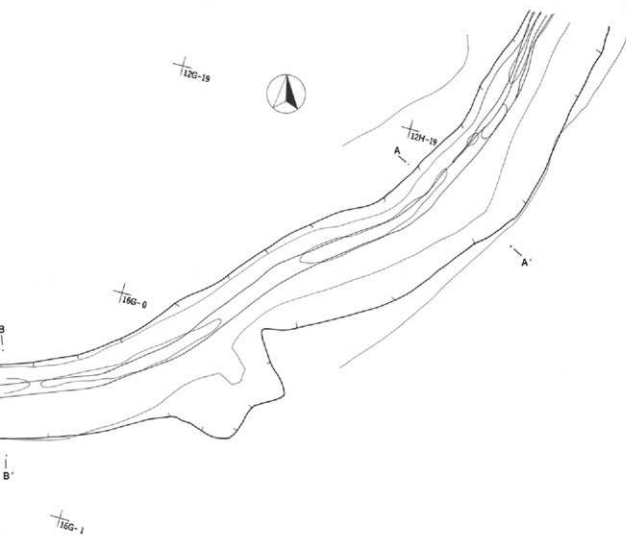


第121図 支排29号発掘区



- 土
- 1 耕作土
 - 2 赤褐色土層 上部に灰層が見られる。
 - 3 As-B層 上部に灰層が見られる。
 - 4 黄褐色土層 粘性が強い。
 - 5 黄褐色土層 黄褐色山砂を含み。
 - 6 黄褐色土層 やや砂粒を含み、僅かに黄褐色山砂を含む。
 - 7 暗褐色土層 全体に黄褐色山砂が含まれている。粘性がある。
 - 8 As-C層 黄褐色山砂を含む。
 - 9 暗褐色土層 黄褐色山砂を含まない。粘性大。
 - 10 As-C層 溝にレンズ状に埋まっている。
 - 11 As-C層
 - 12 灰白色土層 砂子の細かい砂質層。
 - 13 暗褐色土層 砂の細かい砂質層、粘性大。
 - 14 暗褐色土層
 - 15 暗褐色土層 粘性が強い。





13m、調査区域外に延びている。

覆土 中層にAs-Bの純層が堆積している。

遺物 出土していない。

時期 As-Bの純層を含むことから、1108年以前にはすでに埋没していた溝である。

8号住居跡出土の石製紡錘車について

8号住居跡から9個の石製紡錘車が出土している。このように一軒の住居から大量に出土した例は県内はもとより、国内でも例を見ないであろう。

県内の出土紡錘車の検討から、9個の紡錘車に見られる形や整形の特色と一住居から出土した9個という出土量がとび抜けて多いことを説明する。そしてこの9個の紡錘車は土製から石製へ、断面形が長方形から台形へと変化し登場する第2段階の紡錘車中で、最も古い一群の製品であることを紹介する。

8号住居の概要

本報告書で詳しく報告されているように極めて大きな竪穴住居であり、出土遺物の多さも群を抜いて多い。深い6本の柱を持ち、規模は10m×10.2mである。この規模以上の住居は県内では尾島町の尾島工業団地OK-C1号住居、新里村十二社遺跡H-365号住居、富岡市阿曾岡・権現堂遺跡II区96号住居、吉井町多比良押道良野遺跡D区140号住居の4軒が知られる程度である。出土遺物は9個の紡錘車を始めとして高さ60.6cmの大きな甕や多量の坏・高坏・甕・壺・石製模造品等が出土しており、本書の中で118個報告されている。いずれにしてもこの地域の中で卓越した力を持っていたことを示している。

県内の紡錘車の動向

県内出土紡錘車は材質や形の変化から大きく3段階に分けられる。

- 1段階 材質が土製で断面形が長方形
(弥生時代～古墳時代前期)
- 2段階 材質が石製で断面形が台形
(古墳時代中期～奈良時代)
- 3段階 材質が石製で断面形が台形+鉄製の紡錘車
(平安時代)

さらに約100年を単位として変化を表現したのが次の表である。

表で明らかのように、第1段階の弥生時代から古墳時代の前期までは土製で長方形の紡錘車が圧倒的に多く、石製で長方形のものは使われていない。ほかに三角形で土製のものと石製のものが少量使われている。第2段階の古墳時代中期になると当遺跡8号住居で出土している断面台形の石製紡錘車が使われるようになり、以後平安時代まで主体的に使われている。鉄製の紡錘車は古墳時代後期で一部使用され、奈良時代からしだいに多くなり、第3段階の平安時代に一気に増加し10世紀以降石製紡錘車を追い抜き、紡錘車の主体となっている。しかし鉄製紡錘車の出現で石製紡錘車は減少しているが、消滅することなく両者とも継続的に使われている⁽²⁾。

表で明らかのように古墳時代中期の石製紡錘車は32個出土しており、当遺跡出土の10個の紡錘車はこの時期の県内全体の中で約30パーセントを占めている。また狭面端部に肩を持つ特色や伴出土器の特色からこの9個の紡錘車は第2段階における最も古い出土例の中に数えられる。

次に一軒の住居からの出土量では県内で最も大量の9個出土していることについて、比較検討する。

8号住居からは9個という大量の完形品の紡錘車が出土している。一般的に紡錘車は竪穴住居等から単体で出土することが多く、その中で複数出土した例は以下のわずか39軒であり、総数にして90個にすぎない。2個出土した例は29軒、3個出土した例は8軒、4個出土した例はわずか2軒である。5個以上出土している例は全く確認されていない。このような状況下で、一軒から9個しかも全て完形で出土していることは極めて特殊な状況である。

8号住居出土の9個の紡錘車の特色

このような状況のなかでの8号住居出土9個の石製紡錘車の特色について検討する。

- (1) 全て完形品であり、全体に薄い製品が多い。
- (2) 同一住居出土にもかかわらず、形や大きさや重量の同じものはない。

- (3) 広面・狭面・側面に描かれている文様は全て独特の文様となっており、それぞれのデザインを持っている。
- (4) この時期の紡錘車の特色は、側面と狭面が接する側面に肩部を持つことである。この肩部が明瞭であるかないかは別にして9個全ての紡錘車で認められる。遺物番号97・99・104にその肩部が明瞭に造り出されている。
- (5) 材質は全て石材であり、石材は8個が蛇紋岩で滑石片岩は1個である。

古墳時代中期における衣食住の変化

8号住居は、甕を持ち数種類の多くの坏、甕に架けて使用する壺を持っている。これらの特徴はそれ以前の住居には、認められなかった。この住居の時期を中期のどの段階に位置付けるかは、今後の課題であるが、このような生活様式の大きな変化の中の一つとして、食住の変化だけでなく、衣類の生産にも変化をもたらし、新たな糸生産の道具として石製紡錘車が採用されていったものと思われる。

また糸生産に必要な紡錘車だけでなく、布生産のための機織機も古墳中期で大きく変化し生産力を飛躍的に向上させている。これは従来弥生機あるいは原始機と呼ばれている機織（無機台買刀杆機）とは別に上細井機と呼ばれている機織（有機台買刀杆機）が新たに採用されてきたからである。原始機とは、布を織るためのセットがそれを支える台を用いなくて、織る経糸の先端を木や柱に縛り付け固定する。織り上がりつつある布を腰の手に布巻具を用いて巻取り腰に縛り付けて固定する。そして奇数又は偶数の経糸を中筒と綜統を用いて交互に手で持ち上げて開口し、そこに横糸を刀杆で打って布を織る原始的な布生産である。これに対し上細井機とは布を織るためのセットは基本的に同じであるが、経糸を巻き取ってある経巻具と奇数と偶数の糸を分けて口を開けさせる中筒を台に固定し、手で持ち上げていた綜統を台に固定したマネキで持ち上げて開口し、そこに横糸を刀杆で打って布生産をおこなってゆく構造である。手を用いて綜統を持ち上げること、また中

筒を立てたり横にしたりする2工程が省略出来る。

この上細井機とは、群馬県前橋市上細井町稲荷山古墳（古墳時代中期前半）から出土した石製模造品（布巻具・中筒・緯打具・腰掛）をもとに考えられている。

このように古墳時代中期前半から後半にかけての時期に糸や布生産に関する大きな変革が訪れている。

この変化の兆候を石製紡錘車の出現という形でいち早く集落に反映されているのが、この8号住居の紡錘車である。

8号住居跡出土の石製紡錘車について

以上述べてきたように、当遺跡8号住居出土の石製紡錘車は、県内における第2段階の石製紡錘車出現段階の良好な資料である⁽²⁾。出土した住居が県内でも5番目の大きさを持つこと、また例のない9個の紡錘車を所有していたこと等通常でない出土状態を示しているが、新しい技術をもって始まる糸と布生産の一つのあり方を暗示している。古墳時代中期は衣食住を含めて大きく変化している社会である。この8号住居出土の石製紡錘車は、その変化の一端を強く物語る非常に貴重な出土例である。

註

- (1) 『古墳時代の家屋居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会群馬県実行委員会 1998の資料による。
- (2) 中沢 悟「紡錘車の基礎研究1」研究紀要13（財）群馬県埋蔵文化財調査事業 1996 参照
- (3) 当遺跡8号住居出土の紡錘車は、第2段階の中で古い一群ではあるが、この段階の最も古い石製紡錘車とは考えていない。より古い例として、西岡約700mに位置する茨城上ノ坊遺跡1区42号住居出土の石製紡錘車が、形や伴出遺物からみてもより古いものと思われる。他にも数例存在しているものも考えている。

参考文献

- 小林 行雄「古代の技術」昭和37年
竹内 晶子「弥生の布を織る」1989

(中沢 悟)

群馬県内における紡錘車の変遷

段 階		第 1 段 階			第 2 段 階			第 3 段 階			計		
時 代		弥生時代		古 墳 時 代			奈良時代	平 安 時 代					
世 紀		2 ~ 3		4	5	6	7	8	9	10		11	
材質		断面形	中期	後期	前期	中期	後期前半	後期後半		前期		中期	後期
土	三角形			9	3								12
	長方形		4	67	32	3	2	1	5	13	4	2	133
	薄台形			2	2		2	2	2	15	5		30
	厚台形				3	1	13	3	3	2			25
石	三角形			5	1	1							7
	長方形						3	1	9	9		1	23
	薄台形					24	44	23	88	83	24	1	287
	厚台形					8	73	41	51	31	10	4	218
鉄							2	4	6	50	32	8	102
合 計			4	83	41	37	139	75	164	203	75	16	837

※表中の数字は紡錘車の出土数を表す。

※ 6世紀代の土製の厚台形の紡錘車がやや多く使われているのは、形が石製の厚台形に非常に近いため、それを補充するために使用されたことが考えられる。当遺跡でも6世紀初頭と思われる3号住居から土製で厚台形の紡錘車が出土している。

※ 9世紀代に土製で長方形と薄台形（整形でこのような形になっているが基本的には長方形である）の紡錘車がやや多く使用されているのは、この頃から須恵器や土師器の破片を再利用して紡錘車を造っている土器転用紡錘車が使われているためである。

※ 8～9世紀段階に石製で断面長方形の紡錘車が少量ながら存在する。これはやや異質に思えるが、矢田遺跡では文字の書かれたものもあり、一時期使われていたようである。

同一住居から訪録車が3個出土した住居

当町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構 内出土 土器	最大 径 cm	最大 径 cm	厚さ cm	口径 cm	重量g	器 量 分	保存形態	時期	備考	
高崎市	朝久保遺跡	65号住居	石(礫石)	薄台形	3	中	4.8	3.2	1.6	0.9		完形	8世紀後半	文字刻	
〃	〃	〃	石(礫石)	薄台形	3	中	4.9	3.6	1.2	0.8		完形	8世紀後半		
〃	〃	〃	石(礫石)	薄台形	3	大	5.6	3.6	1.6	0.9		完形	8世紀後半		
高崎市	芳賀東部団地2	日-81号住居	石(凝灰岩)	薄台形	3	中	4.4	3.6	1.4	0.8		完形	9世紀後半	磁石用	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	厚台形	3	小	3.7	2.7	1.5	0.9		完形	9世紀後半	勢多郡境口五百河郡口 刻	
〃	〃	〃	石(角閃石安山岩)	長方形	3	特大	6.1	6.1	2.5	0.9		完形	9世紀後半		
伊勢崎市	中組	1号住居	石(礫石)	薄台形	3	中	4.2	2.2	2.2	0.6		完形	8世紀前半		
〃	〃	〃	石(礫石)	薄台形	3	小	3.8	2.2	2.0	0.7		完形	8世紀前半	保存状態良好	
〃	〃	〃	石(礫石)	薄台形	3	中	4.5	3.3	3.3	0.7		完形	8世紀前半		
高崎市	七口市前古井	36号住居跡	石(礫石)	厚台形	3	大	5.0	3.4	2.2	0.8	85.5	最重量	7世紀後半	良好に研製されている	
〃	〃	〃	石(礫石)	厚台形	3	大	5.0	3.4	2.0	0.7	84	最重量	7世紀後半	良好に研製	
〃	〃	〃	石(礫石)		3	特大	7.0	1.3	0.8	82	最重量	約1/2	7世紀後半	厚は大きいのがやや厚手。厚 りによる彫りまでの台階で 研製されていない。破損部 に厚みが残らされている	
群馬郡群馬町	堤上	125号住居跡	石	薄台形	3	中	4.2	3.5	1.1	0.7	206	最重量	完形	6世紀後半	断面へ上・下両への移行部 平滑 断面形成の加工痕跡
〃	〃	〃	石	厚台形	3	中	4.0	2.6	2.5	0.7	207	最重量	完形	6世紀後半	断面・下階面に交互に縦溝 状区画の中に斜線の縦溝文 を施す
〃	〃	〃	石	厚台形	3	中	4.8	2.3	2.0	0.8		完形	6世紀後半		
多野郡吉井町	矢田遺跡	254号住居	石(礫石)	薄台形	3	中	4.7	3.6	0.7	0.7	13.3	軽量	約1/2	8世紀前半	ほとんど使用されていない のではないか
〃	〃	〃	石(砂岩)	長方形	3	中	4.2	3.8	0.9	0.5	29.3	中量	完形	8世紀前半	
〃	〃	〃	石(礫石)	薄台形	3	大	5.4	3.6	0.8	0.5	36.7	中量	完形	8世紀前半	孔の中央が欠けている 訪録車としては疑問
多野郡吉井町	田比良遺跡	日-116号住居	石(砂岩)	長方形	3	大	5.2	4.75	1.25	0.77	42.2	中量	完形	8世紀後半	ほとんど使用されていない のではないか
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	3	大	5.4	3.6	1.95	0.74	89.5	最重量	完形	8世紀後半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	3	中	4.55	3.05	1.2	0.75	43.8	中量	完形	8世紀前半	
甘楽郡甘楽町	甘楽赤屋	81号住居	石(礫石)	薄台形	3	中	4.4	3.1	1.5	0.7	41.5	中量	完形	6世紀後半	断面に1-3-5-5-5-5-5の 縦溝、表面に7本の縦溝
〃	〃	〃	石(礫石)	薄台形	3	大	5.1	1.7	1.4	0.6	37.5	中量	完形	6世紀後半	
〃	〃	〃	石(礫石)	厚台形	3	中	4.0	2.0	2.1	0.6	22.7	軽量	約1/2	6世紀後半	

同一住居から訪録車が4個出土した住居

当町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構 内出土 土器	最大 径 cm	最大 径 cm	厚さ cm	口径 cm	重量g	器 量 分	保存形態	時期	備考	
高崎市	大森原	2号住居	石(不明)	薄台形	4	中	4.7	2.7	1.8	0.9		完形	5世紀後半		
〃	〃	〃	石(不明)	薄台形	4	中	4.5	2.4	1.5	0.6		完形	5世紀後半		
〃	〃	〃	石(不明)	薄台形	4	中	4.7	2.3	0.9	0.9		完形	5世紀後半		
〃	〃	〃	石(不明)	厚台形	4	中	4.1	2.1	1.8	0.9		完形	5世紀後半		
多野郡吉井町	羽田倉	69号住居	石(凝灰岩)	薄台形	4	大	5.7	3.0	1.3	0.8	59.0	重量	完形	10世紀前半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	4	中	4.7	4.0	1.3	0.5	56.0	重量	完形	10世紀前半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	4	中	4.0	2.4	1.2	0.7	52.0	重量	完形	10世紀前半	断面に放射状の筋り文跡あり 刻
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	4	中	4.1	3.6	1.1	0.5	15.0	軽量	破片	10世紀前半	破片

同一住居から訪録車が9個出土した本道跡8号住居

当町村名	遺跡名	出土遺構	材質	形状	遺構 内出土 土器	最大 径 cm	最大 径 cm	厚さ cm	口径 cm	重量g	器 量 分	保存形態	時期	備考	
高崎市	荒砥下押切田遺跡	8号住居	石(凝灰岩)	薄台形	9	中	4.2	2.3	1.7	0.8	41	中量	完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	9	中	4.6	2.3	1.2	0.8	31	中量	完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(礫石)	薄台形	9	大	5.0	2.3	1.1	0.7	34	中量	完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	9	中	4.6	2.8	1.1	1.0	36	中量	完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	9	大	5.0	2.8	0.7	0.8	36	軽量	完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	9	大	5.0	2.7	0.7	0.8	28	軽量	完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	9	中	4.6	2.5	1.1	0.8	38	中量	完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	9	中	4.5	1.8	1.3	0.7	31	中量	完形	5世紀後半	
〃	〃	〃	石(凝灰岩)	薄台形	9	大	5.1	2.5	1.4	0.8	45	中量	完形	5世紀後半	

8号住居跡出土の籠目土器について

8号住居跡は遺構と出土遺物の検討から5世紀後半の年代が与えられている。紹介する本土器もこの年代観を外れるものではない。まず、土器の観察をする。籠目の圧痕の残る土器は土師器である。体部の下半部は変形してゆがみ、体部の上半部はゆがみは少ない。器形は胴の最大部が体部の下、三分の一にあり、肩の無い下膨らみである。頸部は広く、口縁部が欠損した広口壺である。胎土に小さな軽石と粘土を含み、器壁に浮立つ。焼成は低火度である。色調は外面上半部は鈍い灰色の強い黄褐色、外面下半部は茶色の強い明黄褐色を呈する。内面は黒色から暗灰色を呈する。二次焼成が胴最大部に残る。上方向に濃く、下方向に薄い煤が幅5センチほど帯状に巡る。胴部の上部と下部の色調の違いはこの結果と考えられる。成形は胴下半部は泥に粘土紐を巻上げて内側より指頭で詰込んでいる。このため、指頭の凹凸が顕著に観察される。底部は上げ底で、泥が外れたのちに胴上半部は粘土紐を巻上げて成形し、その後広く短い口縁部を立ちあげ乾燥させる。のちに内面の胴部と頸部の接続する肥厚部分が削りて調整したと考えられる。上げ底の泥の底部の方角の網代痕跡部分は削り落とす、泥の籠目と口の部分は残し、胴部の上半部は泥ミガキを施して整形している。

次に、土器に残る泥跡について観察しよう。観察は群馬県太田市の藤・竹製品店「なかの」の店主、中野良幸氏に現物を見ていただき、数々のご教示をいただき、石塚がまとめたものである。圧痕の残る編み物の種類は「泥」と呼ばれ、一般には米揚げ泥のなかの「マルザル」に分類される。編み目が登表のように縦竹の配列に間隔をとり、横竹を密着させて間隔の無い編み方の容器である。容器に入れた細かな物が、その編み目の間隔から漏れない工夫をした容器で、編み目の大きな籠とこの点が大きく異なる。用材は横竹の細かさから観察した中野さんは柔軟性と粘力性に富み、節のあまり目立たない篠竹(ヤ

ダケ)ではないのかとの感想をもたれた。底組みは縦方向を縦竹、横方向を横竹と呼ぶ編み竹を使用しているというが土器への削りてで観察できない。縦横を組む底部は一辺5センチの方形の平面を測る。立体的に構成される段階で縦横の編み竹は立て竹と呼ばれ、胴部を構成する泥の基本的骨で、骨竹とも呼ばれる。この骨竹は横竹よりも薄く、幅は2ミリほどであろうという。縦竹の本数は64本を測り、縦横竹を32本使用している計算となる。網代底編みした方形の形状を丸く削り出すために底回しの竹が巡る。この部分の竹を業界では七回半竹とも呼ぶらしい。この土器には一つ飛びで2条の底回しの竹が巡る。横竹は角ヒゴとも呼ばれる。目詰まりは1センチ当に5本を測り、胴部全体で25段の横竹を数える。最終の仕上げには縁の造作に巻縁がある。太い削り竹を芯に薄い削り竹を右回りに巻いている。土器に残された「マルザル」の寸法は、口径17センチ、高さ46ミリである。

この泥の圧痕をとどめる土器研究の到達点の論文に1998年発行の角南聡一郎・鎌方正樹「籠目土器と泥形土製品」[奈良市埋蔵文化財調査センター紀要1997]がある。また角南聡一郎氏が米群の折、この土器を覗いていただいた。その結果、泥または泥など竹で編んだ器物一般を指す言葉として籠を用いその圧痕を残す土器を「籠目土器」と呼ぶこと。そして粘土紐を泥の内がわに積み上げて泥の口縁高さで仕上げるものをA1類、粘土紐を泥の内がわに積みあげその上に粘土紐を巻き上げ壺や甕を作り、底部の網代痕跡をハケやナデで部分的に消す技法を持つものをA2類(本土器が該当)と呼ばれていることが解っている。1998年段階で集成された籠目土器を出土した遺跡の分布は北は茨城県から南は福岡県の31遺跡である。またA1類とA2類が共存する遺跡も3例ある。A1類の分布は茨城県から福岡県までで31遺跡中18遺跡が該当する。またA2類は群馬県から奈良県までで31遺跡中13遺跡が該当する。A2類よりA1類の出土例が分布域、遺跡数とも上回る。

時期別ではA1類の場合3世紀後半から4世紀初

頭に集中する。A2類の場合5世紀後半から6世紀中頃の段階に集中する。A1類の場合、古墳時代前期から中期の移行期に出土する筑形土製品と時期、器形は類似している。A2類の場合は土器製作に伴うもので一般的な土器と同様に使用されていたと考

えられる。5世紀後半の住居跡の調査軒数は群馬県内においても数百の数を数える。県内の籠目土器は元島名將軍塚古墳の例を入れて2例目、極めて希少で注目すべき資料であることに違いない。

(石塚久則)

報告書抄録

ふりがな	あらとしもおしきりにいせき・あらとなかやしきにいせき
書名	荒砥下押切II遺跡・荒砥中屋敷II遺跡
副書名	県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第6集
シリーズ名	群馬県埋蔵文化財調査事業団報告
シリーズ番号	第249集
編著者名	菊池 実
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村下箱田784-2 TEL 0279-52-2511
発行年月日	1999年3月25日

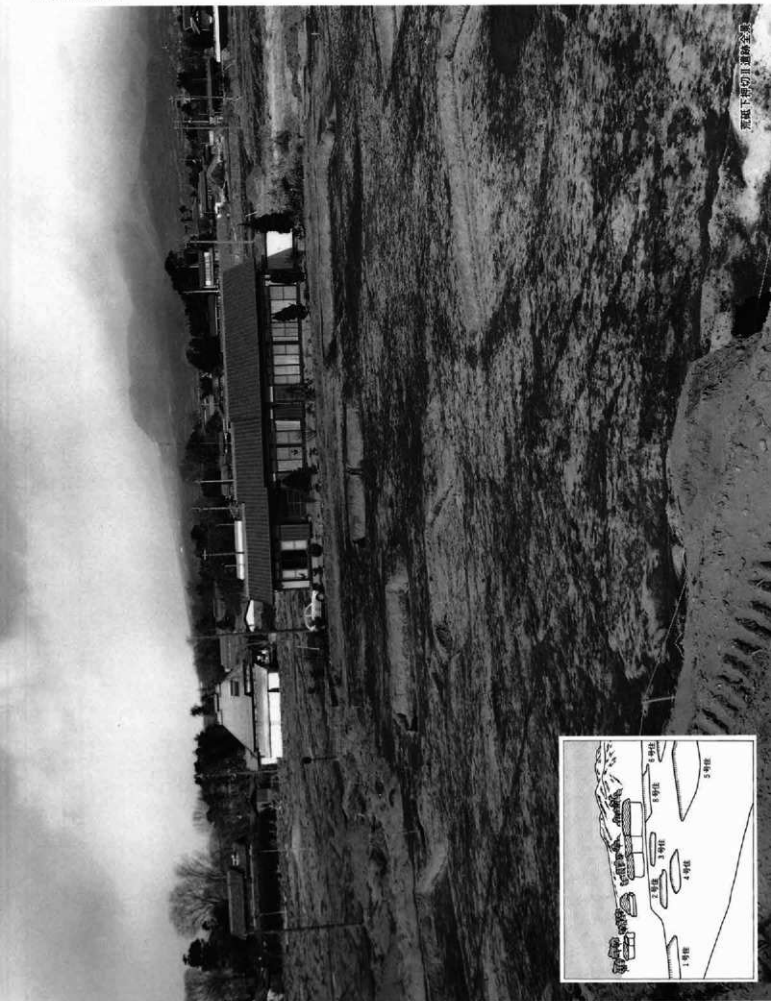
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あらとしのおしきりにいせきII 荒砥下押切II	あらとなかやしきII 前橋市荒子町	10201		36° 22' 40"	139° 10' 20"	1982年12月 20日～ 1983年2月 18日		県営圃場整備事業荒砥北部地区に伴う調査
あらとなかやしきII 荒砥中屋敷II	あらとしのおしきりにいせきII 前橋市荒子町							

所取遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
荒砥下押切II	集 落	古墳時代 中・後期	竪穴住居 12軒	土師器・須恵器 砥石・台石・紡 錘車・石製模造 品	8号住居跡から出土した紡錘車 9個は県内最多、また同住居跡 からは龍目土器も出土。
荒砥中屋敷II	生 産 集 落	平安時代 古墳時代 中・後期 平安時代	古墳 1基 井戸 1基 竪穴住居 1軒 溝 10条 水田 竪穴住居 6軒 竪穴住居 2軒 小鍛冶 1基 土坑 2基 溝 2条		



1986年5月28日撮影
○遷移位置







P.L. 4

1. 1号住居跡全景（北東から）
2. 1号住居跡遺構（北東から）
3. 1号住居跡遺物出土状況（北東から）

P.L. 5

1. 2号住居跡全景（西から）
2. 2号住居跡遺物出土状況（西から）





- PL. 6
 1. 2号住居跡遺物出土状況 (北から)
 2. 2号住居跡竈 (西から)
 3. 2号住居跡貯蔵穴 (北から)

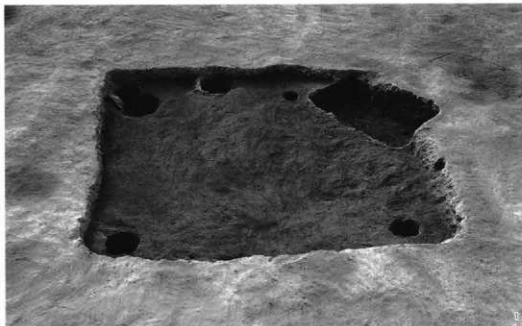
- PL. 7
 1. 3号住居跡全景 (南から)
 2. 3号住居跡全景 (西から)



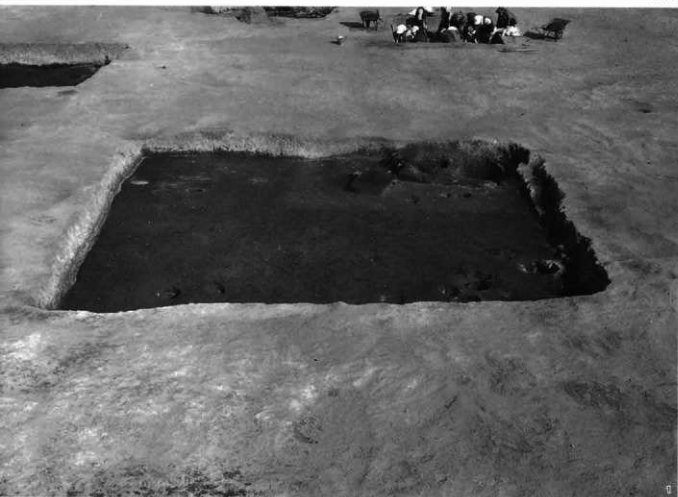


P.L. 8

1. 3号住居跡遺物出土状況（西から）
2. 3号住居跡竈（南から）



- PL. 9
1. 4号住居跡全景（北東から）
2. 4号住居跡遺物出土状況
（南西から）
3. 4号住居跡遺物出土状況
（北西から）





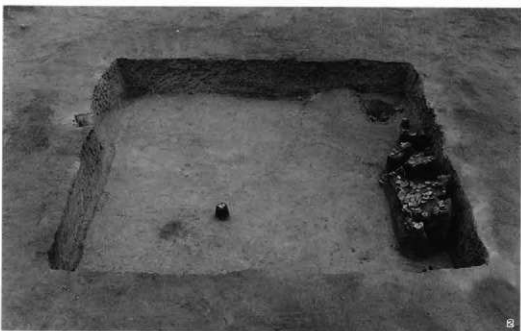
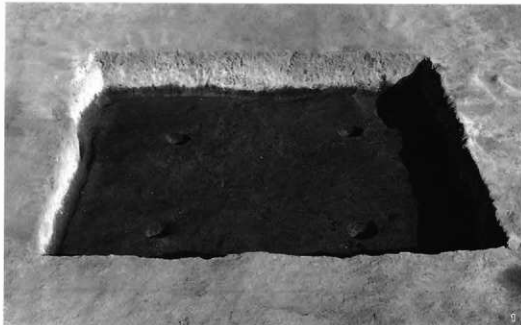
PL. 10

1. 5号住居跡全景 (西から)
2. 5号住居跡遺物出土状況 (西から)



PL. 11

1. 5号住居跡遺物出土状況 (西から)
2. 5号住居跡竈 (西から)
3. 5号住居跡貯蔵穴 (南から)



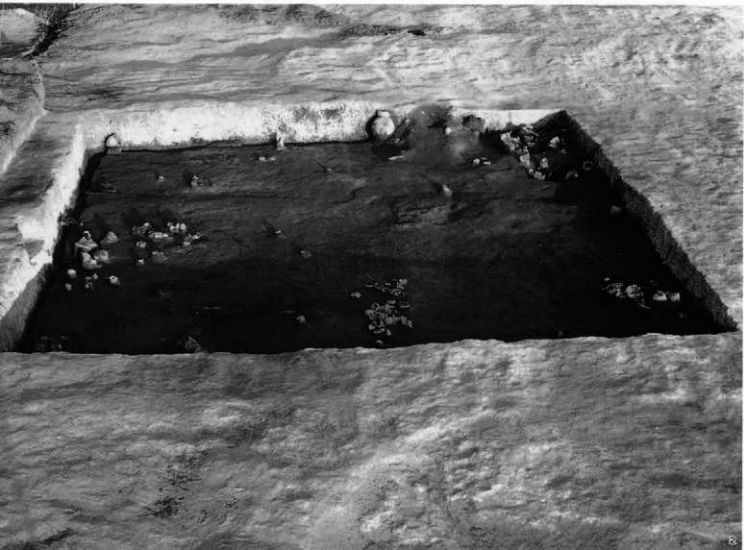
PL. 12

1. 6号住居跡全景 (西から)
2. 6号住居跡遺物出土状況 (西から)
3. 6号住居跡貯蔵穴 (北西から)



PL. 13

1. 7号住居跡全景（南から）
2. 7号住居跡竈（南から）

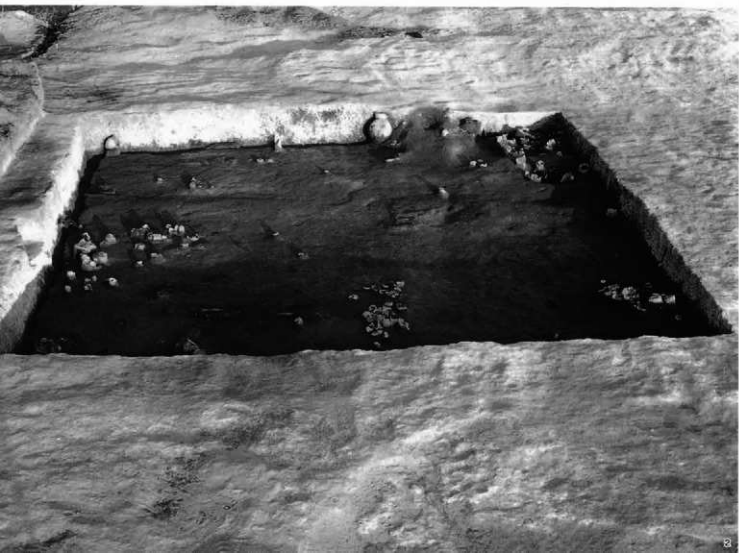




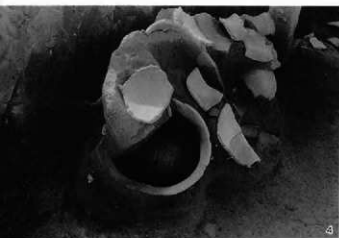
- PL. 14
 1. 8号住居跡全景 (西から)
 2. 8号住居跡遺物出土状況 (西から)

- PL. 15
 1. 8号住居跡概観 (西から)
 2. 8号住居跡遺物出土状況 (西から)
 3. 8号住居跡遺物出土状況 (北西から)









P.L. 18

1. 10号住居跡遺物出土状況（西から）
2. 10号住居跡窟（南から）
3. 10号住居跡窟周辺遺物出土状況（南東から）
4. 10号住居跡遺物出土状況（北東から）



京紙下押切Ⅱ遺跡出土状況（西から）



PL. 20
 1. 11号住居跡全景（南東から）
 2. 11号住居跡遺物出土状況
 （南西から）
 3. 11号住居跡遺物出土状況
 （北東から）

PL. 21
 1. 13号住居跡全景（西から）
 2. 13号住居跡遺物出土状況
 （南から）



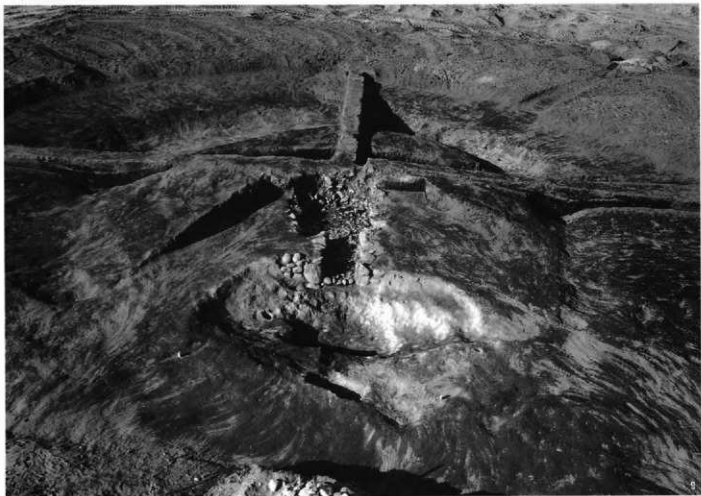


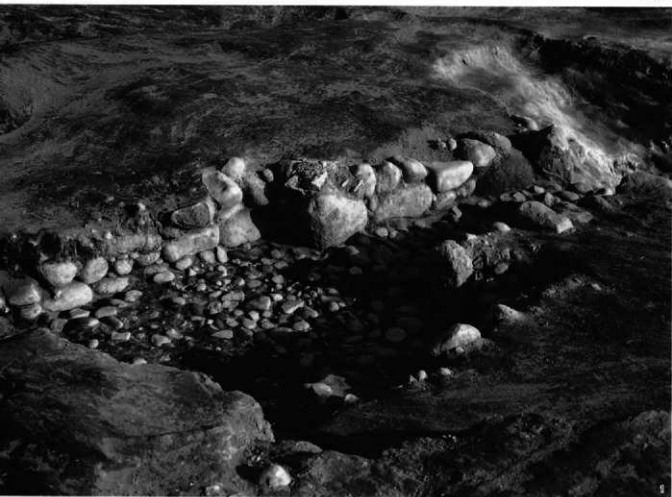
PL. 22

1. 14号住居跡全景（南西から）
2. 14号住居跡竪（南西から）

PL. 23

1. 1号古墳全景（南から）
2. 前庭部と石室（南から）







PL. 24

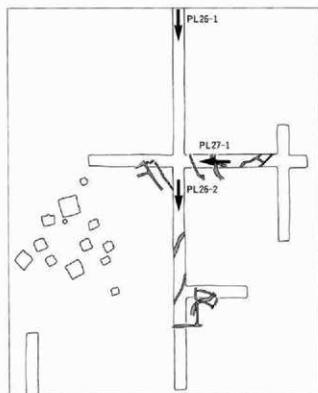
1. 石室（北西から）
2. 玄関と狭道部（北から）



PL. 25

1. 狭道部右壁（南西から）
2. 閉塞状況（南から）
3. 閉塞状況（北から）





P.L. 26

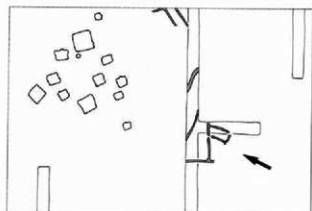
1. 支道71・75号発掘区・As-B下面（北から）
2. 支道75号発掘区・As-B下面（北から）

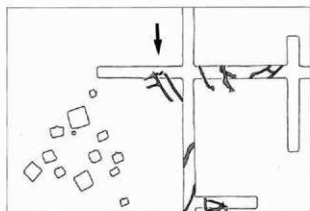
P.L. 27

1. 支道73号発掘区・As-B下面（東から）

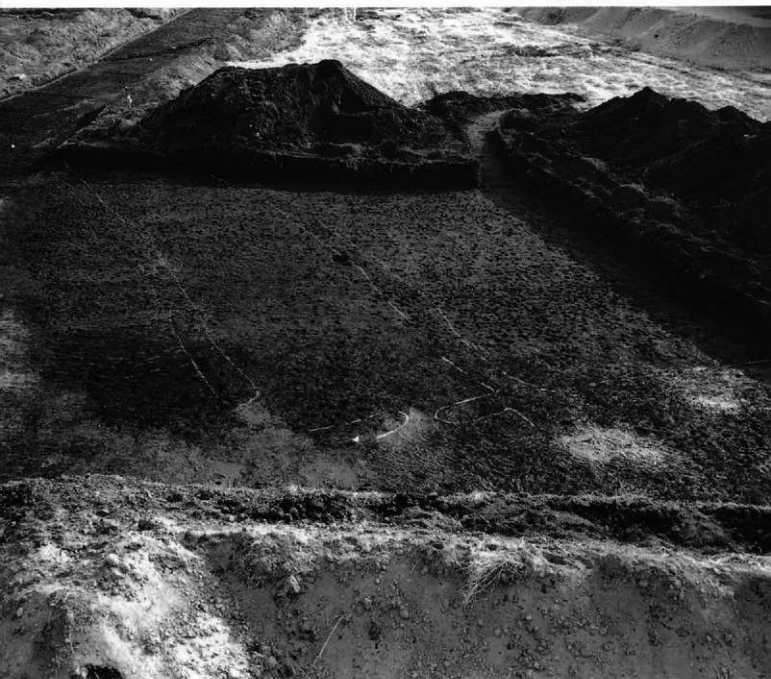


幹線3-3号発掘区・As-B下水田（南東から）

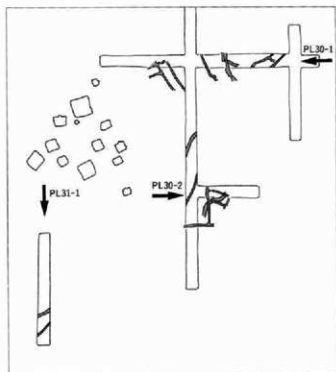




支道73号発掘区・As-B下水田（北から）







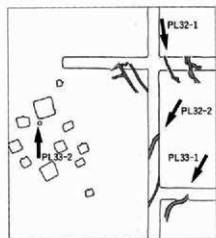
PL. 30

1. 支道73号発掘区・As-B下面（東から）
2. 幹排3-3号発掘区・As-B下面（西から）

PL. 31

1. 幹排3-2号発掘区・As-B下面（北から）





PL. 32
 1. 3号・5号溝（北から）
 2. 6号溝（北東から）



PL. 33
 1. 8号溝（北東から）
 2. 井戸（南から）





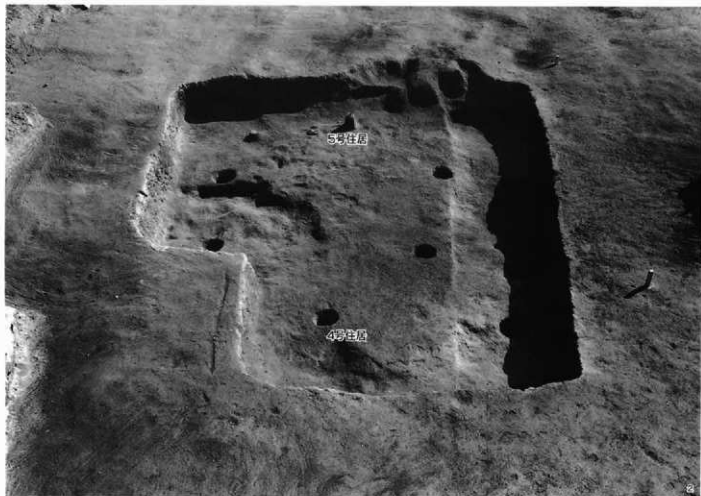
P.L. 34

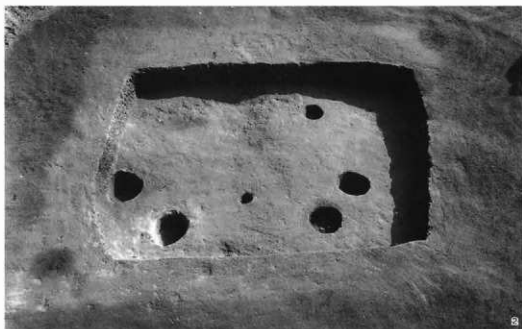
1. 遺跡見学会
2. 1号住居跡全景 (北西から)

P.L. 35

1. 2号住居跡全景 (西から)
2. 2号住居跡窟 (西から)
3. 2号住居跡貯蔵穴内遺物
出土状況 (北から)







P.L. 36
 1. 3号住居跡全景 (西から)
 2. 4号・5号住居跡全景
 (西から)



P.L. 37
 1. 5号住居跡概 (北西から)
 2. 6号住居跡全景 (北から)
 3. 7号住居跡全景 (西から)



1. 7号住居跡遺物出土
状況（西から）



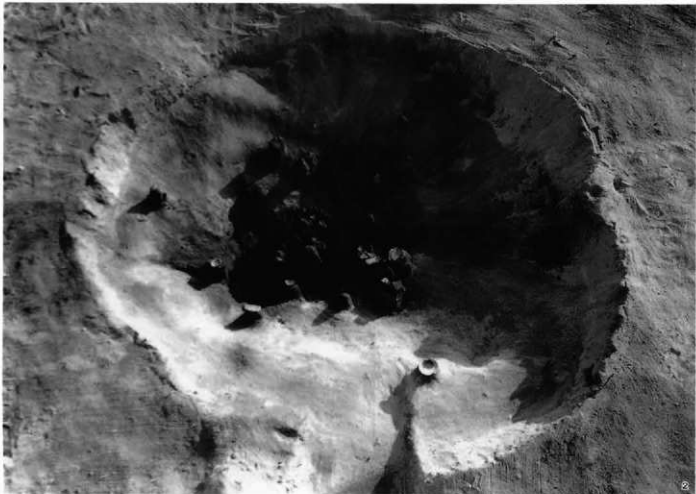
2. 7号住居跡
（西から）



1. 8号住居跡遺物
出土状況（西から）



2. 8号住居跡竈（西から）





PL. 40

1. 小鍛冶 (東から)
2. 小鍛冶遺物出土状況 (北から)



PL. 41

1. 1号土坑 (南から)
2. 2号土坑 (西から)
3. 支排29号発掘区・溝断面 (東から)





支排29号発掘区・
As-B層を含む溝
(西から)



支排29号発掘区
(北から)



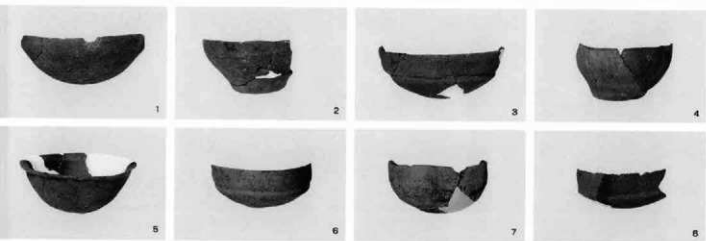
支線29号発掘区PAC-C(遺構)全体写真(西から)

1



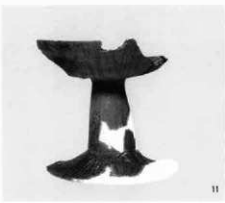
発掘を終了して

2





9



11



10



12



13



17



14



15



16



18



19



20



23



22



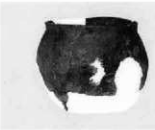
21



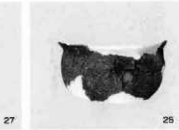
24



26



27



25



28



29



32



33



30



31



34



35



36



37



38



39



40



15



16

▼3号住居跡



1



2



3



4



5



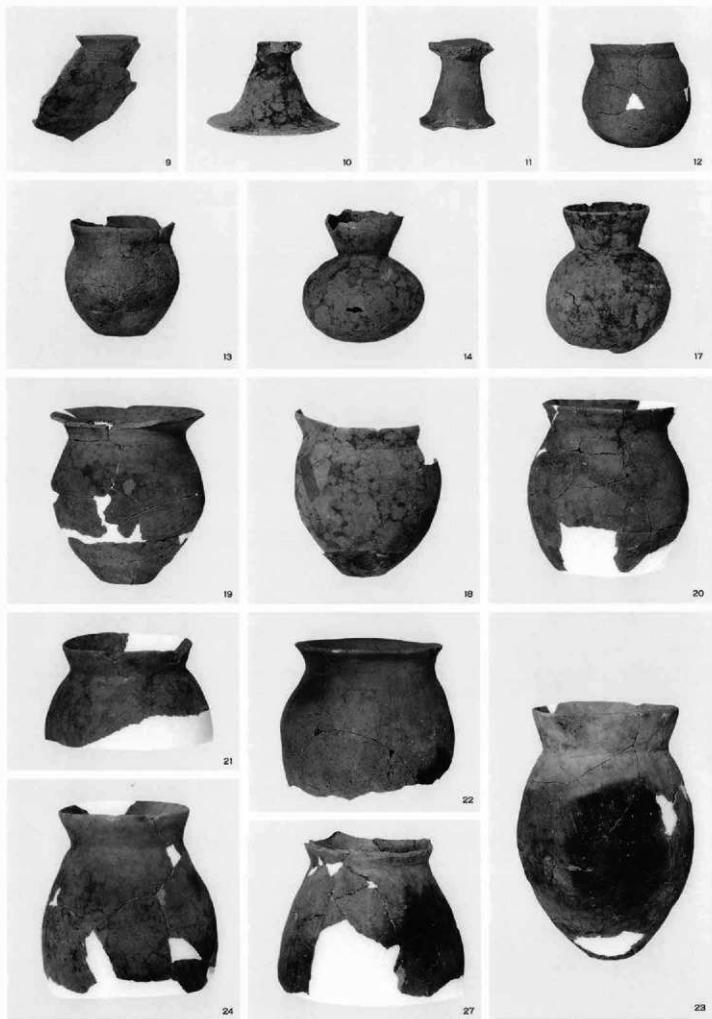
6



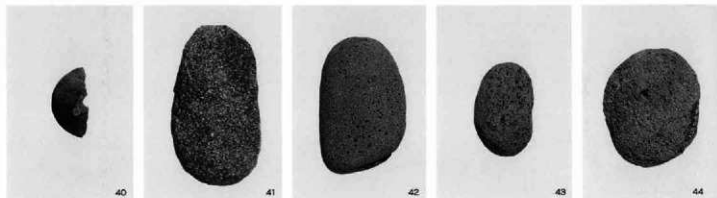
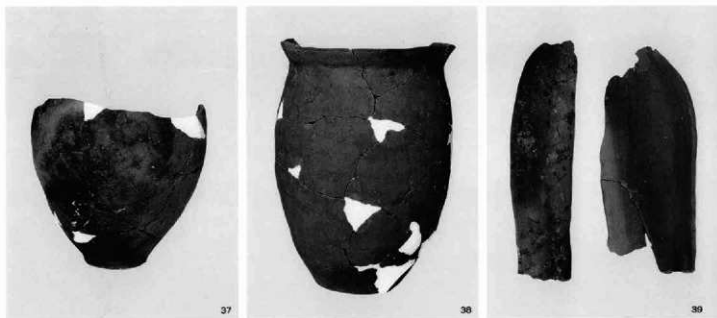
7



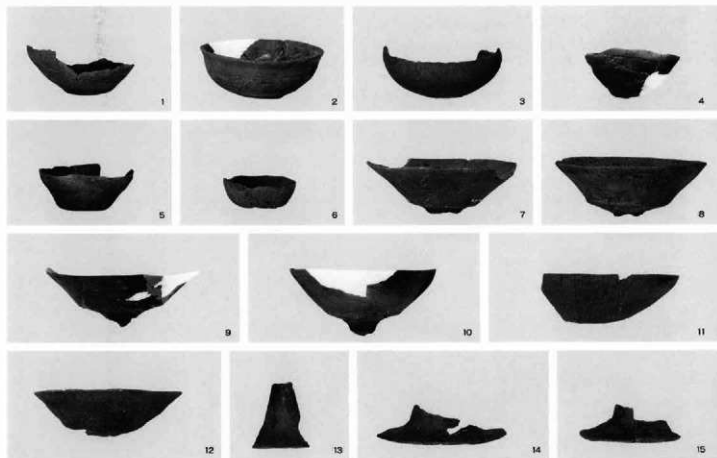
8

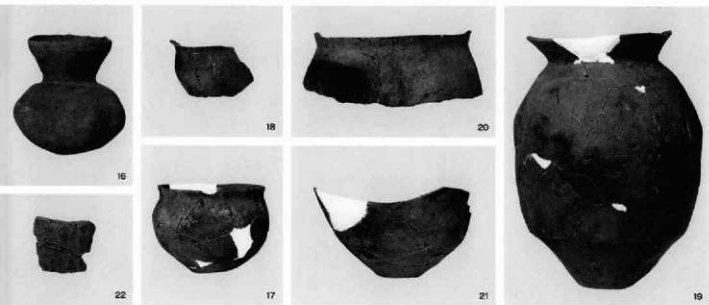






▼4号住居跡

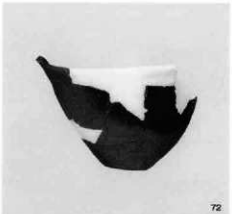
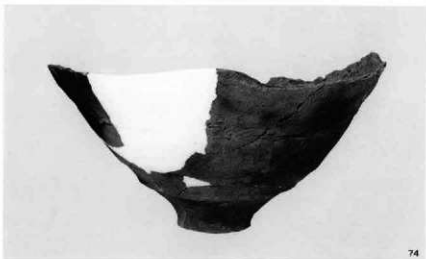


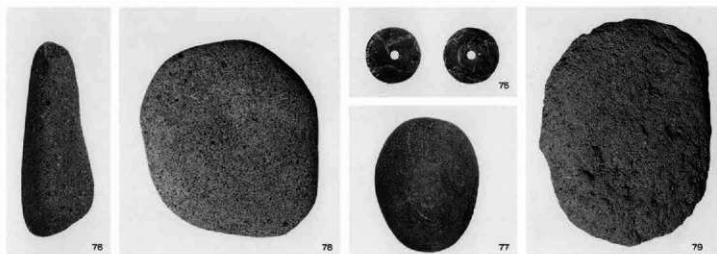
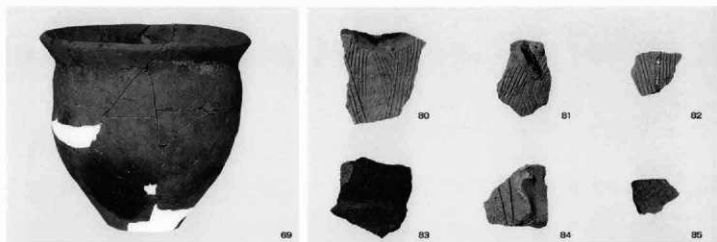


▼5号住居跡

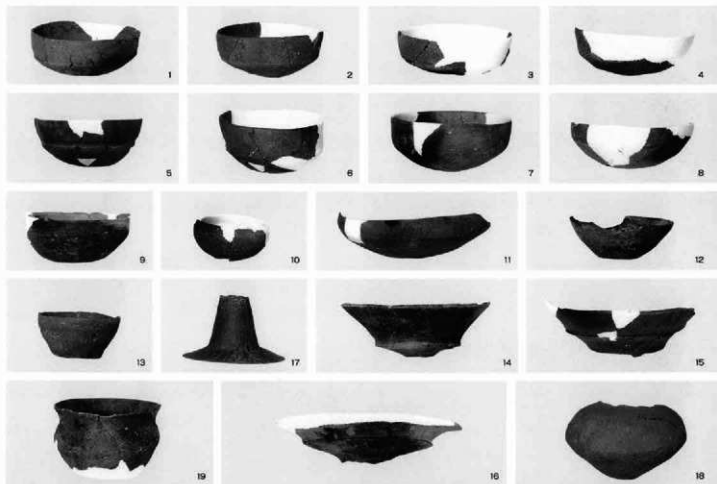








▼6号住居跡





20



21



24



27



23



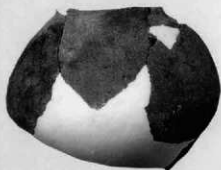
28



22



25



34



26



29



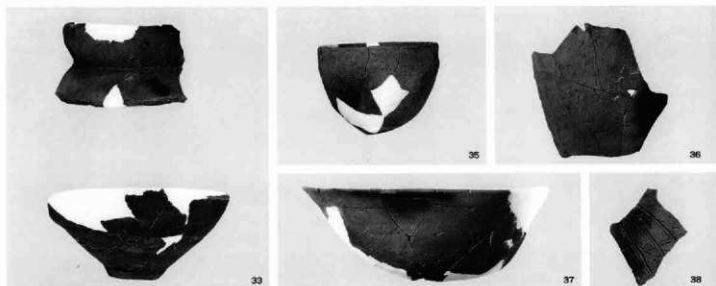
30



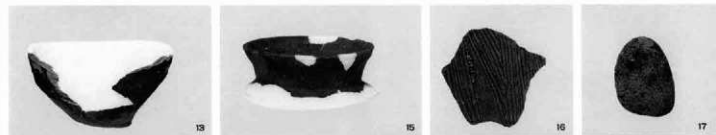
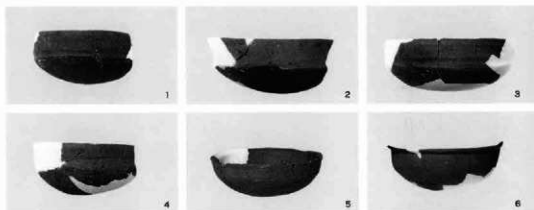
31



32



▼7号住居跡













83



81



87



84



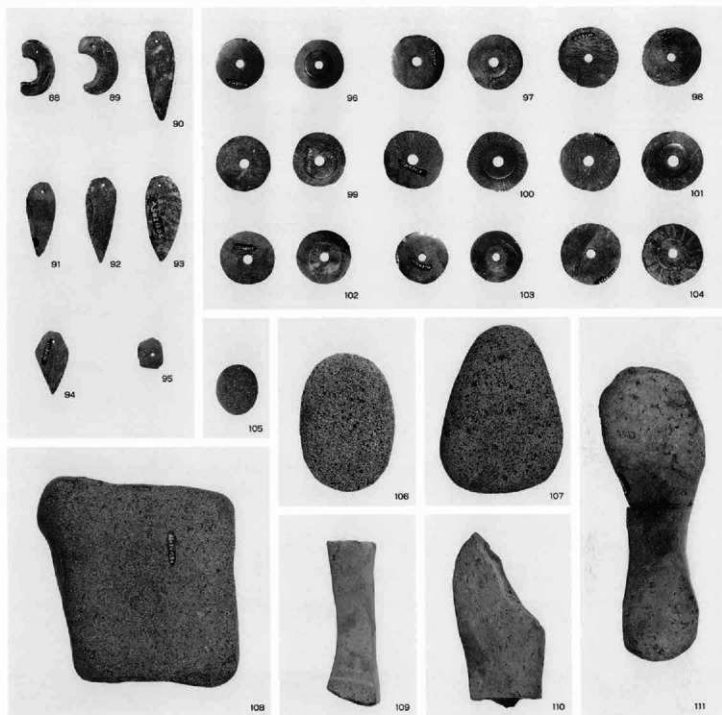
85



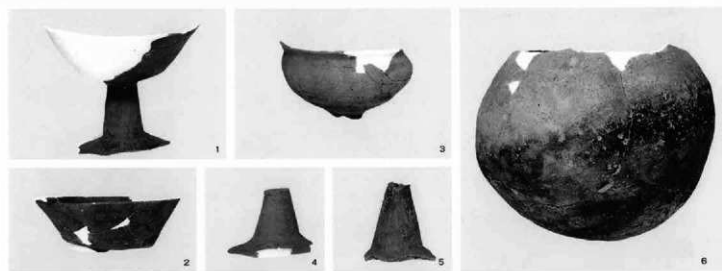
86



112



▼9号住居跡









40



41



44



42



43



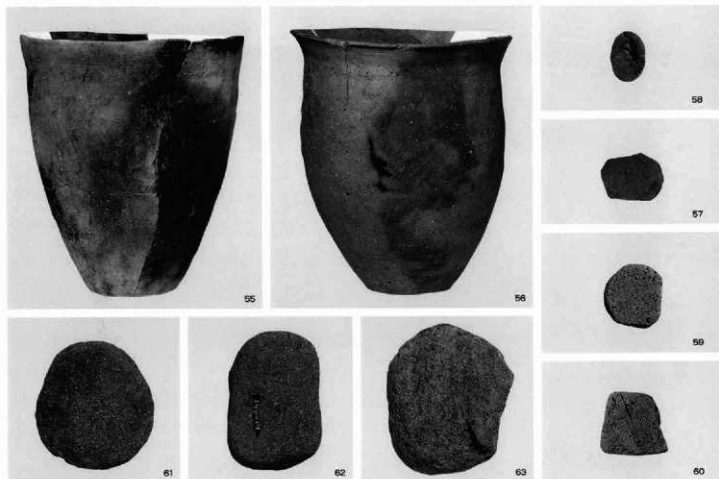
53



51

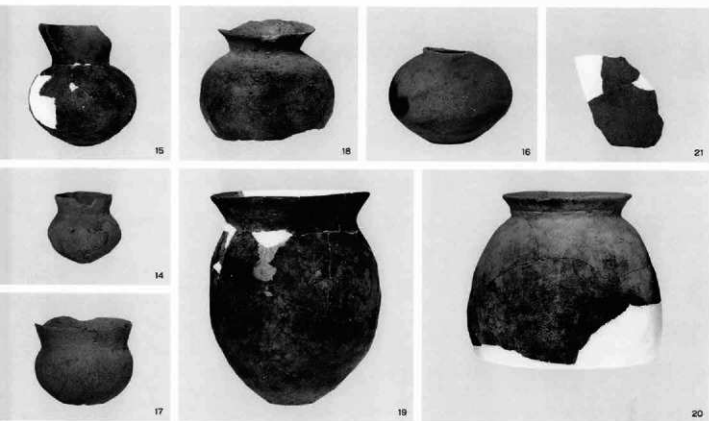


52

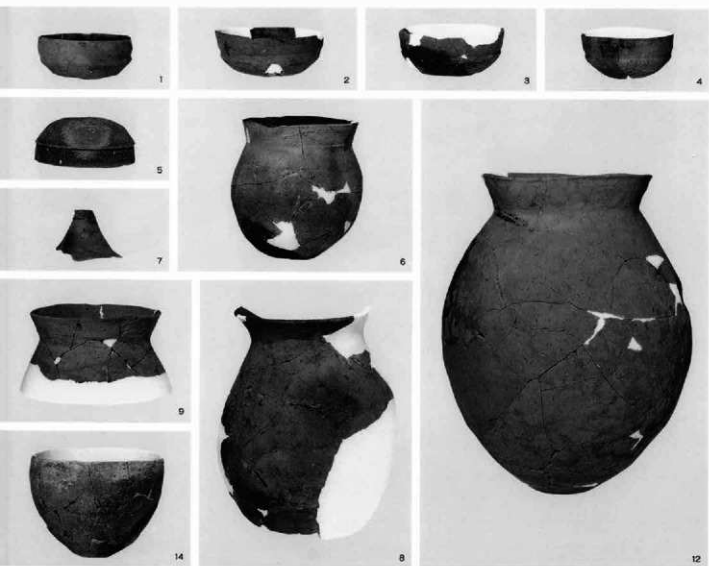


▼11号住居跡





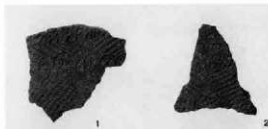
▼13号住居跡



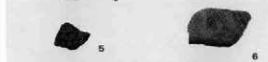


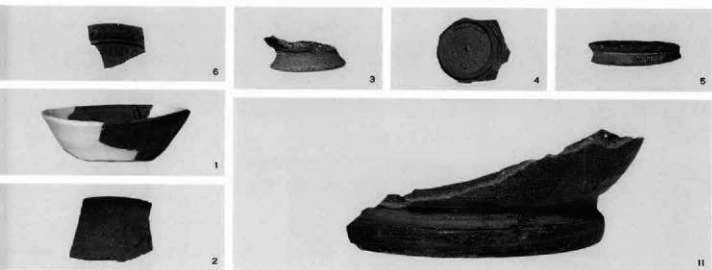
▼14号住居跡

▼遺構外

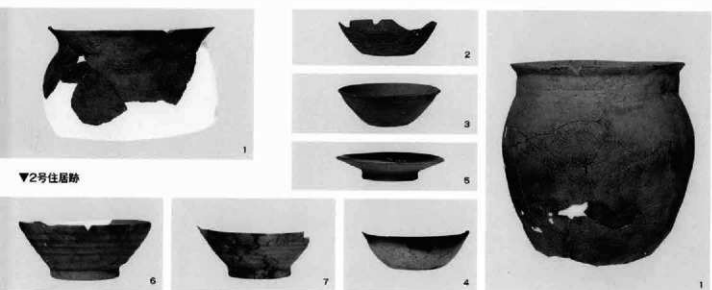


▼1号古墳

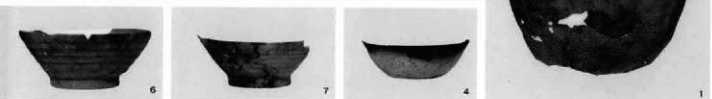




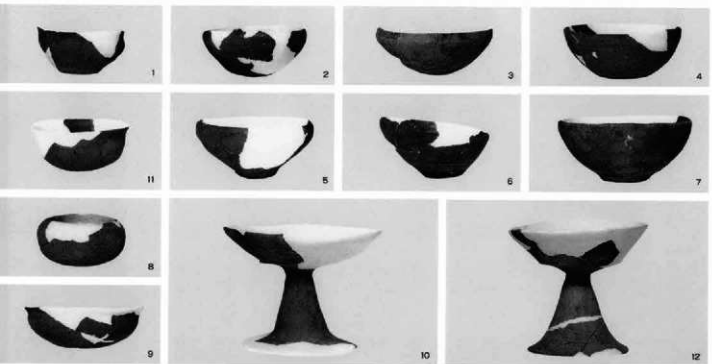
▼瓦磁中層敷Ⅱ遺跡1号住居跡



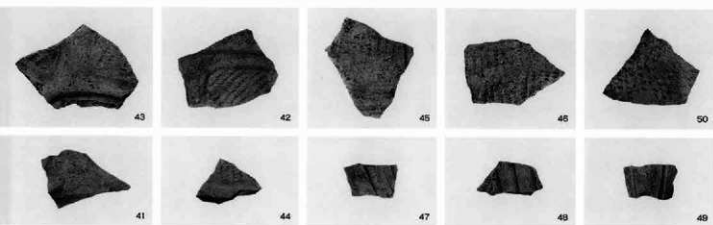
▼2号住居跡



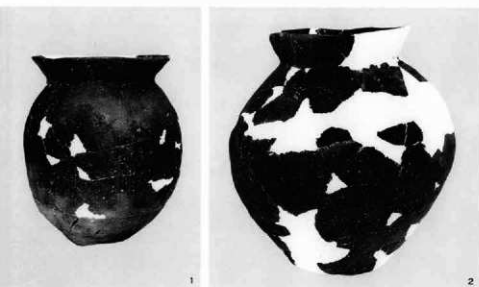
▼3号住居跡



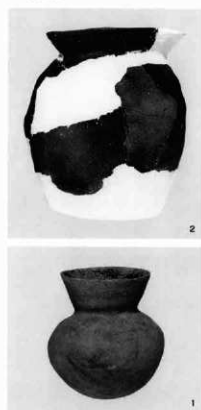




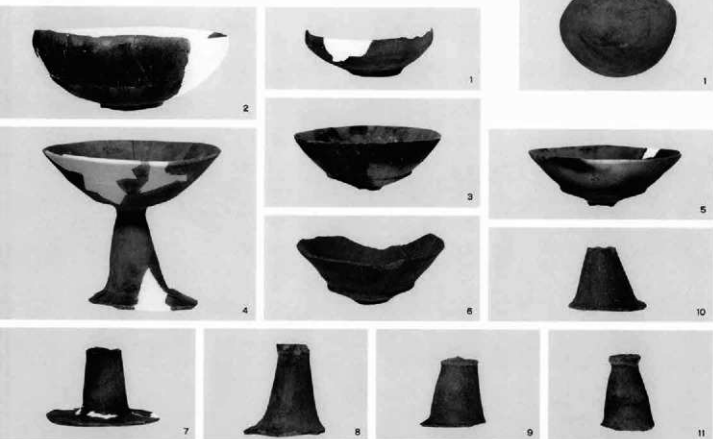
▼6号住居跡

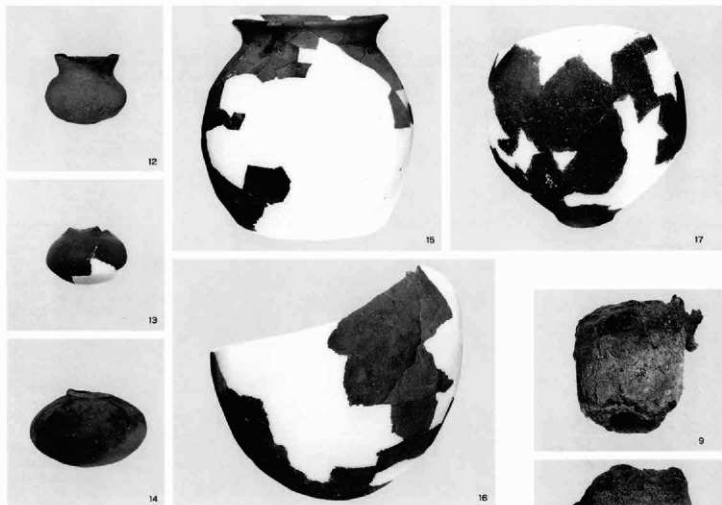


▼7号住居跡

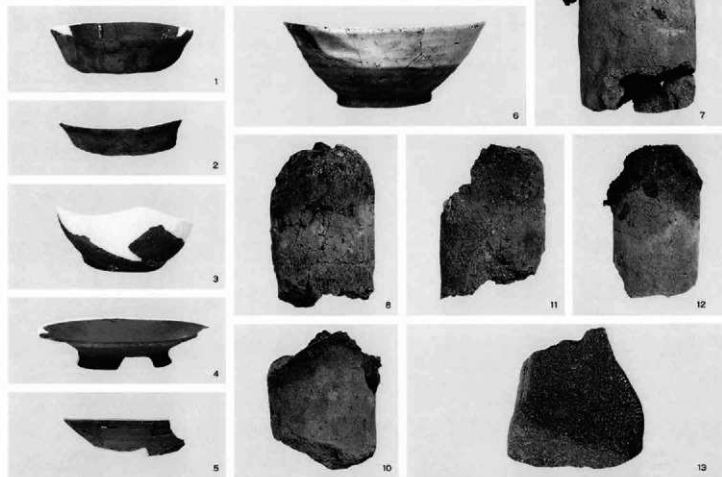


▼8号住居跡





▼小鉢池



群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告第249集

荒砥下押切Ⅱ遺跡
荒砥中屋敷Ⅱ遺跡

昭和57年度県営農場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

平成11年3月20日印刷

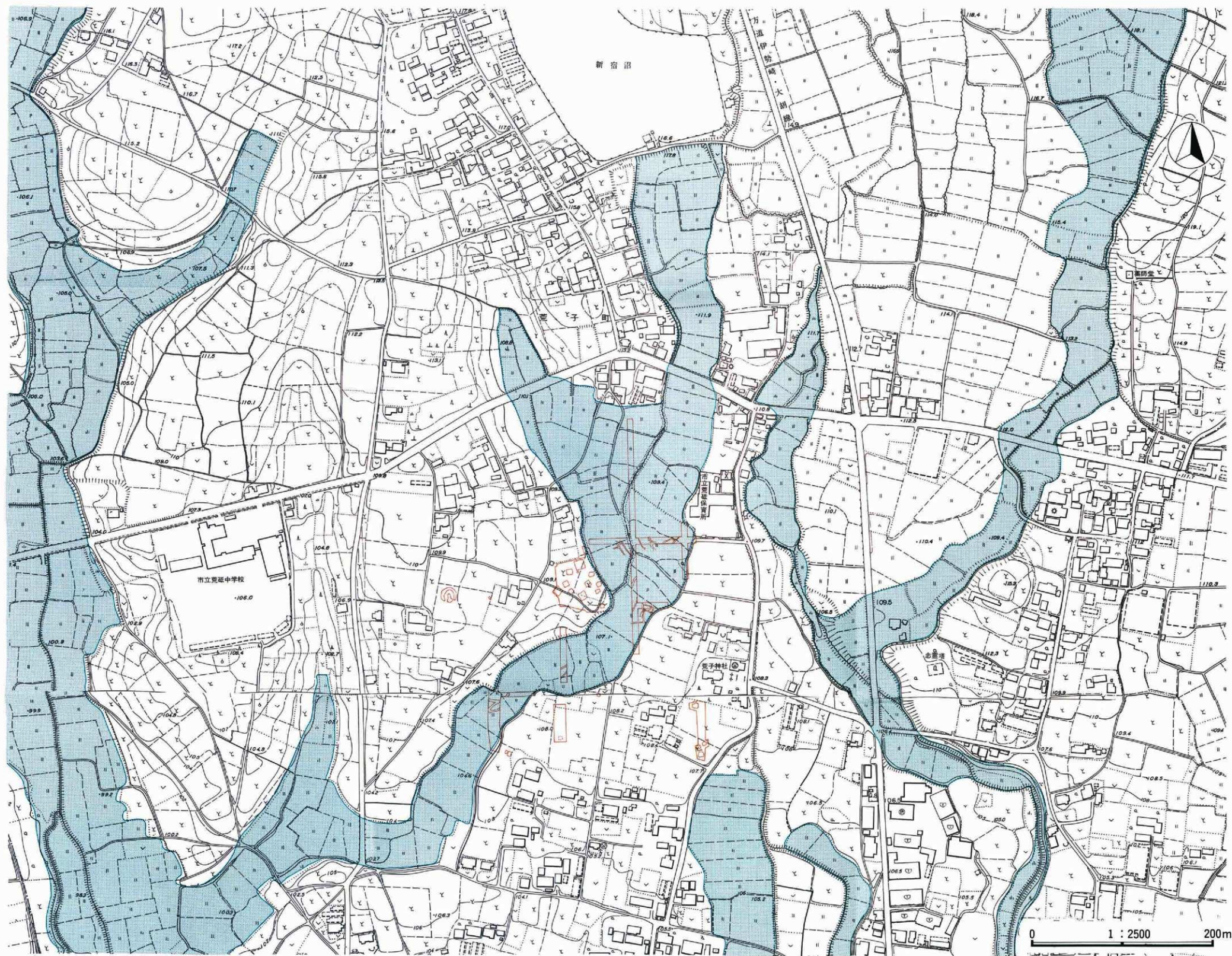
平成11年3月25日発行

編集・発行／群馬県教育委員会
〒371-8570 前橋市大手町1丁目1番1号
電話 (027) 223-1111 (代表)

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社

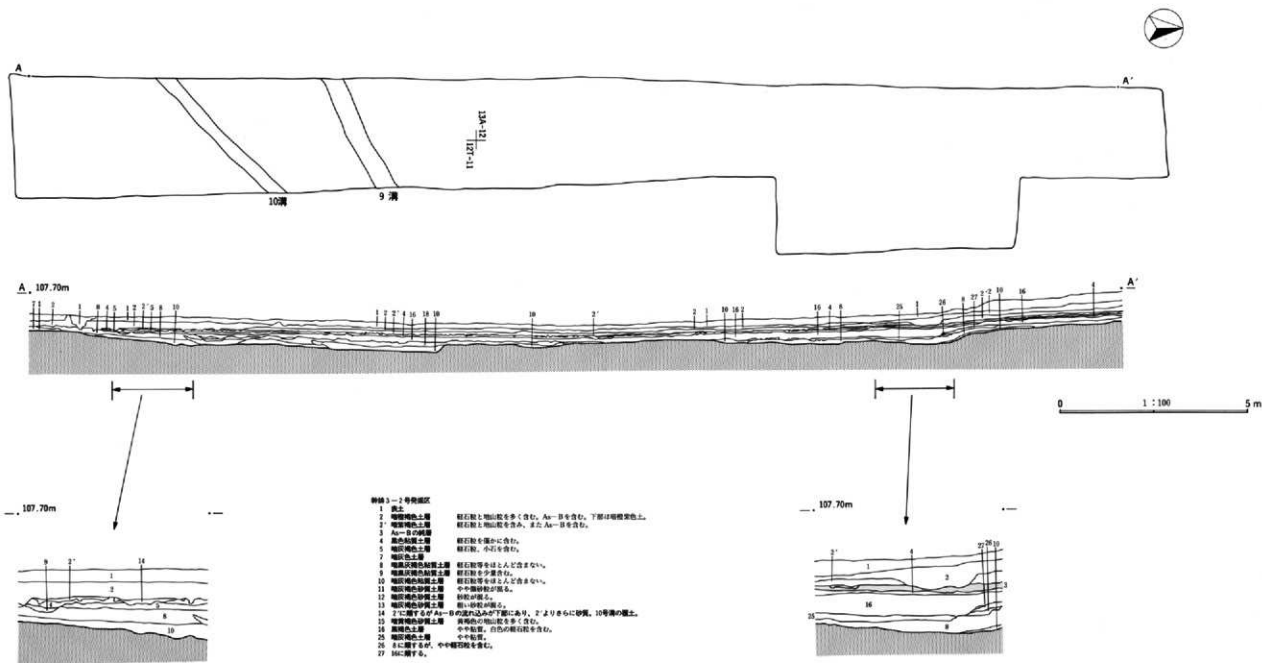
© 1999



付図1 荒砥下押切II遺跡・中屋敷II遺跡全体図（掘場整備前）



付図2 荒延下押切II遺跡・中屋敷II遺跡全体図 (開場整備後)



幹排3—2号発掘区

- | | | |
|----|--|-----------------------------------|
| 1 | 黄土 | |
| 2 | 暗栗褐色土層 | 粘土質土層に散在する小骨片。Aa—Baを貫通し、下部は暗栗褐色土。 |
| 2' | 暗栗褐色土層 | 粘土質土層に散在する小骨片。Aa—Baを貫通し、下部は暗栗褐色土。 |
| 3 | As—Bcの砂層 | |
| 4 | 暗栗褐色土層 | 粘土質土層に散在する小骨片。 |
| 5 | 暗栗褐色土層 | 粘土質土層に散在する小骨片。 |
| 6 | 暗栗褐色土層 | |
| 8 | 暗栗褐色粘質土層 | 粘土質層を以て人工造りな2%。 |
| 9 | 暗栗褐色粘質土層 | 粘土質層を以て人工造りな2%。 |
| 10 | 暗栗褐色粘質土層 | 粘土質層を以て人工造りな2%。 |
| 11 | 暗栗褐色粘質土層 | 粘土質層を以て人工造りな2%。 |
| 12 | 暗栗褐色粘質土層 | 粘土質層を以て人工造りな2%。 |
| 13 | 暗栗褐色粘質土層 | 粘土質層を以て人工造りな2%。 |
| 14 | 2—12層よりAs—Bcの泥状土層に赤い、2'より赤い砂層、10層層の黄土。 | |
| 15 | 暗栗褐色粘質土層 | 粘土質層を以て人工造りな2%。 |
| 16 | 暗栗褐色土層 | 粘土質層。粘土質層に散在する小骨片。 |
| 25 | 暗栗褐色土層 | 粘土質層。 |
| 26 | 1—12層より赤い、粘土質層を以て人工造りな2%。 | |
| 27 | 粘土質土層 | |

付図3 幹排3—2号発掘区